

令和5年度
第40号

病院 年報

桐生地域医療企業団

桐生厚生総合病院



巻 頭 言

院 長 加 藤 広 行

皆様、こんにちは。平素より大変お世話になっております。

このたび、桐生厚生総合病院の令和5(2023)年度の年報を上梓いたしましたので、謹んでお届けいたします。ご笑納いただければ幸甚に存じます。

初めに、令和6年1月の能登半島地震と、9月に発生した能登集中豪雨という2度の大災害により、犠牲になられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、ご遺族と被災された皆様に心よりお見舞い申し上げたいと存じます。また被災地の日も早い復旧・復興を衷心よりお祈り申し上げます。

さて、令和5年を振り返りますと、5月8日より新型コロナウイルス感染症が「5類移行」により、行政が関与をしていく法的な拘束力はなく、個人や事業者の判断に委ねることが基本となりました。8月の夏場と1月の冬場に増加傾向を示しておりますが、医療機関の逼迫状態には達していない状況であります。今後も医療機関においてはコロナ感染対策の必要性が続きますので、関係者ならびに医療従事者にはご理解とご協力をお願い申し上げる次第であります。

世界情勢を見ますと、令和4年2月に勃発したロシアのウクライナ侵攻は長期化している状況で、更に令和5年10月にはイスラエルとパレスチナとの戦闘が始まり、令和6年現在で13か月となります。紛争の終わりが見えない状況のなかで、日本の政権運営や米国の大統領選挙においてポピュリズムが台頭し、政治・経済面でも、先行きの見えない事案ばかりが見え隠れしています。

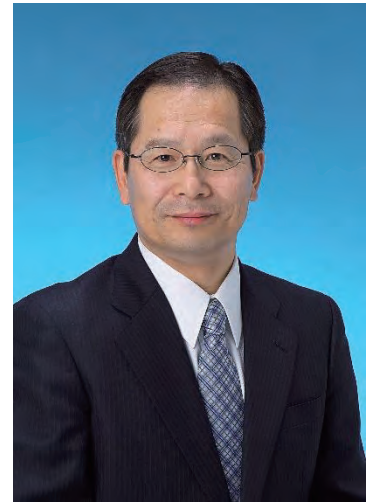
当院では、令和5年4月1日付けで桐生地域医療組合は地方公営企業法の全部適用に移行し、『桐生地域医療企業団』に変更となりました。これに伴い、令和5年4月1日付けをもちまして、企業長兼病院長を拝命いたしました。当院の病院事業の責任者という大役を仰せつかりましたこと、身に余る光栄に存じますとともに、その責任と使命の重大さを痛感し、身の引き締まる思いでございます。もとより浅学菲才ではございますが、桐生みどり両市の地域医療の発展に誠心誠意努めて参りたいと決意を新たにしました次第であります。今後も引き続きなお一層のご理解、ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

病院事業では、外来患者さんの利便性の向上と待合の環境改善のため、令和5年4月より正面入口右手にコンビニを開設し、飲食可能なスペースを設置しました。更に医師の働き方改革ならびに診療の専門性向上、待ち時間の改善などを鑑みて、内科の初診紹介患者に対し完全予約制を導入し、そのほかに訪問看護室やヘルニアセンターの設置、人間ドックおよび健診室の移設などを実施しました。

令和6年は、市民の皆様理解しやすく、高度な医療を提供できるよう脊椎センターの設置と、身体の負担を少なく医療の質の向上を目指し、手術支援ロボットの導入を実施して参りました。

今後も、地域における少子高齢化、人口減少などの課題が山積みではありますが、これらに対応できる病院機能を確保しつつ、かつ持続可能な医療提供体制を目指したいと考えております。皆様のご支援、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

最後に令和5年度に群馬県医師会、桐生市医師会の皆様、および群馬大学附属病院をはじめとする県内医療機関の各関係者に格別なるご指導とご支援を頂戴しましたことに衷心より感謝し御礼申し上げます。



目 次

まえがき

I	病院の現況と沿革	1
1	病院の現況	1
(1)	病院の概況	1
(2)	組合構成団体の地勢と位置	5
2	病院の沿革	6
II	組 織	14
1	組 織 図	14
2	管理職員氏名	15
3	職員数の推移	19
4	年度別職種別職員数	20
5	歴代管理者・副管理者及び院長	21
6	組合議会の現況	22
(1)	議会の開会経過	22
(2)	議会議員氏名等	23
(3)	議会議決事項等	24
III	会 議 等	25
1	委員会組織図	25
IV	教 育 研 修	26
1	病院実習	26
2	医師臨床研修制度	30
V	経 営 状 況	33
1	比較損益計算書	33
2	比較貸借対照表	34
VI	重要な成果	35
1	桐生地域医療企業団への移行	35
2	訪問看護室設置	35
3	ヘルニアセンター開設	35
4	内科新患外来完全予約制の導入	36
5	二次性骨折予防への取り組み	36
6	健診室の移転	36
7	病院機能評価(Ver2.0)の更新認定	37

VII 業 務 概 要	38
1 診療圏患者受診状況	38
2 入院・外来患者状況	39
3 科別入院患者数	40
4 科別外来患者数	41
5 科別時間外受診患者状況	42
5-1 小児科時間外受診患者状況（再掲）	42
5-2 科別時間外診察費特別料金徴収対象患者状況	43
5-3 月別時間外診察費特別料金徴収対象患者状況（再掲）	43
6 科別救急搬送患者状況	44
7 年齢別患者年報（年度別）	44
8 死亡・剖検数の疾病分類	45
退院患者疾病大分類統計	51
9 手術	52
(1) 科別・麻酔別手術件数	52
(2) 科別・疾患別手術件数	53
10 内視鏡患者数	59
11 分娩件数・内訳	61
12 新生児未熟児センター	61
13 ICU・CCU入室患者数	62
ICU・CCU稼働率	62
14 腎センター	63
(1) 慢性透析の概要	63
15 人間ドック・健康診断等	63
(1) 人間ドック・健康診断利用者数	63
16 薬剤部	64
(1) 処方箋枚数と院外処方箋発行率	64
(2) 医薬品使用状況	64
(3) 麻薬施用状況	64
(4) 薬事審議委員会審議医薬品件数	65
(5) DI(医薬品情報管理業務)への項目別問合せ件数	66
(6) 特殊調剤・特殊製剤	67
(7) 注射薬セット	68
①入院注射（TPN含む）件数	68
②がん化学療法件数	68
(8) 薬剤管理指導業務	68
①服薬指導件数	68
②退院指導件数	69
③病棟業務実施加算1	69
④病棟業務実施加算2	69

(9) 持参薬報告件数	69
(10) 無菌製剤調製	70
17 リハビリテーション科	71
(1) 理学療法	71
(2) 作業療法	71
(3) 言語療法	71
18 放射線科・放射線技術科	73
(1) 部門別年度別総件数	73
(2) 一般撮影部門	73
(3) マンモグラフィ部門	73
(4) ポータブル撮影部門	74
(5) CT部門	74
(6) MRI部門	74
(7) 循環器部門	75
(8) 透視(X-TV)部門	76
(9) RI部門	76
(10) 放射線治療部門	77
(11) 骨密度検査部門	77
(12) 画像入出力部門	77
19 中央検査部・病理診断科	78
(1) 検査種目別件数の推移	78
(2) 検査種目別件数の構成比	78
(3) 年度別検査項目別件数	79
(4) 剖検件数	80
(5) 細胞診件数	80
(6) 細菌同定検査情報	81
(7) 外部委託検査件数	84
(8) 血液製剤使用状況	84
(9) 血液製剤購入・廃棄状況	85
(10) 自己血採血状況	86
(11) お手軽けんさ	86
20 栄養管理科	88
(1) 患者延食数	88
(2) 個人指導件数	89
(3) 選択食延食数	90
(4) お祝い膳延食数	90
21 臨床工学科	91
(1) 医療機器管理	91
(2) 臨床技術提供	92

22	通院治療センター	93
23	再診電話受付受診件数	94
	(1) 診療科別	94
	(2) 市町村別	95
24	診断書文書作成件数	95
25	専門外来件数	96
26	医療の質（臨床指標：クリニカル・インジケーター）	96
	(1) 病院全体のクリニカル・インディケーター	96
	① 病床利用率、平均在院日数	96
	② 救急車搬入患者数	96
	③ 退院後4週間以内の緊急入院率	96
	④ 24時間以内の再手術率	96
	⑤ 年間退院患者に占めるがん患者の割合	97
	⑥ 2週間以内の退院サマリー作成率	97
	⑦ 剖検率	97
	⑧ ワーファリン服用患者における出血傾向モニタリング(INR)	98
	⑨ 輸血製剤廃棄率	99
	⑩ 意見箱投書(感謝の占める割合)	100
	⑪ 褥瘡発生率	100
	(2) 感染のクリニカルインディケーター	101
	① 血液培養での表皮ブドウ球菌コンタミネーション率	101
	② 血液培養のボトルが複数提出された患者の割合	102
	③ MRSA検出状況	103
	(3) 医療安全のクリニカルインディケーター	104
VIII	チーム医療	105
1	医療安全対策室	105
2	感染制御チーム（ICT）	106
3	褥瘡対策チーム	107
4	栄養サポートチーム（NST）	109
5	呼吸器サポートチーム（RST）	110
6	緩和ケアチーム	112
7	排尿ケアチーム	113
8	摂食嚥下支援チーム	114
IX	地域医療連携室	115
1	医療相談業務	115
2	科別紹介患者数・入院	117
3	科別紹介患者数・外来	117
4	地域別紹介患者数・入院	118
5	地域別紹介患者数・外来	118

6	科別戻し・逆・新規紹介患者数	119
7	地域別戻し・逆・新規紹介患者数	119
8	科別紹介患者数(当日救急対応分)	120
9	科別事前予約患者数	121
10	オンライン検査予約	121
11	母体搬送・新生児搬送受入れ数	122
12	在宅医療未熟児等一時受入事業	122
13	退院調整患者数	122
X	地域がん診療連携拠点病院	123
1	がん相談支援センター	123
2	院内がん登録	124
3	化学療法・通院治療センター委員会	124
4	緩和ケアチーム	125
5	がん患者サロン（サロンあおぞら）	126
6	キャンサーボード	126
XI	地域支援活動	127
1	地域講演会	127
2	地域への情報提供	129
3	母親学級	133
4	職場体験受入	133
5	極低出生体重児の親の会「クラブ・プリミー」	134
6	桐生市堀マラソン大会の支援	134
7	リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2023ぐんま	134
8	令和5年度（第4回）桐生厚生総合病院連携登録医大会	134
XII	研修業績	135
1	学会及び院外研修会	135
2	学会発表・講演・論文	146
3	主な講演会・研修会	162
4	研修実績	165
XIII	災害拠点病院	178
1	指定要件	178
2	群馬県の災害拠点病院	178
3	DMA T	178
XIV	各部署の紹介	179

XV	病院施設及び医療機器	212
1	建設改良工事等	212
2	病院施設設備の概要	213
3	主な医療機器購入一覧表	217
XVI	図 書	218
1	受入図書	218
2	受入雑誌	222
XVII	病院行事	225
1	主な行事	225
2	職員健康管理	225
3	職員共済会	226
XVIII	付属施設等	227
1	群馬県立赤城特別支援学校桐生厚生総合病院内教室	227
2	感染症病床	228
XIX	編集委員・部員名簿	229

《基本理念》

信頼され、心が通う地域医療

《基本方針》

- 1 患者さんの権利を尊重します。
- 2 患者さん自身で治療を選べるよう、わかりやすく十分に説明します。
- 3 地域の急性期医療を担います。
- 4 地域の医療・介護機関と緊密に連携します。
- 5 診療の質を高めるため、研鑽・研修に努めます。
- 6 医療の安全確保に努めます。
- 7 効率的で健全な病院経営を目指します。
- 8 職員が誇りを持って働ける病院を目指します。

《患者さんの権利》

- 1 個人として尊重され、適切で良質な医療を平等に受けられます。
- 2 プライバシー・個人情報が保護されます。
- 3 診療に関して、わかりやすい説明を受けられます。
- 4 検査・治療について、自らの意思で選択できます。
- 5 他の医師の意見（セカンドオピニオン）を聞くことができます。
- 6 診療記録の開示を請求することができます。

《患者さんの責務》

- 1 自身の健康に関する情報を正確に伝えてください。
- 2 納得できるよう、わからないことは質問してください。
- 3 自身の医療に積極的に参加してください。
- 4 他の患者さんの診療に支障を来さないよう配慮してください。
- 5 院内の規則や医療者の指示を守ってください。
- 6 教育病院として多くの実習生が研修していますので、ご理解ください。
- 7 診療費は適切にお支払いください。

I 病院の現況と沿革

1 病院の現況（令和 5 年 3 月 31 日現在）

（1）病院の概況

名 称	桐 生 厚 生 総 合 病 院
所 在 地	〒376-0024 群馬県桐生市織姫町 6 番 3 号
	電話番号 (0277) 44-7171 代表
	FAX 番号 (0277) 44-7170
	U R L https://www.kosei-hospital.kiryu.gunma.jp/
	E-mail webmaster@kiryuhp.jp
開 設 者	桐生地域医療企業団（桐生市とみどり市で共同設置）
企 業 長	加 藤 広 行
病 院 長	加 藤 広 行
標 榜 科 目	内科、精神科、神経内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、 血管外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓外科、乳腺外科、 皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、麻酔科、 リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、救急科、緩和ケア内科、 歯科・歯科口腔外科
施 設	敷地面積 17,220.57 m ² 建物面積 34,088.69 m ² 〔地下 1 階（一部地下 2 階）・地上 8 階・養護学校 582.710 m ² 含む〕
病 床 数	一般病床 429 床 感染症病床 4 床 計 433 床
病院機能評価認定	一般病院 2（3rdG:Ver. 1.1）
診 療 指 定	保険医療機関 国保療養取扱機関 労災保険指定病院 指定難病指定医療機関 救急告示指定病院 短期人間ドック 生活保護法指定病院 養育医療機関指定病院 群馬県エイズ診療協力病院 第二種感染症指定医療機関 地域がん診療連携拠点病院 災害拠点病院（地域災害医療センター） 災害派遣医療チーム群馬 DMAT 指定病院 群馬県地域周産期母子医療センター 原爆被爆者一般疾患医療取扱病院 指定小児慢性特定疾病医療機関 肝疾患専門医療機関 指定自立支援医療機関（育成・更生医療・精神通院医療） 母体保護法指定医 身体障害者福祉医療指定医 地域医療支援病院
教 育 指 定	臨床研修病院（平成 14 年 4 月 1 日厚生労働省指定） 日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設（内科系） 日本呼吸器学会認定施設 日本小児科学会専門医研修施設 日本周産期・新生児医学母体・胎児認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本外科学会認定医制度修練施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設 日本呼吸器外科学会専門医制度関連施設 日本消化器外科学会専門医制度修練施設 日本脈管学会認定研究関連施設 日本整形外科学会認定医制度研修施設 日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練場所

日本脳卒中学会研修教育病院認定
 日本皮膚科学会認定専門医研修施設
 日本泌尿器科学会専門医教育施設
 日本産科婦人科学会認定医制度卒後研修指導施設
 日本眼科学会専門医制度研修施設
 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
 日本麻酔科学会麻酔指導病院
 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
 日本病理学会研修認定施設
 日本臨床細胞学会認定施設
 日本臨床腫瘍学会認定研修施設
 日本静脈経腸栄養学会実地修練認定教育施設
 日本栄養療法推進協議会 N S T 稼動施設
 日本口腔外科学会専門医制度関連研修施設認定
 日本輸血・細胞治療学会 I & A 認定施設
 日本臨床衛生検査技師会精度保証施設
 認定臨床微生物検査技師制度研修施設
 認定輸血検査技師制度指定施設

施設基準

- 基本診療科の施設基準等に関する届出
 - ・急性期一般入院基本料 1 ・入退院支援加算 1 (地域連携診療計画加算・入院時支援加算・総合機能評価加算)
 - ・ハイケアユニット入院医療管理料 1 ・新生児特定集中治療室管理料 2
 - ・小児入院医療管理料 3
 - ・地域歯科診療支援病院歯科初診料 ・歯科外来診療環境体制加算 2
 - ・歯科診療特別対応連携加算 ・臨床研修病院入院診療加算 (基幹型)
 - ・医師事務作業補助体制加算 1 (25 対 1)
 - ・栄養サポートチーム加算
 - ・医療安全対策加算 1 (地域連携加算)
 - ・感染対策向上対策加算 1 (地域連携加算・抗菌薬適正使用加算)
 - ・診療録管理体制加算 1 ・がん診療連携拠点病院加算
 - ・病棟薬剤業務実施加算 1、2 ・後発医薬品使用体制加算 1
 - ・救急医療管理加算 ・超急性期脳卒中加算
 - ・妊産婦緊急搬送入院加算 ・データ提出加算
 - ・患者サポート体制充実加算 ・急性期看護補助体制加算 (50 対 1)
(夜間急性期看護補助体制加算 (100 対 1)・看護補助体制充実加算)
 - ・療養環境加算 ・重症者等療養環境特別加算
 - ・ハイリスク妊娠管理加算 ・ハイリスク分娩管理加算
 - ・呼吸ケアチーム加算 ・認知症ケア加算 2
 - ・せん妄ハイリスク患者ケア加算 ・排尿自立支援加算
 - ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算 ・地域医療体制確保加算
 - ・地域包括ケア病棟入院料 2 ・回復期リハビリテーション病棟入院料 3
- 特掲診療料の施設基準等に関する届出
 - ・薬剤管理指導料
 - ・検体検査管理加算 (I) ・検体検査管理加算 (IV)
 - ・小児科外来診療料 ・小児食物アレルギー負荷検査
 - ・喘息治療管理料 ・糖尿病合併症管理料
 - ・がん性疼痛緩和指導管理料 ・がん患者指導管理料イ・ロ・ハ・ニ
 - ・がん治療連携計画策定料 ・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
 - ・外来腫瘍化学療法診察料 1 ・連携充実加算 ・無菌製剤処理料
 - ・乳がんセンチネルリンパ節加算 1 及びセンチネルリンパ節生検 (併用)

- ・糖尿病透析予防指導管理料
- ・二次性骨折予防継続管理料 1
- ・二次性骨折予防継続管理料 2
- ・二次性骨折予防継続管理料 3
- ・下肢創傷処置管理料
- ・外来放射線照射診療料
- ・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注 2
- ・在宅患者訪問看護・指導料の注 16（同一建物居住者訪問看護・指導料の注 6 の規定により準用する場合を含む。）に規定する専門管理加算
- ・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
- ・肝炎インターフェロン治療計画料
- ・夜間休日救急搬送医学管理料の注 3 に掲げる救急搬送看護体制加算
- ・療養・就労両立支援指導料の注 3 に規定する相談支援加算
- ・開放型病院共同指導料
- ・医療機器安全管理料 1
- ・医療機器安全管理料 2
- ・H P V 核酸検出及びH P V 核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
- ・遺伝子学的検査
- ・神経学的検査
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
- ・運動器リハビリテーション料(I)
- ・呼吸器リハビリテーション料(I)
- ・摂食機能療法の注 3 に規定する摂食嚥下機能回復体制加算 1
- ・がん患者リハビリテーション料
- ・人工腎臓(慢性維持透析 1) (導入期加算 1) (透析液水質確保加算)
- ・一酸化窒素吸入療法
- ・C A D / C A M 冠
- ・ニコチン依存症管理料
- ・内服・点滴誘発試験
- ・外来排尿自立指導料
- ・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
- ・ヘッドアップティルト試験
- ・悪性腫瘍病理組織標本加算
- ・補聴器適合検査
- ・C T 透視下気管支鏡検査加算
- ・C T 撮影及びMR I 撮影
- ・大腸C T 撮影加算
- ・医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術
- ・輸血管理料 I (輸血適正使用加算)
- ・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
- ・麻酔管理料(I)
- ・放射線治療専任加算
- ・外来放射線治療加算
- ・高エネルギー放射線治療
- ・経皮的冠動脈形成術
- ・経皮的冠動脈ステント留置術
- ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- ・大動脈バルーンパンピング法(I A B P 法)
- ・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
- ・腹腔鏡下膀胱尾部腫瘍切除術
- ・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
- ・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
- ・人工尿道括約筋植込・置換術
- ・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
- ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- ・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
- ・歯科疾患管理料の注 11 に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
- ・クラウン・ブリッジ維持管理料
- ・地域連携診療計画加算
- ・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- ・1 回線量増加加算
- ・画像誘導放射線治療(I G R T)
- ・体外照射呼吸性移動対策加算
- ・定位放射線治療
- ・心臓ペースメーカー指導管理料の注 5 に掲げる遠隔モニタリング加算
- ・婦人科特定疾患治療管理料
- ・B R C A 1 / 2 遺伝子検査
- ・先天性代謝異常症検査
- ・小児運動器疾患指導管理料
- ・椎間板内酵素注入療法

- ・精密触覚機能検査 ・腹腔鏡下仙骨膣固定術
- ・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
- ・胃瘻造設時嚥下機能評価加算 ・外来栄養食事指導料の注2

○入院時食事療養の基準等の関する届出

- ・入院時食事療法(Ⅰ)…1食につき・特別食加算…1食につき・食堂加算

午前8時45分から午後5時30分まで

1日ドック週5回

ベッド数 13床 定数 25名

ベッド数 12床

救急治療室、救急指定、第二次救急病院群輪番制

ライナック、全身用マルチスライスCT(128列)2台、

連続血管撮影装置、MRI(1.5T・3T)2台

リハビリテーション室、言語療法室、水治療法室

ベッド数 27床(NICU12床、GCU15床)

ベッド数 6床(ICU3床、CCU3床)

病理組織検査室、解剖室、標本室

総数 572人(令和5年3月31日現在)

診療時間

人間ドック

腎センター

通院治療センター

救急体制

高度医療機器

リハビリテーション科

新生児未熟児施設

特定集中治療室

病理解剖施設

職員数

(2) 企業団構成団体の地勢と位置

当企業団の構成市は、関東地方の北西部、群馬県の東端にあり、栃木県と隣接します。中央部を渡良瀬川が流れ県境とほぼ平行するように桐生川が流れています。やがて合流して関東平野へと続いて行きます。平成18年3月27日から桐生市とみどり市の2市から構成されており、人口は約15万人、面積は484 km²でその75%以上が山林に占められていて典型的な盆地の地形と気象を呈しています。

医療企業団構成団体の地勢



市 名	人口(人)	世帯数
桐生市	100,362	44,549
みどり市	48,194	19,771
合 計	148,556	64,320

令和 6. 3. 1 現在『群馬県移動人口調査』



交 通 ● J R 桐生駅(南口)から徒歩約10分
● 東武新桐生駅から車で5分

2 病院の沿革

昭和 9 年 2 月 1 1 日	桐生市諏訪町(現東一丁目)881-1 番地において、桐生医療購買利用組合立の「桐生組合病院」として病床数 20 床で発足した (診療科 4 科 医師 4 名 病床 20 床)
昭和 1 6 年 1 2 月 2 6 日	同年 5 月末日にさかのぼって群馬県購買販売利用組合連合会の経営となり、病院の名称も「桐生組合病院」から「桐生厚生病院」となる
昭和 1 8 年 2 月	群馬県購買連は県信連と総合して群馬県信用販売購買利用連合会となる
昭和 1 9 年 1 月	利用組合連合会が群馬県農業会に改組となる
昭和 2 3 年 8 月 1 6 日	県農業会が解散したため群馬県生産農業共同組合連合会に委譲となる
昭和 2 3 年 1 2 月	桐生地方国民健康保険団体連合会が設立され、同年 8 月にさかのぼって生産農業協同組合連合会から一切を譲り受けた
昭和 2 5 年 1 2 月 2 6 日	診療科 7 科、外科・内科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・歯科及び理学診療科
昭和 2 6 年 4 月 5 日	地方自治法第 284 条による地方公共団体の組合として、桐生市外十二箇町村医療事務組合(構成市町村は、桐生市、大間々町、梅田村、相生村、川内村、福岡村、毛里田村、黒保根村、東村、新里村、笠懸村、薮塚本町及び強戸村)が設置され国保連合会から引き継がれた
昭和 2 6 年 1 1 月 1 日	小児科標榜(8 科)
昭和 2 7 年 4 月 2 日	2 箇町村(栃木県小俣町と菱村)加入により桐生市外十四箇町村医療事務組合となる
昭和 2 7 年 8 月 1 8 日	一般病床 100 床、結核病床 60 床、計 160 床
昭和 2 9 年 7 月 2 8 日	一般病床 108 床、結核病床 102 床、計 210 床
昭和 3 0 年 8 月 2 日	梅田・相生・川内村が桐生市に、川内村の一部と福岡村が大間々町にそれぞれ合併になり桐生市外十箇町村医療事務組合となる
昭和 3 2 年度～ 昭和 3 5 年度	4 箇年継続事業として、厚生年金保険積立金還元融資を受け、桐生市織姫町 6 番 3 号に鉄筋コンクリート 6 階建(延 6, 185. 58 m ²)を新築
昭和 3 3 年 9 月 1 6 日	開設許可(群馬県指令医 第 198 号)
昭和 3 4 年 1 1 月 7 日	町村合併(強戸村が太田市に、菱村が桐生市に合併した)により桐生市外八箇町村医療事務組合となる
昭和 3 5 年 6 月 1 4 日	一般病床 216 床(2 類看護)、結核病床 71 床(3 類看護)、計 287 床
昭和 3 5 年 6 月 2 0 日	諏訪町から現在地に移転
昭和 3 5 年 6 月 2 0 日	開設届出(群馬県指令医 第 112 号)
昭和 3 5 年 9 月 3 0 日	「総合病院」として承認され名称も「桐生厚生総合病院」となる 診療科 10 科、内科・小児科・外科・整形外科・皮膚泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・歯科及び理学診療科
昭和 3 7 年 1 0 月 6 日	看護婦宿舎 2 階建新築(延 1, 207. 50 m ²)
昭和 3 8 年 7 月 2 9 日	町村合併(坂西町「旧小俣町」が足利市に合併した)により桐生市外七箇町村医療事務組合(昭 39. 3. 19)となる
昭和 3 9 年 9 月 2 8 日	病棟、鉄筋コンクリート 4 階建(延 1, 264. 64 m ²)を増築、この病床数 105 床、全病床数は一部使用変更により一般病床 314 床、結核病床 71 床、計 385 床

昭和40年	1月26日	歯科診療廃止(9科となる)
昭和40年	4月26日	町村合併(毛里田村が太田市に合併した)により桐生市外六箇町村医療事務組合となる
昭和44年	3月24日	新病棟、鉄筋コンクリート2階建(延 918.72 m ²)を増築、この病床にコバルト室・ラジウム病床・手術室4室・リハビリテーション室等を設置した 病床数は377床(うち結核病床71床)となる
昭和44年	6月26日	病床数は383床(うち結核病床71床)となる
昭和45年	8月1日	脳神経外科を新設、診療科は10科となる
昭和46年	1月18日	結核病床を71床から32床減床し、一般病床に振り替えた 病床数は一部使用変更により一般病床348床、結核病床32床、計380床となり、結核病棟は6階から4階に移動した
昭和46年	5月20日	皮膚泌尿器科は皮膚科と泌尿器科に分かれ診療科は11科となる
昭和47年	8月14日	診療棟、3階建(延 844.32 m ²)を増築、小児科・脳神経外科・泌尿器科・皮膚科・眼科検査室・図書室・研究室などが入る 小児病棟、3階建(延 411.42 m ²)を増築、小児病棟は34床増えて一般病床382床、結核病床32床、合わせて414床となる
昭和48年	3月5日	独協医科大学研究室、2階建(延 476.38 m ²)を新築 病床数は一部使用変更により一般病床362床、結核病床32床、計394床
昭和48年	3月10日	一部使用変更により一般病床360床、結核病床32床、計392床となる
昭和48年	12月6日	看護婦宿舎・鉄筋コンクリート6階建(延 2,954.64 m ²)を新築した 定員:170人 所在地:織姫町5番43号
昭和48年	12月10日	看護婦宿舎の一部に院内託児所(桐の子保育所)を開設し、看護婦の幼児の保育を始めた
昭和49年	4月9日	桐生市立昭和小学校病弱学級を旧看護婦宿舎内に開設した
昭和49年	5月29日	伝染病隔離病舎・鉄筋コンクリート2階建(延 669.86 m ²)を病院敷地内に新築、伝染病舎の病床数は30床、一般360床・結核32床、計422床
昭和49年	8月27日	人工腎臓装置・循環器系X線装置等を設置し、小児病棟を10床増床して一般病床は370床となる(結核・伝染病床は変わらず)
昭和49年	9月28日	6階病棟が2床減床となり一般病床368床となる
昭和50年	11月17日	結核病床を15床減床して17床とした一般病床は12床増床して380床となり、合わせて病床数は427床となる(伝染病床数は30床のまま)
昭和53年	5月18日	独協医科大学研究室に3階(238.19 m ²)を増築した
昭和54年	4月1日	病弱学級が群馬県立東毛養護学校桐生厚生総合病院分室となり、小・中学部を設置した
昭和55年	3月22日	中庭に管理・診療棟(223.487 m ²)を増築、ギプス室・水治療室(ハバートタンク)・中央注射室・小会議室などを設置した
昭和55年	4月1日	養護学校分教室が東毛養護学校桐生分校に昇格した
昭和55年	4月7日	放射線科を標榜、診療科は12科となる
昭和56年	10月28日	一般病床380床、結核病床11床、伝染病床30床、合わせて421床となる。
昭和58年	6月11日	結核病床を廃止
昭和58年	7月4日	一般病床398床、伝染病床30床、合わせて428床となる
昭和59年	5月23日	桐生厚生総合病院開院50周年記念式典並びに祝賀会を開催(桐生市産業文化会館にて)

昭和59年10月1日	第101回定例議会終了後の全員協議会において病院増改築計画案が原案で了承された
昭和61年3月1日	第105回定例議会で病院増改築事業費(継続費)が承認された
昭和61年6月14日	病院増改築事業のため伝染病床30床の廃止が許可される
昭和61年10月30日	病院増改築第1期工事(病棟工事)に着手
昭和62年5月19日	中国陝西省人民医院と友好病院締結の調印式が行われた
昭和63年8月1日	神経内科を標榜、診療科は13科となる
昭和63年10月28日	病院増改築第1期工事(病棟工事)完成 新病棟は鉄骨鉄筋コンクリート造、地下1階(一部地下2階)地上8階建てで一般病床510床、伝染病床20床となる
昭和63年11月1日	心臓血管外科を標榜、診療科は14科となる
昭和64年1月1日	新病棟完成に伴い、看護基準・基準給食・寝具基準を再申請する
平成2年1月26日	病院増改築第2期工事(外来棟工事)完成
平成2年2月1日	麻酔科及び歯科を標榜、診療科は16科となる
平成2年5月7日	病院増改築第3期工事(外構工事)完成 病院増改築工事竣工
平成2年5月23日	病院増改築落成式
平成3年10月25日	中国陝西省人民医院との「友好病院締結に関する覚書」延長の調印式が行われた(中国西安)
平成6年5月16日	磁気共鳴断層撮影装置(MRI)の運用を開始する
平成6年6月1日	精神科と呼吸器外科を標榜、診療科は18科となる
平成8年7月31日	骨密度測定装置導入
平成8年7月31日	ICUの3床を2床に、NICU・新生児未熟児センターの16床を17床に変更
平成8年10月1日	中国陝西省人民医院との「盟約書及び盟約書に基づく友好病院締結に関する覚書」の調印式が行われた(中国西安)
平成9年3月27日	災害拠点病院として指定
平成9年4月1日	特定療養費に係る療養の提供実施(1,050円)
平成9年4月1日	標榜診療科変更届出(理学療法科からリハビリテーション科、歯科から歯科・歯科口腔外科へ変更)
平成9年8月18日	NICU改修工事着工
平成9年11月30日	NICU改修工事完成
平成11年3月31日	伝染病床20床廃止
平成11年4月1日	一般病床510床、感染症病床4床、合わせて514床となる
平成11年11月1日	オーダーリングシステム導入
平成12年11月1日	診療録等開示を開始
平成13年3月31日	院内保育所及び看護婦宿舎廃止
平成13年5月1日	桐生厚生総合病院のホームページを開設
平成14年4月1日	臨床研修病院として厚生労働省から指定
平成14年6月21日	院外広報誌<ほほえみ>創刊号発刊(以降3ヵ月毎に刊行)
平成14年11月18日	病院機能評価(一般病院種別B)の認定
平成15年1月23日	中国陝西省人民医院との「友好病院締結に伴う調印式」及び「人民医院院長へ名誉顧問称号の贈呈式」を行う

平成15年	2月	3日	感染症病棟の改修工事が完了し、感染症病棟4床及び人間ドック待合室・会議室等の使用を開始する
平成15年	4月	1日	回復期リハビリテーション病棟を6階東病棟に36床設置する
平成15年	4月	1日	地域医療連携室新設
平成15年	5月	1日	地域医療連携室を外来棟2階に移設し、外来棟1階に精神科を移設し、病棟1階に移設した中央注射室にて外来化学療法も開始した
平成15年12月	1日		女性専用外来の開始(毎週月曜日午後、完全予約制)
平成16年	2月	9日	急性期患者への高度医療提供としてMRIを増設し、2基の運用を開始する
平成16年	3月11日		コバルト照射治療を廃止し、放射線発生装置(ライナック)の施設検査の合格を受け運用を開始する
平成16年	5月	1日	循環器科を標榜、診療科は19科となる
平成16年	7月	1日	回復期リハビリテーション病棟を6階西病棟へ移設、11床増床し、43床とした
平成16年	8月	1日	亜急性期入院医療管理料(36床)の施設基準
平成16年	9月	1日	全館禁煙の実施
平成16年10月	1日		放射線発生装置の運用により高エネルギー放射線治療等の施設基準
平成17年	3月28日		藪塚本町が、新設合併により組合を脱退。(構成団体:1市2町3村)
平成17年	3月31日		看護婦宿舎の解体工事により70台分の駐車場が整備された。
平成17年	4月	1日	亜急性期入院医療管理料(36床→30床)
平成17年	4月	1日	病院図書室開放
平成17年	6月	1日	お見舞いメールお届けサービス開始
平成17年	6月	1日	群馬県地域周産期母子医療センター
平成17年	6月13日		桐生市、新里村、黒保根村編入合併により桐生市を形成 (構成団体:1市2町1村)
平成17年12月	1日		再診電話当日受付開始
平成18年	3月27日		笠懸町、大間々町、(勢多)東村新設合併によりみどり市を形成 (構成団体:2市)
平成18年	3月27日		組合名称を「桐生地域医療組合」に変更し、2市で運営することとなる
平成18年	4月	1日	医療安全対策室を新設
平成18年	5月	1日	褥瘡対策室を新設
平成18年	6月	1日	敷地内禁煙
平成18年	7月	1日	禁煙外来を開設
平成18年11月	1日		一般病棟入院基本料(7対1)施設基準 (特定集中治療室管理料及び新生児入院医療管理加算取下げ)
平成19年	1月	1日	亜急性期入院医療管理料(30床→24床)
平成19年	1月31日		地域がん診療連携拠点病院として厚生労働省から指定
平成19年	2月	2日	患者さんの権利・責務制定
平成19年	3月	1日	亜急性期入院医療管理料(24床→6床)
平成19年	3月	1日	電子レセプト運用開始
平成19年	4月	1日	NICU病棟(6床→9床)、GCU病棟(11床→12床)に増床した
平成19年	4月	1日	入院基本料等(7対1看護)の施設基準(一般入院)第78号 457床から419床(休床35床+NICU3床)に変更
平成19年	4月	1日	医事システム入れ替え(HOPE WIN)

平成19年	4月	1日	がん相談支援センター開設
平成19年	7月	1日	DPC準備病院認定
平成19年	11月	18日	病院機能評価(Ver. 5.0)の更新認定
平成19年	11月	26日	病院情報システム(含電子カルテ)
平成20年	1月	7日	セカンドオピニオン外来開設
平成20年	4月	1日	臨床工学科設置
平成20年	4月	1日	初診に係る保険外併用療養費の改正(1,580円)
平成20年	6月	9日	地域医療連携室移設拡充工事完了
平成20年	11月	1日	回復期リハビリテーション病棟入院料(6階西病棟43床)を辞退
平成20年	12月	1日	6階西病棟を亜急性期病床37床・一般病床6床に移行 亜急性期入院医療管理料Ⅰ(6階西病棟37床)を取得
平成21年	3月	31日	桐生厚生総合病院改革プラン策定
平成21年	3月	31日	日本輸血・細胞治療学会Ⅰ&Ⅱ認定施設
平成21年	4月	1日	お手軽けんさ開設
平成21年	5月	1日	オンライン検査(CT・MRI)予約システム(C@Rna:カルナ)導入
平成21年	7月	1日	DPC対象病院に移行
平成21年	7月	1日	乳腺外来開設
平成21年	7月	7日	フットケア外来開設
平成21年	10月	1日	バナー広告開設・患者サロン開設
平成22年	1月	6日	助産師外来開設
平成22年	3月	25日	ESCO事業者選定(H23.3.31 工事完了引渡)
平成22年	4月	1日	感染対策室新設
平成22年	6月	1日	亜急性期入院医療管理料Ⅰ(37床→36床)
平成22年	8月	1日	小児時間外受診体制の新たな取組
平成23年	2月	1日	時間外診療費特別料金(3,360円)の徴収
平成23年	4月		群馬県の要請に基づき、医療救護班(医師1名・看護師2名・事務1名)派遣 【宮城県南三陸町・志津川中学校 3日～6日(4日間)】
平成23年	7月	12日	厚生労働省より、災害派遣医療チーム群馬DMAT病院に指定 【医師1名・看護師2名・薬剤師1名・事務1名】
平成23年	10月		地域医療再生基金補助金によるMRI(3.0T)、DSA(多目的血管撮影装置)導入
平成23年	12月		地域医療再生基金補助金による障害者歯科のための外来診療室改修工事等
平成24年	3月		地域医療再生基金補助金による小児周産期医療拡充整備事業 【NICU・GCU各3床増床、母児同室等の施設機器整備】
平成24年	4月	1日	地域再生基金実施に伴い、一般病床502床、感染症病床4床、計506床
平成24年	4月	1日	亜急性期入院医療管理料Ⅰ(36床→35床)
平成24年	4月	1日	感染防止対策加算Ⅰの施設基準
平成24年	7月	1日	亜急性期入院医療管理料Ⅰ(35床→29床)
平成24年	11月		ハッピー健康相談室(新規)
平成24年	11月	1日	病理診断部を中央検査部から分離
平成24年	12月	7日	病院機能評価(Ver. 6.0)の更新認定
平成25年	2月	1日	初診に係る保険外併用療養費の改正(2,100円)
平成25年	3月	1日	1階正面玄関横旧喫茶コーナーを「情報コーナー」として改装

平成25年	3月29日	第2期桐生厚生総合病院改革プラン策定
平成25年	4月1日	臨床研修病院入院診療加算(協力型から基幹型へ変更)
平成25年	7月1日	療養環境加算(75床)の施設基準
平成25年	7月1日	亜急性期入院医療管理料(29床→23床)
平成25年12月	1日	医師事務作業補助体制加算区分(25対1→30対1へ変更)
平成26年	2月1日	地域医療連携室だより「きずな」を発刊する
平成26年	2月1日	透析液水質確保加算(加算1→加算2へ変更)
平成26年	3月31日	桐生厚生総合病院ホームページ リニューアル
平成26年	4月1日	病理診断科を標榜、診療科は20科となる
平成26年	4月1日	循環器科を循環器内科に耳鼻咽喉科を耳鼻いんこう科に名称変更
平成26年	4月1日	消費税率改正に伴う使用料・手数料の料金改定
平成26年	4月1日	小児外来診療料の施設基準
平成26年	4月1日	H P V核酸同定検査(簡易ジェノタイプ)の施設基準
平成26年	4月1日	経皮的冠動脈形成術の施設基準
平成26年	4月1日	経皮的冠動脈ステント留置術の施設基準
平成26年	4月1日	腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術の施設基準
平成26年	4月1日	貯血式自己輸血管理体制加算の施設基準
平成26年	4月1日	腹腔鏡下肝切除術の施設基準の辞退
平成26年	6月18日	地域医療支援病院の承認
平成26年	7月1日	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術の施設基準
平成26年	7月1日	開放型病院共同指導料の施設基準
平成26年	7月1日	C A D / C A M冠の施設基準
平成26年	8月1日	小児食物アレルギーの施設基準
平成26年	8月1日	がん患者指導管理料2・3の施設基準
平成26年	9月1日	ハイケアユニット入院医療管理料1の施設基準
平成26年	9月30日	亜急性期入院医療管理料1(23床)終了
平成26年10月	1日	糖尿病透析予防指導管理料の施設基準
平成26年10月	23日	地域医療勉強会を桐生地域の医療機関等の従事者を対象に開催する
平成26年12月	20日	日本輸血・細胞治療学会I & Aの更新認定
平成27年	1月10日	病院情報システムの更新拡充
平成27年	2月21日	多数傷病者受入訓練の実施
平成27年	3月2日	地域医療再生基金補助金により非常用発電装置拡充更新事業完工
平成27年	4月1日	心臓血管外科を心臓外科に変更し、血管外科、救急科、緩和ケア内科を標榜、診療科は23科となる
平成27年	5月1日	持続血糖測定器加算の施設基準
平成27年	5月1日	皮下連続式グルコース測定の施設基準
平成27年	7月1日	C T透視下気管支鏡検査加算の施設基準
平成27年12月	2日	院外骨塩定量(骨密度)検査の実施
平成28年	3月1日	病棟薬剤業務実施加算1の施設基準
平成28年	4月1日	乳房MR I撮影加算の施設基準
平成28年	7月1日	総合評価加算の施設基準
平成28年	8月1日	病棟薬剤業務実施加算2の施設基準
平成28年	9月1日	下肢末梢動脈疾患指導管理加算の施設基準

平成28年10月	1日	地域包括ケア病棟入院料1の施設基準
平成28年11月	1日	認知症ケア加算2の施設基準
平成29年	1月1日	呼吸ケアチーム加算の施設基準
平成29年11月	18日	病院機能評価 3rdG:Ver1.1 更新認定
平成30年	4月1日	感染防止対策加算1(抗菌薬適正使用支援加算)の施設基準 後発医薬品使用体制加算1の施設基準
平成30年	5月1日	入退院支援加算1(地域連携診療計画加算・入院時支援加算)の施設基準
平成30年	6月1日	悪性腫瘍病理組織標本加算および遺伝子学的検査の施設基準
平成30年	7月1日	強度変調放射線治療 (IMRT) の施設基準 診療録管理体制加算1(加算2→加算1)の施設基準 医療安全対策加算1(医療安全対策地域連携加算1)の施設基準 夜間休日救急搬送医学管理料(救急搬送看護体制加算)の施設基準
平成30年	8月1日	回復期リハビリテーション病棟を6階西病棟に31床設置する 回復期リハビリテーション病棟入院料6の施設基準 地域包括ケア病棟を6階西病棟から4階東病棟へ移設(44床)
平成30年10月	1日	平成30年4月の診療報酬改定で、紹介状なしで400床以上の地域医療支援病院を受診した患者等へ定額負担を徴収することに伴い次に係る保険外併用療養費の改正を行う 初診に係る保険外併用療養費の改正(2,160円→5,400円) 再診に係る保険外併用療養費の設定(2,700円) 時間外診療費特別料金の改正(3,460円→5,400円)
平成30年11月	1日	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術の施設基準
平成31年	2月1日	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術の施設基準
平成31年	3月1日	回復期リハビリテーション病棟入院料3(入院料6→入院料3)施設基準
平成31年	3月7日	日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定制度(I&A)の更新認定
令和元年	9月1日	急性期看護補助体制加算 25対1(50対1→25対1) セカンドオピニオン外来無料化
令和元年10月	1日	消費税率改正に伴う使用料・手数料の料金改定
令和2年	4月1日	一般病床429床、感染症病床4床、合わせて433床となる 通院治療センター(9床)開設 医師事務作業補助体制加算1(30対1→25対1へ変更)の施設基準 せん妄ハイリスク患者ケア加算の施設基準 排尿自立支援加算の施設基準 地域医療体制確保加算の施設基準 入退院支援加算1(総合機能評価加算)の施設基準 心臓ペースメーカー指導管理料 がん患者指導管理料ニの施設基準 婦人科特定疾患治療管理料の施設基準 BRCA1/2 遺伝子検査の施設基準 先天性代謝異常症検査の施設基準
令和2年	5月1日	小児運動器疾患指導管理料の施設基準 椎間板内酸素注入療法の施設基準
令和2年10月	1日	新生児特定集中治療室管理料2(12床→9床)の施設基準

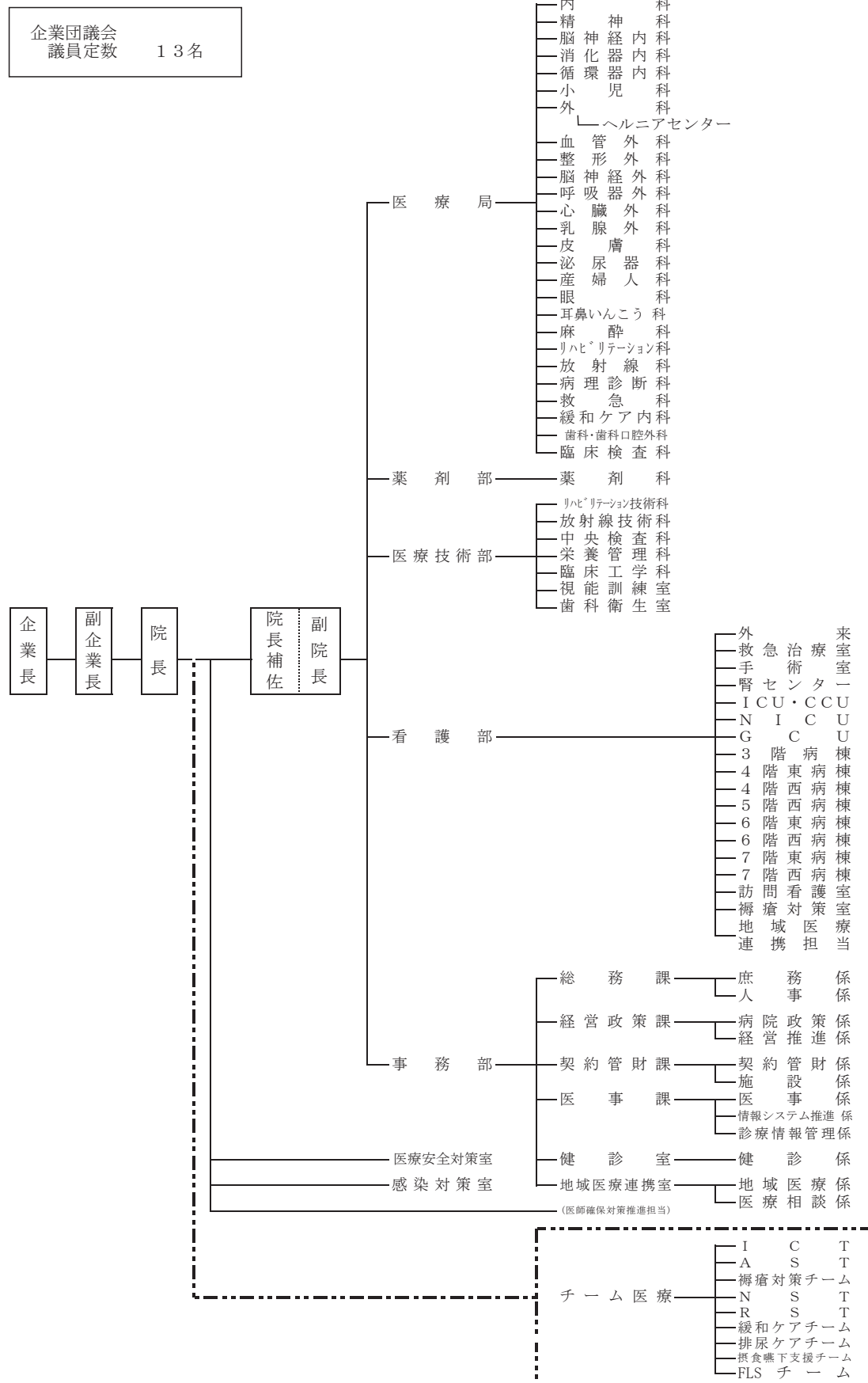
令和	3年	4月	1日	小児入院医療管理料3(管理料2→管理料3)の施設基準 連携充実加算の施設基準 外来栄養食事指導料の注2に規定する施設基準 通院治療センター増床(9床→12床)
令和	3年	8月	1日	小児入院医療管理料3(15床→9床)の施設基準
令和	3年	9月	1日	精密触覚機能検査の施設基準
令和	3年	10月	1日	新生児特定集中治療室管理料2(9床→6床)の施設基準
令和	4年	2月	1日	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術の施設基準 胃瘻造設時嚥下機能評価加算の施設基準
令和	4年	3月	1日	腹腔鏡下仙骨腫固定術の施設基準
令和	4年	3月	14日	電子カルテシステムの更新
令和	4年	4月	1日	外来腫瘍化学療法診察料1の施設基準 摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算1の施設基準
令和	4年	6月	1日	栄養サポートチーム加算の施設基準 二次性骨折予防継続管理料1の施設基準 二次性骨折予防継続管理料2の施設基準 二次性骨折予防継続管理料3の施設基準
令和	4年	7月	1日	補聴器適合検査の施設基準
令和	4年	10月	1日	看護職員処遇改善評価料の施設基準
令和	5年	1月	1日	貯血式自己血輸血管理体制加算の施設基準の辞退 療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算の施設基準 小児入院医療管理料4の施設基準の辞退 報告書管理体制加算の施設基準
令和	5年	4月	1日	桐生地域医療組合から桐生地域医療企業団となる
令和	5年	4月	1日	報告書管理体制加算の施設基準の辞退 外来放射線照射診療料の施設基準 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2の施設基準 在宅患者訪問看護・指導料の注16(同一建物居住者訪問看護・指導料の注6の規定により準用する場合を含む。)に規定する専門管理加算の施設基準 強度変調放射線治療(IMRT)の施設基準の辞退 病理診断管理加算1の施設基準の辞退
令和	5年	5月	1日	入退院支援加算3の施設基準 急性期看護補助体制加算(夜間急性期看護補助体制加算(100対1)・看護補助体制充実加算)の施設基準 下肢創傷処置管理料の施設基準
令和	5年	12月	1日	急性期看護補助体制加算(25対1→50対1・夜間看護体制加算)の施設基準 膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)の施設基準

Ⅱ 組 織

1 組織図

桐 生 地 域 医 療 企 業 団 桐 生 厚 生 総 合 病 院

(令和6年3月31日現在)



2 管理職員氏名

(令和6年3月31日)

企業長 加藤 広行 (兼院長)

所 属	役 職 名	氏 名	摘 要
	院 長	加 藤 広 行	兼企業長
	副 院 長	曲 澤 聡	兼脳神経外科部長兼医療技術部長 兼地域医療連携室長
	〃	森 永 暢 浩	兼外科部長兼感染対策室長
	〃	岡 田 克 之	兼皮膚科部長兼医療安全対策室長
	〃	大 木 康 史	兼小児科部長
	医 療 局 長	飯 田 智 広	兼内科部長
医 療 局 (内 科)	部 長	飯 田 智 広	兼医療局長
	〃	加 嶋 耕 二	
	〃	小 野 昭 浩	
	〃	野 中 真 知	
	〃	菅 間 一 乃	
	〃	大 澤 翔	
	医 長	福 地 達	
	〃	山 口 直樹	
	〃	相 川 崇	
	〃	清 水 創一郎	
	〃	原 健太郎	
(脳 神 経 内 科)	部 長	高 田 し の ぶ	
(循 環 器 内 科)	部 長	桑 原 渉	
(小 児 科)	〃	大 木 康 史	兼副院長
	〃	袖 野 玲 子	
	〃	浦 野 博 央	
	〃	関 根 和 彦	
	〃	齊 藤 亜希子	
(外 科)	部 長	森 永 暢 浩	兼副院長兼感染対策室長
	〃	和 田 渉	
	〃	緒 方 杏 一	
	〃	木 村 明 春	
(整 形 外 科)	部 長	斯 波 俊 祐	兼リハビリテーション科部長
	〃	下 山 大 輔	
	〃	角 田 陽 平	
	〃	上 野 哲 佳	
	〃	工 藤 千 佳	
(脳 神 経 外 科)	部 長	曲 澤 聡	副院長兼医療技術部長兼地域医療 連携室長
	〃	橋 場 康 弘	
(乳 腺 外 科)	医 長	石 井 希 和	
(皮 膚 科)	部 長	森 下 亜希子	
	部 長	岡 田 克 之	兼副院長兼医療安全対策室長

(泌 尿 器 科)	部	長	上 井 崇 智	兼整形外科部長 兼参与兼健診室長 兼小児科部長
	〃		岡 本 亘 平	
(産 婦 人 科)	部	長	林 鏡 拓 磨	
	〃		矢 崎 一 成	
(眼 科)	部	長	丸 山 泰 弘	
	〃		田 村 明 洋	
(耳 鼻 咽 科)	部	長	梅 村 由 崇	
	〃		山 田 貴	
(麻 酔 科)	部	長	佐 藤 淳	
	〃		塚 越 裕	
	〃		入 内 島 伸 尚	兼整形外科部長 兼参与兼健診室長 兼小児科部長
	〃		高 瀬 友 彰	
(リ ハ ビ リ テーション科)	部	長	斯 波 俊 祐	
	〃		有 阪 眞 由 美	
(放 射 線 科)	部	長	小 林 茂	
	医	長	高 橋 満 弘	
(歯 科 ・ 歯 科 口 腔 外 科)	部	長	今 井 正 之	
	〃		田 中 舞	
(臨 床 検 査 科)	部	長	伴 聡	
薬 剤 部	部	長	阿 部 正 樹	
	科	長	河 井 利 恵 子	
	科 長 補 佐		細 谷 潤	
	〃		森 田 由 香 利	
	〃		根 岸 由 美 佳	
	係	長	矢 古 宇 由 佳	副院長兼脳神経外科部長兼地域医療連携室長
医 療 技 術 部	部	長	曲 澤 聡	
リ ハ ビ リ テーション技術科	科	長	勝 山 典 年	
	科 長 補 佐		飯 塚 史 子	
	係	長	橋 場 聡 志	
放 射 線 技 術 科	科	長	磯 昌 宏	
	科 長 補 佐		林 克 政	
	〃		小 林 誠	
	〃		高 林 啓 司	
	〃		見 留 豊 久	
	〃		須 永 眞 一	
	係	長	中 村 昌 弘	
中 央 検 査 科	科	長	梶 田 幸 夫	
	科 長 補 佐		三 田 修 道	
	〃		金 井 尚 美	
	〃		鈴 木 晶 子	
	〃		田 村 典 子	
	〃		永 井 羊 子	
	〃		今 泉 智 博	
	〃		高 田 剛	

栄 養 管 理 科	科 長	小 林 誠	
臨 床 工 学 科	係 長	三 木 康 正	
看 護 部	看 護 部 長 副 看 護 部 長 〃 〃 〃	粕 川 由 貴 子 鈴 木 由 美 子 堀 越 美 智 代 井 上 由 子 関 靖 枝 上 原 美 奈 子	兼救急治療室看護師長事務取扱 兼腎センター看護師長事務取扱 兼地域医療連携室主幹兼医療相談 係長事務取扱
(救 急 治 療 室)	看 護 師 長 扱 事 務 取 扱 看 護 副 師 長 〃	井 上 由 子 朽 津 麻 美 奥 村 佳 恵 西 場 里 香 林 由 里 大川 三登利 佐 藤 祥 代 高 草 木 綾 古 澤 悟	兼副看護部長
(外 来)	看 護 師 長 看 護 副 師 長 〃	関 靖 枝 小 澤 裕 美 石 川 典 子 鈴 木 美 樹 岡 田 理 絵 子 小野里 貴 子 阿左美 まゆ美 小 林 孝 子 小 林 葉 子 小 林 千 恵 鈴 木 ひろ美 鈴 木 久 美 今 井 恵	兼腎センター看護師長
(手 術 室)	看 護 師 長 看 護 副 師 長 〃	山 口 景 子 岡 村 美 幸 野 村 美 菜 子 高 山 明 美 大 川 里 美 石 関 しのぶ 本 橋 由 香 坂 本 雅 美 桐 生 諭 子 深 井 昌 美 荒 牧 恵 子 瀬 谷 好 美 青 山 真 由 美	兼副看護部長
(腎 セ ン タ ー)	看 護 師 長 扱 事 務 取 扱		
(I C U ・ C C U)	看 護 師 長 看 護 副 師 長 〃 〃 〃		
(N I C U)	看 護 師 長 看 護 副 師 長		
(G C U)	看 護 師 長 看 護 副 師 長		
(3 階 病 棟)	看 護 師 長 看 護 副 師 長 〃		
(4 階 東 病 棟)	看 護 師 長 看 護 副 師 長		
(4 階 西 病 棟)	看 護 師 長 看 護 副 師 長 〃		
(5 階 西 病 棟)	看 護 師 長 看 護 副 師 長 〃 〃		
(6 階 東 病 棟)	看 護 師 長 看 護 副 師 長 〃 〃		

(6 階 西 病 棟)	看 護 師 長 看 護 副 師 長	秋 間 由 博 金 澤 典 子	
(7 階 東 病 棟)	看 護 師 長 看 護 副 師 長	武 田 智 子 中 野 理 恵	
(7 階 西 病 棟)	”	伊 藤 知 恵 美	
	看 護 師 長	小 倉 直 子	
	看 護 副 師 長	和 田 順 子	
	”	井 原 昌 利	
	”	伊 藤 さ や か	
(訪 問 看 護 室)	看 護 師 長	村 田 絹 代	
	看 護 副 師 長	田 中 愛	
褥 瘡 対 策 室	看 護 師 長	大 谷 内 千 恵	
医 療 安 全 対 策 室	室 長 看 護 師 長	岡 田 克 之 高 橋 紀 子	兼副院長兼皮膚科部長
感 染 対 策 室	室 長 看 護 副 師 長 ”	森 永 暢 浩 山 田 あ ゆ り 須 永 泰 明	兼副院長兼外科部長
事 務 部	事 務 長	関 口 宏	
(総 務 課)	課 長	宮 田 晋 一	兼経営政策課主幹（病院政策担当）兼医師確保対策推進担当（正）
	課 長 補 佐	石 井 理 彦	兼庶務係長
	”	剣 物 裕 司	兼人事係長兼医師確保対策推進担当（副）
(経 営 政 策 課)	主 幹（病院政策担当）	宮 田 晋 一	兼総務課長兼医師確保対策推進担当（正）
	主 幹（経営政策担当）	宇 津 野 貴	兼契約管財課長兼施設係長事務取扱
	課 長 補 佐	高 草 木 有 里 子	兼経営政策係長
(契 約 管 財 課)	課 長	宇 津 野 貴	兼経営政策課主幹（経営推進担当）兼施設係長事務取扱
	課 長 補 佐	藺 田 達 也	兼施設係長
	係 長	石 原 孝 泰	
(医 事 課)	次 長	新 井 教 弘	兼医事課長兼健診室主幹兼診療情報管理係長事務取扱
	課 長 補 佐	本 田 英 之	兼医事係長兼情報システム推進係長
(健 診 室)	室 長 部 長 主 幹	高 橋 満 弘 白 須 達 也 新 井 教 弘	兼参与兼放射線科医長 兼次長兼医事課長兼診療情報管理係長事務取扱
(地域医療連携室)	室 長 主 幹 室 長 補 佐 看 護 師 長 看 護 副 師 長	曲 澤 聡 上 原 美 奈 子 金 子 孝 進 岡 田 牧 子 荒 川 浩	兼副院長兼脳神経外科部長兼医療技術部長 兼副看護部長兼医療相談係長事務取扱 兼地域医療係長

3 職員数の推移

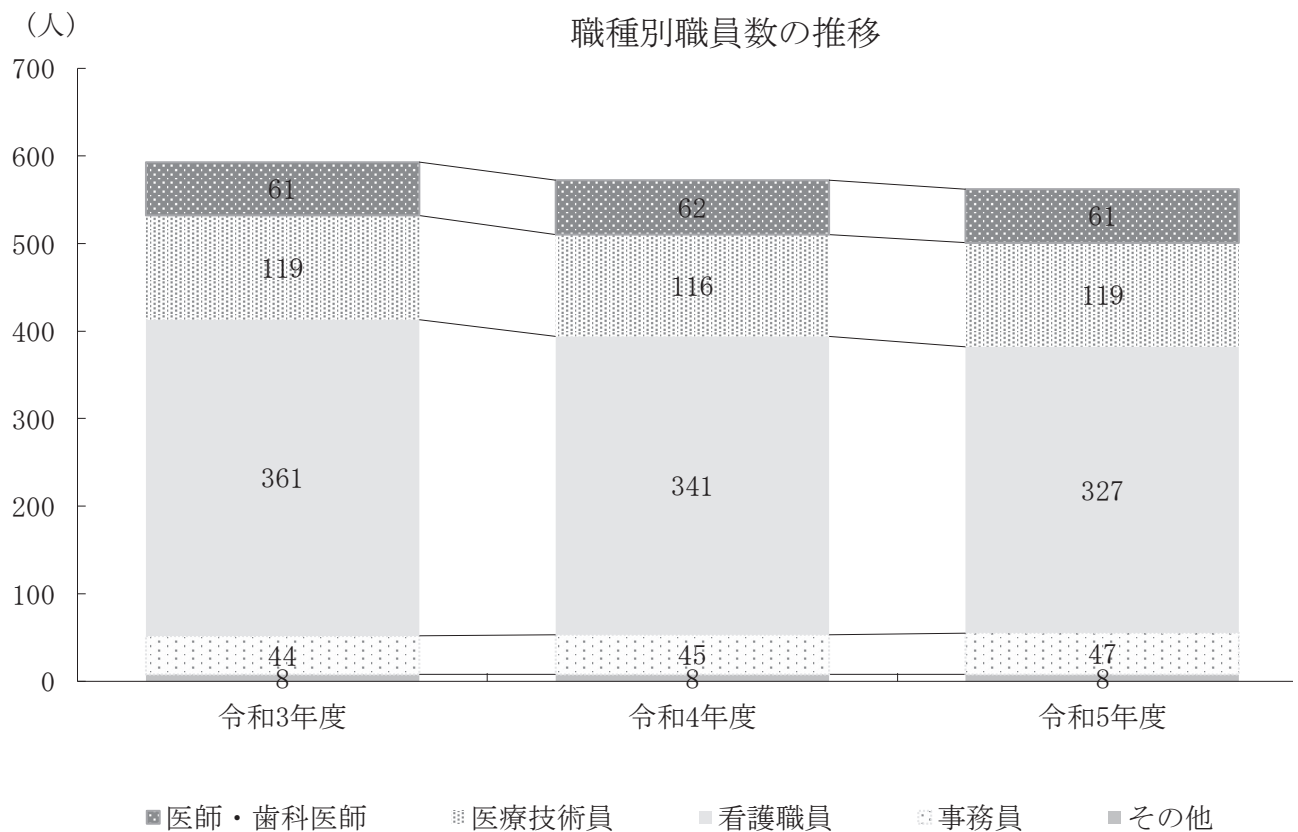
年 度 職種別			令和3年度		令和4年度		令和5年度			
			職員数		職員数		職員数		前年度比	
			常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非 常 勤
医 局	医 師		人 59	人 69	人 60	人 71	人 59	人 69	% 98.3	% 97.2
	歯 科 医 師		2	1	2		2		100.0	
	臨 床 研 修 医			9		13		14		107.7
	計		61	79	62	84	61	83	98.4	98.8
医 療 技 術 部 門	薬 剤 部	薬 剤 師	22		18		19		105.6	
		助 手		3		3		2		66.7
	栄 養 管 理 科	栄 養 士	6	1	7	1	6	1	85.7	100.0
		調 理 師（員） 事 務 員	7		7		7		100.0	
	放 射 線 技 術 科	診 療 放 射 線 技 師	20	3	20	3	21	1	105.0	33.3
		検 査 部	臨 床 検 査 技 師	27	5	27	4	28	5	103.7
	看 護 師									
	准 看 護 師									
	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 技 術 科	理 学 療 法 士	22		22		22		100.0	
		作 業 療 法 士	7		7		7		100.0	
		言 語 聴 覚 士	3		3		3		100.0	
		助 手		2		2		2		100.0
	眼 科	視 能 訓 練 士	3		3		3		100.0	
	循 環 器 内 科	臨 床 工 学 技 士								
	歯 科	歯 科 衛 生 士	3		3	1	3	1	100.0	
	臨 床 工 学 科	臨 床 工 学 技 士	6		6	1	7		116.7	
	計		126	15	123	15	126	12	102.4	80.0
事 務 部 門	事 務 長		1		1		1		100.0	
	医 師 確 保 対 策 担 当									
	総 務 課	事 務 員	7	3	8	3	10	1	125.0	33.3
		保 育 士		1		1				0.0
	経 営 政 策 課	事 務 員	5	1	4	2	3	1	75.0	
		契 約 管 財 課	事 務 員	5	1	6		6		100.0
	技 師			1		1		1		100.0
	医 事 課	事 務 員	15	11	15	9	15	9	100.0	100.0
		健 診 室	医 師				2	1		
	事 務 員		1	1	2	1	1	1	50.0	100.0
	看 護 師									
	准 看 護 師									
	地 域 医 療 室 連 携	事 務 員	6	1	6	1	6		100.0	
		看 護 師	9		8		9		112.5	
		臨 床 心 理 士	1	1	1	1	1	1	100.0	100.0
		事 務 部	事 務 員	3		2		3		150.0
	臨 床 心 理 士									
計		53	21	53	21	56	14	105.7	66.7	
看 護 部 門	助 産 師		25		23		22		95.7	
	看 護 師		323	41	306	38	292	42	95.4	110.5
	准 看 護 師		4	7	4	2	4	3	100.0	150.0
	看 護 助 手		1	2	1	1	1	4	100.0	400.0
	事 務			1		1		1		100.0
	計		353	51	334	42	319	50	95.5	119.0
合 計			593	166	572	162	562	159	98.3	98.1

注1 職員数は各年度末の人数

4 年度別職種別職員数

年 度 職種別	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
				前年度比
	人	人	人	%
医 師	61	62	61	98.4
医療技術員	119 (9)	116 (9)	119 (8)	102.6 (88.9)
看護職員	361 (48)	341 (48)	327 (46)	95.9 (95.8)
事務員	44 (20)	45 (20)	47 (14)	104.4 (70.0)
そ の 他	8 (10)	8 (10)	8 (8)	100.0 (80.0)
計	593 (87)	572 (87)	562 (76)	98.3 (87.4)

注 () 内は臨時職員の別掲



5 歴代管理者・副管理者及び院長

(1) 管理者

氏 名	就 任 期 間	備 考
森 正 雄	昭和 9年 2月11日 ～ 昭和23年12月	
前 原 一 治	昭和23年12月 ～ 昭和38年 4月29日	
荒 木 歓一郎	昭和38年 4月30日 ～ 昭和46年 5月 1日	
小 山 利 雄	昭和46年 5月 2日 ～ 昭和63年 5月 1日	
大 澤 善 隆	昭和63年 5月 2日 ～ 平成 3年 5月 1日	
日 野 茂	平成 3年 5月 2日 ～ 平成11年 5月 1日	
大 澤 善 隆	平成11年 5月 2日 ～ 平成19年 5月 1日	
亀 山 豊 文	平成19年 5月 2日 ～ 令和元年 5月 1日	
荒 木 恵 司	令和元年 5月 2日 ～ 令和 6年 3月31日	

(2) 副管理者

氏 名	就 任 期 間	備 考
石 原 条	平成18年 4月23日 ～ 平成30年 4月22日	
須 藤 昭 男	平成30年 4月23日 ～ 令和 6年 3月31日	

(3) 企業長

代	氏 名	就 任 期 間	備 考
1	加 藤 広 行	令和 6年 4月 1日 ～	

(4) 院 長

代	氏 名	就 任 期 間	担当科	備 考
1	生 駒 正 志	昭和 9年 2月11日 ～ 昭和 9年 4月28日	内科	院長心得となる (5代目同) 代理 名誉院長の称号贈呈 名誉院長の称号贈呈 名誉院長の称号贈呈 名誉院長の称号贈呈 名誉院長の称号贈呈 名誉院長の称号贈呈 名誉院長の称号贈呈 名誉院長の称号贈呈 名誉院長の称号贈呈 名誉院長の称号贈呈 名誉院長の称号贈呈 名誉院長の称号贈呈 名誉院長の称号贈呈 名誉院長の称号贈呈
2	加 藤 三九朗	昭和 9年 4月29日 ～ 昭和12年 8月15日	外科	
3	和 田 義 夫	昭和12年 8月16日 ～ 昭和13年 5月 2日	内科	
4	佐 野 武 四	昭和13年 5月12日 ～ 昭和17年 3月31日	内科	
5	八 木 忠 雄	昭和17年 4月 1日 ～ 昭和19年 3月 6日	外科	
6	竹 下 三男吉	昭和19年 3月31日 ～ 昭和19年 9月16日	内科	
7	福 田 通	昭和19年 9月30日 ～ 昭和21年 3月 5日	外科	
8	八 木 忠 雄	昭和21年 3月 6日 ～ 昭和26年 4月27日	外科	
	(小 口 武 久)	昭和26年 4月28日 ～ 昭和27年 5月26日	眼科	
9	堀 尾 茂 生	昭和27年 5月27日 ～ 昭和56年 3月31日	外科	
10	松 本 芳 郎	昭和56年 4月 1日 ～ 平成 6年 3月31日	小児科	
11	山 田 衛	平成 6年 4月 1日 ～ 平成14年 3月31日	内科	
12	河 野 徳 雄	平成14年 4月 1日 ～ 平成16年 3月31日	脳神経外科	
13	藤 岡 進	平成16年 4月 1日 ～ 平成19年 3月31日	外科	
14	丸 田 栄	平成19年 4月 1日 ～ 平成29年 3月31日	内科	
15	桑 島 信	平成29年 4月 1日 ～ 令和 2年 3月31日	小児科	
16	加 藤 広 行	令和 2年 4月 1日 ～	外科	

6 企 業 団 議 会 の 現 況

当病院の議会は、昭和26年6月8日第1回桐生市外十二箇町村医療事務組合議会として開催されました。以降、構成市町村の合併等を経て、平成18年3月27日桐生地域医療組合と名称を改め、令和5年4月1日に公営企業法の全部適用により、桐生地域医療企業団と名称を改め、第192回を数えるまでに至ります。

議員定数は13人とし、構成市である桐生市から9人、みどり市から4人の議会から選出された者により組織し、任期はそれぞれが就任した市議会議員の任期としています。

(1) 議会の開会経過

(令和6年3月31日現在)

回 数 (開会年月日)	組 合 議 会 名	議 長
第 1回 (昭和26. 6. 8) ～第 3回	桐生市外十二箇町村医療事務組合議会	森 正 雄
第 4回 (昭和27. 3. 24) ～第 12回	桐生市外十四箇町村医療事務組合議会	〃
第 13回 (昭和31. 9. 26) ～第 23回	桐生市外十箇町村医療事務組合議会	〃
第 24回 (昭和35. 3. 8) ～第 38回	桐生市外八箇町村医療事務組合議会	〃
第 40回 (昭和39. 2. 29) ～第 43回	桐生市外七箇町村医療事務組合議会	〃
第 44回 (昭和40. 9. 29) ～第 89回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	〃
第 90回 (昭和55. 10. 1) ～第 97回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	堀 越 至一郎
第 98回 (昭和58. 9. 3) ～第107回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	加 藤 隆 司
第108回 (昭和62. 9. 25) ～第111回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	笠 井 秋 夫
第112回 (平成元. 10. 31) ～第116回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	飯 田 隆 雄
第117回 (平成 3. 10. 29) ～第120回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	福 田 金次郎
第121回 (平成 5. 10. 25) ～第124回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	中 村 清
第125回 (平成 7. 7. 31) ～第129回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	佐 藤 光 好
第130回 (平成 9. 10. 28) ～第133回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	吉 野 剛 八
第134回 (平成11. 10. 28) ～第137回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	田 島 信 夫
第138回 (平成13. 10. 26) ～第141回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	高 橋 定二郎
第142回 (平成15. 6. 30) ～第146回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	森 下 清 秀
第147回 (平成17. 8. 25) ～第149回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	西 牧 秀 乗
第150回 (平成18. 7. 14) ～第152回	桐 生 地 域 医 療 組 合 議 会	〃
第153回 (平成19. 7. 13) ～第157回	桐 生 地 域 医 療 組 合 議 会	石 井 秀 子
第158回 (平成21. 7. 27) ～第162回	桐 生 地 域 医 療 組 合 議 会	河原井 始
第163回 (平成23. 7. 22) ～第167回	桐 生 地 域 医 療 組 合 議 会	周 東 照 二
第168回 (平成25. 7. 22) ～第173回	桐 生 地 域 医 療 組 合 議 会	小 滝 芳 江
第174回 (平成27. 10. 30) ～第178回	桐 生 地 域 医 療 組 合 議 会	佐 藤 幸 雄
第179回 (平成29. 10. 30) ～第191回	桐 生 地 域 医 療 組 合 議 会	河原井 始
第192回 (令和 5. 7. 28) ～	桐 生 地 域 医 療 企 業 団 議 会	北 川 久 人

※ 第39回組合議会は不詳

(2) 議会議員氏名等

(令和6年3月31日現在)

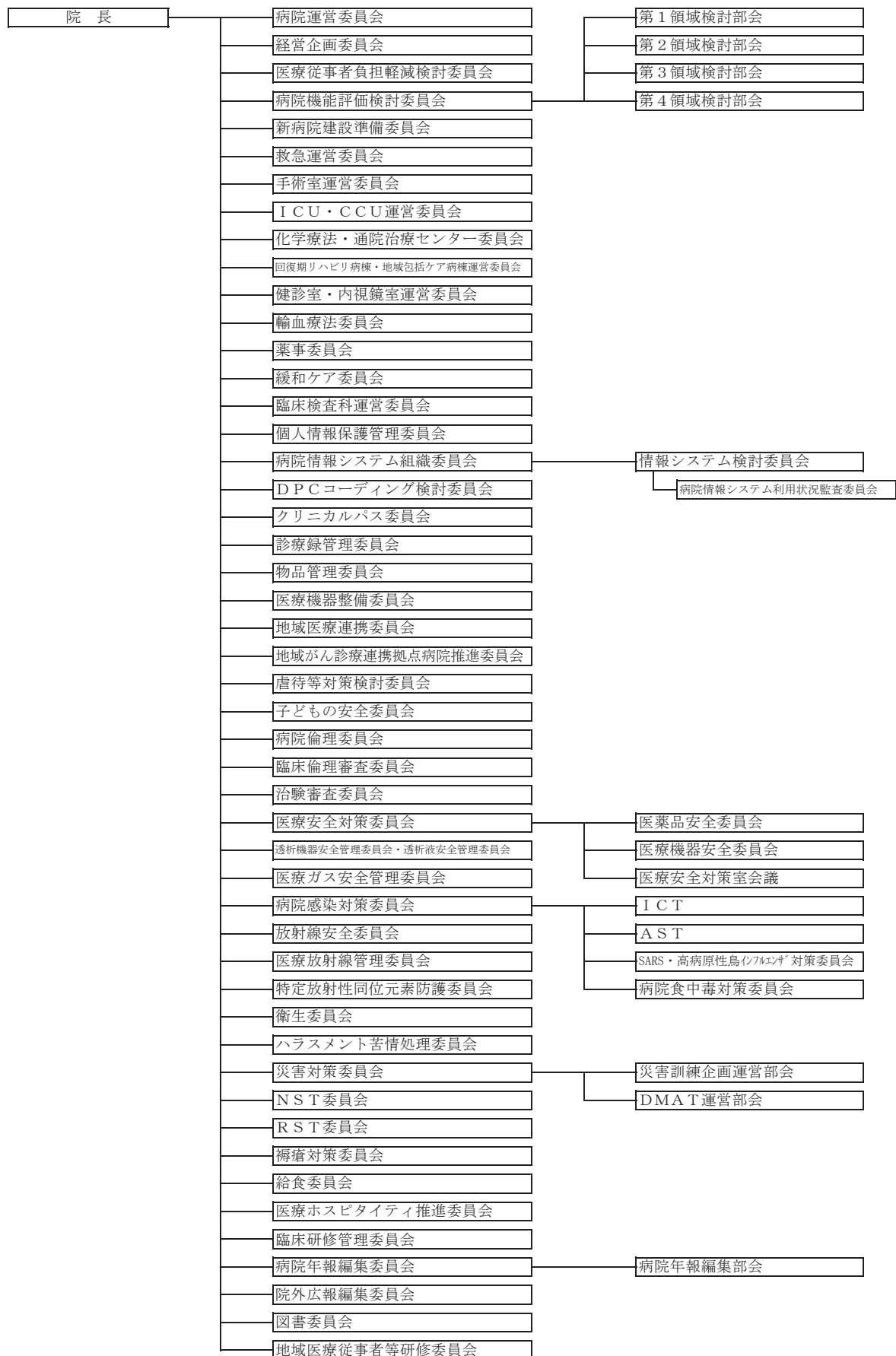
議席 番号	氏 名	役 職	選出母体	公 職 名	任 期
1	森 昭 寿	常任副委員長	桐 生 市	合資会社代表社員	令和 5. 6. 9 ～ 令和 9. 5. 1
2	渡 辺 恒		桐 生 市	市 議 会 議 員	5. 6. 9 ～ 9. 5. 1
3	柴 崎 訓 佳		みどり市	市 議 会 議 員	5. 5.15 ～ 9. 4.30
4	工 藤 英 人		桐 生 市	市 議 会 議 員	5. 6. 9 ～ 9. 5. 1
5	高草木 弘 子	常任委員長	みどり市	市 議 会 議 員	5. 5.15 ～ 9. 4.30
6	北 川 久 人		桐 生 市	市 議 会 議 員	5. 6. 9 ～ 9. 5. 1
7	菊 地 一 真		桐 生 市	桐生市医師会長	5. 6. 9 ～ 9. 5. 1
8	丹 羽 孝 志		桐 生 市	市 議 会 議 員	5. 6. 9 ～ 9. 5. 1
9	藤 生 吉 顕	常任委員	みどり市	市 議 会 議 員	5. 5.15 ～ 9. 4.30
10	岡 部 純 朗		桐 生 市	市 議 会 議 員	5. 6. 9 ～ 9. 5. 1
11	深 澤 輝 彦		みどり市	市 議 会 議 員	5. 5.15 ～ 9. 4.30
12	河原井 始		桐 生 市	市 議 会 議 員	5. 6. 9 ～ 9. 5. 1
13	星 野 浩 之	常任委員	桐 生 市	桐生市歯科医師会長	5. 6. 9 ～ 9. 5. 1

(3) 議会議決事項等

議会名	開催日時	議 案 名	結 果
第192回臨時会	R5. 7. 28	報告第2号 専決処分(桐生地域医療組合と桐生市との間における行政不服審査会事務の委託に関する規約の変更協議)の承認を求めるについて	同 日 承 認
		議案第10号 桐生地域医療企業団病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例案	同日原案可決
		議案第11号 監査委員の選任につき同意を求めることについて	同 日 同 意
第193回定例会	R5. 10. 20	報告第3号 専決処分(訴訟上の和解)の承認を求めるについて	同 日 承 認
		議案第12号 令和4年度桐生地域医療組合病院事業決算の認定について	同 日 認 定
第194回定例会	R6. 2. 22	報告第1号 専決処分(桐生地域医療企業団企業長等の給与及び旅費に関する条例の一部改正)の承認を求めるについて	同 日 承 認
		議案第1号 群馬県市町村公平委員会共同設置規約の変更に関する協議について	同日原案可決
		議案第2号 令和6年度桐生地域医療企業団病院事業会計予算	同日原案可決

Ⅲ 会 議 等

1 委員会組織図



IV 教育研修

1 病院実習

(1) 診療部実習

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
群馬大学	学外臨床実習	4人	4/17～4/28（10日）	小児科、皮膚科、泌尿器科、麻酔科
〃	学外臨床実習	4	5/15～5/26（10日）	小児科、産婦人科、皮膚科、麻酔科
〃	学外臨床実習	4	5/29～6/9（10日）	小児科、泌尿器科、皮膚科、麻酔科
〃	学外臨床実習	3	6/12～6/23（10日）	小児科、整形外科、産婦人科
〃	学外臨床実習	2	6/26～7/7（10日）	泌尿器科、麻酔科
〃	学外臨床実習	3	1/22～2/2（10日）	皮膚科、産婦人科、麻酔科
〃	学外臨床実習	2	2/5～2/16（9日）	産婦人科、皮膚科
〃	学外臨床実習	3	2/19～3/1（9日）	内科（消化器）、産婦人科、麻酔科
〃	学外臨床実習	2	3/4～3/15（10日）	小児科、脳神経外科
東邦大学	病院見学	1	4/11（1日）	内科（消化器）
岩手医科大学	病院見学	1	5/8（1日）	内科（呼吸器）
昭和大学	病院見学	1	5/23（1日）	小児科
群馬大学	病院見学	1	6/12（1日）	内科（呼吸器）
帝京大学	病院見学	1	6/28（1日）	小児科
弘前大学	病院見学	1	6/30（1日）	小児科
千葉大学	病院見学	1	7/10（1日）	小児科
群馬大学	病院見学	1	7/11（1日）	内科（消化器）
新潟大学	病院見学	1	7/13（1日）	小児科
群馬大学	病院見学	2	7/19（1日）	内科（消化器）、産婦人科
群馬大学（既卒）	病院見学	1	7/25（1日）	内科（消化器）
秋田大学	病院見学	1	7/27（1日）	外科
東邦大学	病院見学	1	8/7（1日）	内科（呼吸器）
群馬大学	病院見学	1	11/21（1日）	整形外科
群馬大学	病院見学	2	11/24（1日）	小児科

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
国際医療福祉大学	病院見学	1人	2/13（1日）	外科
東京医科大学	病院見学	1	2/16（1日）	小児科
岩手医科大学	病院見学	1	3/25（1日）	小児科
愛媛大学	病院見学	1	3/25～3/26（2日）	内科（消化器）

（２）診療部実習：群馬大学医学部附属病院 群馬県地域医療支援センター

学 校 名	実 習 内 容	人数	期 間	実 習 場 所
前橋高等学校 太田女子高等学校 前橋女子高等学校 東京農業大学第二高等学校	医学部医学科をめざす 高校生の職場体験セミナー 2023春	5人	3/28（1日）	講堂、手術室、中央検査科
前橋女子高等学校 中央中等教育学校 樹徳高等学校 桐生第一高等学校	医学部医学科をめざす 高校生の職場体験セミナー 2023夏	5	8/3（1日）	講堂、手術室、中央検査科
群馬大学	医学生のための地域医療体験 セミナー	3	9/8（1日）	講堂、新生児センター

看護部実習

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
桐生大学 医療保健学部 看護学科	早期体験合同実習	17人	6/5～6/9	6東/6西/4東
	基礎看護学実習Ⅰ	46	1/22～2/16	6東/6西/5西/4東
	基礎看護学実習Ⅱ	12	11/13～11/17	6西/4東
	急性期看護学実習	29	5/23～10/20	5西
	慢性期看護学実習	37	4/18～11/2	7東/7西
	高齢期看護学実習	21	4/18～10/6	4東/6東
	小児看護学実習	34	4/8～7/7	3階
	母性看護学実習		9/5～9/28	実習中止
	看護セミナー	10	8/21～9/8	4東/5西
桐生大学別科 助産専攻	分娩介助実習	2	10/2～12/29	4西
	NICU実習	18	8/29～12/6	NICU
群馬パース大学	小児看護学実習	33	10/2～11/29	NICU
桐生高等 看護学院	基礎看護Ⅰ	30	11/6～11/10	7東/7西/6東/6西/5西/4東
	基礎看護Ⅱ	18	12/5～12/15	7東/7西/6東/5西
	領域別実習	114	4/10～9/8	7東/7西/6東/6西/5西/4東/4西/3階/NICU
	統合実習	20	10/10～10/20	7東/7西/6東/6西
館林高等 看護学院	母性看護学実習	6	7/3～8/31	4西
	小児看護学実習		7/4～7/20	実習中止
太田医療技術 看護専門学校	成人看護学実習Ⅰ	9	1/29～2/9	7東/7西
	成人看護学実習Ⅱ	15	1/9～1/19	7西/5西/4東
	成人看護学実習Ⅲ		9/5～2/10	実習中止
	小児看護学実習	17	9/25～11/9	3階/N I C U
	母性看護学実習	25	5/1～2/29	4西
	老年看護学実習Ⅱ	9	5/22～1/19	4東
深谷大里 看護専門学校	母性看護学実習	40	4/11～3/2	4西/外来
桐生准看護学校	基礎実習	27	11/21～3/23	各外来
	臨地実習	26	4/13～11/4	7東/7西/6東/5西/4東/4西/3階/NICU

薬剤部6年制実務実習

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
昭和薬科大学 新潟薬科大学	調剤・製剤・TPN調整 医薬品情報・医薬品管理 病棟業務・化学療法・治験	人	8/21～11/3	薬剤部・病棟
		1		
		1		
高崎健康福祉大学	〃	2	11/20～2/9	〃

リハビリテーション技術科実習

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
前橋医療福祉専門学校	臨床実習（P T）	1人	6/12～7/31	リハビリテーション室
群馬医療福祉大学	臨床実習（P T）	1	7/18～9/1	〃
太田医療技術専門学校	評価実習（O T）	1	10/23～11/25	〃

放射線技術科実習

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
群馬パース大学	臨床実習	4人	5/8～6/9	放射線技術科・他
群馬県民健康科学大学	保健医療チーム連携	5	7/20～7/25	放射線技術科
群馬パース大学	臨床実習（導入実習）	8	9/4～9/15	〃
つくば国際大学	〃	1	2/13～3/5	〃

中央検査科実習

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
群馬パース大学	臨床検査臨地実習	4人	5/15～7/7	中央検査部・他
深谷赤十字病院	認定輸血検査技師研修	1	5/10～5/31	〃

栄養管理科

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
高崎健康福祉大学	管理栄養士課程履修の 病院臨地実習	4人	5/29～6/9	栄養管理科
晃陽看護栄養専門学校	〃	1	7/24～8/10	〃
共愛学園前橋国際大学	〃	1	9/4～9/14	〃
桐生大学	〃	4	2/13～2/26	〃
東洋大学	〃	4	3/4～3/15	〃

2 医師臨床研修制度

平成 16 年 4 月、厚生労働省は新医師臨床研修制度を導入し、医師が将来専門とする分野に関らず基本的な診療能力を身につけることができるよう必修化しました。当院においては、すでに平成 14 年臨床研修指定病院に認定されておりましたが、新制度になり改めて平成 16 年 4 月に厚生労働省より臨床研修指定病院として認定を受けております。

診療に従事しようとする医師は2年以上臨床研修を受けなければならないとされ、人格の涵養と、基本的な診療能力の修得を基本理念に医学全般の広い知識をもった医師を養成することを目的としました。新制度導入後 5 年を経過した平成 21 年、プログラムの見直しが行われ厚生労働省の省令改正を受け平成 22 年度研修プログラムを変更しました。また、令和 2 年度、新たにプログラムの見直しが行われ、大幅にプログラムを変更しました。

(1) 臨床研修の概要

■研修期間割（標準）

区 分	6 ヲ月		2 ヲ月	1 ヲ月	2 ヲ月	1 ヲ月
1 年 目	内科		救急	麻酔	外科	小児
	救 急 医 療					

区 分	1 ヲ月	1 ヲ月	1 ヲ月	9 ヲ月		
2 年 目	地域	産婦	精神	選択		
	救 急 医 療					

- ＜必修＞
- ・内科研修 6 ヶ月
 - ・救急部門研修 3 ヶ月は救急部門と麻酔科において行い、2 年間を通じ、時間外・休日・夜間は地域において日常よく遭遇する様々な症例について副当直として関わり、指導医とともに救急医療も行う。
 - ・地域医療研修 1 ヶ月は、あい太田クリニック、原町赤十字病院、沼田病院の協力を得て行う。
 - ・外科 2 ヶ月、小児科 1 ヶ月、産婦人科 1 ヶ月、精神科 1 ヶ月
 - ・精神科研修については県立精神医療センター、岸病院にて実施。
- ＜選択＞
- ・研修医の希望を考慮し、9 ヶ月を分割し複数科の研修が可能。
 - ・地域保健研修は、桐生保健所で行う。
 - ・群馬大学医学部附属病院、筑波大学附属病院、県立心臓血管センター、恵愛堂病院、東邦病院の研修も可能。
- ＜院外研修＞
- ・当院以外での研修期間は 2 年間で 4 ヶ月までとする。

■研修協力

当院は、自ら「基幹型臨床研修病院」として医師の初期研修に携わるほか、「協力型臨床研修病院」として群馬大学医学部附属病院、筑波大学附属病院や館林厚生病院に所属する研修医の初期研修も受入れております。

■臨床研修医受け入れ状況

氏 名	年次	期 間	在 籍	修了者	備 考
松 浦 優 佑	1	R5. 4. 1 ～R7. 3. 31 (2 年)	当 院		
猿 渡 広 輝	1	R5. 4. 1 ～R7. 3. 31 (2 年)	当 院		
中 村 香 織	1	R5. 4. 1 ～R7. 3. 31 (2 年)	当 院		
吉 田 昌 平	1	R5. 4. 1 ～R7. 3. 31 (2 年)	当 院		
高 田 良	1	R5. 4. 1 ～R7. 3. 31 (2 年)	当 院		
森 田 美 保	1	R5. 4. 1 ～R7. 3. 31 (2 年)	当 院		
牧 千 博	1	R5. 4. 1 ～R7. 3. 31 (2 年)	当 院		
吉 山 敦	2	R4. 4. 1 ～R6. 3. 31 (2 年)	当 院	○	
狩 野 稔 也	2	R4. 4. 1 ～R6. 3. 31 (2 年)	当 院	○	
清 水 大 輔	2	R4. 4. 1 ～R6. 3. 31 (2 年)	当 院	○	
森 田 大 貴	2	R4. 4. 1 ～R6. 3. 31 (2 年)	当 院	○	
井 田 真 悟	2	R4. 4. 1 ～R6. 3. 31 (2 年)	当 院	○	
岩 下 拓 也	2	R4. 4. 1 ～R6. 3. 31 (2 年)	当 院	○	
高 瀬 開 斗	2	R5. 5. 1 ～R6. 3. 31 (11 ヶ月)	群 大	○	
小 川 真由子	1	R5. 7. 1 ～R5. 7. 31 (1 ヶ月) R5. 12. 1～R5. 12. 31 (1 ヶ月)	館 林		

■臨床研修勉強会

病院全体で行うC P Cや集談会、各診療科で行われるカンファレンス等のほか、毎週水曜日に各科指導医による救急医療に関するテーマを中心にした勉強会（約 45 回/年）を実施。

勉強会では研修医による症例報告も行われています。

また、外部講師による感染症診療講座を年 5 回行っています。

対象を研修医のみに限定せず、他の医師や病院見学・実習中の医学生も参加しております。

(2) 研修医対象 救急に関する勉強会及び研修医症例報告

日 付	名 称	担 当 者
5/24	診療録の記載の仕方	稲 川 茂
5/31	小児科救急〈小児のRed flag〉	大 木 康 史
6/7	気管挿管のテクニック	佐 藤 淳
6/14	脳梗塞の治療	橋 場 康 弘
6/21	眼科救急疾患	丸 山 泰 弘
6/28	N S Tについて	飯 田 智 広
7/5	産婦人科領域の救急疾患	鏡 一 成
7/12	Risk Management	高 橋 紀 子
7/19	〔研修医症例発表〕 マムシ咬傷の1例	松 浦 優 佑 清 水 大 輔
7/26	C Vカテーテルの留置	木 村 明 春
8/2	上肢の外傷	工 藤 千 佳
8/9	〔研修医症例発表〕 インフルエンザA型・細菌性肺炎を合併した小児気管支喘息の一例	森 田 美 保 井 田 真 悟
8/16	〔研修医症例発表〕 間質性肺炎精査中にRamsay Hunt症候群を発症した1例	岩 下 拓 也 中 村 香 織
8/23	〔研修医症例発表〕 腸管感染症の治療サルモネラ腸炎の症例	猿 渡 広 輝 高 瀬 開 斗
8/30	四肢外傷の応急処置（下肢）	斯 波 俊 祐
9/6	救急外来でよく遭遇する皮膚科疾患	岡 田 克 之
9/13	歯科口腔外科領域の救急疾患	今 井 正 之
9/20	泌尿器科的救急疾患	林 拓 磨
9/27	〔研修医症例発表〕 気道閉塞と無気肺を呈した小細胞性肺癌の一例	高 田 良 狩 野 稔 也
10/4	消化管出血について	飯 田 智 広
10/11	〔研修医症例発表〕 単純ヘルペスウイルス感染から急性肝障害を呈した一例	牧 千 博 吉 山 敦
10/25	小児の重症度判定	大 木 康 史
11/1	創処置（縫合）	木 村 明 春
11/8	急性腹症	森 永 暢 浩
11/15	救急外来で遭遇する呼吸器疾患の診断と治療	小 野 昭 浩
11/22	血液浄化療法	岡 本 亘 平
11/30	心房細動	桑 原 渉
12/6	妊娠時の薬の使い方	鏡 一 成
12/13	熱傷の治療	岡 田 克 之
12/20	肝性脳症について	福 地 達

名 称	担 当 者	実施回数
研修医 感染症診療講座（年5回）	吉村 章（外部講師）	5回

V 経 営 状 況

1 比較損益計算書

年 度 科 目		令和3年度	令和4年度	令 和 5 年 度		
		金 額	金 額	金 額	前年比	対医業 収益比
収 益	千円	千円	千円	千円	%	%
	医 業 収 益	9,124,201	9,119,917	8,863,644	97.2	100.0
	入 院 収 益	6,046,278	6,064,855	5,957,770	98.2	67.2
	外 来 収 益	2,821,722	2,798,847	2,650,520	94.7	29.9
	そ の 他 医 業 収 益	256,201	256,215	255,354	99.7	2.9
	医 業 外 収 益	2,305,098	2,099,221	1,306,609	62.2	14.7
	受 取 利 息 及 び 配 当 金	18	50	58	116.0	0.0
	構 成 団 体 負 担 金 補 助 金	806,423	822,320	739,784	90.0	8.3
	補 助 金	1,222,037	997,487	220,058	22.1	2.5
	負 担 金 交 付 金	0	0	0	-	-
費 用	長 期 前 受 金 戻 入	234,449	242,447	309,640	127.7	3.5
	そ の 他 医 業 外 収 益	42,171	36,917	37,069	100.4	0.4
	特 別 利 益	43,954	2,179,000	68,355	3.1	0.8
	収 益 合 計	11,473,253	13,398,138	10,238,608	76.4	115.5
	医 業 費 用	10,118,053	9,838,424	9,900,348	100.6	111.7
	給 与 費	5,873,838	5,473,845	5,499,123	100.5	62.0
	材 料 費	2,242,972	2,228,389	2,277,436	102.2	25.7
	経 費	1,474,167	1,522,359	1,523,987	100.1	17.2
	減 価 償 却 費	458,139	586,373	567,534	96.8	6.4
	資 産 減 耗 費	51,294	6,044	3,020	50.0	0.0
用	研 究 研 修 費	17,643	21,414	29,248	136.6	0.3
	医 業 外 費 用	457,990	387,632	391,728	101.1	4.4
	支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費	750	807	944	117.0	0.0
	繰 延 勘 定 償 却	0	0	0	-	-
	雑 損 失	457,240	386,825	390,784	101.0	4.4
	特 別 損 失	0	2,903,813	0	皆減	-
	費 用 合 計	10,576,043	13,129,869	10,292,076	78.4	116.1
	純 損 益	897,210	268,269	△ 53,468	△19.9	-

2 比較貸借対照表

年 度 科 目		令和3年度	令和4年度	令 和 5 年 度		
		金 額	金 額	金 額	前年比	構成比
資 産		千円	千円	千円	%	%
	固 定 資 産	5,787,818	5,416,630	5,064,930	93.5	40.8
	有 形 固 定 資 産	5,785,710	5,414,522	5,062,822	93.5	40.8
	土 地	287,003	287,003	287,003	100.0	2.3
	償 却 資 産	18,315,904	18,444,447	18,641,145	101.1	150.3
	減価償却累計額(△)	12,817,197	13,316,928	13,865,326	104.1	111.8
	建 設 仮 勘 定	0	0	0	-	-
	無 形 固 定 資 産	2,108	2,108	2,108	100.0	0.0
	投 資	0	0	0	-	-
	流 動 資 産	5,286,657	7,660,530	7,334,235	95.7	59.2
	現 金 及 び 預 金	3,297,775	5,542,175	5,700,116	102.8	46.0
	未 収 金	1,979,059	2,118,003	1,646,375	77.7	13.3
	貸倒引当金(未収△)	31,441	34,812	53,329	153.2	0.4
	貯 蔵 品	38,136	31,948	37,678	117.9	0.3
	前 払 費 用	1,128	1,216	1,395	114.7	0.0
	そ の 他 流 動 資 産	2,000	2,000	2,000	100.0	0.0
産	繰 延 勘 定	0	0	0	-	-
	控 除 対 象 外 消 費 税	0	0	0	-	-
資 産 合 計		11,074,475	13,077,160	12,399,165	94.8	100.0
負 債	固 定 負 債	1,871,831	4,227,040	3,812,494	90.2	30.7
	企 業 債	1,871,831	1,482,908	1,211,357	81.7	9.8
	リ ー ス 債	0	0	0	-	-
	引 当 金	0	2,744,132	2,601,137	-	21.0
	流 動 負 債	2,482,694	1,872,100	1,737,928	92.8	14.0
	企 業 債	370,183	531,923	494,551	93.0	4.0
	リ ー ス 債	0	0	0	-	-
	未 払 金	1,715,249	938,164	868,234	92.5	7.0
	引 当 金	350,659	354,969	364,967	102.8	2.9
	前 受 金	0	0	0	-	-
	そ の 他 流 動 負 債	46,603	47,044	10,176	21.6	0.1
	繰 延 収 益	1,595,847	1,585,648	1,509,839	95.2	12.2
	長 期 前 受 金	7,070,512	7,339,689	7,636,159	104.0	61.6
	長期前受金収益化累計額	△5,474,665	△ 5,754,041	△ 6,126,320	106.5	△49.4
資 本	資 本 金	7,196,376	7,196,376	7,196,376	100.0	58.0
	資 本 金	7,196,376	7,196,376	7,196,376	100.0	58.0
	借 入 資 本 金	0	0	0	-	-
	剰 余 金	△2,072,273	△ 1,804,004	△ 1,857,472	103.0	△15.0
	資 本 剰 余 金	3,400	3,400	3,400	100.0	0.0
本	利 益 剰 余 金	△2,075,673	△ 1,807,404	△ 1,860,872	103.0	△15.0
	負 債 ・ 資 本 合 計	11,074,475	13,077,160	12,399,165	94.8	100.0

※ 平成26年度から新たな地方公営企業会計制度を適用しています。

Ⅵ 重要な成果

1 桐生地域医療企業団への移行

令和 5 年 4 月 1 日付けで桐生地域医療組合は地方公営企業法の全部適用を採用し、「桐生地域医療企業団」として新たなスタートを致しました。

従来、当院の母体である桐生地域医療組合は、桐生市長・みどり市長がそれぞれ管理者、副管理者として病院の運営管理を実施する経営形態でしたが、今後は開設者（桐生市長・みどり市長）が任命した企業長（企業団の管理者）が管理する形態（地方公営企業法・全部適用）に変更となりました。

病院事業内容に関しては、桐生市みどり市で構成される 2 次保健医療圏の公立病院であることに変わりはなく、診療体制や治療内容に関しても変わりはありません。これからも、「信頼され、心が通う地域医療」を提供できるよう、職員一同努力してまいります。

2 訪問看護室設置

令和 5 年 4 月 1 日、住み慣れた家で、自分らしく過ごしていただくために訪問看護室を開設いたしました。当院の主治医から指示を受けて、ご自宅を訪問し、病気や障害等を抱える方々に安心安全に居宅での療養生活が送れるように支援をしております。対象は、当院を退院後の患者さんや外来通院中の患者さんです。主なサービス内容は、患者さんの病状、心身の状態の観察、主治医の指示により、点滴、カテーテル管理、服薬の相談や指導、保清、食事や排せつなどの療養上のケア、在宅酸素など医療機器の管理、褥瘡予防や処置、看護師によるリハビリテーション、終末期の患者さんのケア、家族等への介護支援などを行っております。令和 6 年度の延べ訪問件数は 355 件でした。今後も地域医療に貢献できるように努力してまいります。

3 ヘルニアセンター開設

令和 5 年 6 月よりヘルニアセンターを開設しました。木村明春外科診療部長がセンター長を務めております。成人の腹部ヘルニア（単径ヘルニア、大腿ヘルニア、閉鎖孔ヘルニア、腹壁癒痕ヘルニアなど）の診療を専門に行っています。毎週月曜日午後、火曜日午後にヘルニア外来を開設しております。

ヘルニアセンター開設に伴いヘルニア手術件数は増加しており、令和 5 年度の単径ヘルニア手術は 112 件（令和 4 年度 78 件）、うち腹腔鏡下ヘルニア修復術は 65 件（令和 4 年度 36 件）でありました。個々の症例に応じて最適な治療を行えるよう外来受診から入院・手術、術後までのさらなる診療の充実を図ってまいります。

4 内科新患外来完全予約制の導入

今まで当院の内科新患外来は、地域の諸先生方からの紹介患者様や紹介状をお持ちでない当日受診希望の患者様にも対応してまいりました。しかし、ご紹介頂き予約時間に来院された患者様や緊急性の高い患者様をお待たせする状況となっていました。そこで、新患外来の待ち時間を少しでも改善し、より専門性の高い医療を提供するために、令和5年4月から内科新患外来完全予約制を導入しました。導入に関しては、地域の諸先生方に医師会や個別訪問でご説明させていただき、ご理解をいただきました。また、曜日ごとに専門科を明記し、症状等により適切な曜日に予約をとることで、初診から専門性の高い診療が行えるようになりました。

5 二次性骨折予防への取り組み

令和3年10月に躯幹 dual-energy X-ray absorptiometry (DXA) が導入され、いままで測定していた前腕 DXA と比べより精度の高い骨密度を測定することが可能となりました。

令和4年度の診療報酬改定では大腿骨近位部骨折患者における二次性骨折予防が評価され、当院でも同年6月より「二次性骨折予防継続管理料 1」の算定を開始しました。令和5年4月には Fracture Liaison Service (FLS) 委員会を発足し、チームで大腿骨近位部骨折患者に対して二次性骨折予防に取り組んでいます。

診療報酬算定数について、令和4年度は16件であったのに対し、令和5年度は66件と増加となりました。また診療報酬算定数だけでなく、大腿骨近位部骨折患者において術後骨粗鬆症治療開始率について、令和3年度は16%であったのに対し、令和5年度は65%と FLS 委員会の発足が治療開始率の上昇にも貢献しています。

令和6年度4月より大腿骨近位部骨折術後の患者を含む骨粗鬆症患者を対象とした FLS 外来を開設し、地域に貢献できる骨粗鬆症治療を進めていきたいと考えています。

6 健診室の移転

人生100年時代と言われている現代において、人々の健康に関する意識は急速に高まりつつあります。そのような中、定期的な健康診断や人間ドックによる健康管理はこれまで以上に重要になっております。

当院健診においても利用者増加に伴い、健診室が手狭となったことにより、院内で検討を重ねてまいりました結果、令和5年9月から健診室を外来棟2階から当院8階に移転する運びとなりました。今回の移転に伴い、当院最上階で眺望が良いフロアを利活用して、診察スペースや待合室スペースを拡張し、個別のロッカーも設置して受診者さんが快適に受診していただけるようにいたしました。また、受診者さんをスムーズにご案内できるよう導線にも細心の注意を払い移転する運びとなりました。

今後も受診者の皆さんに満足していただける、より優れた健診施設を目指していきます。

7 病院機能評価（Ver2.0）の更新認定

（1）概要

①認定者：公益財団法人 日本医療機能評価機構

②認定期間：2022年11月18日～

2027年11月17日（5年間）

③機能種別版評価項目 3rdG：Ver 2.0

（一般病床 200 床から 499 床の病院）

④主たる機能：一般病院 2（主として、二次医療圏等の比較的広い地域において急性期医療を中心に地域医療を支える基幹的病院）



令和 5 年 9 月 1 日付けで、公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価「審査体制区分 3（一般病院 2<3rdG：Ver. 2.0>）」の認定を受けました。これで、平成 14 年に初回認定、平成 19 年、24 年、29 年の更新に続き、5 回目の認定となりました。

病院機能評価は、日本医療機能評価機構が病院を対象に、組織全体の運営管理および提供される医療について、中立的、科学的・専門的な見地から評価を行うもので、全国 8,182 病院中、2015 病院が認定を受けています。（令和 5 年 2 月時点）評価対象領域は、大きくは 4 つに分かれており、病院の基本的な姿勢（第 1 領域）が現場（第 2 領域・第 3 領域）に浸透しているか、また、現場での実践状況をもとに病院の基本的な姿勢の見直しの方が持たれているか、そして病院組織の運営・管理状況（第 4 領域）がそれらを支えるものとなっているか検討をしているかを評価されます。

事前の書類審査に加え、訪問審査においては、評価調査者 6 名（診療 2 名、看護 2 名、事務 2 名）による、書類確認、面接調査（1・4 領域）、ケアプロセス調査（4 病棟）、部署訪問などの本審査を受審した結果、評価機構の定める一定の認定基準以上であるとの評価が認められました。

（2）その他

認定証を「正面玄関」や「1 階東出入口付近」に掲示するほか、公益財団法人日本医療機能評価機構で公開している評価結果を当院ホームページからも閲覧できるようにしております。

VII 業務概要

1 診療圏患者受診状況

市町村名	令和3年度				令和4年度			
	入院	外来	合計	構成比	入院	外来	合計	構成比
	人	人	人	%	人	人	人	%
桐生市	74,869	107,134	182,003	65.8	74,738	105,897	180,635	66.0
(旧桐生市)	68,519	96,547	165,066	59.7	69,109	95,019	164,128	60.0
(旧黒保根村)	862	1,697	2,559	0.9	911	1,549	2,460	0.9
(旧新里村)	5,488	8,890	14,378	5.2	4,718	9,329	14,047	5.1
みどり市	20,181	34,183	54,364	19.7	20,346	33,553	53,899	19.7
(旧大間々町)	9,008	13,885	22,893	8.3	7,906	12,862	20,768	7.6
(旧勢多東村)	923	1,739	2,662	1.0	1,212	1,772	2,984	1.1
(旧笠懸町)	10,250	18,559	28,809	10.4	11,228	18,919	30,147	11.0
太田市 (旧藪塚本町)	3,787	6,511	10,298	3.7	3,745	6,573	10,318	3.8
小計	98,837	147,828	246,665	89.2	98,829	146,023	244,852	89.5
県内	11,002	9,932	20,934	7.6	9,422	9,982	19,404	7.1
県外	4,056	4,841	8,897	3.2	4,326	5,102	9,428	3.4
小計	15,058	14,773	29,831	10.8	13,748	15,084	28,832	10.5
合計	113,895	162,601	276,496	100.0	112,577	161,107	273,684	100.0

市町村名	令和5年度				前年度比			
	入院	外来	合計	構成比	入院	外来	合計	構成比
	人	人	人	%	人	人	人	%
桐生市	76,213	96,923	173,136	66.2	102.0	91.5	95.8	100.4
(旧桐生市)	69,423	87,699	157,122	60.1	100.5	92.3	95.7	100.2
(旧黒保根村)	1,106	1,207	2,313	0.9	121.4	77.9	94.0	98.3
(旧新里村)	5,684	8,017	13,701	5.2	120.5	85.9	97.5	102.8
みどり市	20,997	31,268	52,265	20.0	103.2	93.2	97.0	101.5
(旧大間々町)	9,337	12,083	21,420	8.2	118.1	93.9	103.1	107.8
(旧勢多東村)	1,318	1,576	2,894	1.1	108.7	88.9	97.0	100.7
(旧笠懸町)	10,342	17,609	27,951	10.7	92.1	93.1	92.7	97.2
太田市 (旧藪塚本町)	3,124	5,786	8,910	3.4	83.4	88.0	86.4	89.7
小計	100,334	133,977	234,311	89.7	101.5	91.8	95.7	100.2
県内	9,463	9,762	19,225	7.4	100.4	97.8	99.1	103.6
県外	3,568	4,238	7,806	3.0	82.5	83.1	82.8	87.8
小計	13,031	14,000	27,031	10.3	94.8	92.8	93.8	98.5
合計	113,365	147,977	261,342	100.0	100.7	91.9	95.5	100.0

※入院欄患者内訳（在院患者延数＋退院患者数） ※人間ドックは除く

2 入院・外来患者状況

(入院)

項目 \ 年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
一般病床数	417床	417床	417床	100.0 %
新入院患者数	7,602人	6,720人	6,834人	101.7 %
退院患者数	7,602人	6,711人	6,875人	102.4 %
延在院患者数	106,293人	105,866人	106,490人	100.6 %
一日平均患者数	291人	290人	291人	100.3 %
平均在院日数	13.9日	15.7日	15.5日	98.7 %
病床利用率	69.8 %	69.6 %	69.8 %	100.3 %
病床回転率	26.3回	23.2回	23.5回	101.3 %

※人間ドックを除く

(外来)

項目 \ 年度		令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
延 外 来 患 者 数		162,601人	161,107人	147,977人	91.9 %
一 日 平 均 患 者 数		672人	663人	609人	91.9 %
新 来 患 者 数		15,465人	15,162人	13,747人	90.7 %
再 来 患 者 数		147,136人	145,945人	134,230人	92.0 %
一 日 外 来 患 者 数	最 高	863人	817人	815人	99.8 %
	最 低	447人	445人	376人	84.5 %
新 来 比		9.5 %	9.4 %	9.3 %	98.7 %
外 来 ・ 入 院 比		153.0 %	152.2 %	139.0 %	91.3 %

※女性外来を除く

3 科別入院患者数

科 別	令和3年度		令和4年度		令和5年度		前年度比較	
	患者数	1日 平均	患者数	1日 平均	患者数	1日 平均	比率	1日平均 人数比較
内 科	人 35,582	人 97.5	人 37,582	人 103.0	人 40,485	人 110.6	% 107.7	人 7.6
精 神 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	－	－
神 経 内 科	679	1.9	605	1.7	911	2.5	150.6	0.8
循 環 器 内 科	2,051	5.6	1,929	5.3	1,621	4.4	84.0	△0.9
小 児 科	6,580	18.0	5,491	15.0	5,946	16.2	108.3	1.2
外 科	13,774	37.7	13,554	37.1	11,142	30.4	82.2	△6.7
血 管 外 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	－	－
整 形 外 科	16,248	44.5	17,770	48.7	16,075	43.9	90.5	△4.8
脳 神 経 外 科	10,024	27.5	10,063	27.6	12,934	35.3	128.5	7.7
呼 吸 器 外 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	－	－
心 臓 血 管 外 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	－	－
乳 腺 外 科	－	－	728	2.0	943	2.6	129.5	2.0
皮 膚 科	1,670	4.6	949	2.6	999	2.7	105.3	0.1
泌 尿 器 科	6,470	17.7	5,101	14.0	4,659	12.7	91.3	△1.3
産 婦 人 科	5,479	15.0	5,113	14.0	5,157	14.1	100.9	0.1
眼 科	510	1.4	475	1.3	445	1.2	93.7	△0.1
耳 鼻 い ん こ う 科	112	0.3	385	1.1	254	0.7	66.0	△0.4
麻 酔 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	－	－
リハビリテーション科	6,051	16.6	4,884	13.4	3,918	10.7	80.2	△2.7
放 射 線 科	6	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
救 急 科	627	1.7	780	2.1	386	1.1	49.5	△1.0
緩 和 内 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	－	－
歯 科	430	1.2	457	1.3	615	1.7	134.6	0.4
合 計	106,293	291.2	105,866	290.2	106,490	290.8	100.6	0.6

4 科別外来患者数

科 別	令和3年度		令和4年度		令和5年度		前年度比較	
	患者数	1日平均	患者数	1日平均	患者数	1日平均	患者数比率	1日平均人数比較
内 科	人 33,596	人 138.8	人 32,454	人 133.6	人 30,335	人 124.8	% 93.5	人 △8.8
精 神 科	341	1.4	351	1.4	334	1.4	95.2	0.0
神 経 内 科	4,717	19.5	4,929	20.3	4,757	19.6	96.5	△0.7
循 環 器 内 科	5,020	20.7	4,635	19.1	4,416	18.2	95.3	△0.9
小 児 科	9,899	40.9	10,040	41.3	8,680	35.7	86.5	△5.6
外 科	10,134	41.9	7,597	31.3	6,540	26.9	86.1	△4.4
血 管 外 科	209	0.9	250	1.0	247	1.0	98.8	0.0
整 形 外 科	15,680	64.8	15,381	63.3	14,978	61.6	97.4	△1.7
脳 神 経 外 科	6,171	25.5	6,156	25.3	5,829	24.0	94.7	△1.3
呼 吸 器 外 科	625	2.6	653	2.7	540	2.2	82.7	△0.5
心 臓 血 管 外 科	-	-	-	-	-	-	-	-
乳 腺 外 科	-	-	3,369	14	3,195	13.1	94.8	13.9
皮 膚 科	11,099	45.9	11,193	46.1	10,325	42.5	92.2	△3.6
泌 尿 器 科	19,535	80.7	19,636	80.8	18,642	76.7	94.9	△4.1
産 婦 人 科	11,557	47.8	11,093	45.7	10,445	43.0	94.2	△2.7
眼 科	13,183	54.5	12,627	52.0	12,275	50.5	97.2	△1.5
耳 鼻 い ん こ う 科	2,663	11.0	2,867	11.8	2,558	10.5	89.2	△1.3
麻 酔 科	932	3.9	859	3.5	981	4.0	114.2	0.5
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	-	-
放 射 線 科	5,025	20.8	5,662	23.3	1,205	5.0	21.3	△18.3
救 急 科	840	3.5	778	3.2	592	2.4	76.1	△0.8
緩 和 内 科	31	0.1	16	0.1	44	0.2	275.0	0.1
歯 科	11,344	46.9	10,561	43.5	11,059	45.5	104.7	2.0
合 計	162,601	672.1	161,107	663.2	147,977	608.8	91.9	△54.4

5 科別時間外受診患者状況

年度 科別	令和3年度			令和4年度			令和5年度			前年度比		
	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	%	%	%
内科	766	1,297	2,063	712	1,225	1,937	843	1,238	2,081	118.4	101.1	107.4
精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
神経内科	0	3	3	1	3	4	0	1	1	皆減	33.3	25.0
循環器内科	8	9	17	9	2	11	2	0	2	22.2	皆減	18.2
小児科	130	533	663	130	593	723	153	546	699	117.7	92.1	96.7
外科	159	92	251	161	85	246	87	77	164	54.0	90.6	66.7
血管外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
整形外科	149	564	713	165	544	709	150	459	609	90.9	84.4	85.9
脳神経外科	128	293	421	137	346	483	157	330	487	114.6	95.4	100.8
呼吸器外科	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
心臓血管外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
乳腺外科	-	-	-	3	3	6	3	2	5	100.0	66.7	83.3
皮膚科	28	241	269	2	172	174	3	146	149	150.0	84.9	85.6
泌尿器科	69	305	374	52	271	323	41	248	289	78.8	91.5	89.5
産婦人科	172	165	337	138	182	320	122	149	271	88.4	81.9	84.7
眼科	1	27	28	0	38	38	0	15	15	0.0	39.5	39.5
耳鼻いんこう科	0	154	154	2	110	112	4	99	103	200.0	90.0	92.0
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
放射線科	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
救急科	15	110	125	14	103	117	8	89	97	57.1	86.4	82.9
緩和内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
歯科	1	42	43	2	49	51	0	29	29	皆減	59.2	56.9
合 計	1,626	3,838	5,464	1,528	3,726	5,254	1,573	3,428	5,001	102.9	92.0	95.2

※ 時間外診療会計を実施した診療科にて集計。

5-1 小児科時間外受診患者状況（再掲）

年度 診療月	令和3年度			令和4年度			令和5年度			前年度比		
	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	%	%	%
4月	9	33	42	17	43	60	10	37	47	58.8	86.0	78.3
5月	12	49	61	17	49	66	13	51	64	76.5	104.1	97.0
6月	10	36	46	8	49	57	15	47	62	187.5	95.9	108.8
7月	14	67	81	15	75	90	25	59	84	166.7	78.7	93.3
8月	19	68	87	10	38	48	19	51	70	190.0	134.2	145.8
9月	11	41	52	7	42	49	8	38	46	114.3	90.5	93.9
10月	5	45	50	15	51	66	10	40	50	66.7	78.4	75.8
11月	9	42	51	12	61	73	6	43	49	50.0	70.5	67.1
12月	16	43	59	4	62	66	16	61	77	400.0	98.4	116.7
1月	10	51	61	12	53	65	14	44	58	116.7	83.0	89.2
2月	2	25	27	9	36	45	4	33	37	44.4	91.7	82.2
3月	13	33	46	4	34	38	13	42	55	325.0	123.5	144.7
合 計	130	533	663	130	593	723	153	546	699	117.7	92.1	96.7

※平成22年8月から看護師による「電話相談」などによる小児科時間外診療の新たな取り組みを実施。

5－2 科別時間外診察費特別料金徴収対象患者状況

年度 科別	令和3年度			令和4年度			令和5年度			前年度比		
	受診	対象	対象率	受診	対象	対象率	受診	対象	対象率	受診	対象	対象率
	人	人	%	人	人	%	人	人	%	%	%	ポイント
内科	2,063	828	40.1	1,937	702	36.2	2,081	582	28.0	107.4	82.9	△8.3
精神科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	－	－	－
神経内科	3	0	0.0	4	0	0.0	1	0	0.0	25.0	0.0	0.0
循環器内科	17	2	11.8	11	1	9.1	2	0	0.0	18.2	皆減	△9.1
小児科	663	385	58.1	723	339	46.9	699	227	32.5	96.7	67.0	△14.4
外科	251	20	8.0	246	26	10.6	164	24	14.6	66.7	92.3	4.1
血管外科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	－	－	－
整形外科	713	192	26.9	709	226	31.9	609	229	37.6	85.9	101.3	5.7
脳神経外科	421	17	4.0	483	88	18.2	487	154	31.6	100.8	175.0	13.4
呼吸器外科	1	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	－	－	－
心臓血管外科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	－	－	－
乳腺外科	－	－	－	6	0	－	5	2	40.0	83.3	皆増	－
皮膚科	269	88	32.7	174	77	44.3	149	103	69.1	85.6	133.8	24.9
泌尿器科	374	39	10.4	323	82	25.4	289	123	42.6	89.5	150.0	17.2
産婦人科	337	0	0.0	320	30	9.4	271	40	14.8	84.7	133.3	5.4
眼科	28	2	7.1	38	11	28.9	15	5	33.3	39.5	45.5	4.4
耳鼻いんこう科	154	77	50.0	112	57	50.9	103	58	56.3	92.0	101.8	5.4
麻酔科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	－	－	－
放射線科	2	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	－	－	－
救急科	125	68	54.4	117	50	42.7	97	46	47.4	82.9	92.0	4.7
緩和内科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	－	－	－
歯科	43	0	0.0	51	9	17.6	29	8	27.6	56.9	88.9	9.9
合 計	5,464	1,718	31.4	5,254	1,698	32.3	5,001	1,601	32.0	95.2	94.3	△0.3

※平成23年2月から時間外診察費特別料金の実費徴収開始。

※対象項目については、時間外診察費特別料金を徴収した患者数。

5－3 月別時間外診察費特別料金徴収対象患者状況（再掲）

年度 診療月	令和3年度			令和4年度			令和5年度			前年度比		
	受診	対象	対象率	受診	対象	対象率	受診	対象	対象率	受診	対象	対象率
	人	人	%	人	人	%	人	人	%	%	%	ポイント
4月	404	117	29.0	475	115	24.2	316	108	34.2	66.5	93.9	10.0
5月	542	167	30.8	522	152	29.1	403	156	38.7	77.2	102.6	9.6
6月	429	143	33.3	475	131	27.6	397	130	32.7	83.6	99.2	5.2
7月	549	199	36.2	581	186	32.0	500	171	34.2	86.1	91.9	2.2
8月	501	187	37.3	367	111	30.2	460	170	37.0	125.3	153.2	6.7
9月	427	143	33.5	421	112	26.6	428	137	32.0	101.7	122.3	5.4
10月	438	148	33.8	469	178	38.0	399	123	30.8	85.1	69.1	△7.1
11月	405	121	29.9	358	126	35.2	393	134	34.1	109.8	106.3	△1.1
12月	499	144	28.9	480	179	37.3	481	136	28.3	100.2	76.0	△9.0
1月	503	153	30.4	449	188	41.9	475	146	30.7	105.8	77.7	△11.1
2月	363	90	24.8	307	111	36.2	349	87	24.9	113.7	78.4	△11.2
3月	404	106	26.2	350	109	31.1	400	103	25.8	114.3	94.5	△5.4
合 計	5,464	1,718	31.4	5,254	1,698	32.3	5,001	1,601	32.0	95.2	94.3	△0.3

6 科別救急搬送患者状況

年度 科別	令和3年度			令和4年度			令和5年度			前年度比		
	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	%	%	%
内科	674	333	1,007	739	300	1,039	911	400	1,311	123.3	133.3	126.2
精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
神経内科	4	7	11	7	8	15	6	4	10	85.7	50.0	66.7
循環器内科	14	2	16	20	1	21	14	0	14	70.0	皆減	66.7
小児科	56	148	204	50	186	236	67	263	330	134.0	141.4	139.8
外科	86	13	99	115	11	126	73	15	88	63.5	136.4	69.8
血管外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
整形外科	197	160	357	183	129	312	185	165	350	101.1	127.9	112.2
脳神経外科	201	112	313	195	147	342	228	166	394	116.9	112.9	115.2
呼吸器外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
心臓血管外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
乳腺外科	-	-	-	3	0	3	3	1	4	100.0	皆増	133.3
皮膚科	7	16	23	2	9	11	8	13	21	400.0	144.4	190.9
泌尿器科	62	39	101	67	35	102	42	43	85	62.7	122.9	83.3
産婦人科	69	19	88	62	26	88	57	23	80	91.9	88.5	90.9
眼科	0	7	7	0	6	6	0	5	5	0.0	83.3	83.3
耳鼻いんこう科	1	44	45	5	31	36	6	35	41	120.0	112.9	113.9
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
救急科	44	330	374	88	301	389	53	304	357	60.2	101.0	91.8
緩和内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
歯科	0	7	7	2	2	4	0	5	5	皆減	250.0	125.0
合計	1,415	1,237	2,652	1,538	1,192	2,730	1,653	1,442	3,095	107.5	121.0	113.4
一日平均	3.9	3.4	7.2	4.2	3.3	7.5	4.5	4.0	8.5	0.3	0.7	1.0

7 年齢別患者年報（年度別）

年度 科別	令和3年度			令和4年度			令和5年度			前年度比		
	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	%	%	%
0～4	6,279	4,901	11,180	5,457	4,969	10,426	5,524	4,523	10,047	101.2	91.0	96.4
5～9	285	2,787	3,072	233	2,829	3,062	447	2,967	3,414	191.8	104.9	111.5
10～19	1,197	5,476	6,673	806	6,016	6,822	967	5,151	6,118	120.0	85.6	89.7
20～29	1,727	5,338	7,065	1,661	4,880	6,541	1,802	4,198	6,000	108.5	86.0	91.7
30～39	3,116	7,814	10,930	2,651	7,156	9,807	2,438	6,015	8,453	92.0	84.1	86.2
40～49	3,418	12,803	16,221	2,842	12,499	15,341	2,910	10,815	13,725	102.4	86.5	89.5
50～59	6,714	17,108	23,822	6,603	17,928	24,531	5,760	16,797	22,557	87.2	93.7	92.0
60～69	10,921	23,635	34,556	10,838	22,084	32,922	11,397	20,464	31,861	105.2	92.7	96.8
70～79	31,749	49,275	81,024	30,243	48,850	79,093	31,203	43,217	74,420	103.2	88.5	94.1
80～	40,887	33,464	74,351	44,532	33,896	78,428	44,042	33,830	77,872	98.9	99.8	99.3
合計	106,293	162,601	268,894	105,866	161,107	266,973	106,490	147,977	254,467	100.6	91.9	95.3

8 死亡・剖検数の疫病分類

① 入院（その1）

※ 下段（ ）は剖検数

診療科 疾病分類	内 科	精 神 科	神 内 科	循 環 器	小 児 科	外 科	血 管 外 科	整 外 科	脳 外 科	呼 吸 外
1 感染症及び寄生虫症	6								1	
2 新生物	86 (1)					41			2	
3 血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害										
4 内分泌、栄養および代謝 疾患	2 (1)									
5 精神および行動の障害										
6 神経系の疾患	3		1		2			1		
7 眼および付属器の疾患										
8 耳および乳様突起の疾患										
9 循環器系の疾患	32			6					11	
10 呼吸器系の疾患	74			2		1				
11 消化器系の疾患	16 (1)			1		2				
12 皮膚および皮下組織の疾 患										
13 筋骨格系の疾患	3									
14 尿路性器系の疾患	8 (1)					1			1	
15 妊娠、分娩および産褥										
16 周産期に発生した病態										
17 先天奇形、変形および染 色体異常										
18 症状、徴候および異常臨 床所見・異常検査所見で 他に分類されないもの	12								1	
19 損傷、中毒およびその他 の外因の影響	3					1			4	
20 傷病および死亡の外因										
21 健康状態に影響を及ぼす 要因及び保健サービスの 利用										
22 特殊目的コード	5									
合 計	250 (4)		1	9	2	46		1	20	

① 入院（その２）

診療科 疾病分類	皮膚科	泌尿科	産婦科	眼科	耳鼻科	麻酔科	放射科	救急科	歯科	計
1 感染症及び寄生虫症								1		8
2 新生物		16	3							148 (1)
3 血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害										
4 内分泌、栄養および代謝 疾患										2 (1)
5 精神および行動の障害										
6 神経系の疾患										7
7 眼および付属器の疾患										
8 耳および乳様突起の疾患										
9 循環器系の疾患										49
10 呼吸器系の疾患	1							1		79
11 消化器系の疾患		1								20 (1)
12 皮膚および皮下組織の疾 患	2									2
13 筋骨格系の疾患										3
14 尿路性器系の疾患		5								15 (1)
15 妊娠、分娩および産褥										
16 周産期に発生した病態										
17 先天奇形、変形および染 色体異常										
18 症状、徴候および異常臨 床所見・異常検査所見で 他に分類されないもの										13
19 損傷、中毒およびその他 の外因の影響										8
20 傷病および死亡の外因										
21 健康状態に影響を及ぼす 要因及び保健サービスの 利用										
22 特殊目的コード										5
合 計	3	22	3					2		359 4

② 外来（その１）

※ 下段（ ）は剖検数

診療科 疾病分類	内 科	精 神 科	神 内 科	循 環 器	小 児 科	外 科	血 管 外 科	整 外 科	脳 外 科	呼 吸 外
1 感染症及び寄生虫症	2									
2 新生物	8									
3 血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害										
4 内分泌、栄養および代謝 疾患	2									
5 精神および行動の障害										
6 神経系の疾患										
7 眼および付属器の疾患										
8 耳および乳様突起の疾患										
9 循環器系の疾患	27									
10 呼吸器系の疾患	6									
11 消化器系の疾患	5									
12 皮膚および皮下組織の疾 患										
13 筋骨格系の疾患										
14 尿路性器系の疾患	2									
15 妊娠、分娩および産褥										
16 周産期に発生した病態										
17 先天奇形、変形および染 色体異常										
18 症状、徴候および異常臨 床所見・異常検査所見で 他に分類されないもの	1									
19 損傷、中毒およびその他 の外因の影響	3									
20 傷病および死亡の外因	1								1	
21 健康状態に影響を及ぼす 要因及び保健サービスの 利用										
22 特殊目的コード										
合 計	57								1	

② 外来（その２）

診療科 疾病分類	皮膚科	泌尿科	産婦科	眼科	耳鼻科	麻酔科	放射科	救急科	歯科	計
1 感染症及び寄生虫症								2		4
2 新生物								1		9
3 血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害										
4 内分泌、栄養および代謝 疾患								1		3
5 精神および行動の障害										
6 神経系の疾患										
7 眼および付属器の疾患										
8 耳および乳様突起の疾患										
9 循環器系の疾患								11		38
10 呼吸器系の疾患								4		10
11 消化器系の疾患								1		6
12 皮膚および皮下組織の疾患										
13 筋骨格系の疾患										
14 尿路性器系の疾患										2
15 妊娠、分娩および産褥										
16 周産期に発生した病態										
17 先天奇形、変形および染色体異常										
18 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの										1
19 損傷、中毒およびその他の外因の影響								1		4
20 傷病および死亡の外因								1		3
21 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用										
22 特殊目的コード								1		1
合 計								23		81

③ 入院＋外来（その１）

※ 下段（ ）は剖検数

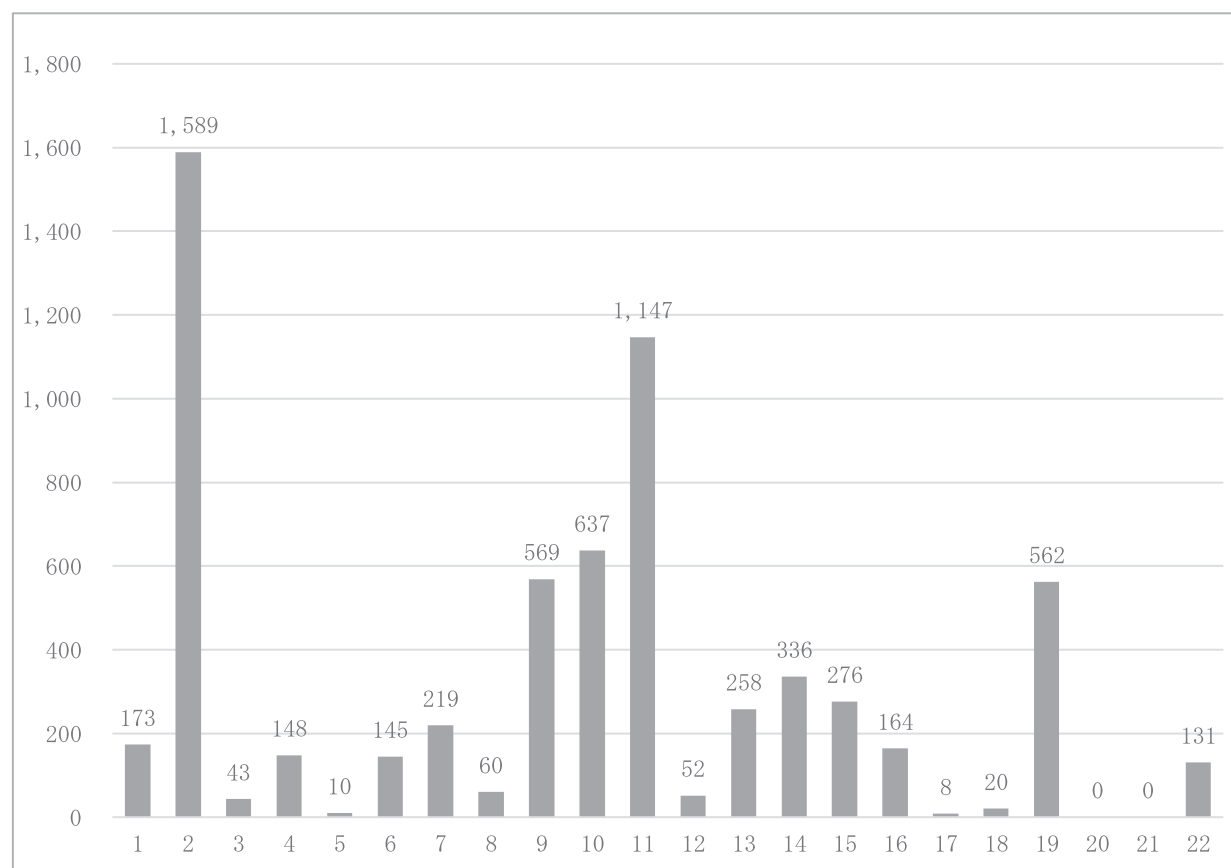
診療科 疾病分類	内 科	精 神 科	神 内 科	循 環 器	小 児 科	外 科	血 管 外 科	整 外 科	脳 外 科	呼 吸 外
1 感染症及び寄生虫症	8								1	
2 新生物	94 (1)					41			2	
3 血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害										
4 内分泌、栄養および代謝 疾患	4 (1)									
5 精神および行動の障害										
6 神経系の疾患	3		1		2			1		
7 眼および付属器の疾患										
8 耳および乳様突起の疾患										
9 循環器系の疾患	59			6					11	
10 呼吸器系の疾患	80			2		1				
11 消化器系の疾患	21 (1)			1		2				
12 皮膚および皮下組織の疾 患										
13 筋骨格系の疾患	3									
14 尿路性器系の疾患	10 (1)					1			1	
15 妊娠、分娩および産褥										
16 周産期に発生した病態										
17 先天奇形、変形および染 色体異常										
18 症状、徴候および異常臨 床所見・異常検査所見で 他に分類されないもの	13								1	
19 損傷、中毒およびその他 の外因の影響	6					1			4	
20 傷病および死亡の外因	1								1	
21 健康状態に影響を及ぼす 要因及び保健サービスの 利用										
22 特殊目的コード	5									
合 計	307 (4)		1	9	2	46		1	21	

③ 入院＋外来（その２）

診療科 疾病分類	皮膚科	泌尿科	産婦科	眼科	耳鼻科	麻酔科	放射科	救急科	歯科	計
1 感染症及び寄生虫症								3		12
2 新生物		16	3					1		157 (1)
3 血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害										
4 内分泌、栄養および代謝 疾患								1		5 (1)
5 精神および行動の障害										
6 神経系の疾患										7
7 眼および付属器の疾患										
8 耳および乳様突起の疾患										
9 循環器系の疾患								11		87
10 呼吸器系の疾患	1							5		89
11 消化器系の疾患		1						1		26 (1)
12 皮膚および皮下組織の疾患	2									2
13 筋骨格系の疾患										3
14 尿路性器系の疾患		5								17 (1)
15 妊娠、分娩および産褥										
16 周産期に発生した病態										
17 先天奇形、変形および染色体異常										
18 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの										14
19 損傷、中毒およびその他の外因の影響								1		12
20 傷病および死亡の外因								1		3
21 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用										
22 特殊目的コード								1		6
合 計	3	22	3					25		440 4

④退院患者疾病大分類統計

章	ICDコード 分類見出し	人
1	A00-B99 感染症および寄生虫症	173
2	C00-D48 新生物	1,589
3	D50-D89 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	43
4	E00-E90 内分泌, 栄養および代謝疾患	148
5	F00-F99 精神および行動の障害	10
6	G00-G99 神経系の疾患	145
7	H00-H59 眼および付属器の疾患	219
8	H60-H95 耳および乳様突起の疾患	60
9	I00-I99 循環器系の疾患	569
10	J00-J99 呼吸器系の疾患	637
11	K00-K93 消化器系の疾患	1,147
12	L00-L99 皮膚および皮下組織の疾患	52
13	M00-M99 筋骨格系および結合組織の疾患	258
14	N00-N99 尿路性器系の疾患	336
15	O00-O99 妊娠, 分娩および産じょく<褥>	276
16	P00-P96 周産期に発生した病態	164
17	Q00-Q99 先天奇形, 変形および染色体異常	8
18	R00-R99 症状, 徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	20
19	S00-T98 損傷, 中毒およびその他の外因の影響	562
20	V00-Y98 傷病および死亡の外因	0
21	Z00-Z99 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	0
22	U00-U99 特殊目的コード	131
合 計		6,547



9 手術

(1) 科別・麻酔別手術件数

科別 \ 麻酔別	全麻	腰麻	局麻	硬膜外	静脈	その他	合 計	構成比
	件	件	件	件	件	件	件	%
内 科	0	0	0	0	0	0	0	-
精 神 科	0	0	0	0	0	0	0	-
神 経 内 科	0	0	0	0	0	0	0	-
循 環 器 内 科	0	0	16	0	0	0	16	0.8
小 児 科	0	0	0	0	0	0	0	-
外 科	326	36	29	0	0	0	391	19.1
血 管 外 科	0	0	0	0	0	0	0	-
整 形 外 科	275	88	22	0	0	17	402	19.6
脳 神 経 外 科	40	0	73	0	0	0	113	5.5
呼 吸 器 外 科	0	0	0	0	0	0	0	-
心 臓 血 管 外 科	0	0	0	0	0	0	0	-
乳 腺 外 科	79	0	0	0	0	0	79	3.9
皮 膚 科	0	0	66	0	0	0	66	3.2
泌 尿 器 科	59	304	20	0	0	0	383	18.7
産 婦 人 科	112	116	0	0	16	0	244	11.9
眼 科	13	0	214	0	0	0	227	11.1
耳 鼻 い ん こ う 科	0	0	0	0	0	0	0	-
麻 酔 科	0	0	0	0	0	0	0	-
放 射 線 科	0	0	0	0	0	0	0	-
救 急 科	0	0	0	0	0	0	0	-
緩 和 内 科	0	0	0	0	0	0	0	-
歯 科	128	0	0	0	0	0	128	6.2
合 計	1,032	544	440	0	16	17	2,049	
構成比	% 50.4	% 26.5	% 21.5	% 0.0	% 0.8	% 0.8		100.0

(2) 科別・疾患別手術件数

科	部 位	病 名	術 名	件 数
循環器 内科	胸部	洞不全症候群	ペースメーカー植え込み術	2
		徐脈頻脈症候群	ペースメーカー植え込み術	1
		房室ブロック	ペースメーカー植え込み術	8
		徐脈性心房細動	ペースメーカー植え込み術	1
		ペースメーカー電池消耗	ペースメーカー電池交換術	4
	計			16
	外科	食道	食道癌	食道切除再建術
胃・十二指腸		胃癌	噴門側胃切除術	1 (1)
			幽門側胃切除術	11 (9)
			胃全摘術	6 (3)
			その他	1 (1)
粘膜下腫瘍		G I S T	部分切除	2 (1)
小腸		癌などの腫瘍性疾患		2 (1)
虫垂		虫垂炎		18 (16)
大腸		結腸癌	結腸癌手術（盲腸～S状結腸癌）	35 (25)
		直腸癌（肛門管癌・痔瘻癌を含む）	高位前方切除	12 (7)
			低位前方切除	13 (11)
			直腸切除術	7 (4)
			ハルトマン手術	1 (1)
非腫瘍性疾患			6	
人工肛門			人工肛門造設術	6 (4)
			人工肛門閉鎖術	3
腹壁疾患		鼠経ヘルニア	鼠径ヘルニア根治術	112 (65)
		腹壁瘢痕ヘルニア	腹壁瘢痕ヘルニア根治術	3
		その他のヘルニア（大腿、閉鎖孔、臍等）	根治術	6 (2)
その他		腸閉塞	腸閉塞手術	16 (2)
		痔核	痔核根治術等	2
		直腸脱	G a n t 一三輪法等の経肛門手術	2
肝		転移性肝腫瘍	肝切除術	1
胆・膵		胆嚢・胆管結石	胆嚢摘出術	84 (75)
			腹膜炎手術	6 (1)
			その他	22 (4)
			C V ポート造設術	26
計			405 (234)	
整形 外科	上肢・肩甲帯	鎖骨骨折	観血的整復固定術	5
		肩鎖関節脱臼	観血的整復固定術	1
		肩関節脱臼	徒手整復	2
			授動術	1
		化膿性肩関節炎	関節鏡、洗浄	2

科	部 位	病 名	術 名	件 数
整形外科	上肢・肩甲帯	上腕骨頸部骨折	観血的整復固定術	6
		上腕骨頸上骨折	観血的整復固定術	2
		上腕骨顆部骨折	観血的整復固定術	5
		肘関節脱臼骨折	観血的整復固定術	1
		肘頭骨折	観血的整復固定術	3
		尺骨骨幹部骨折	観血的整復固定術	1
		前腕両骨骨折	観血的整復固定術	7
		橈骨骨幹部骨折	観血的整復固定術	2
		橈骨下端骨折	観血的整復固定術	18
		手指骨骨折、脱臼骨折	観血的整復固定術	9
		手指骨骨折、開放骨折	搔爬、洗浄	1
		舟状骨骨折	観血的整復固定術	3
		バネ指	腱鞘切開術	3
		挫滅	腱縫合術	9
			デブリードマン、洗浄	2
		蜂窩織炎	搔爬、洗浄	1
		手指骨髄炎	断端形成術	1
		軟部腫瘍	摘出術	1
		観血的整復固定術後	抜針術	33
	下肢	大腿骨頸部骨折	人工骨頭置換術	28
			観血的整復固定術	11
		転子部	観血的整復固定術	37
		転子下	観血的整復固定術	1
		顆上骨折	観血的整復固定術	1
		寛骨臼骨折	観血的整復固定術	1
		変形性膝関節症	人工膝関節置換術	8
		半月板損傷	関節鏡	3
		脛骨粗面骨折	観血的整復固定術	1
		骨幹部骨折	観血的整復固定術	2
		下端骨折	観血的整復固定術	1
			徒手整復	1
		下腿両骨骨折	観血的整復固定術	2
		足関節脱臼骨折	観血的整復固定術	6
		アキレス腱断裂	靱帯縫合術	8
		母趾基節骨骨折	観血的整復固定術	1
		壊疽	大腿切断	1
			下腿切断	1
			足部切断	1
		挫滅	デブリードマン、洗浄	1
		下腿膿瘍	デブリードマン、洗浄	1
		軟部腫瘍	腫瘍摘出術	1
		足部皮膚欠損	植皮	1

科	部 位	病 名	術 名	件 数
整形外科	下肢	観血的整復固定術後	抜針術	5
	脊椎	頸椎症性脊髄症	頸部脊柱管拡大術	17
			頸椎椎弓切除術	3
		頸椎硬膜外血腫	頸椎椎弓切除術	1
		頸椎後縦靱帯骨化症	頸部脊柱管拡大術	1
			頸椎後方固定術	2
		頸椎椎間板ヘルニア	頸椎前方固定術	2
		頸椎不全損傷	頸部脊柱管拡大術	3
		頸椎骨折、脱臼骨折	頸部後方固定術	3
		胸椎黄色靱帯骨化症	胸椎椎弓切除術	3
		胸椎椎間板ヘルニア	胸椎後方固定術	1
		胸椎骨折	胸椎後方固定術	1
		胸椎転移	胸椎後方固定術	1
		胸髄腫瘍	腫瘍摘出術	1
		脊柱変形	腰椎側方椎体間固定術	3
			胸腰椎骨盤後方固定術	3
			腰椎前方後方同時固定術	3
			腰椎後方椎体間固定術	2
		腰部脊柱管狭窄症	内視鏡下椎弓切除術	25
			腰椎椎弓切除術	17
			腰椎後方椎体間固定術	16
			腰椎後側方固定術	5
		腰椎椎間板ヘルニア	内視鏡下椎間板摘出術	18
			後方椎間板摘出術	4
			椎間板内酵素注入	1
		胸腰椎椎体骨折	腰椎前方後方同時固定術	3
			腰椎後側方固定術	1
			経皮的椎体形成術	10
		化膿性脊椎炎	腰椎後方椎体間固定術	1
		術後血腫	血腫除去術	1
		術後感染	デブリードマン、洗浄	3
		脊椎腫瘍、感染	針生検	2
		その他		2
	計			402
脳神経外科	脳血管障害	破裂脳動脈瘤	クリッピング術	7
			コイル塞栓術	3
		未破裂脳動脈瘤	クリッピング術	1
			コイル塞栓術	1
		脳内出血	内視鏡下血腫除去術	2
			開頭血腫除去術	2
		頸部頸動脈狭窄症	ステント留置術	9
			血栓内膜剥離術	2

科	部 位	病 名	術 名	件 数
脳神経外科		脳動脈狭窄症	血管形成術	1
		脳動脈閉塞症	血栓回収術	23
		硬膜動静脈瘤	塞栓術	1
	腫瘍	脳腫瘍	開頭腫瘍摘出術	5
			オマヤリザーバー設置	1
			栄養動脈塞栓術	1
	外傷	急性硬膜外血腫	開頭血腫除去術	5
		慢性硬膜下血腫	穿孔洗浄術	33
その他		水頭症	脳室腹腔短絡術	5
			脳室ドレナージ術	2
			シャント再建術	4
		その他		5
計				113
乳腺外科	乳腺	乳癌	乳房切除	77
		乳腺腫瘍	腫瘍摘出	2
	計			79 (0)
皮膚科	皮膚悪性腫瘍 (14例)	基底細胞癌	切除術	8
		有棘細胞癌	切除術	3
			切除術+全層植皮術	1
		隆起性皮膚線維肉腫	切除術	2
	表皮内癌 (5例)	ボーエン病	切除術	5
	皮膚良性腫瘍 (46例)	粉瘤	切除術	24
		色素細胞母斑	切除術	6
		脂肪腫の類	切除術	4
		脂漏性角化症	切除術	3
		エクリン汗孔腫	切除術	2
		線維腫の類	切除術	2
		その他	切除術	5
	皮膚生検			1
	計			66
泌尿器科	副腎	副腎癌	腹腔鏡下副腎悪性腫瘍手術	2
	腎臓	腎細胞癌	腹腔鏡下腎悪性腫瘍摘出術	7
			腹腔鏡下腎悪性腫瘍部分切除術	7
	腎盂・尿管	腎盂尿管癌	腹腔鏡下腎尿管悪性腫瘍摘出術	4
	膀胱	膀胱癌	腹腔鏡下膀胱全摘除術	5
			経尿道的膀胱腫瘍切除術	58
	膀胱	膀胱結石 神経因性膀胱	経尿道的膀胱結石碎石術	10
			膀胱瘻造設術	3
	前立腺	前立腺癌	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍摘出術	18
			精巣摘出術	4
			前立腺生検	171
			経会陰的放射線治療用材料局所注入	16

科	部 位	病 名	術 名	件 数
泌尿器科	前立腺	前立腺肥大症	経尿道的前立腺切除術	38
	陰茎	包茎	環状切除術	3
			背面切開術	2
	陰嚢・精巣	精索静脈瘤	腹腔鏡下精索静脈瘤根治術	2
		停留精巣	精巣固定術	4
		陰嚢水腫	陰嚢水腫根治術	4
		精巣捻転症	精巣捻転手術	2
	その他	骨盤臓器脱	腹腔鏡下仙骨固定術	3
		尿膜管腫瘍、膿瘍	腹腔鏡下尿膜管摘出術	1
		慢性腎不全	内シャント造設術	11
		尿管狭窄	尿管移植術	1
		尿道狭窄	経尿道的尿道切開術	3
神経因性膀胱ほか		ボツリヌス毒素膀胱内注入	2	
計			381	
産婦人科	子宮（産科）		緊急帝王切開	47
			選択帝王切開	36
			流産手術	16
			異所性妊娠手術	14
	子宮（婦人科）	良性子宮疾患	円錐切除術	8
			腹腔鏡下手術	11
			開腹手術	26
		性器脱	性器脱手術	4
		子宮体癌	開腹子宮全摘術	9
		良性卵巣卵管疾患	腹腔鏡下手術	26
			開腹手術	11
		悪性卵巣腫瘍	子宮附属器悪性腫瘍手術	6
		外陰疾患	外陰手術	4
	膣疾患	膣手術	17	
その他	その他の手術	8		
計			243	
眼科	水晶体	白内障	水晶体再建術（眼内レンズ挿入あり）	218
		後発白内障	後発白内障切開手術	2
	角膜	翼状片	翼状片手術（弁移植を要するもの）	1
	眼筋	斜視	前転法及び後転法の併施	4
			前転法	1
			後転法	1
計			227	
歯科	顎口腔	埋伏歯	埋伏歯摘出術	79
		下顎骨腫瘍	下顎骨腫瘍摘出術	4
		歯根嚢胞	歯根嚢胞摘出術	13

科	部 位	病 名	術 名	件 数
歯科		上顎骨嚢胞	上顎骨嚢胞摘出術	1
		下顎骨嚢胞	下顎骨嚢胞摘出術	6
		上顎洞内異物	上顎洞開窓術	1
		下顎隆起	下顎隆起形成術	5
		舌小帯短縮症	舌小帯形成術	1
		その他（う歯など）	抜歯術	4
		う 歯（障がい者）	う 歯治療または抜歯	14
	計			128
	合計			2, 060

10 内視鏡患者数

検査種別	検 査 名	所在	令和3年度	令和4年度	令和5年度
上部消化管	上部消化管	外来	人 1,267	人 1,151	人 1,040
		入院	393	324	270
	内視鏡の超音波検査	外来	0	0	0
		入院	0	1	0
	内視鏡の注入硬化療法	外来	2	0	0
		入院	23	15	15
	食道静脈瘤結紮術	外来	4	2	1
		入院	11	4	3
	胃瘻造設	外来	1	0	0
		入院	16	17	5
	胃瘻交換	外来	55	56	37
		入院	3	1	2
	上部消化管止血術	外来	24	9	16
		入院	29	8	13
	胃粘膜切除術	外来	1	0	1
		入院	4	4	2
	胃ポリープ切除術	外来	0	1	1
		入院	1	4	2
	胃粘膜下剥離術	外来	0	0	0
		入院	28	26	34
	異物摘出術	外来	9	4	7
		入院	1	2	2
	食道拡張術	外来	0	0	0
		入院	2	17	4
	十二指腸拡張術	外来	0	0	0
		入院	1	1	1
	上部消化管（人間ドック）	外来	0	0	0
		入院	0	0	0
	幽門狭窄拡張	外来	0	0	0
		入院	0	0	0
	上部消化管（健診）	外来	1,493	1,742	1,861
		入院	0	0	0
	上部消化管（健診・経鼻）	外来	374	602	702
		入院	0	0	0
	上部消化管内視鏡計	外来	3,230	3,569	3,703
		入院	518	437	372
胆膵内視鏡	逆行性膵胆管造影	外来	1	1	0
		入院	1	113	123
	乳頭括約筋切開術	外来	0	0	0
		入院	1	56	60

検査種別	検 査 名	所在	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	胆道結石除去術	外来	人 0	人 0	人 0
		入院	44	54	46
	胆道ステント留置	外来	1	1	2
		入院	53	68	59
	乳頭バルーン拡張術	外来	0	0	0
		入院	2	0	1
	経鼻胆管ドレナージ	外来	0	0	0
		入院	4	10	1
	胆膵超音波	外来	0	0	0
		入院	0	0	0
	胆膵超音波穿刺	外来	0	0	0
		入院	0	0	0
	胆膵内視鏡計	外来	0	0	0
		入院	235	303	290
下部消化管	大腸ファイバー	外来	1, 216	1, 120	1, 270
		入院	191	149	173
	大腸超音波内視鏡	外来	0	0	0
		入院	0	0	0
	大腸ポリープ切除術	外来	376	356	403
		入院	15	23	13
	大腸粘膜切除術	外来	3	1	3
		入院	1	1	1
	大腸粘膜剥離術	外来	0	0	0
		入院	3	2	2
	下部消化管止血術	外来	4	2	3
		入院	11	9	10
	大腸拡張術	外来	0	1	1
		入院	0	5	7
	下部消化管内視鏡計	外来	1, 599	1, 481	1, 618
		入院	221	189	206
気管支	気管支ファイバー	外来	0	0	1
		入院	67	78	58
	経気管支肺生検	外来	1	0	0
		入院	18	5	1
	気管支異物除去術	外来	0	0	0
		入院	0	0	0
	超音波気管支鏡	外来	0	0	0
		入院	0	1	1
	気管支瘻孔閉鎖術	外来	0	0	0
		入院	0	0	0
	気管支肺胞洗浄	外来	0	0	0
		入院	3	5	2
	気管支鏡計	外来	1	0	1
		入院	89	89	62

11 分娩件数・内訳

項目	分娩件数	内訳			児体数	死産	
		単胎	双胎	品胎		22週未満	22週以降
	件	件	件	件	件	件	件
5年度	199	185	14	0	212	10	1
4年度	222	190	16	0	238	7	0
3年度	259	247	12	0	268	8	2

12 新生児未熟児センター

(1) 入院数 (NICU+GCU)

体 重	令和3年度	令和4年度	令和5年度
g	人	人	人
0-999	10	5	7
1000-1499	13	17	7
1500-1999	16	18	23
2000-2499	43	41	28
2500-	79	64	68
計	161	145	133

(2) NICU入院数

体 重	令和3年度	令和4年度	令和5年度
g	人	人	人
0-999	10	4	5
1000-1499	13	17	7
1500-1999	13	17	23
2000-2499	15	11	11
2500-	17	8	15
計	68	57	61

13 I C U ・ C C U入室患者数

年度 科別	令和3年度	令和4年度	令和5年度
内 科	人 56	人 58	人 64
精 神 科	0	0	0
神 経 内 科	0	1	0
循 環 器 内 科	26	31	27
小 児 科	10	9	15
外 科	192	161	174
血 管 外 科	0	0	0
整 形 外 科	28	45	52
脳 神 経 外 科	102	97	111
呼 吸 器 外 科	0	0	0
心 臓 外 科	0	0	0
乳 腺 外 科	－	0	2
皮 膚 科	0	1	0
泌 尿 器 科	54	53	52
産 婦 人 科	40	31	46
眼 科	0	0	0
耳 鼻 い ん こ う 科	0	0	0
麻 酔 科	0	0	0
放 射 線 科	0	0	0
救 急 科	10	5	3
緩 和 内 科	0	0	0
歯 科 ・ 口 腔 外 科	0	0	0
計	518	492	546

I C U ・ C C U稼働率

年 度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
稼 働 率	60.7 %	67.4 %	63.8 %

14 腎センター

(1) 慢性透析の概要

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年比
	回	回	回	%
入院患者透析回数	752	429	634	147.8
外来患者透析回数	2,148	2,236	1,766	79.0
計	2,900	2,665	2,400	90.1
透析開始者数	7	7	16	228.6
死者数	6	5	4	80.0
転出者数	55	46	49	106.5
転入者数	56	56	37	66.1
急性透析患者数	56	46	49	106.5

15 人間ドック・健康診断等

(1) 人間ドック・健康診断利用者数

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年比
	人	人	人	%
短期（1泊2日）人間ドック （8床）	0	0	0	0.0
1日ドック	2,643	2,893	3,001	103.7
健康診断等	3,705	4,334	4,340	100.1
計	6,348	7,227	7,341	101.6

※ 再掲

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年比
	人	人	人	%
脳ドック	150	198	212	107.1
肺がんドック	31	38	36	94.7

16 薬剤部

(1) 処方箋枚数と院外処方箋発行率

年度 項目		令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
入院処方箋	枚数	34,806	33,980	33,572	% 98.8
	件数	71,583	68,607	67,944	99.0
外来院内処方箋	枚数	3,847	3,384	3,088	91.3
	件数	6,639	4,370	3,995	91.4
外来院外処方箋	枚数	79,489	76,810	76,251	99.3
	発行率%	95.4	95.8	96.1	100.3

(2) 医薬品使用状況

年度 医薬品		令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
		千円	千円	千円	%
内用剤		100,972	88,326	116,938	132.4
外用剤		21,545	20,543	19,445	94.7
注射剤		1,244,348	1,279,186	1,307,974	102.3
その他		44,336	36,639	34,422	93.9
合計		1,411,201	1,424,694	1,478,779	103.8

(3) 麻薬施用状況

種類	製剤名	単位	令和2.10.1 ～ 令和3.9.30	令和3.10.1 ～ 令和4.9.30	令和4.10.1 ～ 令和5.9.30	前年度比
注射	フェンタニル注射液0.1mg	Amp	422	428	462	% 107.9
	フェンタニル注射液0.5mg	Amp	389	487	437	89.7
	モルヒネ塩酸塩注射液10mg	Amp	350	410	495	120.7
	モルヒネ塩酸塩注射液50mg	Amp	135	82	52	63.4
	ケタラール静注用50mg	Amp	117	108	103	95.4
	アルチバ静注用2mg	V	835			—
	レミフェンタニル静注用2mg	V	60	841	843	100.2
	レミフェンタニル静注用5mg	V	82	96	100	104.2
	ペチジン塩酸塩注射液35mg	Amp	235	230	289	125.7
	オキシコドン注射液10mg	Amp	141	36	42	116.7
	オキシコドン注射液50mg	Amp	125	12	104	866.7
	ナルベイン注2mg	Amp	390	911	738	81.0
	ナルベイン注20mg	Amp	287	320	328	102.5

種類	製 剤 名	単位	令和2. 10. 1 ～ 令和3. 9. 30	令和3. 10. 1 ～ 令和4. 9. 30	令和4. 10. 1 ～ 令和5. 9. 30	前年度比
						%
内用	コデインリン酸塩散10%	g	0	0	0	－
	コデインリン酸塩錠20mg	錠	489	1, 156	1, 738	150. 3
	MS コンチン錠10mg	錠	527	332	318	95. 8
	MS コンチン錠30mg	錠	208	0	32	皆増
	オキシコドン徐放錠20mg	錠	242			－
	オキノーム散2. 5mg	包	2, 969	2, 725	1, 266	46. 5
	オキノーム散5mg	包	4, 584	3, 885	3, 132	80. 6
	オキノーム散20mg	包	160	459	390	85. 0
	アヘンチンキ	mL	0	114	0	皆減
	オブソ内服液5mg	包	803	481	514	106. 9
	オブソ内服液10mg	包	764	42	220	523. 8
	オキシコドン徐放錠5mgNX	錠	7, 287	6, 401	3, 497	54. 6
	オキシコドン徐放錠20mgNX	錠	1, 389	1, 147	1, 327	115. 7
	ナルサス錠2mg	錠	689	628	1, 204	191. 7
	ナルサス錠6mg	錠	474	329	437	132. 8
	ナルサス錠12mg	錠	269	443	91	20. 5
	ナルサス錠24mg	錠	0	637	235	36. 9
	ナルラピド錠1mg	錠	104	692	1, 256	181. 5
	ナルラピド錠2mg	錠	305	580	512	88. 3
	ナルラピド錠4mg	錠	0	1, 100	4, 330	393. 6
	メサペイン錠5mg	錠	57	581	39	6. 7
	メサペイン錠10mg	錠	276	0	309	皆増
外用	アンペック坐剤10mg	個	297	181	115	63. 5
	フェンタニルエン酸塩 1 日用テープ 1mg	枚	511	498	315	63. 3
	フェンタニルエン酸塩 1 日用テープ 2mg	枚	1, 253	465	582	125. 2
	フェンタニルエン酸塩 1 日用テープ 8mg	枚	12	23	52	226. 1
	フェントステープ 0. 5mg	枚	0	56	406	725. 0
	フェントステープ 1mg	枚	0	0	176	皆増
	フェントステープ 2mg	枚	0	0	0	－
	フェントステープ 8mg	枚	0	0	0	－

(4) 薬事審議委員会審議医薬品件数

年度 医薬品	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
				%
採用医薬品	187	181	233	128. 7
削除医薬品	95	82	122	148. 8

※ 採用医薬品(申請)医薬品：臨時採用品、製造中止による代替品などを含みます。

※ 削除医薬品：不変動による中止医薬品、製造中止品などを含みます。

(5) D I (医薬品情報管理業務) への項目別問合せ件数

項目 \ 年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	件	件	件	%
使用上の注意・副作用	44	29	21	72.4
薬 剤 の 安 定 性	34	34	28	82.4
商 品 照 合	9	10	8	80.0
疾 患 と 使 用 薬 剤	13	9	4	44.4
用 法 ・ 用 量	26	31	23	74.2
薬 理 作 用	16	12	21	175.0
処 方 ・ 調 製 法	8	14	13	92.9
中 毒 関 係	1	0	0	-
注 射 剤 配 合 変 化	1	2	1	50.0
含 量 ・ 単 位	2	4	1	25.0
文 献 提 供	3	1	1	100.0
消 毒 関 係	1	0	0	-
新 薬 関 係	6	1	0	皆減
薬 物 相 互 作 用	7	7	7	100.0
麻 薬 関 係	0	1	3	300.0
長 期 投 与	0	0	0	-
薬 価 関 連	0	1	2	200.0
オーダリング関係	0	0	0	-
T D M	1	1	2	200.0
が ん 化 学 療 法	15	5	3	60.0
そ の 他	1	0	0	-
計	188	162	138	85.2

(6) 特殊調剤・特殊製剤

品 目	年度	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
						%
点眼剤・眼軟膏剤						
アトロピン点眼液0.5% 5mL		本	6	4	6	150.0
caputo点眼液 2mL		本	280	280	260	92.9
外用液剤						
安息香チキ分注 50mL		本	2	0	0	-
塩化アルミニウム液20% 100mL		本	26	16	19	118.8
吸入液A		m L	720	885	735	83.1
トラマゾリン分注 5mL		本	41	44	66	150.0
プロピナ分注 5mL		本	178	250	266	106.4
ホスミン液5000倍 25mL		m L	133	138	0	皆減
ホスミン液5000倍 30mL		m L	0	30	165	550.0
滅菌グリセリン分注 10mL		本	378	270	230	85.2
滅菌ヒオクタン1% 5mL		本	131	108	124	114.8
消毒剤・洗浄・保存剤						
オキシール液2倍 500mL		本	32	28	22	78.6
酢酸溶液3% 300mL		本	27	27	29	107.4
複方ヨードグリセリン分注 50mL		本	5	6	2	33.3
検査・診用剤						
パッチテスト		件	4	0	1	皆増
BTB溶液0.1% 30mL		本	10	0	0	-
BTB溶液0.1% 40mL		本	5	0	0	-
BTB溶液0.1% 100mL		本	0	4	4	100.0
ブリアントブルー-G液 5mL		本	119	150	139	92.7
ルコール液 2.5% 60mL		本	0	0	2	皆増
ルコール液 2.5% 40mL		本	3	3	4	133.3
ルコール液 2.5% 20mL		本	3	0	0	-
滅菌墨汁 4mL		本	50	50	78	156.0
その他						
硝酸銀溶液20% 5mL		本	39	39	18	46.2
硝酸銀溶液20% 10mL		本	0	0	7	皆増
硝酸銀溶液20% 25mL		本	13	13	6	46.2

(7) 注射薬セット

① 入院注射 (TPN含む) 件数

病棟 \ 年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	件	件	件	%
I C U ・ C C U	15,448	15,197	13,411	88.2
3 階 病 棟	13,990	15,509	16,126	104.0
4 階 東 病 棟	3,680	4,755	4,594	96.6
4 階 西 病 棟	9,918	14,463	13,111	90.7
5 階 西 病 棟	35,642	38,522	31,036	80.6
6 階 東 病 棟	16,633	18,492	18,857	102.0
6 階 西 病 棟	964	611	758	124.1
7 階 東 病 棟	29,641	27,255	30,077	110.4
7 階 西 病 棟	27,775	25,380	29,201	115.1
8 階 病 棟	4,152	6,218	368	5.9
合 計	157,843	166,402	157,539	94.7

② がん化学療法件数

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	件	件	件	%
入 院	5,074	4,725	3,978	84.2
外 来	10,812	11,513	10,668	92.7
合 計	15,886	16,238	14,646	90.2

(8) 薬剤管理指導業務

① 服薬指導件数

病棟 \ 年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	件	件	件	%
I C U ・ C C U	206	270	214	79.3
N I C U	70			-
G C U		41	59	143.9
3 階 病 棟	1,454	1,160	1,350	116.4
4 階 東 病 棟				-
4 階 西 病 棟	1,507	1,533	1,482	96.7
5 階 西 病 棟	2,947	2,577	2,375	92.2
6 階 東 病 棟	1,852	1,408	1,384	98.3
6 階 西 病 棟				-
7 階 東 病 棟	2,641	2,084	2,530	121.4
7 階 西 病 棟	2,637	1,869	1,779	95.2
8 階 病 棟				-
合 計	13,314	10,942	11,173	102.1

② 退院指導件数

年度 病棟	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	件	件	件	%
3 階 病 棟	568	572	710	124.1
4 階 東 病 棟				-
4 階 西 病 棟	477	325	319	98.2
5 階 西 病 棟	582	366	352	96.2
6 階 東 病 棟	351	289	246	85.1
6 階 西 病 棟				-
7 階 東 病 棟	582	403	436	108.2
7 階 西 病 棟	712	446	492	110.3
8 階 病 棟				-
合 計	3,272	2,401	2,555	106.4

③ 病棟業務実施加算 1

年度 病棟	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	件	件	件	%
I C U ・ C C U	43			-
G C U		216	174	80.6
3 階 病 棟	1,425	1,795	1,949	108.6
4 階 東 病 棟				-
4 階 西 病 棟	1,855	1,886	1,916	101.6
5 階 西 病 棟	3,051	2,904	2,862	98.6
6 階 東 病 棟	1,991	2,147	2,195	102.2
6 階 西 病 棟				-
7 階 東 病 棟	2,809	2,627	2,873	109.4
7 階 西 病 棟	2,831	2,557	2,737	107.0
8 階 病 棟				-
合 計	14,005	14,132	14,706	104.1

④ 病棟業務実施加算 2

年度 病棟	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	件	件	件	%
I C U ・ C C U		1,240	1,304	105.2
N I C U	1,683			-

(9) 持参薬報告件数

年度	令和3年度	令和 3 年度	令和 4 年度	前年度比
	件	件	件	%
入 院 前 持 参 薬	1,573	1,473	1,584	107.5
入 院 時 持 参 薬	4,945	3,863	4,434	114.8
合 計	6,518	5,336	6,018	112.8

注) 平成28年10月より持参薬システム導入

(10) 無菌製剤調製

① 病棟別T P N件数

年度 病棟	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	件	件	件	%
I C U ・ C C U	382	236	165	69.9
3 階 病 棟	10	58	105	181.0
4 階 東 病 棟	41	6	113	1,883.3
4 階 西 病 棟	0	98	144	146.9
5 階 西 病 棟	646	680	452	66.5
6 階 東 病 棟	79	44	82	186.4
6 階 西 病 棟	0	0	1	皆増
7 階 東 病 棟	436	164	73	44.5
7 階 西 病 棟	139	110	144	130.9
8 階 病 棟	0	16	1	6.3
合 計	1,733	1,412	1,280	90.7

② 診療科別入院がん化学療法件数

年度 診療科	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	件	件	件	%
内 科	541	656	364	55.5
外 科	893	576	775	134.5
乳 腺 外 科	-	12	9	75.0
脳 神 経 外 科	5	9	9	100.0
泌 尿 器 科	80	85	86	101.2
産 婦 人 科	302	142	128	90.1
皮 膚 科	0	0	2	皆増
合 計	1,821	1,480	1,373	92.8

③ 診療科別外来がん化学療法件数

年度 診療科	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	件	件	件	%
内 科	1,431	1,332	1,144	85.9
外 科	1,247	987	663	67.2
乳 腺 外 科	-	520	350	67.3
脳 神 経 外 科	37	54	64	118.5
泌 尿 器 科	192	156	169	108.3
産 婦 人 科	184	216	170	78.7
整 形 外 科	12	10	0	皆減
皮 膚 科	30	18	14	77.8
合 計	3,133	3,293	2,574	78.2

17 リハビリテーション技術科

(1) 理学療法

① 年度別入院・外来患者数

項目 \ 年度	年度			
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	件	件	件	%
入院	36,043	38,513	39,840	103.4
外来	4,289	4,233	4,236	100.1
合 計	40,332	42,746	44,076	103.1

② 年度別療法単位数

項目 \ 年度	年度			
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	件	件	件	%
脳血管1単位	3,105	3,483	4,264	122.4
脳血管2単位	5,697	7,996	8,835	110.5
脳血管3単位	1,967	1,277	1,052	82.4
廃用1単位	4,284	4,191	3,894	92.9
廃用2単位	1,429	1,306	1,327	101.6
廃用3単位	212	139	83	59.7
運動器1単位	2,997	2,701	2,495	92.4
運動器2単位	11,319	13,030	9,828	75.4
運動器3単位	4,330	3,153	2,380	75.5
呼吸器1単位	3,098	3,510	4,016	114.4
呼吸器2単位	1,161	933	808	86.6
呼吸器3単位	120	55	52	94.5
がん患者リハ1単位	473	834	584	70.0
がん患者リハ2単位	134	140	114	81.4
がん患者リハ3単位	6	2	0	皆減
合 計	40,332	42,750	39,732	92.9

(2) 作業療法

① 年度別入院・外来患者数

項目 \ 年度	年度			
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	件	件	件	%
入院	12,477	13,230	13,536	102.3
外来	2,514	1,982	1,620	81.7
合 計	14,991	15,212	15,156	99.6

② 年度別療法単位数

項目 \ 年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
				%
脳血管1単位	1,651	1,720	1,559	90.6
脳血管2単位	4,257	5,980	6,029	100.8
脳血管3単位	1,205	700	712	101.7
廃用1単位	1,670	1,333	1,234	92.6
廃用2単位	337	262	290	110.7
廃用3単位	5	5	3	60.0
運動器1単位	796	534	249	46.6
運動器2単位	3,543	3,202	1,675	52.3
運動器3単位	469	89	96	107.9
呼吸器1単位	0	111	290	261.3
呼吸器2単位	5	17	49	288.2
がん患者リハ1単位	987	1,145	1,271	111.0
がん患者リハ2単位	65	113	38	33.6
がん患者リハ3単位	1	1	0	皆減
合 計	14,991	15,212	13,495	88.7

(3) 言語療法

① 年度別入院・外来患者数

項目 \ 年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
				%
入院	7,302	7,158	7,594	106.1
外来	92	162	60	37.0
合 計	7,394	7,320	7,654	104.6

② 年度別療法単位数

項目 \ 年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
				%
脳血管1単位	2,267	2,458	3,139	127.7
脳血管2単位	2,812	2,882	2,853	99.0
脳血管3単位	86	563	32	5.7
廃用1単位	864	459	464	101.1
廃用2単位	158	48	47	97.9
廃用3単位	9	0	0	－
呼吸器1単位	950	1,242	931	75.0
呼吸器2単位	151	110	109	99.1
呼吸器3単位	1	0	2	皆増
がん患者リハ1単位	81	66	17	25.8
がん患者リハ2単位	15	2	0	皆減
合 計	7,394	7,830	7,594	97.0

18 放射線科・放射線技術科

(1) 部門別年度別総件数

項目 \ 年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	件	件	件	%
一般撮影部門	28,204	28,187	27,466	97.4
マンモグラフィ部門	1,472	1,889	1,812	95.9
ポータブル撮影部門	7,773	8,307	6,309	75.9
CT部門	14,497	14,974	13,895	92.8
MRI部門	6,085	6,247	6,346	101.6
血管撮影部門	224	160	201	125.6
透視部門	1,934	2,018	1,829	90.6
RI部門	574	489	434	88.8
放射線治療部門	4,378	5,028	3,245	64.5
骨密度検査部門	259	825	854	103.5
画像入出力部門	9,209	9,018	10,216	113.3
合計件数	74,609	77,142	72,607	94.1

(2) 一般撮影部門

項目 \ 年度	令和3年度				令和4年度				令和5年度				前年度比
	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	%
頭頸部	44	60	0	104	36	49	0	85	46	60	0	106	124.7
脊椎	567	1,989	0	2,556	570	1,895	0	2,465	456	1,734	0	2,190	88.8
胸部・胸郭	2,348	10,603	3,725	16,676	2,270	11,005	4,038	17,313	2,124	11,166	4,103	17,393	100.5
腹部・骨盤	861	2,319	0	3,180	989	2,159	0	3,148	783	2,091	0	2,874	91.3
上肢	224	1,718	0	1,942	191	1,638	0	1,829	212	1,477	0	1,689	92.3
下肢	805	1,852	0	2,657	687	1,585	0	2,272	542	1,562	0	2,104	92.6
歯牙	119	970	0	1,089	120	955	0	1,075	165	945	0	1,110	103.3
合計件数	4,968	19,511	3,725	28,204	4,863	19,286	4,038	28,187	4,328	19,035	4,103	27,466	97.4
合計人数	4,240	17,625	3,725	25,590	4,154	17,274	4,038	25,466	3,949	17,199	4,103	25,251	99.2

(3) マンモグラフィ部門

項目 \ 年度	令和3年度				令和4年度				令和5年度				前年度比
	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	%
撮影	3	561	906	1,470	5	656	1,224	1,885	1	576	1,232	1,809	96.0
バイオプシー	0	2	0	2	0	4	0	4	0	3	0	3	75.0
合計件数(人数)	3	563	906	1,472	5	660	1,224	1,889	1	579	1,232	1,812	95.9

(4) ポータブル撮影部門

項目 \ 年度	令和3年度			令和4年度			令和5年度			前年度比
	入院	外来	計	入院	外来	計	入院	外来	計	
	件	件	件	件	件	件	件	件	件	%
頭頸部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
脊椎	204	0	204	213	1	214	231	80	311	145.3
胸部・胸郭	4,849	91	4,940	5,374	108	5,482	3,907	80	3,987	72.7
腹部・骨盤	1,935	8	1,943	1,994	19	2,013	1,594	15	1,609	79.9
上肢	85	10	95	93	10	103	107	9	116	112.6
下肢	263	0	263	220	0	220	179	1	180	81.8
O-arm	23	0	23	34	0	34	54	0	54	158.8
C-arm	281	24	305	230	12	242	52	0	52	21.5
合計件数	7,640	133	7,773	8,158	150	8,308	6,124	185	6,309	75.9
合計人数	6,596	131	6,727	6,617	147	6,764	5,192	93	5,285	78.1

※令和元年度よりC-armの項目を透視部門より移動

(5) CT部門

項目 \ 年度	令和3年度				令和4年度				令和5年度				前年度比
	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	
	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	%
頭部	1,051	2,680	0	3,731	997	2,980	0	3,977	946	2,713	0	3,659	92.0
体幹部	1,676	8,314	49	10,039	1,721	8,520	53	10,294	1,378	8,082	51	9,511	92.4
四肢部	152	487	0	639	133	502	0	635	114	529	0	643	101.3
心臓	10	78	0	88	3	65	0	68	10	72	0	82	120.6
合計件数	2,889	11,559	49	14,497	2,854	12,067	53	14,974	2,448	11,396	51	13,895	92.8
造影数	540	4,121	0	4,661	551	4,007	0	4,558	500	3,544	0	4,044	88.7
造影率 (%)	20.7	40.3	0.0	36.1	23.0	38.2	0.0	35.2	23.1	35.5	0.0	33.2	94.3
合計人数	2,611	10,238	49	12,898	2,398	10,499	53	12,950	2,165	9,971	51	12,187	94.1

(6) MRI部門

項目 \ 年度	令和3年度				令和4年度				令和5年度				前年度比
	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	
	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	%
頭部	456	2,539	154	3,149	425	2,644	201	3,270	482	2,762	217	3,461	105.8
頸部	65	294	0	359	149	508	0	657	151	494	0	645	98.2
胸部	2	87	0	89	0	100	0	100	0	95	0	95	95.0
腹部	71	453	0	524	52	388	0	440	92	371	0	463	105.2
骨盤	48	713	0	761	23	611	0	634	26	513	0	539	85.0
脊椎	175	635	0	810	164	648	0	812	157	655	0	812	100.0
四肢部	69	310	0	379	36	265	0	301	49	261	0	310	103.0
軟部・皮膚	0	14	0	14	0	33	0	33	0	21	0	21	63.6
合計件数	886	5,045	154	6,085	849	5,197	201	6,247	957	5,172	217	6,346	101.6
造影数	109	1,123	0	1,232	107	1,003	0	1,110	93	917	0	1,010	91.0
造影率 (%)	13.4	23.6	0.0	21.5	15.6	21.2	0.0	19.8	11.8	20.8	0.0	18.6	94.3
合計人数	812	4,766	154	5,732	685	4,724	201	5,610	790	4,409	217	5,416	96.5

(7) 血管撮影部門

(a) アンギオ検査室

項目 \ 年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度			前年度比
		造影	治療	計	造影	治療	計	造影	治療	計	
内科	頭頸部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	－
	腹部	3	80	83	3	37	40	6	48	54	135.0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	－
	計	3	80	83	3	37	40	6	48	54	135.0
外科	頭頸部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	－
	腹部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	－
	四肢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	－
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	－
脳神経外科	頭頸部	23	38	61	27	25	52	24	39	63	121.2
	腹部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	－
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	－
	計	23	38	61	27	25	52	24	39	63	121.2
泌尿器科	頭頸部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	－
	腹部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	－
	その他	0	6	6	0	3	3	0	6	6	200.0
	計	0	6	6	0	3	3	0	6	6	200.0
小児科	頭頸部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	－
	腹部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	－
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	－
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	－
合 計		26	124	150	30	65	95	30	0	123	129.5

(b) 心臓カテーテル検査室

項目 \ 年度		令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
		件	件	件	%
C A G		17	23	33	143.5
P C I ・ I V R		20	17	20	117.6
四肢部		2	3	5	166.7
ペースメーカー		35	12	20	166.7
合計件数		74	55	78	141.8
合計人数		73	53	68	128.3

(8) 透視 (X-T V) 部門

年度 項目	令和3年度				令和4年度				令和5年度				前年度比
	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	
	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	%
食道	27	1	0	28	38	4	0	42	20	0	0	20	47.6
胃	37	39	868	944	33	37	803	873	20	48	776	844	96.7
腸	48	45	0	93	53	37	0	90	49	51	0	100	111.1
肝胆膵	182	6	0	188	187	12	0	199	184	6	0	190	95.5
腎膀胱	73	161	0	234	87	119	0	206	76	124	0	200	97.1
脈管	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
ミエロ・ブロック	39	7	0	46	93	21	0	114	91	27	0	118	103.5
気管支	73	0	0	73	70	0	0	70	45	0	0	45	64.3
瘻孔	51	13	0	64	24	24	0	48	18	8	0	26	54.2
整復	5	17	0	22	6	20	0	26	0	18	0	18	69.2
カテ挿入	210	32	0	242	328	22	0	350	251	17	0	268	76.6
合計件数	745	321	868	1,934	919	296	803	2,018	754	299	776	1,829	90.6
合計人数	745	321	868	1,934	919	296	803	2,018	754	299	776	1,829	90.6

(9) R I 部門

年度 項目	令和3年度			令和4年度			令和5年度			前年度比
	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	
	件	件	件	件	件	件	件	件	件	%
脳・脳血流	11	98	109	19	76	95	24	70	94	98.9
腎	0	6	6	0	7	7	0	9	9	128.6
甲状腺・唾液腺	0	6	6	2	6	8	0	3	3	37.5
心筋	33	22	55	26	28	54	22	41	63	116.7
骨	10	323	333	13	263	276	4	191	195	70.7
腫瘍	2	1	3	1	1	2	5	0	5	250.0
センチネルリンパ節	26	22	36	5	41	46	8	49	57	123.9
その他	2	1	3	0	1	1	0	2	2	200.0
RI内用療法	0	11	16	0	0	0	0	6	6	皆増
合計件数(合計人数)	84	490	574	66	423	489	63	371	434	88.8

(10) 放射線治療部門

部位	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
中枢神経	件	2	4	2	%
頭頸部		2	4	1	25.0
食道		6	12	11	91.7
肺・縦隔		35	41	27	65.9
乳腺		47	60	54	90.0
肝・胆・膵		4	3	3	100.0
消化器		8	8	6	75.0
造血リンパ		3	2	1	50.0
婦人生殖		10	1	7	700.0
泌尿生殖		51	55	24	43.6
皮膚・軟部		0	1	6	600.0
その他		12	0	3	皆増
合計件数		180	191	149	78.0
延べ件数		4,378	5,028	3,245	64.5
延べ治療患者数		4,063	4,479	2,946	65.8

※ ただし、転移病巣を治療しても原発病巣をカウント

(11) 骨密度検査部門

	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
前腕部	件	0	0	0	%
腰椎		7	21	28	133.3
大腿骨		4	12	13	108.3
腰椎+大腿骨		248	792	813	102.7
合計件数（人数）		259	825	854	103.5

（故障のため、令和2年11月2日から令和3年10月10日まで検査施行できず）

(12) 画像入出力部門

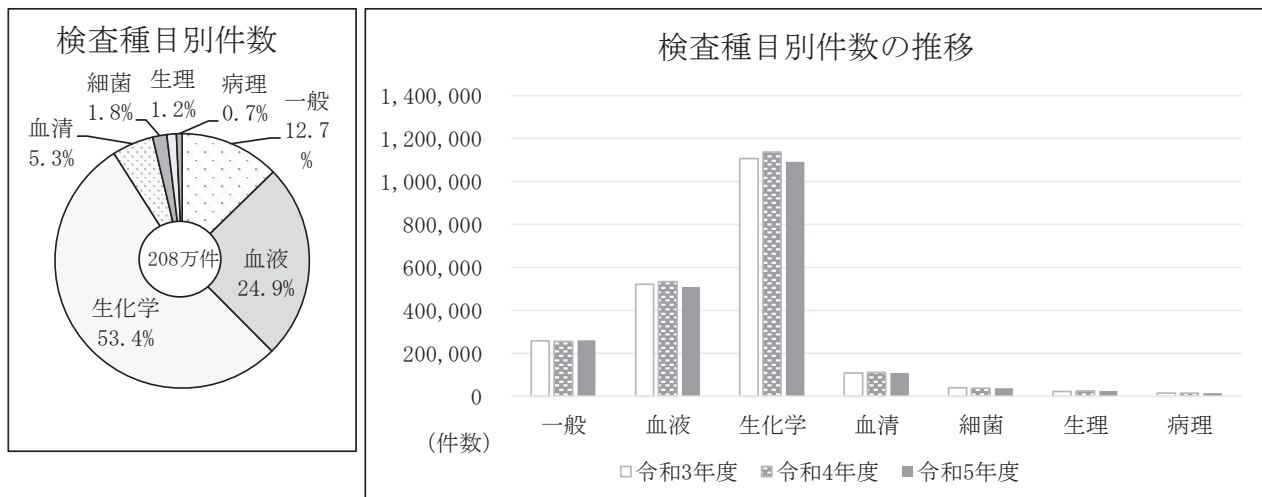
項目	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
画像取り込み	件	件	件	件	%
	C D取り込み	5,441	5,649	5,930	105.0
	フィルム取り込み	36	38	64	168.4
	他媒体取り込み	0	0	0	-
	合計件数	5,477	5,687	5,994	105.4
画像出力	C D出力件数	3,732	3,331	4,222	126.7
合計件数		9,209	9,018	10,216	113.3

19 中央検査科・病理診断科

(1) 検査種目別件数の推移

種目	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
		件	件	件	%
一 般		257,127	256,116	259,326	101.3
血 液		520,611	533,732	507,474	95.1
生 化 学		1,106,662	1,136,309	1,091,331	96.0
血 清		109,097	111,403	107,513	96.5
細 菌		39,185	38,318	36,818	96.1
生 理		23,158	25,107	24,651	98.2
病 理		15,316	15,095	14,802	98.1
外 来 採 血 者 数		42,597	42,184	40,189	95.3
合 計		2,113,753	2,158,264	2,082,104	96.5

(2) 検査種目別件数の構成比



(3) 年度別検査項目別件数

種 別	検査項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
					%
尿検査	尿中一般物質検査（定性・半定量）	203,256	201,868	204,922	101.5
	尿中一般物質検査（定量）	7,324	6,630	5,999	90.5
	沈渣・潜血反応検査	33,423	34,004	34,388	101.1
	その他	2,898	3,086	2,840	92.0
	計	246,901	245,588	248,149	101.0
糞便検査	潜血反応	5,375	5,804	5,972	102.9
	虫卵検査	7	2	2	100.0
	その他	4	0	2	皆増
	計	5,386	5,806	5,976	102.9
血液一般検査	血液細胞学的検査	478,584	487,873	470,398	96.4
	凝固機能検査	38,089	42,228	33,222	78.7
	血液型検査	3,938	3,630	3,854	106.2
	その他	0	1	0	皆減
	計	520,611	533,732	507,474	95.1
髄液・穿刺液・ 胃・十二指腸液 検査	脳脊髄一般検査	872	1,217	1,106	90.9
	穿刺液・精液一般検査	3,968	3,505	4,095	116.8
	計	4,840	4,722	5,201	110.1
生化学検査	蛋白代謝検査	391,728	404,579	389,860	96.4
	酵素・アイソザイム検査	353,541	360,903	344,823	95.5
	無機成分検査	197,829	206,477	198,280	96.0
	脂肪代謝検査	83,634	83,245	81,103	97.4
	糖代謝検査	59,577	58,581	56,812	97.0
	内分泌学的検査	16,944	19,371	17,282	89.2
	血中薬物濃度測定検査	445	437	323	73.9
	血液ガス分析検査	2,529	2,396	2,615	109.1
	その他	435	320	233	72.8
	計	1,106,662	1,136,309	1,091,331	96.0
血清検査	感染症血清学的検査	52,733	53,256	53,035	99.6
	ウイルス抗原抗体検査	2,689	3,499	2,260	64.6
	交差適合試験他検査	5,379	5,379	5,395	100.3
	免疫グロブリンと補体検査	4,108	4,108	4,097	99.7
	腫瘍マーカー検査	28,076	28,479	27,334	96.0
	肝炎ウイルス検査	16,112	16,682	15,392	92.3
	計	109,097	111,403	107,513	96.5
細菌検査	一般細菌検査	27,602	26,576	29,006	109.1
	結核菌検査	1,607	1,576	1,945	123.4
	真菌検査	2,033	2,281	2,079	91.1
	その他	7,943	7,885	3,788	48.0
	計	39,185	38,318	36,818	96.1
生理検査	心電図・心音図検査	13,486	12,983	12,909	99.4
	脳波・筋電図脳幹反応検査	625	570	539	94.6
	超音波診断検査	7,331	7,349	6,951	94.6
	肺機能検査	582	2,918	3,074	105.3
	耳鼻科関連検査	728	851	813	95.5
	その他	406	436	365	83.7
	計	23,158	25,107	24,651	98.2
病理検査	病理組織検査	2,954	2,685	2,662	99.1
	細胞診検査	4,601	4,688	4,673	99.7
	特殊染色	7,761	7,722	7,467	96.7
	計	15,316	15,095	14,802	98.1
外来採血実施数		42,597	42,184	40,189	95.3
合 計		2,113,753	2,158,264	2,082,104	96.5

(4) 剖検件数

項目 \ 年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	件	件	件	%
死 亡 件 数	475	484	440	90.9
剖 検 件 数	1	1	4	400.0
剖 検 率 (%)	0.2	0.2	0.9	440.0

	内科
死 亡 件 数	307
剖 検 件 数	4
剖 検 率 (%)	1.3

(5) 細胞診件数

項目 \ 年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	件	件	件	%
婦 人 科	2,925	2,919	2,884	98.8
喀 痰	162	188	169	89.9
胸 水	90	90	78	86.7
腹 水	114	108	105	97.2
尿	1,061	1,142	1,260	110.3
腓 液 ・ 胆 汁	31	40	11	27.5
髄 液	12	14	13	92.9
乳房穿刺吸引	12	7	4	57.1
リンパ節	17	18	7	38.9
甲状腺穿刺吸引	14	19	13	68.4
気管支擦過	85	81	59	72.8
そ の 他	78	62	70	112.9
合 計	4,601	4,688	4,673	99.7

(6) 細菌同定検査情報

重複株を除外（月毎）にて抽出

菌 名	口腔、気道呼吸器由来菌		消化器由来菌		泌尿器、生殖器由来菌		血液穿刺液由来菌		その他の部位からの由来菌	
	株 数	比 率	株 数	比 率	株 数	比 率	株 数	比 率	株 数	比 率
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
<i>Staphylococcus aureus</i> MRSA	38	6.3	3	4.1	6	0.6	4	2.1	7	4.1
<i>Staphylococcus aureus</i> MSSA	63	10.4	0	0.0	18	1.9	9	4.8	19	11.2
<i>Coagulase-negative Staphylococcus</i> (CNS)	80	13.2	5	6.8	13	1.4	23	12.2	16	9.4
<i>Streptococcus pyogenes</i> (Group A)	2	0.3	0	0.0	3	0.3	0	0.0	1	0.6
<i>Streptococcus agalactiae</i> (Group B)	18	3.0	0	0.0	79	8.5	4	2.1	5	2.9
Group C <i>Streptococcus</i>	2	0.3	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0
Group F <i>Streptococcus</i>	0	0.0	0	0.0	3	0.3	1	0.5	3	1.8
Group G <i>Streptococcus</i>	4	0.7	0	0.0	8	0.9	0	0.0	3	1.8
<i>Streptococcus dysgalactiae</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	2	1.1	0	0.0
<i>Streptococcus anginosus</i> group	0	0.0	0	0.0	1	0.1	2	1.1	0	0.0
<i>Streptococcus bovis</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.1	0	0.0
<i>Streptococcus mitis</i> group	1	0.2	0	0.0	8	0.9	2	1.1	4	2.4
<i>Streptococcus</i> species	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0
<i>Viridans Streptococcus</i>	14	2.3	1	1.4	18	1.9	3	1.6	4	2.4
<i>Streptococcus pneumoniae</i> PSSP	36	5.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Enterococcus faecalis</i>	2	0.3	4	5.5	87	9.4	0	0.0	10	5.9
<i>Enterococcus faecium</i>	0	0.0	2	2.7	17	1.8	4	2.1	1	0.6
<i>Enterococcus casseliflavus</i>	0	0.0	3	4.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Enterococcus gallinarum</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Enterococcus raffinosus</i>	0	0.0	0	0.0	3	0.3	0	0.0	1	0.6
<i>Enterococcus avium</i>	0	0.0	2	2.7	1	0.1	1	0.5	1	0.6
<i>Enterococcus durans/hirae</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Enterococcus</i> species	0	0.0	1	1.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Aerococcus urinae</i>	0	0.0	0	0.0	5	0.5	0	0.0	0	0.0
<i>Aerococcus viridans</i>	0	0.0	0	0.0	5	0.5	0	0.0	0	0.0
<i>Bacillus</i> species	0	0.0	0	0.0	0	0.0	15	8.0	0	0.0
<i>Corynebacterium</i> species	6	1.0	0	0.0	15	1.6	5	2.7	4	2.4
<i>Escherichia coli</i> (ESBLを除く)	17	2.8	6	8.2	229	24.8	29	15.4	14	8.2
<i>Escherichia coli</i> ESBL	8	1.3	0	0.0	47	5.1	7	3.7	3	1.8
<i>Escherichia coli</i> (EHEC)	0	0.0	2	2.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Klebsiella pneumoniae</i> (ESBLを除く)	53	8.7	9	12.3	59	6.4	9	4.8	5	2.9
<i>Klebsiella pneumoniae</i> ESBL	5	0.8	0	0.0	7	0.8	0	0.0	0	0.0
<i>Klebsiella oxytoca</i>	9	1.5	6	8.2	17	1.8	4	2.1	2	1.2
<i>Klebsiella</i> species	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Citrobacter freundii</i>	2	0.3	0	0.0	11	1.2	1	0.5	0	0.0
<i>Citrobacter koseri</i>	2	0.3	0	0.0	13	1.4	0	0.0	3	1.8
<i>Citrobacter braakii</i>	0	0.0	0	0.0	2	0.2	0	0.0	2	1.2
<i>Citrobacter</i> species	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Citrobacter youngae</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Proteus mirabilis</i> (ESBLを除く)	6	1.0	1	1.4	30	3.2	2	1.1	6	3.5
<i>Proteus mirabilis</i> ESBL	0	0.0	0	0.0	4	0.4	0	0.0	0	0.0
<i>Proteus vulgaris</i>	0	0.0	1	1.4	9	1.0	1	0.5	1	0.6
<i>Providencia rettgeri</i>	0	0.0	0	0.0	3	0.3	1	0.5	0	0.0
<i>Enterobacter aerogenes</i>	6	1.0	3	4.1	12	1.3	0	0.0	4	2.4

菌 名	口腔、気道呼吸器由来菌		消化器由来菌		泌尿器、生殖器由来菌		血液穿刺液由来菌		その他の部位からの由来菌	
	株 数	比 率	株 数	比 率	株 数	比 率	株 数	比 率	株 数	比 率
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
<i>Enterobacter cloacae</i>	13	2.1	0	0.0	17	1.8	3	1.6	1	0.6
<i>Enterobacter hormaechei</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0
<i>Pasteurella multocida</i>	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	2.4
<i>Edwardsiella tarda</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0
<i>Morganella morganii</i>	0	0.0	0	0.0	19	2.1	0	0.0	4	2.4
<i>Serratia marcescens</i>	4	0.7	1	1.4	7	0.8	0	0.0	2	1.2
<i>Serratia liquefaciens</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Campylobacter</i> species	0	0.0	9	12.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Haemophilus influenzae</i>	72	11.8	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Haemophilus influenzae</i> (BLNAR)	9	1.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Haemophilus parainfluenzae</i>	3	0.5	0	0.0	1	0.1	0	0.0	1	0.6
<i>Moraxella catarrhalis</i>	37	6.1	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0
<i>Aeromonas caviae</i>	0	0.0	1	1.4	0	0.0	1	0.5	0	0.0
<i>Aeromonas hydrophila</i> group	0	0.0	1	1.4	0	0.0	1	0.5	1	0.6
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	45	7.4	4	5.5	55	5.9	5	2.7	11	6.5
<i>Pseudomonas aeruginosa</i> (MDRP)	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Pseudomonas fluorescens/putida</i>	3	0.5	0	0.0	1	0.1	2	1.1	0	0.0
<i>Pseudomonas</i> species	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.6
<i>Acinetobacter baumannii/haemolyticus</i>	4	0.7	1	1.4	2	0.2	1	0.5	0	0.0
<i>Acinetobacter lwoffii</i>	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Alcaligenes faecalis</i>	0	0.0	0	0.0	2	0.2	0	0.0	0	0.0
<i>Alcaligenes</i> species	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.6
<i>Stenotrophomonas maltophilia</i>	3	0.5	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Salmonella</i> species	0	0.0	1	1.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Yersinia enterocolitica</i> group	0	0.0	2	2.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Bacteroides fragilis</i> group	0	0.0	0	0.0	3	0.3	5	2.7	4	2.4
<i>Bacteroides</i> species	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	3	1.8
<i>Bacteroides thetaiotaomicron</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	4	2.1	0	0.0
<i>Bifidobacterium</i> species	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Clostridium perfringens</i>	0	0.0	3	4.1	0	0.0	3	1.6	0	0.0
<i>Clostridium ramosum</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0
<i>Fusobacterium nucleatum</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.1	0	0.0
<i>Fusobacterium</i> species	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.1	0	0.0
<i>Lactobacillus acidophilus</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.6
<i>Parvimonas micra</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	1	0.6
<i>Peptoniphilus</i> species	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	1	0.6
<i>Peptostreptococcus</i> species	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.2
<i>Porphyromonas asaccharolyticus</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Prevotella</i> species	0	0.0	1	1.4	0	0.0	4	2.1	2	1.2
<i>Propionibacterium acnes</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	1	0.6
<i>Propionibacterium</i> species	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0
<i>Clostridium butyricum</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0
<i>Clostridium innocuum</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0
<i>Chryseobacterium (F.) indologenes</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Gemella</i> species	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0
<i>Anaerococcus prevotii</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	1.8

菌名	口腔、気道呼吸器由来菌		消化器由来菌		泌尿器、生殖器由来菌		血液穿刺液由来菌		その他の部位からの由来菌	
	株数	比率	株数	比率	株数	比率	株数	比率	株数	比率
<i>Aspergillus fumigatus</i>	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Aspergillus</i> species	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Candida</i> species	36	5.9	0	0.0	71	7.7	11	5.9	6	3.5
<i>Sporothrix schenkii</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.6
計	608	100.0	73	100.0	925	100.0	188	100.0	170	100.0

前年度（令和4年度）株数	477		57		814		208		210	
前年度比(%)	127.5		128.1		113.6		90.4		81.0	

(7) 外部委託検査件数

項目 \ 年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
血液学的検査	件 111	件 168	件 163	% 97.0
生化学的検査	7,651	9,030	8,967	99.3
免疫学的検査	7,791	9,367	8,582	91.6
微生物学的検査	1,210	1,235	1,196	96.8
病理学的検査	249	225	194	86.2
尿・糞便等検査	132	152	170	111.8
遺伝子・染色体検査	1,658	1,267	327	25.8
その他	1,018	869	855	98.4
合計	19,820	22,313	20,454	91.7

(8) 血液製剤使用状況

製剤種類		単位	令和4年度	令和5年度	前年度比
赤血球製剤	照射赤血球液		Bag数	Bag数	%
		1単位	4	3	
		2単位	988	980	
		合計	992	983	99.1
		合計（単位数）	1,980	1,963	99.1
血小板製剤	照射濃厚血小板	10単位	71	30	
		20単位	0	0	
		合計	71	30	42.3
		合計（単位数）	710	300	42.3
血漿製剤	新鮮凍結血漿	1単位	0	0	
		2単位	113	73	
		4単位	0	0	
		合計	113	73	64.6
		合計（単位数）	226	146	64.6

(9) 血液製剤購入・廃棄状況

①納品状況

製剤種類		単位	令和4年度		令和5年度		前年度比 (金額)
			Bag数	円	Bag数	円	%
赤血球 製剤	照射赤血球 液	1単位	4	41,565	3	27,201	99.5
		2単位	989	17,932,548	985	17,860,020	
		合計	993	17,974,113	988	17,887,221	
血小板 製剤	照射濃厚血 小板	10単位	71	5,803,824	30	2,452,320	42.3
		20単位	0	0	0	0	
		合計	71	5,803,824	30	2,452,320	
血漿製 剤	新鮮凍結血 漿	1単位	0	0	0	0	65.4
		2単位	127	2,326,894	83	1,520,726	
		4単位	0	0	0	0	
		合計	127	2,326,894	83	1,520,726	

②廃棄状況

製剤種類		単位	令和4年度		令和5年度		前年度比 (金額)
			Bag数	円	Bag数	円	%
赤血球 製剤	照射赤血球 液	1単位	0	0	0	0	75.0
		2単位	4	72,528	3	54,396	
		合計	4	72,528	3	54,396	
血小板 製剤	照射濃厚血 小板	10単位	0	0	0	0	-
		20単位	0	0	0	0	
		合計	0	0	0	0	
血漿製 剤	新鮮凍結血 漿	1単位	0	0	0	0	84.6
		2単位	13	238,186	11	201,542	
		4単位	0	0	0	0	
		合計	13	238,186	11	201,542	

(10) 自己血採血状況

	採血件数		患者実数・構成比	
	200mL	400mL	患者実数	構成比
	件	件	人	%
外科	0	0	0	0.0
整形外科	1	3	2	9.5
泌尿器科	1	18	19	90.5
産婦人科	0	0	0	0.0
血管外科	0	0	0	0.0
脳外科	0	0	0	0.0
合計	2	21	21	100.0
前年度合計	0	45	31	-
前年度比(%)	0.0	46.7	67.7	-

(11) お手軽けんさ

① 受験者数

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
				前年度比
	人	人	人	%
男性	57	64	64	100.0
女性	48	65	50	76.9
計	105	129	114	88.4

② 項目別件数

項目 \ 年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	人	人	人	%
標準セット	19	24	24	100.0
糖脂質セット	4	7	6	85.7
貧血セット	1	1	2	200.0
肝機能セット	2	1	1	100.0
肝炎セット	0	0	0	-
血液型検査	0	1	1	100.0
前立腺検査	1	1	3	300.0
甲状腺検査	4	8	9	112.5
腫瘍マーカー	93	115	102	88.7
アレルギー1種類	0	0	1	皆増
アレルギー3種類	0	0	2	皆増
アレルギー5種類	0	1	0	皆減
便潜血検査	2	1	1	100.0
骨密度検査	0	2	1	50.0
頸部血管エコー検査	13	18	15	83.3
A B I 検査	12	7	7	100.0
ピロリ検査	3	1	5	500.0
ウイルス抗体1種	2	1	0	皆減
ウイルス抗体2種	1	3	0	皆減
ウイルス抗体3種	0	0	0	-
ウイルス抗体4種	6	7	2	28.6
B型肝炎ワクチン	1	5	0	皆減
合計	164	204	182	89.2

20 栄養管理科

(1) 患者延食数

① 総食数

内容 \ 年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度		
	延食数	一日平均	延食数	一日平均	延食数	一日平均	前年度比
一般食	食	食	食	食	食	食	%
一般食(嚥下調整食)	124,297	339.6	125,935	345.0	124,859	341.1	99.8
特別食	32,948	90.0	35,965	98.5	36,671	100.2	
経腸栄養剤 (濃厚流動食)	110,923	303.1	103,273	282.9	107,107	292.6	103.7
	12,042	32.9	10,625	29.1	11,401	31.2	107.3
合計	280,210	767.7	275,798	755.6	280,038	765.1	101.5

※人間ドック食は稼働日1日あたりの平均。令和3年度より人間ドック食の提供を終了。

② 特別食食数

内容 \ 年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度		
	延食数	一日平均	延食数	一日平均	延食数	一日平均	前年度比
肝臓病食	食	食	食	食	食	食	%
胆嚢・胆管炎食	8,330	22.8	6,619	18.1	5,643	15.4	85.3
膵臓病食	3,990	10.9	3,574	9.8	3,967	10.8	111.0
腎臓病食	815	2.2	542	1.5	314	0.9	57.9
糖尿病食 (カロリーコントロール食)	7,861	21.5	6,624	18.1	6,527	17.8	98.5
減塩食(心臓病含む)	35,380	96.9	36,184	99.1	38,031	103.9	105.1
胃・十二指腸潰瘍食	27,698	75.9	25,126	68.8	26,376	72.1	105.0
胃腸炎食	2,427	6.6	1,301	3.6	2,134	5.8	164.0
炎症性腸疾患 (低残渣食含む)	686	1.9	761	2.1	1,071	2.9	140.7
痛風食	3,589	9.8	4,085	11.2	2,942	8.0	72.0
貧血食	183	0.5	22	0.1	4	0.0	18.2
術後食	2,677	7.3	1,511	4.1	1,291	3.5	85.4
特別食	7,541	20.7	8,455	23.2	9,311	25.4	110.1
合計	9,746	26.7	8,469	23.2	9,496	25.9	112.1

③ 経腸栄養剤食数

内容 \ 年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度		
	延食数	一日平均	延食数	一日平均	延食数	一日平均	前年度比
濃厚流動食	食	食	食	食	食	食	%
	12,042	33.0	10,625	29.1	11,401	31.2	107.3

(2) 個人指導件数

※()は算定なし：合計に含む

品目	令和3年度			令和4年度			令和5年度		
	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
糖 尿 病 食	117 (24)	125	242 (24)	89 (17)	83	172 (17)	112 (8)	67	179 (8)
妊 娠 糖 尿 病		22	22 (0)		20 (1)	20 (1)		26	26 (0)
Eコントロール 食 (肥 満)	2	17 (4)	19 (4)	4	10 (2)	14 (2)	8	6	14 (0)
糖尿性腎症食	3 (2)	10	13 (2)	1	3	4 (0)	1 (1)	1	2 (1)
脂質異常症食	11	28	39 (0)	20	14	34 (0)	29 (2)	6	35 (2)
肝 臓 病 食	18 (1)	4	22 (1)	6	3	9 (0)	4	3	7 (0)
膵 臓 病 食	5		5 (0)	3 (1)		3 (1)	3		3 (0)
胆 嚢 炎 ・ 胆 石 症 食	12	2 (1)	14 (1)	8 (1)	2	10 (1)	13	1	14 (0)
術 後 食	124 (3)	52	176 (3)	108 (6)	70	178 (6)	95 (2)	65	160 (2)
術前栄養相談	8	80	88 (0)	9	62	71 (0)	4	55	59 (0)
胃 十 二 指 腸 潰 瘍 食	19	1	20 (0)	16 (2)	1	17 (2)	6	0	6 (0)
心 不 全 食	3 (2)		3 (2)	4		4 (0)	1		1 (0)
心 筋 梗 塞 食	2		2 (0)	3	1	4 (0)	1		1 (0)
塩 分 制 限 食	39 (3)	11	50 (3)	33 (4)	8	41 (4)	61 (3)	5	66 (3)
腎 臓 病 食 ・ 透 析 食	21 (1)	251	272 (1)	25 (2)	294	319 (2)	32 (2)	182	214 (2)
高尿酸血症食		3	3 (0)	(1)	1	1 (1)	1	1	2 (0)
炎症性腸疾患食	3	4	7 (0)	7	2	9 (0)	1	4	5 (0)
アレルギー食			0 (0)		12	12 (0)		6 (1)	6 (1)
消化器疾患食	8 (5)	1	9 (5)	4 (6)	2 (2)	6 (8)	6 (1)		6 (1)
ワーファリン食	2		2 (0)			0 (0)	(1)		0 (1)
栄 養 相 談	2 (6)	2 (2)	4 (8)	(1)	1	1 (1)		4 (3)	4 (3)
貧 血 食	3		3 (0)	2	1	3 (0)		2	2 (0)
フ ェ ニ ー ル ケ ト ン 尿 症		1	1 (0)			0 (0)			0 (0)
低 栄 養	14 (10)	1 (2)	15 (12)	2	5	7 (0)	5		5 (0)
摂食嚥下障害	9 (1)		9 (1)	5 (7)		5 (7)	6 (3)	1	7 (3)
E S D 後	16		16 (0)	9 (1)		9 (1)	24	1	25 (0)
低 体 重	1 (4)	1	2 (4)		4	4 (0)	1	3	4 (0)
便 秘			0 (0)			0 (0)			0 (0)
食 欲 不 振			0 (0)		1	1 (0)		(1)	0 (1)
が ん	12 (1)	15	27 (1)	8	2	10 (0)	5	7	12 (0)
慢 性 閉 塞 性 呼 吸 器 疾 患	10 (2)	17	27 (2)	4	1	5 (0)	5		5 (0)
腸内環境整備	13	18	31		31	31 (0)	1		1 (0)
透 析 予 防		12	12 (0)		15	15 (0)		15	15 (0)
そ の 他	1	(1)	1 (1)			0 (0)	1		1 (0)
合 計	543 (65)	688 (10)	1,231 (75)	419 (49)	654 (5)	1,073 (54)	449 (23)	466 (5)	915 (28)

(3) 選択食延食数

年度 項目	令和3年度		令和4年度		令和5年度		
	年間総数	月平均	年間総数	月平均	年間総数	月平均	前年度比
延食数	食 12,892	食 1,098	食 13,178	食 1,098	食 13,594	食 1,133	% 103.2

※ 対象：常食・産科食・貧血食

(4) お祝い膳延食数

年度 項目	令和3年度		令和4年度		令和5年度		
	年間総数	月平均	年間総数	月平均	年間総数	月平均	前年度比
延食数	食 252	食 21	食 220	食 18	食 185	食 15	% 84.1

※ 対象：産科食

17 臨床工学科

(1) 医療機器管理

項 目	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
点検件数	件	5,410	4,997	8,308
修理件数	件	117	95	124
機器研修会	回	12	17	11

(2) 臨床技術提供

① 呼吸療法部門

項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	件	件	件
呼吸器回診	1,085	994	777
RST回診患者数	13	8	10
RST回診件数	31	14	11

② 循環器部門

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	件	件	件
心臓カテーテル検査	18	22	33
心臓カテーテル治療	19	17	20
経皮的心肺補助装置	0	0	0
大動脈内バルーンパンピング	1	0	0
血管内超音波診断	16	16	16
下肢動脈カテーテル治療	0	0	0
ペースメーカー植込み・交換	35	11	17
体外式ペースメーカー	12	5	8
ペースメーカー外来（定期）	138	170	151
ペースメーカー病棟点検（不定期）	55	34	35
人工心肺装置使用件数	0	0	0
心筋保護液供給装置使用件数	0	0	0
脳分離体外循環件数	0	0	0
Off pump CABG	0	0	0

③ 血液浄化部門

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	件	件	件
出張血液透析(HD)	78	68	17
出張血液濾過(HF)	0	0	0
出張血液透析濾過(HDF)	0	0	0
持続的腎代替療法(CRRT)	15	21	15
血液吸着(HA)	5	12	20
血漿吸着(PA)	15	3	7
血漿交換(PE)	6	0	5
腹水濾過濃縮(CART)	36	35	52
白血球除去療法(LCAP/GCAP)	2	0	0

④ 高気圧酸素部門

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	件	件	件
減圧症又は空気塞栓に対するもの	0	0	0
その他のもの	336	404	304
合計	336	404	304

⑤ 手術室部門

項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	件	件	件
回収式自己血輸血システム	0	0	0
手術用ナビゲーションシステム	8	9	13
手術用内視鏡システム	343	289	282
手術室不具合対応	48	55	47
術中神経モニタリングシステム	6	4	10

⑥ NICU部門

項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	件	件	件
新生児呼吸器回診	583	492	520

22 通院治療センター

(ケモ・ICI)

科別 \ 年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	人	人	人	%
内 科	847	778	822	105.7
外 科	702	583	451	77.4
乳 腺 外 科	－	334	228	68.3
婦 人 科	119	130	112	86.2
呼 吸 器 外 科	1	0	0	－
皮 膚 科	69	11	14	127.3
泌 尿 器 科	177	157	171	108.9
脳 外 科	38	54	65	120.4
合 計	1,953	2,047	1,863	91.0

(レミケード・インフリキシマブ)

科別 \ 年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	人	人	人	%
内 科	280	304	255	83.9
皮 膚 科	13	7	6	85.7
整 形 外 科	12	10	18	180.0
合 計	305	321	279	86.9

23 再診電話受付受診件数

(1) 診療科別

内容 \ 年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	人	人	人	%
内 科	26	15	0	皆減
神 経 内 科	0	0	0	-
循 環 器 内 科	1	0	0	-
精 神 科	0	0	0	-
小 児 科	22	13	10	76.9
外 科	3	1	2	200.0
呼 吸 器 外 科	1	0	0	-
心 臓 血 管 外 科	0	0	0	-
整 形 外 科	5	4	1	25.0
脳 神 経 外 科	3	2	2	100.0
皮 膚 科	18	11	11	100.0
泌 尿 器 科	11	11	14	127.3
産 婦 人 科	11	15	12	80.0
眼 科	6	4	6	150.0
耳 鼻 い ん こ う 科	0	4	2	50.0
歯 科 ・ 口 腔 外 科	0	0	0	-
放 射 線 科	0	0	0	-
麻 酔 科	0	0	0	-
受 診 件 数	107	80	60	75.0
電 話 件 数	107	86	62	72.1

※ 受診件数と電話件数の相違は、複数科の受診及びキャンセルのため

(2) 市町村別

内容	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
桐生市		人 60	人 34	人 22	% 64.7
新里町		6	9	4	44.4
黒保根町		0	0	3	皆増
みどり市					
東町		0	0	0	-
大間々町		6	13	9	69.2
笠懸町		8	11	4	36.4
太田市		5	3	5	166.7
旧薮塚本町		9	6	3	50.0
前橋市		2	0	0	-
伊勢崎市		4	1	8	800.0
館林市		0	0	0	-
県内（その他）		2	1	1	100.0
足利市		4	2	1	50.0
栃木県					
県外		1	0	0	-
合 計		107	80	60	75.0

24 診断書文書作成件数

内容	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
内 科		人 1,747	人 1,577	人 1,662	% 105.4
精 神 科		22	16	12	75.0
神 経 内 科		573	585	626	107.0
循 環 器 内 科		183	144	172	119.4
小 児 科		346	353	322	91.2
外 科		714	572	503	87.9
血 管 外 科		8	6	18	300.0
整 形 外 科		1,562	1,503	1,562	103.9
脳 神 経 外 科		880	753	791	105.0
呼 吸 器 外 科		25	18	12	66.7
乳 腺 外 科		-	195	140	71.8
皮 膚 科		193	181	183	101.1
泌 尿 器 科		488	534	508	95.1
産 婦 人 科		389	352	348	98.9
眼 科		132	143	123	86.0
耳 鼻 い ん こ う 科		31	60	51	85.0
麻 酔 科		0	1	10	1000.0
リハビリテーション科		49	42	12	28.6
放 射 線 科		39	36	34	94.4
救 急 科		15	15	19	126.7
歯 科 ・ 口 腔 外 科		80	55	65	118.2
計		7,476	7,141	7,173	100.4

※ 診断書類内訳：生命保険・生活保護者の意見書・訪問看護指示書・傷病手当金請求書等

25 専門外来件数

内容	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
		人	人	人	%
助産師外来		250	225	200	88.9
フットケア外来		145	140	168	120.0
リンパ浮腫外来		39	24	31	129.2
ストーマ外来		282	280	372	132.9

※ 助産師外来：H29年度から産後検診を含む。

26 医療の質（臨床指標：クリニカル・インジケーター）

（1）病院全体のクリニカル・インジケーター

① 病床利用率、平均在院日数

項 目	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
入 院 延 患 者 数 (A)	人	106,293	105,866	106,490
一 日 平 均 患 者 数 (B)	人	291	290	291
病 床 数 (C)	床	417	417	417
病 床 利 用 率 (B/C)	%	69.8	69.8	69.8
入 院 (D)	人	7,602	6,720	6,834
退 院 (E)	人	7,602	6,711	6,875
平 均 在 院 日 数 (A/((D+E)/2))	日	14.0	15.8	15.5

② 救急車搬入患者数

項 目	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
入 院	人	1,415	1,538	1,653
外 来	人	1,237	1,192	1,442
計	人	2,652	2,730	3,095

③ 退院後4週間以内の緊急入院率

項 目	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年 間 入 院 患 者 数	人	7,602	6,720	6,834
緊 急 再 入 院 患 者 数	人	342	307	312
緊 急 入 院 率	%	4.5	4.6	4.6

※ 緊急入院とは、再発・悪化して再入院した患者をカウントしています。

④ 24時間以内の再手術率

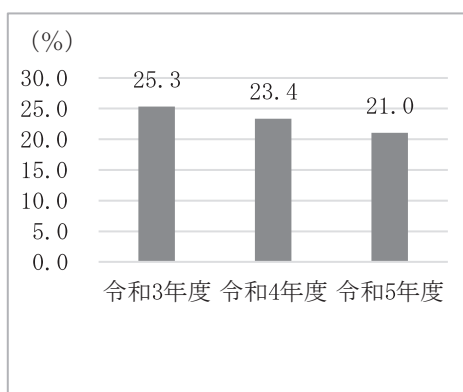
項 目	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年 間 手 術 件 数	件	920	892	1,032
再 手 術 件 数	件	6	1	4
再 手 術 率	%	0.7	0.1	0.4

※ 手術件数は全身麻酔患者を基準にしています。

⑤ 年間退院患者に占めるがん患者の割合

項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	人	人	人
がん病名のある患者数	1,809	1,479	1,378
退 院 患 者 数	7,149	6,332	6,547
	%	%	%
占 有 率	25.3	23.4	21.0

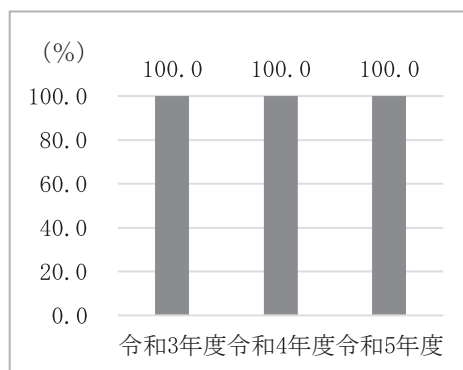
※ 退院患者数は転科を除いています。



⑥ 2週間以内の退院サマリー作成率

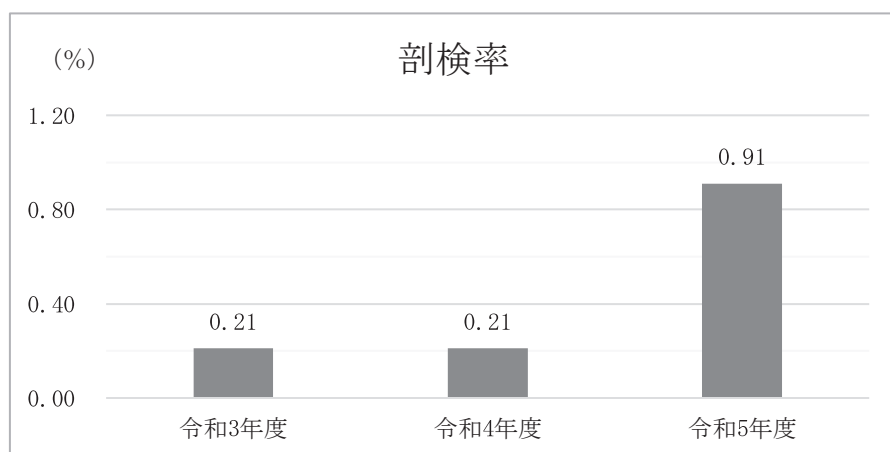
項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	件	件	件
退院後2週間以内のサマリー完成件数	7,149	6,332	6,547
年 間 退 院 患 者 数	7,149	6,332	6,547
	%	%	%
作 成 率	100.0	100.0	100.0

※ 退院患者数は転科を除いています。



⑦ 剖検率

項目 \ 年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
剖 検 率 (%)	0.21	0.21	0.91	433.3
剖 検 数 (人)	1	1	4	400.0
死 亡 患 者 数 (人)	475	484	440	90.9



病院の医学教育・研究の評価を示す指標です。剖検率は全国的に減少傾向にあり、画像診断などの検査の進歩により、正確な病状把握が可能になったことが理由と考えられています。

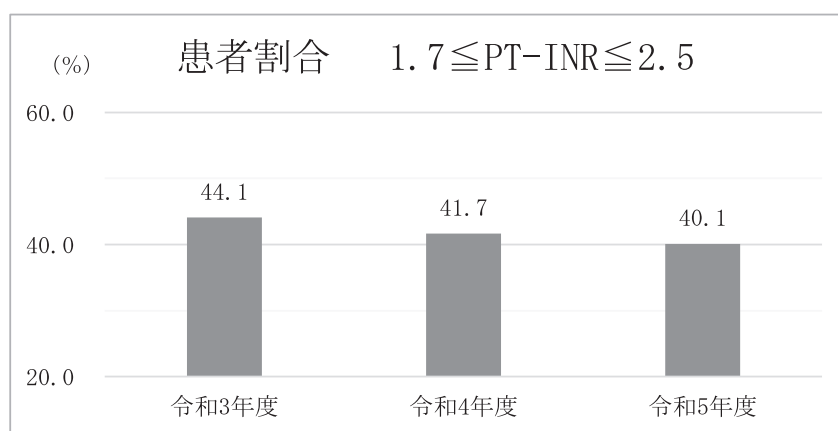
⑧ ワーファリン服用患者における出血傾向モニタリング（I N R）

ワーファリンによる血栓予防薬は、効果がなければ血栓が形成され、効きすぎれば出血傾向となります。

安全かつ有効なワーファリン血中指標として、P T－I N Rが1.7以上2.5以下を維持している割合、また、効きすぎた状態のP T－I N Rが5以上の割合を抑えることが指標となります。

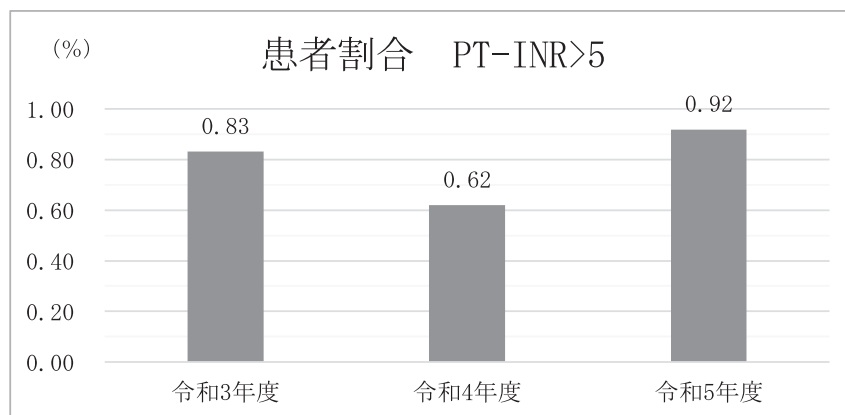
（ア）外来でのワーファリン服用患者を対象としたP T－I N R値評価

1.7 ≤ P T－I N R ≤ 2.5			
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
のべ患者数 (検査回数)	427	327	248
ワーファリンのべ 服用患者 (処方回数)	969	785	618
患者割合 (%)	44.1	41.7	40.1



（イ）入院・外来でのワーファリン服用患者を対象としたP T－I N R値評価

P T－I N R > 5			
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
のべ患者数 (検査回数)	10	6	7
ワーファリンのべ 服用患者 (処方回数)	1,204	969	762
患者割合 (%)	0.83	0.62	0.92



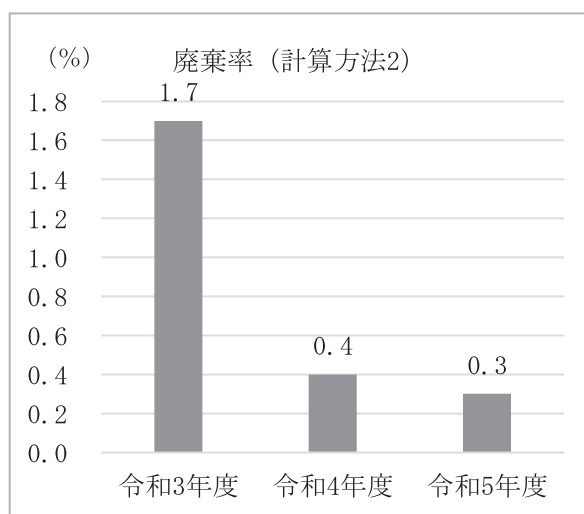
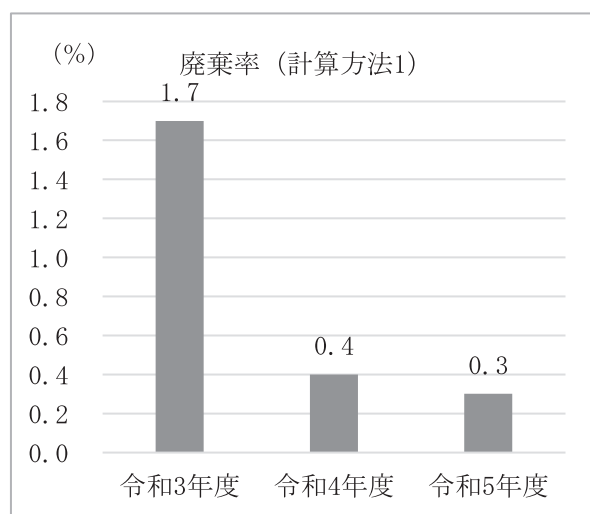
⑨ 輸血製剤廃棄率

計算方法 1：廃棄赤血球製剤単位数／（輸血赤血球製剤単位数＋廃棄赤血球製剤単位数）

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比(%)
輸血製剤廃棄率(%)	1.7	0.4	0.3	75.0
廃棄赤血球製剤単位数	36	8	6	75.0
輸血赤血球製剤単位数＋廃棄赤血球製剤単位数	2,107	1,988	1,969	99.0

計算方法 2：廃棄量（廃棄血液＋日本赤十字社への返品血液）／購入量（購入血液）

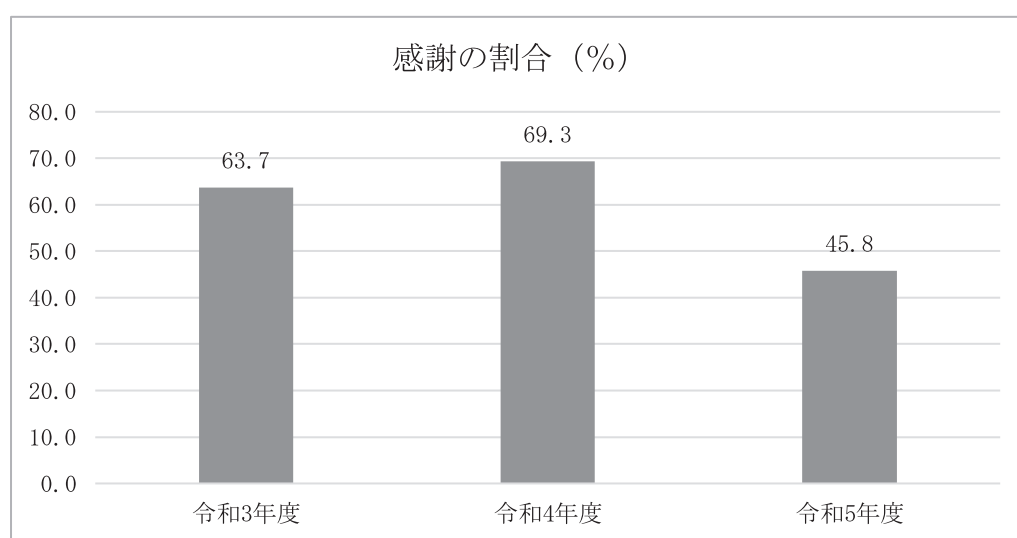
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比(%)
輸血製剤廃棄率(%)	1.7	0.4	0.3	75.0
廃棄量（廃棄+日赤返品）赤血球製剤単位数	36	8	6	75.0
購入量（単位）	2,109	1,982	1,973	99.5



輸血用血液製剤の廃棄率は、提供された血液が無駄なく適切に使用されているかどうかを示すよい指標となります。

⑩意見箱投書(感謝の占める割合)

	感謝の割合	感謝件数	苦情件数	その他	投書件数合計
	%	件	件	件	件
令和3年度	63.7	121.0	51.0	18.0	190.0
令和4年度	69.3	140.0	55.0	7.0	202.0
令和5年度	45.8	65.0	70.0	7.0	142.0



⑪褥瘡発生率

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
発生率 { (ア) / (イ) }	1.07%	1.18%	1.29%	109.32%
患者数 (ア)	76	87	83	95.40%
入院患者数 (イ)	7,080	6,276	6,435	102.53%

※患者数は、入院中に発生した褥瘡患者数。

※入院患者数は、転科を含む患者数。

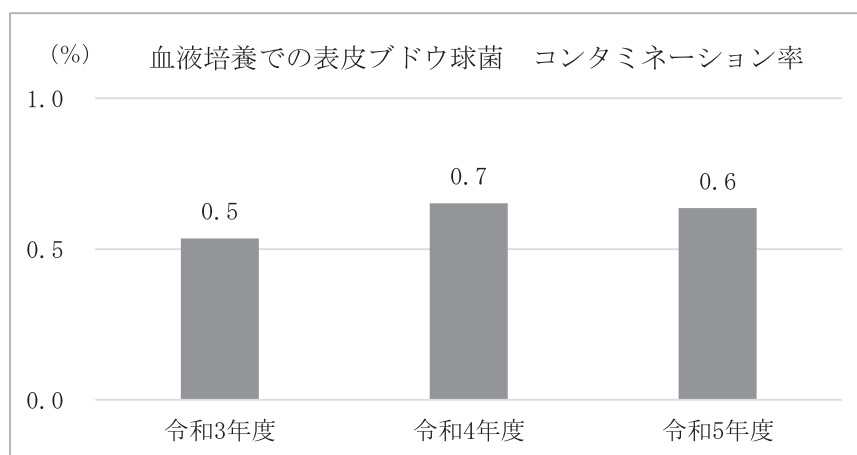
(2) 感染のクリニカルインディケーター

① 血液培養での表皮ブドウ球菌コンタミネーション率

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比(%)
血液培養での表皮ブドウ球菌 コンタミネーション率(%)	0.5	0.7	0.6	97.4
表皮ブドウ球菌による コンタミネーションの採血回数	11	14	15	107.1
血液培養ボトルが出された 患者の延べ採血回数	2,052	2,146	2,360	110.0

血液培養のコンタミネーション率

▶ 表皮ブドウ球菌によるコンタミネーションの採血回数／血液培養ボトルが出された患者の延べ採血回数



血液培養は、いろいろな感染症の原因となる菌を検出したり、菌血症（血液中に細菌がいる状態）の診断のために重要な検査です。血液培養検査の際に問題となるのは、皮膚の常在菌が混入し、検出されることで、起因菌（感染の原因となっている菌）との判別が必要になることです。

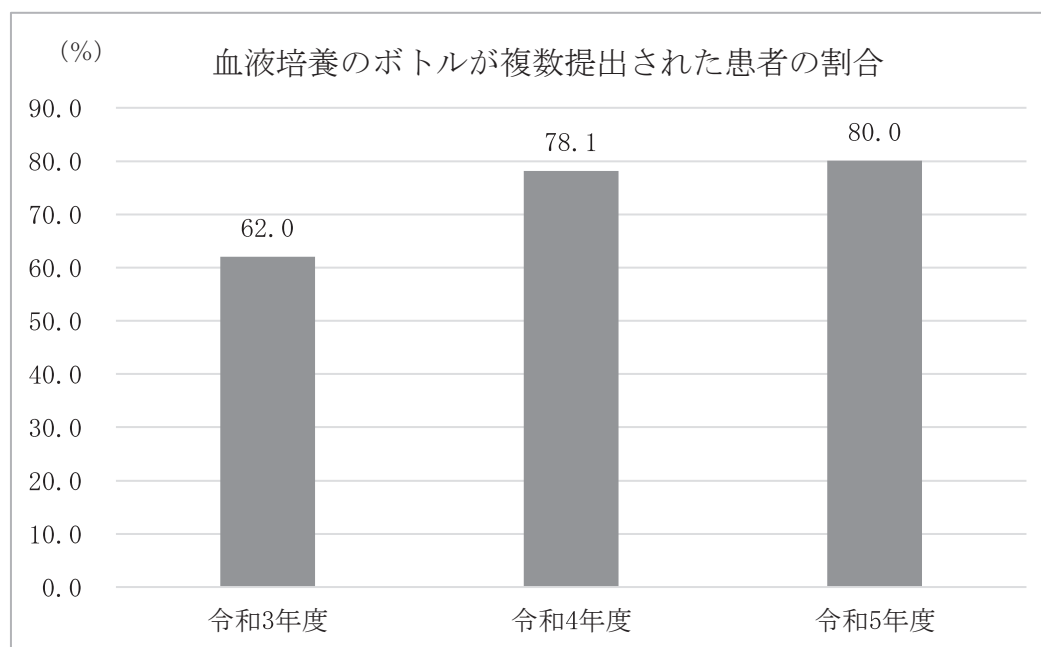
血液培養での表皮ブドウ球菌コンタミネーション率が低いほど起因菌との判別が容易となります。

② 血液培養のボトルが複数提出された患者の割合

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比(%)
血液培養のボトルが複数提出された患者の割合(%)	62.0	78.1	80.0	102.4
複数の培養ボトルが出された延患者数(人)	900	962	1,049	109.0
血液培養検査が行われた延患者数(人)	1,152	1,184	1,311	110.7

血液培養ボトルの複数提出率

▶ 複数の培養ボトルが出された延患者数／血液培養検査が行われた延患者数

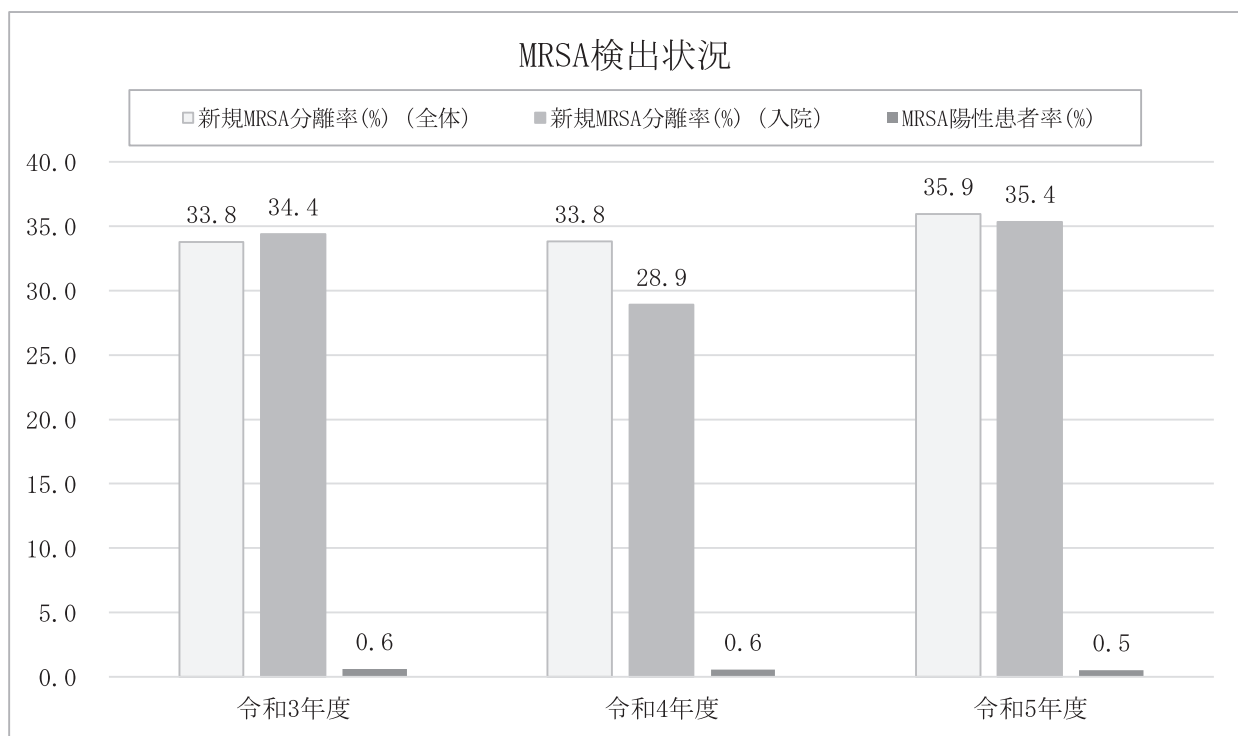


重症感染症の患者さんは、菌血症（血液中に細菌がいる状態）を伴うことが少なくありません。菌血症の原因菌を特定するためには、血液培養検査が必要であり、その精度（菌血症の原因菌検出率）を高めるためには、複数採取したボトルの提出が望まれます。

血液培養ボトルの複数提出は重症感染症の早期発見につながる指標となります。

③ MRSA検出状況

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比(%)
新規MRSA分離率(%) (全体)	33.8	33.8	35.9	106.3
新規MRSA分離率(%) (入院)	34.4	28.9	35.4	122.3
MRSA陽性患者率(%)	0.6	0.6	0.5	90.6
新規MRSA患者数(人) (全体)	76	69	60	87.0
ブドウ球菌検出患者総数(人) (全体)	225	204	167	81.9
新規MRSA患者数(人) (入院)	44	37	35	94.6
ブドウ球菌検出患者総数(人) (入院)	128	128	99	77.3
MRSA入院患者数(人)	46	38	35	92.1
入院実患者数(人)	7,602	6,720	6,834	101.7



MSSA：メチシリン感受性黄色ブドウ球菌
MRSA：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

- ▶ MRSA陽性入院患者／入院患者数
- ▶ MRSA（新規：入院）／（MRSA入院＋MSSA入院）
- ▶ MRSA（新規：全体）／（MRSA全体＋MSSA全体）

MRSAは、院内感染の原因菌として有名であり、検出状況を把握し、予防対策を講じることが重要です。

(3) 医療安全のクリニカルインディケーター

※ 転倒・転落発生率＝(転倒・転落件数/入院延べ患者数)×1000

	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
					%
入院延べ患者数	人	106,293	105,866	106,490	100.6
転倒・転落発生件数	件	303	327	271	82.9
転倒・転落発生率	‰	2.86	3.08	2.55	82.8
骨折件数	件	7	6	7	116.7
骨折率	‰	0.07	0.06	0.07	116.0
頭蓋内出血件数	件	0.00	0.00	1.00	皆増
頭蓋内出血率	‰	0.00	0.00	0.01	皆増
手術が必要になった件数	件	2	2	1	50.0
手術率	‰	0.300	0.200	0.090	45.0

VIII チーム医療

1 医療安全対策室

(1) 目的

桐生厚生総合病院における医療事故・紛争の予防対策等の推進を図る。

(2) あゆみ

2000 年 4 月に設置されました。また、2006 年からは下部組織として医療安全対策室を設置し、専従の医療安全管理者を配置しました。現在は、医療安全対策室の他、医薬品安全委員会・医療機器安全委員会の 3 つの下部組織がそれぞれの専門分野での問題点を検討し、安全管理の強化に努めています。

(3) 活動実績（令和 5 年度）

① 医療安全対策委員会の開催（月 1 回）

下部組織の委員会で検討された内容の検証及び承認

② 事例検討会の開催（週 1 回）

インシデント・アクシデント事例の検討

③ 地域連携病院との相互チェック

群馬中央病院・原町赤十字病院：医療安全対策加算 1 取得病院同士の相互訪問チェック

西毛病院：医療安全対策加算 2 取得病院への訪問チェック

④ 転倒転落 3b 以上の有害事象への取り組み

⑤ 転倒転落発生率を下げる取り組み

⑥ 職員研修会開催（年 2 回）

1 回目：医療安全の基本を知る e-ラーニング

2 回目：医療事故調査制度 e-ラーニング

⑦ 広報活動

院内広報への医療安全ニュース掲載

院内報告会での報告（月 1 回）

(4) 今後の課題

多職種で構成されるチーム医療において、組織・体制・医薬品・医療機器・環境等、システム全体の安全性を高め、より質の向上に努めていきます。

2 感染制御チーム（ICT）

（1）目的

桐生厚生総合病院における外来および入院患者、職員の感染防止を図る。

（2）あゆみ

意思決定機関として院長を委員長とする病院感染対策委員会は月 1 回、その下部組織で感染対策の立案と実行を担当する ICT（インфекションコントロールチーム）は月 2 回の会議を行っています。また、各部署のリンクナースは、現場での感染対策の実行に努めています。感染対策室では専従の感染管理認定看護師が感染対策の実務にあたっています。

（3）活動実績

令和 5 年度は以下の活動を行いました。

①病院感染の実態把握

（ア）感染情報レポート

耐性菌感染症の発生状況、無菌部位からの病原菌検出状況・抗菌薬使用状況

（イ）サーベイランス

全病棟で CV カテーテル関連血流感染・消化器外科手術での手術部位感染・5 階西病棟での尿道留置カテーテル関連尿路感染

（ウ）厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業

手術部位感染部門・ICU 部門・NICU 部門・検査部門の 4 部門

（エ）感染徴候届出書などによる病院感染対策上問題となる患者の把握

②感染対策の立案と実行

（ア）感染制御チーム（ICT）による感染対策に関する相談と指導（原則として平日毎日）

（イ）抗菌薬適正使用支援チーム（AST）による抗菌薬適正使用を目的とした抗菌薬選択の相談と提言（原則として平日毎日）

（ウ）注意すべき感染症発生時の対策協議・指導

（エ）感染対策マニュアルの全面改訂

③職員研修

（ア）感染対策研修は、「感染対策の概論 標準予防策」、「抗菌薬を大事に使おう！AMR に立ち向かうために」を e-ラーニングを使用し実施

（イ）新規採用職員に対する講習会を実施

（ウ）静脈注射院内認定看護師育成レベル別研修

（エ）看護部クリニカルラダー別専門コース研修

（オ）委託職員を対象とした研修

④職員感染防止

（ア）針刺し事故集計ソフト（Epinet）による実態把握・分析

（イ）新入職者に対する流行性 4 疾患（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）のワクチン接種歴と抗体保持の調査およびワクチン接種の推進

（ウ）B 型肝炎ワクチン接種歴と抗体保持状況

⑤感染対策向上加算の対応

- (ア) 週1回の2職種以上が参加したICT環境ラウンドの実施
- (イ) 地域連携のための合同カンファレンスを年4回開催
- (ウ) 地域医療機関への訪問指導
- (エ) 感染防止対策加算 1 算定医療機関との相互チェックを鶴谷病院と群馬県立心臓血管センターと実施

(4) 今後の目標と課題

平時の感染対策を徹底するために定期的な隔離予防策の研修を実施する必要があります。また、有事の際には速やかに対応できるよう感染症発生の把握・調査・分析に努めます。

さらに、地域医療機関との連携を強化し、感染対策の向上を推進するとともに人材育成に寄与します。

3 褥瘡対策チーム

(1) 目的

“委員会規程 第1条 院内褥瘡対策を討議・検討し、その効率的な推進を図るため、褥瘡対策委員会を設置する”すなわち、多職種の協働により適切な褥瘡対策を行える総合的な病院環境を整えます。

当院の基本理念「信頼され、心が通う地域医療」を実践する医療チームとして、患者QOL向上に寄与すべく、創傷治癒理論、看護技術などの基本的事項と最新の知見を学び、全スタッフに対し教育活動を行います。そして地域の中で褥瘡ケアの中心的役割を担います。

(2) あゆみ

2002年8月、褥瘡対策未実施減算の施行を機に、褥瘡対策委員会を組織しました。専門担当医師、皮膚・排泄ケア認定看護師(WOCN)、全病棟や部署の看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、作業療法士、事務方など多職種で構成されています。月1回の褥瘡対策委員会で、褥瘡発生の現況、症例検討、勉強会など、電子カルテシステムで、褥瘡危険因子評価、基本的看護計画、褥瘡発生報告、褥瘡経過表などを管理しています。

- ① 褥瘡チーム回診 2004年2月に開始、第1火曜14時、コアスタッフ数名と看護師2名が交代で参加。
- ② 褥瘡対策室 2006年5月より、大谷内千恵 WOCN を専従の褥瘡管理者として設置。
「褥瘡ハイリスク患者ケア加算」の施設認定を受け、ハイリスク患者に個別の看護計画を立案。

(3) 活動実績

【定例会】

毎月第3水曜16時。褥瘡対策に関わる諸事項を討議、褥瘡チーム回診の報告、メンバーによるミニレクチャーなど。

【褥瘡対策マニュアル】

日本褥瘡学会の褥瘡予防・管理ガイドライン、DESIGN-R®、MDRPU（医療関連機器圧迫創傷）ベストプラクティスなどを踏まえ、電子カルテ上でマニュアルを共有。

【褥瘡発生の現況】

院内発生 82 件（発生率 1.27%、月平均 6.8 件）、持ち込み褥瘡 99 件。

【体圧分散寝具】

高機能マットレスを中央管理化して適正使用を図り、購入や管理法を検討。

【2023 年度学術活動】

- ・ 第 25 回日本褥瘡学会学術集会（2023. 3）

岡田克之：シンポジウム「床ずれ予防プログラム」完成までの経緯～日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会の考えたこと
教育講演 外用薬は、みて選び、みて使う

- ・ 第 20 回日本褥瘡学会関東甲信越地区地方会学術集会（2023. 11）

岡田克之：社会に栄養を！褥瘡はどこで発生するか？～「わからない」を解決しよう～

- ・ 日本褥瘡学会関東甲信越地方会群馬支部学術大会（2024. 3）

岡田克之：在宅で活かす！床ずれプログラム～リスク評価の大切さ～

（4）今後の課題

- ① 褥瘡発生動向の把握・解析に努め、有用な褥瘡予防策を図る。
- ② 栄養サポート、緩和ケア、感染制御、医療安全などのチーム医療と協働する。
- ③ 転院先への情報提供や指導を行い、地域医療連携室と協働して褥瘡ネットワーク「褥瘡のひろば」の構築をめざしたい。
- ④ 中央管理化した高機能体圧分散マットレスを有効に利用できる体制を継続。
- ⑤ 各種外用薬、ドレッシング材、創傷被覆材を適正に使用し、最新の創傷治癒理論を実践できる環境整備。
- ⑥ 電子カルテの更新に合わせ、褥瘡関連システムを改善。
- ⑦ 褥瘡関連の学会や講演会へ積極的に参加し、活動実績や研究成果を発表、院内にフィードバックする。
- ⑧ 地域向け褥瘡勉強会を再開する。
- ⑨ PUT メンバー、コアスタッフを育成。
- ⑩ 日本褥瘡学会・褥瘡認定師を取得できるよう指導。

4 栄養サポートチーム（NST）

（1）目的

栄養サポートを必要とする患者に対し、栄養専門チームによる適切な栄養アセスメントと栄養指導を行い、栄養状態ならびに治療成績の改善、およびチーム医療の推進と医療の質の向上を図ることを目的とします。（NST 委員会設置規定）

（2）あゆみ

2005 年 4 月に NST 委員会を設置、月 1 回の定例会を開催。入院患者の栄養サポートとして、全病棟型の NST 回診を実施しています。

【栄養サポートシステム】

入院時に『SGA シート』で栄養評価を行い、栄養サポートが必要ななら NST 介入依頼となります。NST 回診の結果は職種ごとに『アセスメント・回診記録』に記載する電子カルテ・システムを運用。

【栄養管理計画】

医師の指示の下、管理栄養士、看護師、薬剤師等のスタッフが協働して『栄養管理計画書』を作成し、患者・家族に概要を説明。

【摂食嚥下チーム】

NST 内でチーム編成し、摂食嚥下フローチャートを作成、スクリーニングから食形態の決定、嚥下リハビリ、耳鼻科受診に繋がるシステムを構築。摂食嚥下回診も開始しました。

【構成メンバー】

病院長、医師・歯科医師 7 名、看護師 23 名、管理栄養士 3 名、リハビリ 5 名、薬剤師 1 名、臨床検査技師 3 名、歯科衛生士 2 名、放射線技師 1 名、事務方 1 名、計 47 名。

【施設認定】

JSPEN（日本臨床栄養代謝学会）NST 稼働施設、JSPEN 認定 NST 専門療法士教育施設。

（3）活動実績

① NST 回診（週 1 回）

2023 年度介入患者は 77 例、病棟の機能分担に合わせて転棟後の介入も重要でした。回診後に主治医へ報告書を作成。摂食嚥下チームの介入患者 63 名。

② NST 全体会（第 4 水曜）

ディレクターによる NST 運営会議に続いて、NST 委員会の本会議として開催。諸事項の討議、チームの現状報告や学会発表に準じた症例検討会、TNT 受講医師による講義など。

③ ランチャイムミーティング（月 1 回）

知識とスキルの習得をめざして症例報告や講義・実習など。コロナ禍の中止を経て、再開を検討中。

④ 学会活動

- ・岡田克之：褥瘡患者の栄養アセスメント&ケア：「深部損傷褥瘡（DTI）疑い」とは：ニュートリションケア 16(8), 16-21, 2023
- ・今井正之：高齢者のお口の健康：第 29 回地域医療勉強会（2024. 12 月）
- ・佐々木杏奈、岡田克之：病棟看護師によるとろみ調整に対する勉強会の効果の検討
- ・伊藤さやか、今井正之、飯田智広、佐々木杏奈、井田知宏、石川有理、岡田克之：

当院における摂食嚥下支援チームの立ち上げと今後の課題。第 39 回日本臨床栄養代謝学会
(2024.2 月)

(4) 今後の課題

- ① 入院時栄養アセスメントの重要性を啓発し、適切な栄養療法を速やかに開始できる体制を強化。
- ② 高齢者の栄養管理。介入患者が高齢化してきている。
- ③ 栄養サポートチーム加算を算定しているが、さらに介入を増やす。
- ④ 摂食嚥下チームの介入を増やしていく。多職種協働で回診、誤嚥性肺炎の予防、食形態の向上に繋げる。
- ⑤ 他のチーム医療（褥瘡対策、感染制御、医療安全、緩和ケアなど）と協働。
- ⑥ 基幹病院として栄養療法に関わる地域連携をさらに強化する。
- ⑦ がん拠点病院としての栄養サポート活動への取り組み。
- ⑧ 栄養関連学会に積極的に参加・発表し、知識・スキルを習得して向上心を維持。
- ⑨ NST 専門療法士の育成と、院外に向けた実地修練教育カリキュラムを検討。
- ⑩ 院外（医療従事者および一般市民）へ向けた NST 講演会を再開。

5 呼吸器サポートチーム（R S T）

(1) 目的

- ① 呼吸に関する知識を深め、診療・看護・リハビリテーションなどの質を向上させる
- ② 人工呼吸器に関する機能・知識・構造などを理解し、より安全な人工呼吸管理を行う
- ③ 呼吸に問題のある患者や呼吸不全患者に対するチーム医療の確立・推進
- ④ 呼吸・人工呼吸に関する各種マニュアルの整備、人工呼吸器の中央管理化と充実

(2) あゆみ

呼吸器サポートチームは平成 17 年に設立され、設立当初は医師 4 名、看護師 7 名をコアメンバーとして活動を開始。現在は医師、看護師、理学療法士、臨床工学技士、薬剤師、歯科衛生士、栄養管理士など多職種で約 40 名により構成される大所帯の委員会となっています。

令和 4 年度には RST メンバーの院内周知と、委員同士の意識・結束向上のため、委員の臨床工学技士発案のデザインによりロゴが作成されました。

(3) 活動実績

令和 3 年度までは、安全チーム、患者教育チーム、呼吸教育チーム、感染チームの 4 つのワーキンググループで活動を続けてきました。

令和 4 年度からは方式を変更し、事前アンケートによるメンバーの活動課題の認識により、新たな 4 チーム（①初診・救急受診の呼吸器患者への対応 ②呼吸器管理を要する患者管理 ③呼吸器管理機器の取扱い ④呼吸器入院患者のケア・リハビリ指導）の新体制で活動しました。

各チームにコアメンバーは加入せずデメリットも指摘されたが、メンバーが自主的・主体的に活動が行えたという肯定的な振り返りが多くありました。

令和 5 年度は、①能動的な院内ラウンドの実施 ②院内レクチャーの再開 ③各種マニュアルの整備の 3 項目を柱に活動を進めています。新たな試みの①については RST 委員が能動的に各部

署に出向き、チェックシートを作成して、呼吸に関する機器・物品の整備や知識の確認を、スタッフから直接行って、呼吸管理の周知、向上を図っています。

また、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響で制限されていた②については、E-learningを使用した全職員向けの講義「呼吸困難とその対応」を開催し、大部分の職員に聴講顶けました。さらに人工呼吸器の始業点検訓練を、呼吸器本体を使用した実技として、各病棟持ち回りで実習しています。

③についても担当チームの委員が、呼吸器疾患や呼吸管理の各項目についてマニュアルの作成に取り組み、議論や修正を加えながら、院内で全職員が閲覧できる形で進めています。

(4) 今後の目標

*呼吸管理、呼吸ケア、リハビリテーションに対する意識向上とリスクマネジメントの実践

*RST 認定施設として、呼吸器ケアチーム加算を踏まえたラウンドの推進

各委員の取組みが、院内のあらゆる部署や場面で生かされるよう、また RST 活動がより周知され、頼りにされるよう、積極的に活動して参ります。また、安全管理など他部門とも連携して、多角的な活動や質の向上も目指していきたいと考えています。

R S T 回診件数

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
回診人数	13	8	10

診療科別 内訳

内科	13	10	5
外科	18	0	1
循環器内科	0	1	1
脳外科	0	3	4
整形外科	0	0	0
神経内科	0	0	0
小児科	0	0	0
合計回診件数	31	14	11



6 緩和ケアチーム

(1) 目的

生命を脅かす病を抱えている患者と家族のつらさや苦痛（身体的、精神的、社会的、スピリチュアル）を緩和することを目的にしています。また多職種で構成されたチーム医療を提供することで、その人らしい人生を送ることができるように支えていくことを目標としています。

(2) あゆみ

厚生労働省による「がん診療連携拠点病院の整備指針」に従い、チームによる早期からの緩和医療の提供を実現するため、平成 17 年 6 月に緩和ケア勉強会を開催、平成 18 年 6 月に緩和ケア委員会を設置し、同 7 月には緩和ケアチームとしての活動を開始しました。

現在の緩和ケアチームは、医師、看護師（がん看護専門看護師・緩和ケア認定看護師）、薬剤師、管理栄養士、公認心理士が週 1 回の回診とカンファレンスを実施しています。

また緩和ケア委員会を医師 4 名（乳腺外科、泌尿器科、産婦人科、麻酔科）、看護師 17 名、薬剤師 1 名、理学療法士 1 名、作業療法士 1 名、管理栄養士 1 名、事務局 1 名、計 26 名で発足しており、3 か月に 1 回の定例会を実施しています。

(3) 活動実績

緩和チームはコンサルテーション型で運用されています。がん患者やその家族だけではなく、非がん患者とその家族の対応も行っています。令和 5 年度の新規緩和ケアチーム介入数は 76 名でした。身体的症状の緩和や精神的苦痛緩和の介入依頼が多くありましたが、経済的な相談や在宅療養支援など幅広い介入の依頼に対応しています。

また、医師、歯科医師、看護師や薬剤師など多職種を対象に、緩和ケアの基本的な知識・技術の習得を目指した緩和ケア研修会を年 1 回開催するほか、院内職員や地域の医療従事者向けの勉強会を開催し、院内・外を問わず緩和医療普及に努めています。

(4) 今後の課題

- ① 緩和ケアチーム回診の充実
- ② カンファレンスの充実
- ③ 院内外の啓蒙活動

7 排尿ケアチーム

(1) 目的

尿道カテーテルを 1 日でも早く抜去、尿路感染を防ぎ排尿自立を導き、寝たきり患者の減少を目指します。

(2) あゆみ

2016 年 4 月に排尿自立指導料算定が開始されたのを機に、2017 年 5 月当院排尿ケアチームを結成し、2017 年 6 月に活動を開始しました。現在は、泌尿器科医師 1 名、看護師 4 名（脳神経外科病棟 1 名、消化器外科整形外科病棟 1 名、内科病棟 1 名、皮膚・排尿ケア認定看護師 1 名）、理学療法士 1 名の計 6 名で活動しています。

(3) 活動実績

尿道カテーテル留置中の入院患者を対象患者とし、入院中の尿道カテーテル抜去、その後の排尿状況を確認することを主目的としています。我々チームが主導するのではなく病棟スタッフが中心になって、安心してカテーテル抜去を行うことを目指しています。

予約は週 1 回、木曜日に外来枠として設定、医師、コメディカルスタッフ誰でも紹介状なしに依頼が可能になっています。朝より情報収集（初診患者の確認、残尿測定など）、9 時 30 分よりミーティング、メンバー同士情報共有後回診、カンファレンスで方針決定、各病棟への指示、カルテ記載を行っています。また、機会に応じて講演会での発表活動も施行しています。

(4) 今後の課題

尿道カテーテルの意義を理解することで、積極的に排尿管理に携わってもらい、院内に排尿ケア文化を根付かせることが長期的な課題と考えています。

8 摂食嚥下支援チーム

(1) 目的

摂食および嚥下機能に障害のある患者さんに対し、摂食嚥下に係る専門知識を有した他職種から構成された摂食嚥下支援チームが診察することで、摂食嚥下機能の回復や誤嚥性肺炎、窒息等のリスクを回避した食支援を行い、生活の質の向上につなげることを目的としています。

(2) あゆみ

近年、地域の超高齢化とともに、当院でも摂食嚥下機能障害を抱えた患者さんが増加しています。当院では2022年4月1日より、多職種編成の「摂食嚥下支援チーム」を結成し、活動を開始しました。現在は歯科医師1名、耳鼻いんこう科医師2名、摂食嚥下障害看護認定看護師1名、言語聴覚士1名、理学療法士1名、管理栄養士1名、歯科衛生士1名の計8名で活動しています。

(3) 活動実績

2022年度は50名、2023年度は68名の介入実績がありました。

〈摂食嚥下支援チーム介入と評価の流れ〉

- ・毎週火曜日に昼食時の病棟回診と14時にカンファレンスを行い、病棟スタッフおよびチームで介入患者さんの情報共有を行います。
- ・カンファレンスでは口腔内環境、食事摂取状況、栄養状態などの評価を行います。
- ・必要に応じ、嚥下機能検査（嚥下内視鏡検査：VE、嚥下造影検査：VF）を行い、その評価をもとに必要な嚥下訓練や適した食形態の提案を行っています。
- ・退院支援時に患者さんやご家族、転院先施設担当者に嚥下状態について説明し、食事摂取に関する指導を行っています。

(4) 今後の課題

摂食嚥下支援チームは、患者さんの「口から食べる」と「笑顔」を実現するためにチームで一緒に考え、日々研鑽に努めています。

今後は入院患者だけでなく、嚥下外来の新設についても課題と考えています。

IX 地域医療連携室

1 医療相談業務

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
区分	件	件	件	件	%
	入院	4,147	4,493	5,342	118.9
	外来	314	159	158	99.4
	合計	4,461	4,652	5,500	118.2
援助方法	面接	1,840	2,638	2,783	105.5
	電話	2,564	1,940	2,311	119.1
	訪問	17	8	69	862.5
	文書	5	0	2	皆増
	その他	35	66	335	507.6
	合計	4,461	4,652	5,500	118.2
相談者	個別（本人）	543	1,591	1,273	80.0
	家族	1,664	1,516	2,274	150.0
	合同面接	22	18	4	22.2
	院内スタッフ	93	92	22	23.9
	関係機関	1,980	1,198	1,145	95.6
	その他	159	237	782	330.0
	合計	4,461	4,652	5,500	118.2
相談・援助内容	転院・施設	2,194	2,156	2,328	108.0
	受診・入院	45	265	559	210.9
	在宅ケア	814	555	1,017	183.2
	入院療養生活	32	39	36	92.3
	心理・情緒	2	0	1	皆増
	家族関係	17	20	17	85.0
	虐待・暴力	12	28	1	3.6
	復職・復学	4	0	0	－
	情報提供	566	516	459	89.0
	医療費	14	12	0	皆減
	経済的問題	62	45	41	91.1
	理解促進	351	451	203	45.0
	住居	12	3	3	100.0
	退院	226	507	486	95.9
	がん相談	13	0	1	皆増
	遺族	1	0	0	－
	その他	96	55	348	632.7
	合計	4,461	4,652	5,500	118.2

病棟・外来別相談件数

年 度 病 棟	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	件	件	件	%
I C U ・ C C U	55	56	48	85.7
N I C U	14	6	19	316.7
G C U	62	38	39	102.6
3 階 病 棟	265	250	265	106.0
4 階 東 病 棟	181	240	734	305.8
4 階 西 病 棟	232	179	329	183.8
5 階 西 病 棟	500	823	1,573	191.1
6 階 東 病 棟	821	970	950	97.9
6 階 西 病 棟	426	472	371	78.6
7 階 東 病 棟	673	704	576	81.8
7 階 西 病 棟	854	759	450	59.3
8 階 病 棟	41	31	13	41.9
外 来	314	123	133	108.1
そ の 他	23	1	0	皆減
合 計	4,461	4,652	5,500	118.2

科別相談件数

区分・年度 科 別	入 院				外 来			
	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	前年度比	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	前年度比
	件	件	件	%	件	件	件	%
内 科	1,758	1,709	1,728	101.1	81	46	55	119.6
精 神 科	0	0	0	－	0	0	0	－
神 経 内 科	28	34	32	94.1	45	6	11	183.3
循 環 器 内 科	84	88	26	29.5	3	0	0	－
小 児 科	100	81	76	93.8	27	14	1	7.1
外 科	300	480	621	129.4	10	10	1	10.0
血 管 外 科	0	0	0	－	0	0	0	－
整 形 外 科	629	840	1,494	177.9	12	11	6	54.5
脳 神 経 外 科	671	793	940	118.5	0	3	9	300.0
呼 吸 器 外 科	0	0	0	－	0	0	0	－
皮 膚 科	86	71	87	122.5	2	3	3	100.0
乳 腺 外 科	－	17	21	123.5	－	1	4	400.0
泌 尿 器 科	245	168	198	117.9	10	10	30	300.0
産 婦 人 科	90	14	35	250.0	101	19	11	57.9
眼 科	0	0	0	－	3	0	1	皆増
耳 鼻 い ん こ う 科	0	0	2	皆増	12	0	0	－
麻 酔 科	0	0	0	－	1	0	0	－
リハビリテーション科	115	164	61	37.2	0	0	0	－
放 射 線 科	0	0	0	－	0	0	0	－
救 急 科	36	70	45	64.3	2	0	1	皆増
歯科・歯科口腔外科	0	0	1	皆増	1	0	0	－
そ の 他	5	0	0	－	4	0	0	－
合 計	4,147	4,529	5,367	118.5	314	123	133	108.1

2 科別紹介患者数・入院

年度 科 別	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	件	件	件	%
内 科	586	552	588	106.5
精 神 科	0	0	0	－
神 経 内 科	4	3	7	233.3
循 環 器 内 科	34	20	20	100.0
小 児 科	132	102	166	162.7
外 科	122	150	115	76.7
血 管 外 科	0	0	0	－
整 形 外 科	131	105	111	105.7
脳 神 経 外 科	109	121	116	95.9
呼 吸 器 外 科	0	0	0	－
乳 腺 外 科	－	8	1	12.5
皮 膚 科	24	23	15	65.2
泌 尿 器 科	87	93	60	64.5
産 婦 人 科	90	68	81	119.1
眼 科	2	0	0	－
耳 鼻 いんこう科	5	16	13	81.3
麻 酔 科	0	0	0	－
放 射 線 科	0	0	0	－
救 急 科	25	16	19	118.8
歯科・歯科口腔外科	3	2	3	150.0
合 計	1,354	1,279	1,315	102.8

3 科別紹介患者数・外来

年度 科 別	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	件 2, 282	件 2, 348	件 2, 151	% 91. 6
内 科	1	0	0	－
精 神 科	389	412	398	96. 6
神 経 内 科	281	264	272	103. 0
循 環 器 内 科	1, 042	699	639	91. 4
小 児 科	647	245	303	123. 7
外 科	28	24	12	50. 0
血 管 外 科	645	675	667	98. 8
整 形 外 科	285	309	303	98. 1
脳 神 経 外 科	48	62	38	61. 3
呼 吸 器 外 科	－	323	252	78. 0
乳 腺 外 科	570	610	660	108. 2
皮 膚 科	955	903	883	97. 8
泌 尿 器 科	700	735	634	86. 3
産 婦 人 科	745	648	636	98. 1
眼 科	382	343	352	102. 6
耳 鼻 いんこう科	10	13	11	84. 6
麻 酔 科	727	709	865	122. 0
放 射 線 科	0	0	0	－
病 理 診 断 科	88	90	66	73. 3
救 急 科	933	983	1, 019	103. 7
歯科・歯科口腔外科	0	0	0	－
女 性 専 用 外 来	10, 758	10, 395	10, 161	97. 7
合 計				

4 地域別紹介患者数・入院

地域別 \ 年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	件	件	件	%
桐 生 市	850	834	830	99.5
み ど り 市	237	229	273	119.2
前 橋 市	15	6	14	233.3
伊 勢 崎 市	35	38	31	81.6
太 田 市	119	93	86	92.5
そ の 他 県 内	27	18	18	100.0
足 利 市	33	21	32	152.4
そ の 他 県 外	38	40	31	77.5
合 計	1,354	1,279	1,315	102.8

5 地域別紹介患者数・外来

地域別 \ 年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	件	件	件	%
桐 生 市	7,238	6,903	6,734	97.6
み ど り 市	2,257	2,216	2,164	97.7
前 橋 市	77	69	79	114.5
伊 勢 崎 市	219	230	233	101.3
太 田 市	613	599	566	94.5
そ の 他 県 内	86	86	92	107.0
足 利 市	131	157	155	98.7
そ の 他 県 外	137	135	138	102.2
合 計	10,758	10,395	10,161	97.7

6 科別戻し・逆・新規紹介患者数

年度 科別	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	件	件	件	%
内科	3,262	2,994	3,023	101.0
精神科	20	15	11	73.3
神経内科	446	331	262	79.2
循環器内科	290	274	280	102.2
小児科	1,060	1,150	1,190	103.5
外科	805	800	841	105.1
血管外科	31	30	32	106.7
整形外科	771	821	783	95.4
脳神経外科	549	702	669	95.3
呼吸器外科	99	120	109	90.8
乳腺外科	－	115	167	145.2
皮膚科	280	274	245	89.4
泌尿器科	1,164	1,265	1,185	93.7
産婦人科	410	346	392	113.3
眼科	422	395	373	94.4
耳鼻いんこう科	106	163	134	82.2
麻酔科	2	4	4	100.0
放射線科	1,039	991	920	92.8
救急科	278	310	143	46.1
緩和ケア内科	0	0	0	－
歯科・歯科口腔外科	1,690	1,705	1,840	107.9
合計	12,724	12,808	12,605	98.4

7 地域別戻し・逆・新規紹介患者数

年度 地域別	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	件	件	件	%
桐生市	6,581	6,281	6,148	97.9
みどり市	2,165	2,384	2,351	98.6
前橋市	1,310	1,340	1,365	101.9
伊勢崎市	515	587	597	101.7
太田市	1,021	931	872	93.7
その他の県内	305	304	334	109.9
足利市	175	215	214	99.5
その他の県外	271	307	310	101.0
その他の	389	459	413	90.0
合計	12,732	12,808	12,604	98.4

8 科別紹介患者数（当日救急対応分）

科別	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
		件	件	件	%
内科		301	191	295	154.5
精神科		0	0	0	－
神経内科		7	12	17	141.7
循環器内科		15	16	18	112.5
小児科		554	167	217	129.9
外科		102	80	78	97.5
血管外科		0	0	0	－
整形外科		124	66	76	115.2
脳神経外科		112	119	108	90.8
呼吸器外科		1	0	0	－
乳腺外科		－	4	0	皆減
皮膚科		67	34	21	61.8
泌尿器科		109	81	57	70.4
産婦人科		53	49	39	79.6
眼科		15	2	2	100.0
耳鼻いんこう科		111	15	14	93.3
麻酔科		0	0	0	－
放射線科		1	1	1	100.0
救急科		314	287	216	75.3
歯科・歯科口腔外科		4	6	2	33.3
合計		1,890	1,130	1,161	102.7

区分（再掲）	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
		件	件	件	%
新患		366	198	230	116.2
再来		1,525	932	933	100.1
救急室対応患者数		1,111	549	623	113.5
救急搬送数		298	268	248	92.5
入院患者数（再掲）		730	616	728	118.2

9 科別事前予約患者数

科別 \ 年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	件	件	件	%
内科	912	959	1,494	155.8
精神科	0	0	0	－
神経内科	323	348	341	98.0
循環器内科	134	150	182	121.3
小児科	192	158	150	94.9
外科	322	109	168	154.1
血管外科	19	20	10	50.0
整形外科	393	414	449	108.5
脳神経外科	148	155	171	110.3
呼吸器外科	15	18	8	44.4
乳腺外科	－	217	134	61.8
皮膚科	217	238	287	120.6
泌尿器科	327	330	415	125.8
産婦人科	452	454	355	78.2
眼科	9	1	0	皆減
耳鼻いんこう科	204	161	171	106.2
麻酔科	5	2	8	400.0
放射線科	682	878	859	97.8
救急科	4	3	0	皆減
歯科・歯科口腔外科	0	2	0	皆減
女性専用外来	0	0	0	－
合計	4,358	4,617	5,202	112.7

10 オンライン検査予約

桐生おりひめネット

科別 \ 年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	件	件	件	%
C T	131	140	168	120.0
M R I	144	103	158	153.4
合計	275	243	326	134.2

11 母体搬送・新生児搬送受入れ数

(母体搬送)

年度 地域別	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	件	件	件	%
桐 生 市	0	1	2	200.0
み ど り 市	6	9	9	100.0
前 橋 市	6	3	3	100.0
高 崎 市	0	1	1	100.0
伊 勢 崎 市	5	7	3	42.9
太 田 市	9	6	5	83.3
館 林 市	0	0	0	-
渋 川 市	3	1	3	300.0
藤 岡 市	0	0	0	-
そ の 他 県 内	0	0	0	-
栃 木 県	0	0	0	-
埼 玉 県	0	0	0	-
そ の 他 県 外	0	0	0	-
合 計	29	28	26	92.9

(新生児搬送)

年度 地域別	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	件	件	件	%
桐 生 市	1	1	2	200.0
み ど り 市	2	4	3	75.0
前 橋 市	3	2	0	皆減
伊 勢 崎 市	9	3	4	133.3
太 田 市	0	0	0	-
渋 川 市	0	1	0	皆減
そ の 他 県 外	0	0	0	-
合 計	15	11	9	81.8

12 在宅医療未熟児等一時受入事業

年度 項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	件	件	件	%
登 録 件 数	0	0	0	-
利 用 件 数	0	0	0	-

13 退院調整患者数

年度 項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	件	件	件	%
退 院 調 整 件 数	555	409	447	109.3
調 整 加 算 算 定	2,320	1,460	3,135	214.7
連 携 指 導 料 算 定	50	30	71	236.7
共 同 指 導 料 算 定	21	17	28	164.7
入 院 時 支 援 加 算 算 定	615	565	861	152.4
患者サポート体制充実加算	6,021	5,405	5,523	102.2

X 地域がん診療連携拠点病院

1 がん相談支援センター

がん相談支援センターとは、がん医療に関する幅広い相談を受ける窓口であり、がん患者さんやその家族が、十分な情報に基づいて医療を選択し自分らしい生活を送っていくことを支援する目的で設置されています。

(1) 当院での代表的な相談内容

- ・がんに関する疾病・治療・検査の一般的な医療情報
- ・症状・副作用への対応、療養生活について
- ・セカンドオピニオン
- ・医療費や経済的な相談
- ・看護・介護や在宅療養について
- ・緩和ケア
- ・就学・就労に関する相談
- ・がんゲノム医療や妊孕性温存について
- ・医療用かつらなどの整容や外見ケア
- ・家族や医療者とのコミュニケーション

(2) 相談員

当院では、がん看護専門看護師、緩和ケア看護師、社会福祉士、公認心理士が相談に対応しています。すべての相談員が、国立がんセンターの相談員研修を修了しています。うち2名は認定がん相談員の資格を有し、うち3名は両立支援コーディネーター研修を修了しています。

(3) 年度報告

令和5年度は、電話・面談・メールを合わせて282件となりました。

(4) 今後の課題

- ① がん患者さん及びそのご家族の気持ちに寄り添い、適切な情報提供を行う。
- ② 知識の更新や相談の質の維持向上を行う。
- ③ 必要としている人に窓口の存在を知ってもらえるように、広報活動を充実させる。

2 院内がん登録

(1) スタッフ

院内がん登録実務者研修を修了した有資格者（診療情報管理士2名）でおこなっています。地域がん診療連携拠点病院では、がん登録中級有資格者配置が必須事項です。

(2) 年度報告

2022年データ738件を国立がん研究センターに提出し、そのデータを元に地域がん登録にも登録データを送付しています。また、平成25年度から実施されている「予後情報付き集計」へデータ提出の協力をしています。

(3) 今後の目標

より正確なデータ提出を目標に、予後調査を含め一層の精度向上を目指します。

3 化学療法・通院治療センター委員会

(1) スタッフ

化学療法通院治療センター委員会は、化学療法と生物学的製剤に関連する診療科医師、薬剤師（がん薬物療法認定薬剤師含む）、看護師（がん看護認定看護師含む）、検査技師、臨床工学技士、管理栄養士、事務員（診療情報管理士）の計18名で構成され、原則月に1回の会合を開いています。

(2) 年度報告

令和5年度の実績（内服抗がん剤のみの治療は除く）は、延べ人数で外来化学療法が1,894名（-8.3%）と数年ぶりに前年を下回る人数となりました。がん種別の人数では、入院外来合計（内服抗がん剤のみの使用者は除く）335名（-14%）、多かった順に肺がん(86)、尿路上皮がん(56)、大腸・小腸がん(43)、乳がん(33)、胃がん(16)、卵巣がん(17)、肝臓がん(15)、前立腺がん(11)、食道がん(11)、子宮がん(10)、胆道がん(10)、膵臓がん(9)、腎臓がん(8)、脳腫瘍(7)、精巣がん(2)、皮膚がん(1)でした。免疫チェックポイント阻害薬使用患者はこのうち85名（-17%）でやはり減少しました。生物学的製剤（インフリキシマブ／レミケード）の点滴の患者数は延べ286人（-11%）でした。外来化学療法診療料については、化学療法施行時に700点、化学療法は施行しないが診療した日に400点が算定できますが、400点の算定漏れをなくすことで、年間286件算定しました。

令和5年度の委員会の活動としては、新規レジメンの承認、委員会主催の講演会の年2回開催（ZOOM併用ハイブリッド開催）、免疫チェックポイント阻害薬に伴う免疫関連有害事象の報告・啓発などを行いました。

(3) 今後の目標

- ① 免疫関連有害事象やその他副作用への注意喚起として「irAE 報告会&ショートレクチャー会議」を年に3-4回程度開催し、「免疫チェックポイント阻害薬使用患者データベース」の

作成を行う。

- ② 有害事象の見落としがない様に症状やデータをチェック
- ③ 患者が快適に過ごせる環境作り
- ④ 化学療法講演会の開催などを目指している。

4 緩和ケアチーム

VIII チーム医療 6 緩和ケアチームをご参照ください。

5 がん患者サロン（サロンあおぞら）

（１） がん患者サロンとは

がん患者さん・ご家族を対象としたサポートグループであり、当事者同士で気軽に語り合う交流の場を提供するものです。お互いの話に耳を傾け、「悩んでいるのは自分だけではない」と感じたり、療養上の工夫を教えあったりすることで、孤独感の軽減や問題への対処能力の向上などの効果があると言われています。

（２） 当院のサロンの特徴

患者さん・ご家族のおはなし会を基本的な活動としています。開催時間中は出入り自由なオープン形式で、がん種を限定していないため様々ながんの方が参加しています。

群馬県がんぴあサポーターにも参加を依頼しており、サロン終了後にはスタッフとぴあサポーターで振り返りを行っています。院内スタッフ以外の意見も取り入れることで、サロンがより良い場となるように心がけています。

（３） 開催実績

コロナ禍により長期休止となっていましたが、令和５年９月より再開し、令和５年度は全４回開催されました。再開して間もないこともあり、各参加人数は４～５人程度とまだ少なく推移しています。

（４） 今後の課題

- ・ 持続的なサロンの開催
- ・ 参加者のニーズの把握

6 キャンサーボード

キャンサーボードとは、専門的な知識・技能を有して手術や放射線療法、化学療法などの集学的治療に携わる医師と、他の分野を専門とする医師等が、様々ながんに対して、がん患者さんの症状、状態及び治療方針等を検討・確認するためのカンファレンスをいいます。

「地域がん診療連携拠点病院」の指定要件として、キャンサーボードの設置や定期開催が求められていることから、当院でも臓器別のキャンサーボードが定期的に行われています。

医師を中心に放射線技師、薬剤師、看護師、診療情報管理士等が集まり、あらゆる側面からがん治療を検討し、患者さん中心の医療を目指しています。

XI 地域支援活動

1 地域講演会

(1) 市民公開講演

開催日	講演内容	講師	会場
令和 5. 7. 22	婦人科がん -予防から診療の現状-		美喜仁桐生文化会館スカイホールA
	講演1 「婦人科がん診療の現状 -新しい薬剤と治療-」	産婦人科診療部長 矢崎 淳	
	講演2 「女性医学と婦人科がん -予防的立場から-」	産婦人科診療部長 鏡 一成	
令和 6. 3. 9	がん治療の最前線		美喜仁桐生文化会館スカイホールA
	講演1 「最新の胃がん治療」	外科診療部長 緒方 杏一	
	講演2 「最新のがん医療のあり方について～皆さんに知っておいていただきたいこと～」	国立病院機構 九州がんセンター 病院長 藤 也寸志	

(2) 地域医療勉強会

開催日	演題	演者	会場
令和 5. 6. 14	地域とつながる認知症ケア	認知症看護認定看護師 金澤 典子 認知症看護認定看護師 橋本 綾子	桐生厚生総合病院 2階講堂
5. 9. 13	医療的ケア児支援 ～在宅療養と生活を支えるために～ 第一部 1. 医療的ケア児の概要と現状 2. NICU・GCUの 新生児集中ケア看護 3. 医療的ケア児への リハビリテーション	副院長兼小児科診療部長 大木 康史 新生児集中ケア認定看護師 中井 美和子 理学療法士 新井 里英	
	第二部 群馬県医療的ケア児等支援センター 「やっほ」について	主任相談支援専門員・医療的ケア児コーディネーター 米田 真一	
5. 12. 13	高齢者のお口の健康	歯科・歯科口腔外科診療部長 今井 正之	
6. 3. 13	がん終末期患者の療養支援とACP ～連携事例からACPの現状と課題を考える～	がん看護専門看護師 荒川 浩 訪問看護ステーションえがとど 看護師 柏瀬 亜衣	

(3) ハッピー健康相談室

令和5年度につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となりました。

(4) 認定看護師出前講座

日にち	講演内容	依頼病院・施設	分野	認定看護師名
令和 5. 7. 5	嚥下評価・嚥下訓練法	織訪問看護ステーション	摂食・嚥下 障害看護	伊 藤 さやか
5. 9. 19	口腔ケア	デイサロン心音	摂食・嚥下 障害看護	伊 藤 さやか
5. 8. 24	新生児の観察ポイント	岩宿クリニック	新生児集中 ケア	赤 石 洋 子 中 井 美和子
6. 2. 8	障害者施設における感 染対策	グループホーム ウェルわたらせ	感染管理	山 田 あゆり

2 地域への情報提供

(1) TOWNわたらせ紙への掲載（桐生タイムス社発行）

発行年月日	執筆者	テーマ
令和 5. 4. 1	曲澤 聡 副院長兼脳神経外科診療部長	片側顔面けいれんについて
5. 4. 15	相川 崇 内科医長	お腹の調子でお困りではありませんか？ 過敏性腸症候群とは？
5. 4. 22	岡田 克之 副院長兼皮膚科診療部長	「プレゼン」というもの3
5. 5. 13	今井 正之 歯科口腔外科診療部長	＜口腔の役割＞ 女神像とライオン像
5. 6. 3	大木 康史 副院長兼小児科診療部長	子どもの起立性調節障害（OD）
5. 6. 10	小林 誠 栄養管理科長（管理栄養士）	熱中症予防の飲み物
5. 6. 17	上井 崇智 泌尿器科診療部長	女性の悩み、骨盤臓器脱を知っていますか？
5. 7. 1	豊島 瞳 7階西病棟看護師主任	糖尿病特定行為認定看護師について
5. 7. 8	高田 剛 中央検査科科长補佐（臨床検査技師）	基準範囲って何？
5. 7. 15	今井 正之 歯科口腔外科診療部長	＜口腔の役割＞タマムシ
5. 8. 5	緒方 杏一 外科診療部長	ロボット支援下手術をご存じですか？
5. 8. 26	相川 崇 内科医長	潰瘍性大腸炎、クローン病、家族性地中海熱とは
5. 9. 2	木村 明春 外科診療部長	ヘルニアセンターを開設しました
5. 9. 9	今井 正之 歯科口腔外科診療部長	＜口腔の役割＞ザリガニ釣り
5. 9. 16	磯 昌宏 放射線技術科長	医療放射線による生殖腺被ばくを考える
5. 10. 7	森下 亜希子 乳腺外科診療部長	緩和ケアについて
5. 10. 21	加藤 広行 院長	アルコールと健康被害、特にがんとの関連
5. 11. 4	今井 正之 歯科口腔外科診療部長	＜口腔の役割＞MAYU（まゆ）
5. 11. 11	山崎 成基 薬剤部（薬剤師）	昨今の抗がん剤治療について
5. 11. 18	橋場 聡志 リハビリテーション技術科係長	呼吸リハビリテーション

発行年月日	執筆者	テーマ
令和 5. 12. 2	近藤 直子 歯科衛生士	歯ブラシの形と特性
5. 12. 16	奥村 佳恵 救急看護認定看護師	救急外来について
6. 1. 13	今井 正之 歯科口腔外科診療部長	＜口腔の役割＞「龍の歯」の正体
6. 1. 27	大崎 未央 臨床工学科（臨床工学技士）	高気圧酸素治療
6. 2. 3	森永 暢浩 副院長兼外科診療部長	大腸がんの話
6. 2. 10	岡田 克之 副院長兼皮膚科診療部長	大切な足
6. 2. 17	鏡 一成 産婦人科診療部長	「あれっ」と思ったら
6. 3. 2	上井 崇智 泌尿器科診療部長	前立腺肥大症の低侵襲手術“WAVE治療”
6. 3. 9	大木 康史 副院長兼小児科診療部長	「学校に行きたくない」と子どもが言ったとき
6. 3. 16	今井 正之 歯科口腔外科診療部長	＜口腔の役割＞歯仏様

(2) 院外広報 ほほえみ

発行年月日	トピックス
令和 5. 4. 10	桐生地域医療企業団 企業長就任の挨拶 桐生地域医療企業団 企業長 加藤 広行 ロボット支援下手術とは何ですか？ 緒方 杏一 外科診療部長 「神経内科」から「脳神経内科」への標榜診療科名変更について 特定認定看護師の活躍「手術看護認定看護師」 手術室 廣瀬 栄一 看護師 「内科新患外来完全予約制」の導入について
令和 5. 7. 1	訪問看護室開設のお知らせ 健診室移転のお知らせ ヘルニアセンター開設のお知らせ 第27回 市民公開講演
令和 5. 10. 1	診療科の紹介 「超急性期脳血栓に対する脳血栓回収術」 橋場 康弘 脳神経外科診療部長 特定認定看護師の活躍「感染管理特定認定看護師」 感染管理特定認定看護師 山田 あゆり 健診室移転のお知らせ がん患者サロン「サロンあおぞら」を開催しました
令和 6. 1. 1	新年の挨拶2023年 加藤 広行 院長 がん相談支援センターを知っていますか？ 8階健診室移転後のみなさまのご意見について 第28回 市民公開講演 患者満足度調査結果報告

(3) 地域医療連携室だより きずな

発行年月日	執筆者	テーマ
令和 5. 4. 1	丸山 泰弘 眼科診療部長	眼科-当院眼科の現状-
	地域医療連携室	内科新患外来完全予約制導入のお知らせ
5. 7. 1	森永 暢浩 副院長兼外科診療部長兼感染対策室室長	ヘルニアセンター開設のお知らせ
	村田 絹代 訪問看護室看護師長	訪問看護室開設のお知らせ
5. 10. 1	入内島 伸尚 麻酔科診療部長	当院麻酔科の紹介
	廣瀬 栄一 手術看護認定看護師	手術看護認定看護師の役割
6. 1. 1	梅村 崇 耳鼻いんこう科診療部長	当院耳鼻いんこう科の紹介
	伊藤 さやか 摂食・嚥下障害看護認定看護師	摂食嚥下支援チームの紹介

3 母親学級

(1) 母親学級開催日時・内容

開 催 日 時	内 容	講 師
第1水曜日 妊娠21週頃までの方 14：00～16：00	妊娠中の栄養 妊娠中の生活（妊娠初期） おっぱいのお手入れ マタニティヨーガ	管理栄養士 助産師
第2水曜日 妊娠22週から27週頃までの方 14：00～16：00	赤ちゃんの育て方 妊娠中の上手なお薬との つきあい方 妊娠中の生活（妊娠中期～後期）	小児科医師 薬剤師 助産師
第3水曜日 妊娠28週から34週頃までの方 14：00～16：00	産後の生活 赤ちゃんの生活 お産の準備	助産師
第4水曜日 妊娠32週からの方 14：00～16：00	お産の経過と呼吸法 産後の生活 入院案内	助産師

(2) 母親学級開催回数との延べ人数

開 催 回 数	参 加 者 数					
	妊婦	夫	子	母	父	計
24 回	人 169	人 0	人 0	人 0	人 0	人 169

(3) 産後退院指導

開 催 日 時	内 容	講 師
毎週火曜日 13：30～14：00 毎週金曜日 15：30～16：00	産褥期の日常生活 育児 家族計画 服薬指導	助産師 看護師 薬剤師
毎週水・金曜日 13：00～13：30	人工栄養（ミルク）の調乳法 消毒法	管理栄養士
毎週月・木曜日 13：30～14：00	沐浴指導	助産師 看護師

4 職場体験受入

学 校 名	体験内容	日 程	人数	実習場所
桐生市立商業高等学校	看護師体験	7/13 ～ 7/14	人 6	病棟看護体験
桐生市立相生中学校	看護師体験	9/7 ～ 9/7	3	病棟看護体験
桐生市立新里中学校	看護師体験	10/3 ～ 10/4	2	病棟看護体験

5 極低出生体重児の親の会「クラブ・プリミー」

(1) 第46回

① 開催日	令和5年10月22日（日）			
② 参加家族	12人の児と23人の家族（12家族）			
③ スタッフ	医師	2人	看護師	6人
	リハビリ	2人	臨床心理士	1人
	ボランティア保育士	1人	管理栄養士	1人

6 桐生市堀マラソン大会の支援

令和6年2月11日（日）に開催されました第70回桐生市堀マラソン大会において、大会実行委員会委員長（事務局 桐生市教育委員会）から、不慮の事故への迅速な対応など安全な大会に向けて、救急医療体制の充実を図ることを目的に、医師・看護師の大会参加の協力依頼があり、ドクター・ナースランナーとして参加しました。

当日は、23人がドクター（ナース）ランナー用のゼッケンを付け、参加選手と共に走りました。

7 リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2023 ぐんま

リレー・フォー・ライフとは、がん征圧を目指し、がん患者や家族、支援者らがリレー形式で24時間にわたって歩き、勇気と希望を分かち合うチャリティイベントです。

当院は、地域がん診療連携拠点病院の取り組みの一環としてイベント趣旨に賛同し、チーム及び後援団体として参加しています。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により後援と募金に参加しました。

8 令和5年度（第5回）桐生厚生総合病院連携登録医大会

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い令和元年度から中止しておりましたが、令和4年度からWEB（ZOOM）での配信で再開しました。令和5年5月から新型コロナ感染症が5類となりましたが、今年度は感染拡大防止の観点から6月22日（木）19時からWEB（ZOOM）での開催としました。第1部は新入職医師の紹介として、整形外科、産婦人科、内科の先生方の自己紹介を兼ねた診療部紹介を行いました。第2部では「ヘルニアセンター」の紹介を副院長兼外科診療部長の森永暢浩先生が行い、「訪問看護室」の紹介を訪問看護室の村田絹代師長が行いました。

来年度は対面での大会を予定し、登録医の先生方とより連携が深められるような会を企画したいと思います。

XII 研修業績

1 学会及び院外研修会

(1) 医師

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
内科	月			人
	4	第120回日本内科学会総会	web開催	1
	4	第63回日本呼吸器学会学術講演会	東京都	2
	5	第66回日本糖尿病学会年次学術集会	鹿児島県	1
	6	第83回米国糖尿病学会・学術集会	アメリカ	1
	9	第64回日本人間ドック学会学術大会	群馬県	1
	9	第59回ヨーロッパ糖尿病学会年次学術集会	ドイツ	1
	10	第38回日本糖尿病合併症学会	岡山県	1
	11	第31回日本消化器関連学会週間	兵庫県	2
	12	第33回日本呼吸ケアリハビリテーション学会学術集会	宮城県	1
	12	第45回日本肝臓学会西部会	京都府	1
	12	第32回国際喘息学会日本・北アジア部会	東京都	1
	1	第61回日本糖尿病学会 関東甲信越地方会	web開催	1
	2	第39回日本臨床栄養代謝学会学術集会	神奈川県	1
	2	第58回糖尿病学の進歩	京都府	1
神経内科	4	第120回日本内科学会総会	WEB開催	1
	5	第64回日本神経学会学術集会	WEB開催	1
小児科	5	第77回小児診療初期対応(JPLS) コース	群馬県	1
	5	第63回日本アレルギー学会専門医教育セミナー	web開催	1
	7	第59回日本周産期・新生児医学会 学術集会	web開催	2
	8	第12回インテンシブコース	web開催	1
	8	第19回日本先天代謝異常学会セミナー	web開催	1
	10	第72回日本アレルギー学会学術大会	東京都	1
	11	第32回日本小児リウマチ学会学術集会	web開催	1
	11	第67回日本新生児成育医学会学術集会	web開催	1
	1	日本周産期・新生児医学会 第42回周産期シンポジウム	web開催	1
外科	4	第123回日本外科学会定期学術集会	東京都	1
	6	第77回日本食道学会学術集会	大阪府	1
	7	第78回日本消化器外科学会総会	web開催	2
	9	第20回日本消化管学会教育講演会	web開催	1
	10	第47回日本消化器内視鏡学会セミナー	web開催	1
	11	第31回日本消化器関連学会週間(JDDW2023)	兵庫県	1
	11	第74回日本気管食道科学会総会	福岡県	1
	11	第85回日本臨床外科学会総会	岡山県	1
	11	第34回日本消化器癌発生学会総会	群馬県	1
	11	JDDW2023日本消化器関連学会週間	web開催	1

所属	開催 月	学会及び研修会名	開催地	出席 人数
外科	月			人
	11	第34回日本消化器癌発生学会総会	群馬県	1
	11	第15回東毛外傷セミナー	群馬県	1
	12	日本消化器病学会関東支部第377回例会	東京都	1
	12	第36回日本内視鏡外科学会	神奈川県	1
	2	日本消化器病学会関東支部第378回例会	東京都	2
	2	第40回ぐんま外傷セミナー インストラクターコース	群馬県	2
	3	令和5年度第5回関東ブロックDMAT技能維持研修	東京都	2
整形外科	3	第60回日本腹部救急医学会総会	福岡県	1
	4	第52回日本脊椎脊髄病学会学術集会	北海道	2
	5	第96回日本整形外科学会学術総会	神奈川県	3
	6	日本スポーツ整形外科学会2023	広島県	1
	9	第72回東日本整形災害外科学会	北海道	1
	10	第10回北関東慶応整形外科研究会	栃木県	1
	10	第2回首下がり研究会	兵庫県	1
	11	第26回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会	福岡県	1
	11	第57回日本側彎症学会学術集会	大阪府	1
脳神経 外科	11	第26回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会	福岡県	1
	5	第43回日本脳神経外科コンgres総会	大阪府	1
	10	第82回日本脳神経外科学会学術総会	WEB開催	1
	11	第39回日本脳神経血管内治療学会学術総会	京都府	1
	11	第30回日本神経内視鏡学会	WEB開催	1
	2	第25回日本脳神経血管内治療学会 関東地方会学術集会	東京都	1
乳腺 外科	3	STROKE2024	WEB開催	1
	6	第8回日本サポーティブケア学会	奈良県	1
	6	第31回日本乳癌学会学術総会	埼玉県	1
皮膚科	12	第19回日本乳癌学会関東地方会	神奈川県	1
	4	第31回日本医学会総会	web開催	1
	4	2022年度東北地区床ずれセミナー	web開催	1
	5	第38回日本臨床栄養代謝学会学術集会	兵庫県	1
	5	第2回日本フットケア・足病医学会 関東・甲信越地方会学術集会	東京都	1
	5	第31回群馬NST研究会	群馬県	1
	5	MEDぐんま2023	群馬県	1
	5	ぐんま足人の会 クラファンズスペシャルセミナー『足って何？シリーズ』	群馬県	1
	6	第122回日本皮膚科学会総会	神奈川県	1
	6	NP0法人口から食べる幸せを守る会(KTSM)第11回全国大会	長野県	1
	6	第39回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会	北海道	1
	6	第19回日本褥瘡学会東北地方会学術集会	宮城県	1
	6	第9回日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会総会・学術集会	北海道	1
	7	2023年度足育講演会	東京都	1
	7	第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会	宮城県	1

所属	開催 月	学会及び研修会名	開催地	出席 人数
皮膚科	月			人
	7	第39回日本環境感染学会総会・学術総会および第423回ICD講習会	web開催	1
	7	第114回日本皮膚科学会群馬地方会	群馬県	1
	8	第25回日本褥瘡学会学術集会	兵庫県	1
	9	日本在宅医療連合学会 第5回地域フォーラム	web開催	1
	9	第87回日本皮膚科学会東部支部学術大会	岩手県	1
	10	2023年度患者安全推進地域フォーラムin足利	栃木県	1
	11	アンケ・ニーデラウ先生来日記念講演会	東京都	1
	11	第20回日本褥瘡学会関東甲信越地方会学術集会	東京都	1
	11	第39回日本臨床皮膚科医会 三ブロック合同学術集会	東京都	1
	11	日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会 2023年度関東甲信越地区床ずれセミナー	長野県	1
	11	第18回医療の質・安全学会学術集会	web開催	1
	11	第19回在宅医療推進フォーラム	web開催	1
	12	第20回多業種フットケア研究会	東京都	1
	12	第4回日本フットケア・足病医学会年次学術集会	沖縄県	1
	1	第11回日本医療マネジメント学会群馬県支部学術集会	群馬県	1
	2	日本医師会認定産業医制度基礎研修会 産業医科大学産業医学基礎研修会 東京集中講座	東京都	1
	2	第39回日本臨床栄養代謝学会学術集会	神奈川県	1
	3	日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会 2024年度近畿地区床ずれセミナー	奈良県	1
	3	第17回日本褥瘡学会関東甲信越地方会群馬支部学術大会	群馬県	1
	3	第19回日本褥瘡学会中部地方会学術集会	福井県	1
	3	第116回日本皮膚科学会群馬地方会	群馬県	1
	3	第116回日本皮膚科学会群馬地方会	群馬県	1
泌尿器科	4	第110回日本泌尿器科学会総会	兵庫県	1
	5	Rezumiシステムハンズオントレーニング	東京都	1
	6	第68回日本透析医学会学術集会	兵庫県	2
	8	日本女性骨盤底医学会第25回学術総会	東京都	1
	10	第88回日本泌尿器科学会 東部総会	北海道	1
	11	第37回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会	鳥取県	1
	11	第75回西日本泌尿器科学会総会	愛媛県	1
	12	第36回日本内視鏡外科学会	神奈川県	1
眼科	4	第127回日本眼科学会総会	東京都/WEB	2
	5	関東甲信越眼科学会	千葉県	1
	10	第77回日本臨床眼科学会	東京都/WEB	2
麻酔科	6	日本麻酔科学会第70回学術集会	兵庫県/WEB	3
	7	第28回日本緩和医療学会学術大会	WEB開催	1
	12	日本臨床麻酔学会第43回大会	宮崎県	3
	2	日本ペインクリニック学会第4回東京・南関東支部学術集会	WEB開催	1
	3	第53回日本慢性疼痛学会	WEB開催	1
リハ科	6	第68回日本透析医学会学術集会・総会	兵庫県	1
	3	第14回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会	新潟県	1

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
歯科・ 歯科口腔外科	月			人
	8	日本歯科専門医機構共通研修	WEB開催	1
	11	第28回日本口腔顔面痛学会総会・学術大会	福岡県	1
臨床研 修医室	4	第82回日本医学放射線学会	神奈川県	1
	4	日本消化器病学会関東支部第374回例会	東京都	1
	10	第64回日本脈管学会総会	神奈川県	1
	9	第85回日本臨床外科学会総会	岡山県	1
	9	第691回日本内科学会関東地方会	東京都	5
	12	人工呼吸器とことんセミナー	東京都	1
	2	第19回ICLS講習会	群馬県	3
	2	日本消化器病学会関東支部第378回例会	東京都	1
	3	JATECコース受講	群馬県	1

(2) 薬剤部

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
薬剤部	月			人
	5	第6回群馬県薬学大会	高崎市	9
	6	令和5年度群馬県感染症対策連絡協議会総会・特別講演会	前橋市	2
	6	心不全診療 Web Conference	桐生市	2
	8	災害医療を考える ～災害時から平常時まで～	WEB開催	2
	9	Pharmacist Web Seminar ～薬剤師キャリアパスを考える～	WEB開催	2
	10	桐生薬剤師会 講演会・例会	桐生市	1
	11	東北地区ソーティクツ発売1周年記念講演会	桐生市	2
	11	桐生薬剤師会 講演会・例会	桐生市	2
	12	第2回制吐療法スキルアップセミナー	WEB開催	3
	12	LEQEMBI Web Seminar	WEB開催	1
	12	令和5年度薬剤業務研修会	WEB開催	1
	12	桐生薬剤師会 講演会・例会	桐生市	1
	1	第2回群馬県救急集中治療薬剤師セミナー	WEB開催	1
	2	医療安全管理室 肝炎ウイルス検査結果の対応	桐生市	1
	3	令和5年度 第3回 薬剤業務研修会	桐生市	7
	3	第24回 桐生オンコロジーファーマシスト研究会	桐生市	4

(3) リハビリテーション技術科（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
リハビリテ ーション技術 科	月			人
	10	臨床実習指導者講習会	高崎	1
	10	群馬PNF勉強会	太田	1
	11	群馬県言語聴覚士会 第7回学術研究発表会	WEB開催	1

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
リハビリテーション技術科	1月	第43回群馬県脳卒中連携の会 本会議	前橋	3人
	2月	群馬PNF勉強会	太田	1人

(4) 放射線技術科

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
放射線技術科	4月	日本放射線技術学会第79回総会学術大会	WEB開催	3人
	4月	第31回日本医学会総会	東京都	1人
	6月	第62回日本消化器がん検診学会総会	WEB開催	2人
	7月	診療放射線技師法改正に伴う告示研修（実技）	前橋市	4人
	9月	令和5年度第1回桐生・みどり地区診療放射線技師勉強会	WEB開催	20人
	11月	第51回日本放射線技術学会秋季学術大会	WEB開催	2人
	1月	診療放射線技師法改正に伴う告示研修（実技）	前橋市	2人
	3月	令和5年度第2回桐生・みどり地区診療放射線技師勉強会	ハイブリッド	21人

(5) 中央検査科（臨床検査技師）

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
中央検査科	4月	タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会（基礎研修）	WEB開催	3人
	4月	生物化学分析検査研究班研究会	WEB開催	1人
	4月	輸血検査研究班4月例会①	WEB開催	2人
	5月	第71回日本輸血細胞治療学会学術集会	千葉県	1人
	5月	第72回日本医学検査学会 in GUNMA	高崎市	28人
	5月	2023年度認定輸血検査技師制度合同研修会	WEB開催	1人
	5月	令和5年度第1回群馬県臓器移植コーディネーター研修会	WEB開催	1人
	5月	日本超音波医学会第96回学術集会	WEB開催	1人
	6月	2023年度認定輸血検査技師制度施設研修	栃木県	1人
	6月	令和5年度群馬県感染症対策連絡協議会総会・特別講演会	WEB開催	2人
	6月	令和5年度群臨技渉外講演会	前橋市	2人
	6月	第64回日本臨床細胞学会総会春期大会	愛知県	1人
			WEB開催	1人
	6月	検体採取等に関する厚生労働省指定講習会240	千葉県	1人
	6月	血液検査研究班6月例会②	前橋市	1人
	6月	一般検査研究班6月例会①	WEB開催	2人
	6月	輸血検査研究班6月例会②	前橋市	2人
	6月	免疫血清研究班6月例会①	WEB開催	3人
	7月	生物化学分析検査研究班研究会	WEB開催	1人

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
中央 検査科	7月			人
	7	血液検査研究班7月例会①	前橋市	1
	7	第4回群馬県臨床検査技師会群馬県放射線技師会合同勉強会	前橋市	1
	7	第4回臨床免疫化学検査部門研修会	WEB開催	1
	7	病理細胞診検査研究班7月例会③	WEB開催	2
	7	微生物検査研究班7月例会①	WEB開催	2
	7	一般検査研究班7月例会①	WEB開催	2
	7	タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会（実技研修：群馬県009）	前橋市	2
	8	令和5年度第2回関東ブロックDMAT技能維持研修	東京都	1
	8	令和5年度 認定心電検査技師育成研修会	WEB開催	2
	8	令和5年度 認定病理検査技師制度指定講習会	WEB開催	1
	8	臨床化学検査研究班8月例会①	WEB開催	2
	8	輸血検査中級実技研修会	前橋市	1
	8	輸血検査研究班例会③	WEB開催	1
	8	微生物検査研究班8月例会①	WEB開催	5
	8	免疫血清研究班8月例会①	WEB開催	1
	8	臨床化学研究班8月例会②	WEB開催	1
	8	血液疾患における輸血検査のポイント（抗CD38抗体治療による輸血検査の影響）	WEB開催	4
	9	第64回日本人間ドッグ学会学術大会	高崎市	1
	9	2023年度認定臨床化学・免疫化学精度保障管理検査技師 第1回認定指定講習会	WEB開催	1
	9	令和5年度群臨技新人研修会	高崎市	2
	9	第37回関東臨床細胞学会学術集会	高崎市	3
	9	第145回医用超音波講義講習会	WEB開催	2
	10	日本医療検査科学会第55回大会	神奈川県	3
	10	JACLaS EXP02023	神奈川県	5
	10	タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会（実技研修：群馬県010）	前橋市	4
	10	群馬県臨床検査技師会 輸血研修会～宗教的理由による輸血拒否の考え方～	WEB開催	1
	10	生理検査研究班10月例会①	WEB開催	2
	10	血液検査研究班10月例会①	WEB開催	1
	10	輸血検査研究班例会⑤	WEB開催	4
	10	日本超音波医学会第35回関東甲信越地方会学術集会	東京都	2
	10	特定放射線同位元素防護管理者定期講習会	WEB開催	1
	10	第63回日本臨床化学会年次学術集会	東京都	1
	11	第146回医用超音波講義講習会	WEB開催	2
	11	全国検査と健康展in群馬	高崎市	1
	11	第35回首都圏支部・関甲信支部微生物検査研修会	神奈川県	3
	11	Lung Cancer Web Seminar～個別化医療を目指して～	WEB開催	1

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
中央 検査科	月			人
	11	第18回群馬県合同輸血療法委員会	前橋市	2
	11	病理細胞診検査研究班11月例会②	前橋市	1
	11	2023年度 日臨技首都圏支部・関甲信支部医学検査学会（第59回）	神奈川県	1
	11	一般検査研究班11月例会①	WEB開催	1
	11	心エコーLIVEセミナー～PAH早期発見からフォローアップ～	WEB開催	1
	11	令和5年度関東ブロックDMAT訓練	神奈川県	1
	12	”心電図マイスターと一緒に読み解こう！～見逃したくない心電’s～”	WEB開催	2
	12	生物化学分析検査研究班講演会	WEB開催	1
	12	令和5年度群馬炎感染症対策連絡協議会 合同カンファレンス	WEB開催	1
	12	タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会（実技研修：群馬県011）	前橋市	2
	12	生化学自動分析装置の基礎～キャリブレーション・試薬ブランクキャリブレーションの考え方～	WEB開催	1
	12	輸血検査研究班12月例会	前橋市	2
	1	第29回関甲信・首都圏支部免疫血清研究研修会	WEB開催	1
	1	群臨技令和6年新年賀詞交換会・講演会	前橋市	3
	1	令和5年度第3回千葉県輸血検査研究班研修会	WEB開催	1
	1	第38回輸血検査基礎実技研修会	前橋市	2
	1	令和5年度群馬県臨床検査技師会リーダー育成研修会	高崎市	1
	1	第78回群馬臨床細胞学会学術集会・総会	高崎市	3
	1	第11回日本医療マネジメント学会 群馬県支部学術集会	高崎市	1
	1	一般検査研究班1月例会①	WEB開催	1
	2	第35回日本臨床微生物学会総会・学術集会	神奈川県	4
	2	宮臨技「臨床検査技師も知っておくべき診療報酬の基礎知識」	WEB開催	1
	2	2023年度 関甲信支部・首都圏支部人材育成研修会	栃木県	1
	2	目指せ！神経生理検査マイスター	WEB開催	1
	2	神経伝達検査～ルーチン検査のテクニックを学ぼう～	WEB開催	1
	2	令和5年度群馬県臨床検査精度管理調査報告会	前橋市	1
	2	生理検査研究班2月例会①	WEB開催	2
	2	第157回日本輸血細胞治療学会関東甲信越支部例会	長野県	1
	3	令和5年度群馬県合同輸血療法委員会講演会	WEB開催	1
	3	病理細胞診検査研究班3月例会①	前橋市	2
	3	免疫血清研究班3月例会①	WEB開催	2
	3	令和5年度第2回渉外講演会・情勢報告会	前橋市	2
	3	輸血テクニカルセミナー2023	WEB開催	2
	3	一般検査研究班3月例会	WEB開催	1
	3	生理検査研究班3月例会①	WEB開催	1
	3	令和6年度診療報酬改定に伴う説明会	WEB開催	3
	3	群馬県細胞士会学術講演会	前橋市	2

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
中央 検査科	3月	令和5年度第2回群馬県臓器移植コーディネーター研修会	前橋市	1人
	3月	第88回日本循環器学会学術集会	兵庫県	1人

(6) 栄養管理科（管理栄養士・調理師）

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
栄養管理科	5月	群馬栄養士会医療事業部運営会議特別講演	群馬県	1人
	2月	JSPEN2024	神奈川県	1人
	2月	第41回群馬栄養改善学会	群馬県	2人
	3月	群馬栄養士会医療事業部研修会議特別講演	群馬県	1人
	3月	健康フェスタ2024 腎臓を大切に！	群馬県	1人

(7) 臨床工学技士

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
臨床工 学科	7月	株式会社エム・イー MEGURI研修会（心電図）	WEB開催	1人
	7月	フクダ電子 心臓カテーテル検査講習会	WEB開催	1人
	11月	Servo Preventive Maintenance講習会	東京都	1人
	12月	第33回日本呼吸ケアリハビリテーション学会学術集会	宮城県	1人

(8) 視能訓練士

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
視能訓練室	6月	第24回日本ロービジョン学会学術集会	東京都	1人
	1月	第64回日本視能矯正学会	WEB開催	1人

(9) 看護部（助産師・看護師）

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
看護部	4月	全米がん看護学会(48th Annual Oncology Nursing Society Congress)	アメリカ	1人
	5月	ImSAFER研究会主催セミナー 分析Basic(実習編)コース	web開催	2人
	5月	第19回 群馬がん看護フォーラム	群馬県	1人
	6月	令和5年度第1回群馬県合同輸血療法委員会看護師会	群馬県	2人
	6月	ImSAFER研究会主催セミナー QuickSAFER分析コース	web開催	2人
	6月	日本老年看護学会 第28回学術集会	神奈川県	2人

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
看護部	月			人
	6	榊原循環器セミナー	東京都	3
	6	令和5年度第1回病院看護業務研修会	群馬県	2
	6	訪問看護研修 入門プログラム	群馬県	1
	6	第25回 日本医療マネジメント学会学術集会	神奈川県	2
	6	第28回 日本緩和医療学会学術大会	兵庫県	1
	6	訪問看護師養成研修〔ステップ1〕	群馬県	1
	6	認定看護管理者教育課程 セカンドレベル	群馬県	3
	6	23' 「重症度・医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修	web開催	1
	7	第31回 日本乳癌学会学術総会	神奈川県	1
	7	訪問看護ステーション実習（同行訪問実習）	群馬県	1
	7	第38回 日本環境感染学会総会・学術総会	web開催	1
	7	群馬局地DMAT研修スタッフ	群馬県	4
	7	第66回 桐生市臨海子ども会 参加者の救護	茨城県	2
	7	第40回 群馬小児糖尿病の会（ひまわり会）サマーキャンプ	群馬県	1
	7	国立がん研究センター2023年度がん相談支援センター	web開催	2
	7	在宅療養支援研修にて当院の訪問看護	群馬県	1
	7	23「重症度、医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修	web開催	1
	7	循環器専門ナース研修 夏季コース	大阪府	1
	7	看護学実習指導者養成講習会	群馬県	1
	7	第18回 群馬クリニカルパス研究会	群馬県	1
	8	2023年度輸血検査中級実技研修会	群馬県	1
	8	在宅療養支援研修 レベルⅢ	群馬県	1
	8	一般社団法人日本看護研究学会 第49回学術集会	web開催	1
	8	在宅療養支援研修	群馬県	1
	8	訪問看護研修 入門プログラム	群馬県	2
	8	日本看護管理学会2023	東京都	1
	8	2023年度 看護職員認知症対応力向上研修	群馬県	1
	8	訪問看護研修 入門プログラム	群馬県	1
	8	日本看護教育学会 第32回学術集会	群馬県	1
	9	第25回 日本褥瘡学会学術集会	兵庫県	3
	9	うつ・自殺予防研修会	群馬県	9
	9	東第4回 日本DMAT隊員養成研修	群馬県	1
	9	小児在宅移行支援指導者育成研修	web開催	1
	9	ImSAFER研修会主催セミナー QuickSAFER分析コース	web開催	2
	9	訪問看護ステーション実習	群馬県	1
	9	2023年度 群馬周産期研究会 理事会及び総会	群馬県	1
	9	訪問看護実習	群馬県	2
	9	2023年度認定看護管理者教育課程 ファーストレベル研修	群馬県	3
	9	がん看護専門教育	東京都	1
	9	在宅療養支援研修レベルⅢ 訪問看護実習	群馬県	1

所属	開催 月	学会及び研修会名	開催地	出席 人数
看護部	月			人
	10	第20回災害医療研修	群馬県	2
	10	小児等在宅医療連携拠点事業研修会「短期入所施設からみた医療的ケア児サポートの現状と課題」	群馬県	1
	10	認定病院患者安全推進協議会 2023年度患者安全推進フォーラムin足利	栃木県	2
	10	第16回 群馬ストーマリハビリテーション講習会2023	群馬県	1
	10	小児在宅移行支援指導者フォローアップ研修	web開催	1
	10	令和5年度 群馬がん看護協会 スキルアップセミナー	群馬県	1
	10	在宅療養支援研修レベルⅢ	群馬県	1
	10	令和5年度透析療法従事職員研修	web開催	1
	10	小児在宅移行支援指導者フォローアップ研修	群馬県	1
	11	第32回 日本新生児看護学会学術集会	神奈川県	1
	11	訪問看護実習	群馬県	1
	11	第23回 日本クリニカルパス学会学術集会	埼玉県	1
	11	令和5年度 第2回 病院看護業務研修会	群馬県	3
	11	がん看護基礎講座	web開催	2
	11	第54回(2023年度)日本看護学会学術集会	神奈川県	2
	11	第14回 群馬県クリティカルケア研究会	群馬県	2
	11	群馬県医療的ケア児等支援センター「やっほ」の活動	群馬県	1
	11	第27回 群馬県看護学会	群馬県	24
	11	群馬県合同輸血療法委員会、同輸血関連看護師会	群馬県	2
	11	第45回 日本手術医学会総会	神奈川県	1
	11	訪問看護実習	群馬県	1
	11	第23回 日本クリニカルパス学会学術集会	埼玉県	1
	12	第18回 医療の質・安全学会学術集会	web開催	1
	12	訪問看護実習	群馬県	1
	12	訪問看護実習	群馬県	1
	12	訪問看護実習	群馬県	1
	12	医療安全管理者養成研修	群馬県	2
	12	周産期看護研修会<産科編>	web開催	1
	12	令和5年度群馬県合同輸血療法委員会 輸血関連看護師会・輸血研修会	群馬県	1
	12	訪問看護実習	群馬県	6
	12	在宅療養支援研修レベルⅢ 訪問看護実習	群馬県	1
	12	訪問看護実習	群馬県	2
	12	第27回 群馬県看護学会	web開催	3
	12	訪問看護実習	群馬県	2
	1	訪問看護実習	群馬県	2
	1	令和5年度 妊娠・出産包括支援推進研修会	群馬県	2
	1	妊娠・出産包括支援推進研修会	群馬県	3
	1	在宅療養支援研修レベルⅢ 訪問看護実習	群馬県	1
	1	令和6年度診療報酬改定概要～医療DXをふまえた解説～	web開催	1
	1	すべての看護師のためのエンド・オブ・ライフ・ケア講習会	群馬県	2

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
看護部	月			人
	1	関東ブロックDMAT技能維持研修	東京都	1
	2	日本看護サミット2023	東京都	6
	2	第39回 日本臨床栄養代謝学会学術集会	神奈川県	2
	2	令和5年度第3回病院看護業務研修会	群馬県	6
	2	令和5年度第4回群馬県合同輸血療法委員会輸血関連看護師会	群馬県	2
	2	第38回 日本がん看護学会学術集会	兵庫県	1
	2	第45回 群馬県病弱児療育研究会	群馬県	3
	2	第38回 日本がん看護学会学術集会	兵庫県	3
	2	助産師職能・参加管理者交流会	群馬県	1
	3	令和5年度第5回関東ブロックDMAT技能維持研修	東京都	2
	3	2024年診療報酬改定セミナー	群馬県	1

(10) 事務

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
総務課	月			人
	10	市町村等人事・給与担当課長会議	群馬県	1
契約管財課	11	エネルギー管理講習 新規講習	WEB開催	1
	12	防火防災管理者講習	群馬県	1
	2	自衛消防業務新規講習	群馬県	1
医事課	7	第18回 群馬クリニカルパス研究会	群馬県	1
	11	第23回 日本クリニカルパス学会学術集会	埼玉県	1
	1	令和5年度 群馬県院内がん登録研修会	WEB開催	2
地域医療連携室	11	令和5年度ゲーム依存支援者研修会	群馬県	1

2 学会発表・講演・論文

◇内科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌, 巻号頁, 年月
症例報告	周期性発熱と腹膜刺激症状を伴う回腸末端炎を繰り返した家族性地中海熱の1例	相川崇 根岸駿 福地達 堀口英 菅間一乃 野中真知 飯田智広	日本内科学会雑誌112巻5号：836-841, 2023. 5
症例報告	Relief of Obstructive Shock with a Large Hiatal Hernia Occupying the posterior	Aikawa T Yamada T Iida T	Internal Medicine15;63(2):231-234, 2024. 1

◇内科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名, 開催地, 年月日
症例報告	SAPHO症候群の消化管内視鏡像	井田真悟 相川崇 根岸駿 飯田智広	第374回日本消化器病学会関東支部例会, 東京都, 2023. 4
ポスター	乾癬患者における睡眠時無呼吸症候群の合併に関する検討	澤田英 前野敏孝 三浦陽介 鶴巻寛明 矢富正清 古賀康彦 砂長則明 久田剛志	第63回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2023. 4
口演	当院で内視鏡診断・治療を行った管状絨毛腺腫tubulovillous adenoma 3例に関する臨床病理学的検討	相川崇	第109回日本消化器病学会総会, 長崎, 2023. 4
口演	当院で経験したTAFRO症候群2例. 救命できなかった症例と救命可能であった症例の臨床推論についての検討	相川崇 飯田智広 根岸駿 狩野稔也	第120回日本内科学会総会, 東京, 2023. 4
口演	NAFLDに対しペマフィブラート投与で顕著な肝機能の改善を得た肥満1型糖尿病症例	加嶋耕二 清水弘行	第66回日本糖尿病学会年次学術集会, 鹿児島, 2023. 5
症例報告	上腸管膜動脈症候群（SMA症候群）ではなかった3例	相川崇	第105回日本消化器内視鏡総会, 東京, 2023. 5
ポスター	GLP-1 RA Should Be Used with SGLT2 Inhibitor in People with Rapidly Progressive CKD	Koji K Hiroyuki S Masanobu Y	American Diabetes Association 83rd Scientific Sessions, USA, 2023. 6
症例報告	周期性発熱と腹膜刺激症状を伴う回腸末端炎を繰り返した家族性地中海熱の1例	相川崇 根岸駿 福地達 堀口英 菅間一乃 野中真知 飯田智広	第688回日本内科学会関東地方会, 東京都, 2023. 7
症例報告	両側水腎症と横行結腸閉塞を呈し、診断に難渋した十二指腸乳頭部癌・癌性腹膜炎の1例	森田大貴 相川崇 井田真悟 根岸駿 飯田智広	第688回日本内科学会関東地方会, 東京都, 2023. 7

◇内科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者		学会名,開催地,年月日
口演	Need for newer pillars of therapy for reno-rotection: pronounced eGFR slope improvement by SGLT2i and GLP-1RA in people with rapid eGFR decline	Koji K Masanobu Y	Hiroyuki S	59th ANNUAL MEETING of the EUROPEAN ASSOCIATION FOR STUDY OF DIABETERS, Germany, 2023. 10
口演	当院における、肝細胞癌に対するテセントリク+アバスチン併用療法の治療効果の検討	福地達		第45回日本肝臓学会西部会, 京都, 2023. 11
症例報告	発熱・関節痛・全身の浮腫性紅斑を呈し、ツツガムシ病との鑑別を要した成人スティル病の1例	中村香織 猿渡広輝 松浦優祐 吉田昌平 飯田智広	相川崇 牧千博 森田美保 根岸駿	第691回日本内科学会関東地方会, 東京都, 2023. 11
症例報告	抗U1-RNP抗体陽性の混合性結合組織病に発症した無菌性髄膜炎の1例	猿渡広輝 中村香織 松浦優祐 根岸駿	相川崇 牧千博 森田美保 飯田智広	第691回日本内科学会関東地方会, 東京都, 2023. 11
症例報告	発熱とともに子宮付属器炎・欄干水腫を認めた家族性地中海熱の1例	吉田昌平 猿渡広輝 牧千博 森田美保 飯田智広	相川崇 中村香織 松浦優祐 根岸駿	第691回日本内科学会関東地方会, 東京都, 2023. 11
症例報告	胃がん検診・胃透視検査から3か月後に発症したバリウム大腸憩室炎の1例	牧千博 狩野稔也 飯田智広	相川崇 根岸駿	第691回日本内科学会関東地方会, 東京都, 2023. 11
症例報告	S状結腸狭窄部を経鼻内視鏡で観察し組織学的診断に至った腸管子宮内膜症の1例	森田美保 猿渡広輝 牧千博 吉田昌平 飯田智広	相川崇 中村香織 松浦優祐 根岸駿	第691回日本内科学会関東地方会, 東京都, 2023. 11
症例報告	高TG血症により発症した重症急性膵炎の1例	松浦優祐 相川崇	根岸駿 飯田智広	第691回日本内科学会関東地方会, 東京都, 2023. 11
ポスター	当院における最近のネーザルハイフロー(HFNC)使用状況	小野昭浩 橋場聡志 岩澤恵美 尾崎恵子	加藤優典 桑原渉 廣町陽志 宇津木光克	第33回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 仙台, 2023. 12
症例報告	高トリグリセリド血症により発症した重症急性膵炎の1例	松浦優祐 相川崇 飯田智広	根岸駿 山口直樹	第378回日本消化器病学会関東支部例会, 東京都, 2024. 2

◇内科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名, 開催地, 年月日
症例報告	Case series of Elderly Patients with MEFV Gene-Related Enterocolitis Mimicking Acute Cholangitis, Paralytic Ileus, and Sigmoid Ischemic Colitis.	相川崇 根岸駿 清水創一郎 福地達 菅間一乃 野中真知 飯田智広	第378回日本消化器病学会関東支部例会, 東京都, 2024. 2

◇小児科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌, 巻号頁, 年月
原著論文	当院におけるロタウイルス（RV）胃腸炎入院に関する検討	柳晴加 島田正晴 齋藤亜希子 関根和彦 浦野博央 袖野玲子 針谷晃 大木康史 桑原信	小児科 64(6), 630-634, 2023. 6
原著論文	日齢1より特徴的な異常眼球運動で発症した入院交互性片麻痺の症例	松野早紀 大木康史 緒方朋実 荒川篤康 品川穰 小柳晴加 齋藤亜希子 関根和彦 浦野博央 袖野玲子 鈴木尊裕 針谷晃	小児科 64(11), 1075-76, 2023. 11

◇小児科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名, 開催地, 年月日
講演	医療的ケア児の現状とケアの実際	大木康史	桐生特別支援学校医療的ケア支援教員研修会, 桐生市, 2023. 7
口述発表	筋緊張低下を契機に遺伝子検査で早期に診断に至ったネマリンミオパチーの1例	吉川晟羽 吉田卓生 山口将邦 齋藤亜希子 関根和彦 浦野博央 袖野玲子 大木康史 荒川篤康 緒方朋実	第223回日本小児科学会群馬地方会, 前橋市, 2023. 12
口述発表	母の診断を契機に診断に至った血管型 Ehlers-Danlos症候群の1例	吉田卓生 吉川晟羽 山口将邦 齋藤亜希子 関根和彦 浦野博央 袖野玲子 大木康史	第224回日本小児科学会群馬地方会, 桐生市, 2024. 3
講演	2024年シーズンのパリビズマブ投与方針と、投与対象児の絞り込む方法について	大木康史	RSV Conference in Gunma, 前橋市, 2024. 3

◇外科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者		掲載誌, 巻号頁, 年月
著書	鉗子の洗浄ポートを利用した癒着防止剤貼付法の工夫	木村明春 和田渉 森永暢浩	緒方杏一 鈴木一設 加藤広行	生体吸収性外科材料の使い方と新しい材料の有用性, 2024. 3. 29
論文	Albumin-derived Neutrophil-to-Lymphocyte Ratio Score as a Marker of Nivolumab Treatment Sensitivity in Gastric Cancer:A Multicenter Study.	Nakazawa N Tateno K Kimura A Hosaka H Sekiguchi M Ogata K Sakai M Shirabe K	Sohda M Watanabe T kogure N Naganuma A Saito K Sano A Ogawa H Saeki H	In Vivo, 37(2):818-824. 2023
論文	オピオイドでは除痛困難であった局所進行直腸癌に対して硬膜外アクセス用皮下ポートシステムによる除痛管理が有効であった1例	木村明春 高瀬友彰 和田渉 奥山隆之 塚越裕 佐藤淳	森下亜希子 森永暢浩 緒方杏一 吉川晟羽 入内島伸尚 加藤広行	癌と化学療法 50(11), 1215-1218, 2023
論文	Sigmoid colon schwannoma difficult to distinguish from peritoneal dissemination 13 years after pancreatic neuroendocrine tumor surgery.	Suzuki K Shioi I Okada T Sano T Ogawa H Sakai M Shirabe K	Shiraishi T Ozawa N Osone K Araki K Sano A Sohda M Saeki H	Surg Case Rep. 9(1):76, 2023

◇外科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者		学会名, 開催地, 年月日
口演	がん悪液質を有する進行胃癌患者に対してアナモレリン使用後に食欲不振の改善が得られた1例	木村明春 和田渉 森永暢浩	緒方杏一 奥山隆之 加藤広行	第38回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 神戸, 2023. 5
口演	残胃全摘後の難治性下痢に対して入院栄養療法を行った1例	木村明春 和田渉 奥山隆之 岡田克之 加藤広行	緒方杏一 森下亜希子 飯田智広 森永暢浩	第31回群馬NST研究会, 前橋, 2023. 5
ポスター	当科における免疫チェックポイント阻害剤併用化学療法を用いた切除不能・進行再発胃癌一次療法の治療経験	木村明春 和田渉 森永暢浩	緒方杏一 奥山隆之 加藤広行	第78回日本消化器外科学会総会, 函館, 2023. 7

◇外科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者		学会名, 開催地, 年月日
講演	手術支援ロボット導入に向けて	緒方杏一		桐生市医師会講演会, 桐生, 2023. 8
ポスター	下腸間膜動脈が総肝動脈より分岐する直腸癌に対して手術を施行した一例	鈴木一設		第85回日本臨床外科学会総会, 岡山, 2023. 11
口演	大腿ヘルニア囊内膿瘍を合併した急性虫垂炎に対し腹腔鏡および前方法のハイブリッド同時手術を施行した1例	吉山敦 鈴木一設 森下亜希子 森永暢浩 調憲	緒方杏一 木村明春 和田渉 加藤広行	第85回日本臨床外科学会総会, 岡山, 2023. 11
ポスター	ニボルマブ併用一次化学療法中に大腸炎と急激な病勢進行を同時に認めた胃癌術後腹膜播種の1例	木村明春 和田渉 鈴木一設 加藤広行 調憲	緒方杏一 森下亜希子 森永暢浩 佐伯浩司	第34回日本消化器癌発生学会総会, 高崎, 2023. 11
ポスター	通過障害を伴う切除不能進行胃癌に対する腹腔鏡下胃空腸吻合術の有効性	木村明春 森永暢浩 森下亜希子 加藤広行	緒方杏一 和田渉 鈴木一設	第36回日本内視鏡外科学会総会, 横浜, 2023. 12
口演	当院におけるヘルニアセンター立ち上げの取り組み	木村明春 和田渉 鈴木一設	森永暢浩 緒方杏一 加藤広行	第8回群馬ヘルニア研究会, 前橋, 2024. 1
口演	当科における結腸憩室炎症例の臨床的検討	和田渉 木村明春 森下亜希子 加藤広行	鈴木一設 緒方杏一 森永暢浩	日本消化器病学会関東支部第378回例会, 東京, 2024. 2
口演	85歳以上の超高齢者における胃癌手術症例の検討	木村明春 和田渉 森永暢浩	緒方杏一 鈴木一設 加藤広行	第96回胃癌学会総会, 京都, 2024. 2

◇乳腺外科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者		学会名, 開催地, 年月日
ポスター	免疫チェックポイント阻害剤の効果がなかったトリプルネガティブ乳癌の検討	森下亜希子 加藤広行	塩谷智恵	第31回日本乳癌学会学術総会, 横浜, 2023. 6

◇乳腺外科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名, 開催地, 年月日
ポスター	終末期に発生するがん関連血栓症の治療の適応の検討	森下亜希子	第8回日本がんサポータータイプケア学会学術集会, 奈良, 2023. 6
口演	乳癌術後に原発性脳腫瘍が見つかった一例	森下亜希子	第19回日本乳癌学会関東地方会, 大宮, 2023. 12
講演	「がん教育講演」がんという病気についてまず知ることから～原因、検診、治療～	森下亜希子	がん教育講演, 桐生市黒保根学園, 2024. 1

◇整形外科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名, 開催地, 年月日
講演	進化する脊椎矯正手術	角田陽平	Treatment Strategy and Practice for Adult Spinal Deformity, web, 2023. 11
講演	ヘルニア投与までの流れ	角田陽平	ヘルニアコア発売5周年WEBセミナー, 高崎, 2023. 12

◇脳神経外科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名, 開催地, 年月日
口演	多発dAVFに対し、Onyx TVEを併用して治療した1例	石井希和 橋場康弘 曲澤聡 宮本直子 内藤功	第104回群馬脳神経外科懇話会, 前橋, 2023. 8
ポスター	CASPERによるCAS後の急性閉塞の1例	橋場康弘 石井希和 曲澤聡	第39回日本脳神経血管内治療学会学術集会, 京都, 2023. 11

◇皮膚科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌, 巻号頁, 年月日
分担執筆	「きず」を治すための基本方針は揺るがない～最近の動向と合わせて～	岡田克之	マルホ皮膚科セミナー「ラジオNIKKEI」放送内容集No. 283, 27-31, 2023
総説	褥瘡患者の栄養アセスメント&ケア：「深部損傷褥瘡（DTI）疑い」とは	岡田克之	ニュートリションケア 16(8), 16-21, 2023
和文原著	外用薬は、みて選び、みて使う。	岡田克之	日本褥瘡学会誌 26(1):18-24, 2024

◇皮膚科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌, 巻号頁, 年月日
和文共著	創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン(2023) —1: 創傷一般 (第3版)	茂木精一郎 有馬豪 一木稔生 植田郁子 岡田克之 金子栄 加納宏行 倉繁祐太 清水晶 澄川靖之 高橋秀典 玉城善史郎 徳山道生 波部幸司 藤田英樹 浅野善英 中西健史 藤原浩 前川武雄 吉野雄一郎 長谷川稔 藤本学 立花隆夫	日本皮膚科学会雑誌 133(11):2519-2564, 2023
連載	健康設計図: 第28回 ストレスの影響 ～心も体も健康に～	岡田克之	群馬建設新聞, 日本工業 経済新聞社前橋支局, 2023. 4
連載	健康設計図: 第29回 医者の話2～話 す力とは何か?～	岡田克之	群馬建設新聞, 日本工業 経済新聞社前橋支局, 2023. 5
連載	健康設計図: 第30回 行動経済学に触 れる～医療の場での応用～	岡田克之	群馬建設新聞, 日本工業 経済新聞社前橋支局, 2023. 6
連載	健康設計図: 第31回 チーム医療～専 門性だけではなくて～	岡田克之	群馬建設新聞, 日本工業 経済新聞社前橋支局, 2023. 7
連載	健康設計図: 第32回 蕁麻疹（じんま しん）～残念ながら原因不明～	岡田克之	群馬建設新聞, 日本工業 経済新聞社前橋支局, 2023. 8
連載	健康設計図: 第33回 三位一体～だい たい3つのポイントで～	岡田克之	群馬建設新聞, 日本工業 経済新聞社前橋支局, 2023. 9
連載	健康設計図: 第34回 ほくろを知る～ ごくまれに悪性化～	岡田克之	群馬建設新聞, 日本工業 経済新聞社前橋支局, 2023. 10
連載	健康設計図: 第35回 皮膚科医の眼～ 3秒の技術～	岡田克之	群馬建設新聞, 日本工業 経済新聞社前橋支局, 2023. 11

◇皮膚科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌, 巻号頁, 年月日
連載	健康設計図：第36回 足の健康を守る 2～足人かるたが完成！～	岡田克之	群馬建設新聞, 日本工業 経済新聞社前橋支局, 2023. 12
連載	健康設計図：第37回 色もいろいろ～ 赤と青と茶色と～	岡田克之	群馬建設新聞, 日本工業 経済新聞社前橋支局, 2024. 1
連載	健康設計図：第38回 より良く働くこ と～産業医の存在～	岡田克之	群馬建設新聞, 日本工業 経済新聞社前橋支局, 2024. 2
連載	健康設計図：第39回 医者の話3～春 に向けて～	岡田克之	群馬建設新聞, 日本工業 経済新聞社前橋支局, 2024. 3
連載	オピニオン21：ムンテラからICへ	岡田克之	上毛新聞 第46, 090号, 上毛新聞社, 2023. 11. 10
連載	オピニオン21：きょうの足 あしたの 足	岡田克之	上毛新聞 第46, 143号, 上毛新聞社, 2024. 1. 5
連載	オピニオン21：医療現場の働き方	岡田克之	上毛新聞 第46, 196号, 上毛新聞社, 2024. 2. 28
雑報	どうする、ふだんの選択（特集：どう する？〇〇〇〇～今向き合う、地域医 療の隠れた課題～）	岡田克之	群馬県医師会報 第902号 pp49-50, 群馬県医師会, 2023. 9. 25
雑報	編集後記	岡田克之	群馬県医師会報 第902号 pp49-50, 群馬県医師会, 2023. 9. 25
雑報	マイホビー・マイライフ・マイタイ ム：行動経済学に触れてみた	岡田克之	群馬県医師会報 第903号 pp49, 群馬県医師会, 2023. 10. 25
雑報	ほっとタイム：飴をもらう	岡田克之	群馬県医師会報 第904号 pp42, 群馬県医師会, 2023. 11. 25
雑報	リレー「味・趣味の店」：藤屋食堂	岡田克之	群馬県医師会報 第907号 pp45-46, 群馬県医師会, 2024. 2. 25

◇皮膚科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌, 巻号頁, 年月日
雑報	床ずれで苦しむひとのない社会を！	岡田克之	床ずれ新聞 vol.13, 日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会, 2024. 3. 1
雑報	学会報告：第17回日本褥瘡学会関東甲信越地方会群馬支部学術大会を開催して	岡田克之	群馬大学医学部刀城クラブ会報 第273号 pp10, 刀城クラブ, 2024. 4
インタビュー	群馬県民の健康を足から守るために「ぐんま足人（あしんちゅ）の会」を発足	岡田克之	m3地域ニュース, m3, 2023. 7. 14
インタビュー	2023年末に足の健康の大切さを伝えるオリジナルかるたをリリース予定	岡田克之	m3地域ニュース, m3, 2023. 7. 21
インタビュー	健康を考える：带状疱疹（ワクチンで予防 受診は皮膚科で）	岡田克之	上毛新聞 第46, 195号：JOMOTTO, 上毛新聞社, 2024. 2. 27
制作	足人（あしんちゅ）かるた	岡田克之	2023. 12. 12
講演	全国会長講演：新しい時代の紡ぎ方	岡田克之	日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会2022年度床ずれセミナー, WEB開催, 2023. 4
講演	乾癬治療の迷い道～選ぶ、選ばば、選ぼう！～	岡田克之	ビンゼレックス発売1周年記念セミナーfrom GUNMA, 前橋市, 2023. 4
講演	これからの在宅褥瘡管理と連携のありかた：床ずれ危険度チェック表の活用と床ずれ予防ケアの考え方	岡田克之	ナースの星オンラインセミナー, WEB開催, 2023. 5
講演	皮膚疾患とキズのつながり	岡田克之	日本在宅医療連合学会第24回褥瘡・創傷管理オンライン研究会, WEB開催, 2023. 5
講演	その水虫、放置しないで！～毎日の足を見よう～	岡田克之	ぐんま足人の会あしたの足セミナー・クラファンスペシャル：足って何？シリーズその1, 前橋市, 2023. 5
講演	乾癬治療の今昔～進化する生物学的製剤で「さらに」どう変化したか～	岡田克之	第334回桐生厚生総合病院学術集談会, 桐生市, 2023. 6

◇皮膚科（学会発表・講演）

種類	タイトル	演者・発表者	学会名, 開催地, 年月日
講演	乾癬治療における「バイオ」～私は何を使ってきたか？～	岡田克之	第4回Immuno-Dermatology Seminar, 前橋市(WEB開催), 2023. 6
講演	広がる 乾癬治療の新たな一手！	岡田克之	乾癬 つながるセミナー～これからの医療連携を考える会～, 前橋市(WEB開催), 2023. 7
講演	教育講演：在宅褥瘡から護る～床ずれ予防プログラムというもの～	岡田克之	第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 仙台市, 2023. 7
講演	教育講演 外用薬・薬剤の使い方：外用薬は、みて選び、みて使う。	岡田克之	第25回日本褥瘡学会学術集会, 神戸市, 2023. 9
講演	1から学べる褥瘡予防と治療：保存的治療—外用薬—	岡田克之	褥瘡WEBセミナー, WEB開催, 2023. 9
講演	フットケアについて	岡田克之	令和5年度第2回介護・看護合同学習会, WEB開催, 2023. 9
講演	皮膚科における保険審査2023	岡田克之	群馬県国民健康保険団体連合会職員研修会, 前橋市, 2023. 10
講演	乾癬治療の新時代～「飲む」という選択肢～	岡田克之	東毛地区ソーティクツ発売1周年記念講演会, 桐生市(WEB開催), 2023. 11
講演	キズも皮膚、守るも皮膚、つながる皮膚	岡田克之	在宅協・関東甲信越地区床ずれセミナー, 伊那市(WEB開催), 2023. 11
講演	在宅で知ってほしい皮膚病7選～新時代でも変わりません～	岡田克之	令和5年度第2回在宅医療塾(伊勢崎佐波医師会), 伊勢崎市(WEB開催), 2023. 11
講演	教えて足病先生コラボ企画 足病をバズらせる！「ぐんま足人の会」	岡田克之	第4回日本フットケア・足病医学会年次学術集会, 宜野湾市, 2023. 12
講演	褥瘡とは？～なぜできて、どう治すか～	岡田克之	令和5年度群馬県薬剤師会褥瘡研修会, 前橋市(WEB開催), 2024. 1
講演	床ずれ予防プログラムを活用しよう～多職種連携を紡ぐために～	岡田克之	日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会2022年度床ずれセミナー, 櫃原市, 2024. 2

◇皮膚科（学会発表・講演）

種類	タイトル	演者・発表者		学会名, 開催地, 年月日
講演	在宅で活かす！床ずれ予防プログラム～リスク評価の大切さ～	岡田克之		日本褥瘡学会関東甲信越地方会群馬支部学術大会, 前橋市(WEB開催), 2024. 3
シンポジウム	在宅におけるサステナブルな褥瘡予防プログラムの実装を目指して：「床ずれ予防プログラム」完成までの経緯～日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会の考えたこと～	岡田克之		第25回日本褥瘡学会学術集会, 神戸市, 2023. 9
パネルディスカッション	社会に栄養を！：褥瘡はどこで発生するか？ ～「わからない」を解決しよう～	岡田克之		第20回 日本褥瘡学会関東甲信越地区地方会学術集会, 東京都, 2023. 11
口述発表（筆頭）	「乾癬」に対して生物学的製剤をどう選んできたか？	岡田克之		第87回日本皮膚科学会東部支部学術大会, 盛岡市, 2023. 9
口述発表（共同）	残胃全摘後の難治性下痢に対して入院栄養療法を行った1例	木村明春 和田渉 奥山隆之 岡田克之 加藤広行	緒方杏一 森下亜希子 飯田智広 森永暢浩	第31回群馬NST研究会, 前橋市, 2023. 5
口述発表（共同）	病棟看護師によるとろみ調整に対する勉強会の効果の検討	佐々木杏奈	岡田克之	第39回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 横浜市, 2024. 2
口述発表（共同）	新型コロナウイルスワクチン接種後に発症した乾癬性紅皮症	狩野龍之介	岡田克之	第116回日本皮膚科学会群馬地方会, 前橋市, 2024. 3
展示発表（筆頭）	「床ずれ予防プログラム」で在宅褥瘡から護る	岡田克之		第39回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会, 札幌市, 2023. 6
展示発表（共同）	当院における摂食嚥下支援チームの立ち上げと今後の課題	伊藤さやか 飯田智広 井田知宏 岡田克之	今井正之 佐々木杏奈 石川有理	第39回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 横浜市, 2024. 2

◇脳神経外科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者		学会名, 開催地, 年月日
口演	多発dAVFに対し、Onyx TVEを併用して治療した1例	石井希和 曲澤聡 内藤功	橋場康弘 宮本直子	第104回群馬脳神経外科懇話会, 前橋市, 2023. 8
ポスター	CASPERによるCAS後の急性閉塞の1例	橋場康弘 曲澤聡	石井希和	第39回日本脳神経血管内治療学会学術集会, 京都, 2023. 11

◇泌尿器科（学会発表・講演）

種類	タイトル	演者・発表者	掲載誌, 巻号頁, 年月日
口演	転移性腎細胞癌に対してIpilimumab, Nivolumab併用療法中に劇症型心筋炎を生じた症例	橋本飛鳥 林拓磨 岡本亘平 上井崇智	第93回日本泌尿器科学会 群馬地方会, 前橋, 2023. 7
口演	膀胱全摘後に肺転移再発した膀胱癌に対してアベルマブ投与中に水疱性類天疱瘡を生じた症例	橋本飛鳥 林拓磨 岡本亘平 上井崇智	第94回日本泌尿器科学会 群馬地方会, 栃木, 2023. 11
口演	重粒子線治療後に血尿で発見された神経内分泌前立腺癌の1例	橋本飛鳥 林拓磨 岡本亘平 上井崇智 鈴木和浩	第95回日本泌尿器科学会 群馬地方会, 前橋, 2024. 2

◇産婦人科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名, 開催地, 年月日
講演	婦人科がん診療の現状 新しい薬剤と治療	矢崎淳	第27回桐生厚生総合病院 市民公開講座, 桐生 , 2023. 7
講演	女性医学と婦人科がん 予防的立場から	鏡一成	第27回桐生厚生総合病院 市民公開講座, 桐生 , 2023. 7

◇麻酔科（著書・論文）

種類	演題名	筆者	学会名, 開催地, 年月日
分担執筆	The Japanese Epidemiologic Study for Perioperative Anaphylaxis, a prospective	Yuki S Tomonori T Jun S Mikito K	British Journal of Anaesthesia Volume 131, Issue 1, July, 2023. 7

◇薬剤部（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名, 開催地, 年月日
ポスター	母親学級の見直し ～妊婦・授乳婦に伝えたいこと～	根岸由美	日本病院薬剤師会関東 ブロック第53回学術大 会, 新潟, 2023. 8
口演	より安全で効率的な インヒューザーポンプ調整方法の検討	細谷潤	第33回日本医療薬学会 年会, 仙台, 2023. 11
口演	糖尿病合併がん患者における治療管理 と指導のコツ～病院薬剤師の立場から～	金子康子	第24回オンコロジー ファーマシスト研究会, 桐生, 2024. 3

◇放射線技術科（著者・論文）

種類	演題名	筆者	学会名,開催地,年月日
原著論文	MRI safety for leave-on powered hair thickeners under 1.5-T and 3.0-T MRI:measurement of deflection force, MRI artifact, and evaluation of preexamination screening.	Yusuke S Tomokazu T Atsuya F Masahiko T Maiko H Ryuya O Norio H	Physical and Engineering Sciences in Medicine, volume6 915-924, 2023. 5
原著論文	Suitability of Latebra as a Skin marker for Magnetic Resonance Imaging	Tomokazu T Norio H Atsuya F	Applied Magnetic Resonance, volume54 687-697, 2023. 5

◇放射線技術科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
口演	基礎から考えるDWI～誰でも分かるイメージング～	藤生敦哉	群馬MR研究会, 前橋, 2023. 6
口演	診療放射線技師による静脈確保を早期に実現した戦略	磯昌宏	日本診療放射線技師会業務改善推進委員会北関東地区, WEB開催, 2023. 11
口演	当院の腹部手術支援画像	松島直希	第31回群馬CT研究会, 前橋, 2023. 11
講演	基礎原理	藤生敦哉	診療放射線技師基礎講習基礎技術コース（北関東地域）MRI検査, 前橋, 2024. 2
講演	専門職就活講座	磯昌宏	群馬パース大学医療技術部放射線学科3年, 高崎, 2024. 2
口演	MAGNETOM Altea使用経験～AIって実際どうなの？～	藤生敦哉	群馬MAGNETOM研究会, 前橋, 2024. 3
口演	MAGNETOM Altea使用経験 脳卒中MR基本の「キ」	藤生敦哉	令和5年第2回桐生・みどり地区診療放射線技師勉強会, 桐生, 2024. 3

◇中央検査科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
講演 (共同)	I&Aの概要と視察のしかた	飛田規 田保博子 渡邊千秋 峯岸正好 梶田幸夫 坊池義浩 土居靖和 鷹野寿代	第71回日本輸血・細胞治療学会学術総会, 千葉県, 2023. 5

◇中央検査科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者		学会名, 開催地, 年月日
口述発表	STACIA CN10導入における期待と使用感について	今泉智博 矢島千晶 小森谷勇人 田村典子	三田由佳 高木清可 中島美紀 梶田幸夫	第72回日本医学検査学会, 高崎, 2023. 5
口述発表	3度目の胸水細胞診にて異型細胞を認めた肺扁平上皮癌の1症例	今泉智博 中島美紀 梶田幸夫	新井瑠実 鈴木晶子	第72回日本医学検査学会, 高崎, 2023. 5
口述発表	当院の自己血採血室の運用	高木清可 矢島千晶 中島美紀 田村典子	三田由佳 小森谷勇人 今泉智博 梶田幸夫	第72回日本医学検査学会, 高崎, 2023. 5
口述発表	当院検査科の災害対応マニュアル作成について	高田剛 梶田幸夫	小森谷勇人	第72回日本医学検査学会, 高崎, 2023. 5
口述発表	当院における新型コロナウイルス感染症検査について	小森谷勇人 三田修道 梶田幸夫	星野智絵 永井羊子	第72回日本医学検査学会, 高崎, 2023. 5
口述発表	学校二次検診における肥満の検査	根岸早紀 藤生恵津子 今泉智美 青木由香里	中野桜子 大川恭平 繁田尚香 金井尚美	第72回日本医学検査学会, 高崎, 2023. 5
口述発表	当院の臨床検査技師による新型コロナウイルスワクチン接種への協力	梶田幸夫 今泉智博 田村典子 三田修道	高田剛 永井羊子 鈴木晶子	第72回日本医学検査学会, 高崎, 2023. 5
示説発表	バラムチアによる肉芽腫性アメーバ性脳炎の1例	新井瑠実 今泉智博 梶田幸夫	中島美紀 鈴木晶子	第72回日本医学検査学会, 高崎, 2023. 5
示説発表	自然尿中に異型細胞を認めた膀胱原発小細胞癌の1例	今泉智博 中島美紀 梶田幸夫	新井瑠実 鈴木晶子	第72回日本医学検査学会, 高崎, 2023. 5
口述発表 (共同)	群馬県県央ワクチン接種センターへの臨床検査技師勤務調整役を担って	高瀬麻由美 野上智治 井田伸一	山岸徹 梶田幸夫	第72回日本医学検査学会, 高崎, 2023. 5
口述発表 (共同)	群馬県新型コロナワクチン接種に係る臨床検査技師派遣業務への対応（群臨床技財務部編）	山岸徹 井上敏弥 井田伸一	笹森敏信 梶田幸夫	第72回日本医学検査学会, 高崎, 2023. 5
口述発表 (共同)	群馬県新型コロナワクチン接種に係る臨床検査技師派遣業務への対応（群臨床技事務局編）	山岸徹 高瀬麻由美 梶田幸夫	柴崎洋一 野上智治 井田伸一	第72回日本医学検査学会, 高崎, 2023. 5

◇中央検査科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名, 開催地, 年月日
示説発表 (共同)	精度管理事業における群馬県臨床検査技師会の取り組みについて	松井直紀 井田伸一 梶田幸夫 関根美智子 山岸徹 柴崎洋一 内田梓 竹内哲也	第72回日本医学検査学会, 高崎, 2023. 5
講演	第72回日本医学検査学会 in GUNMA報告	梶田幸夫	令和5年度群臨技学術講演会, 前橋, 2023. 6
口述発表	アンケート結果から確認出来たSTACIA CN10の有用性について	今泉智博 三田由佳 矢島千晶 高木清可 小森谷勇人 西尾香奈 中島美紀 高田剛 田村典子 梶田幸夫	日本医療検査科学会第55回大会, 神奈川県, 2023. 10
口述発表	術後19年目に卵巣転移をきたした乳癌の一例	由井瑠実 今泉智博 鈴木晶子 久永悦子 瀬川篤記 小山徹也 吉田カツ江 城下尚	第78回群馬細胞学会学術集会, 高崎, 2024. 1

◇臨床工学科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名, 開催地, 年月日
講演	人工呼吸器の基本構造と保守及び医療ガス	加藤優典	群馬呼吸療法認定士会第2回呼吸療法セミナー, 前橋, 2023. 11
口演	RST運営の見直し	加藤優典 橋場聡志 小林久美 尾崎恵子 岩澤恵美 鈴木ひろ美 桑原渉 小野昭浩	第33回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 仙台, 2023. 12

◇呼吸器サポートチーム・RST（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名, 開催地, 年月日
講義	人工呼吸中のモニターの基本的な理解と活用	岩澤恵美	第2回群馬呼吸療法セミナー, 前橋, 2023. 11
講義	人工呼吸器の基本構造と保守及びガス	加藤優典	第2回群馬呼吸療法セミナー, 前橋, 2023. 11
口演	RST運営の見直し	加藤優典 橋場聡志 小林久美 尾崎恵子 岩澤恵美 鈴木ひろ美 桑原渉 小野昭浩	第33回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 仙台, 2023. 12

◇呼吸器サポートチーム・RST（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名, 開催地, 年月日
ポスター	当院における最近のネーザルハイフロー（HFNC）の使用状況	小野昭浩	第33回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 仙台, 2023. 12
講義	チーム医療論～当院RST活動の紹介	岩澤恵美	大学授業講義, 桐生大学, 2023. 12

◇看護部（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名, 開催地, 年月日
口演	直腸がん、乳がんを同時期に診断され心理的に衝撃を受けたサバイバーへの支援	荒川浩	第19回群馬がん看護フォーラム, 前橋, 2023. 5
口演	腹部安全帯により生じた医療関係機器圧迫創傷の1例	井上智子 岡田克之 大谷内千恵 金井美紀	第25回日本褥瘡学会学術集会, 兵庫, 2023. 9
口演	B病棟看護師の退院支援実施能力向上に向けた取り組みの効果	鈴木久美 細井愛海 小川杏奈 島山晴子	第54回日本看護学会学術集会, 神奈川, 2023. 11
口演	乳がん術後患者の創直視へのスタッフの思い	塩谷智恵	第27回群馬県看護学会, 前橋, 2023. 11
示説	回復期リハビリテーション病棟における自立歩行開始に関する意欲調査～リハビリスタッフと看護師の視点の違い～	島田麻伎 岩井田綾乃 橋本綾子	第27回群馬県看護学会, 前橋, 2023. 11
口演	一般病棟で働くラダーⅠレベル看護師が抱く看取りに関する思い～自立した看護を目指して～	黒田朋 西田直加 藤田真里奈	第27回群馬県看護学会, 前橋, 2023. 11
口演	コロナ禍の影響で臨地実習の代替措置対象となった看護師を受け持つプリセプターの関わり	藤田瑠香 小林満美子 坂庭梓 中村優花 多田智哉	第27回群馬県看護学会, 前橋, 2023. 11
口演	A病院における卒後3年目看護師の身体拘束に対する思いの調査	小林郁美 大澤鈴奈 金井塚可奈子 藤田祥平 高谷夕都	第27回群馬県看護学会, 前橋, 2023. 11
口演	病棟看護師によりとろみ調整に対する勉強会の効果の検討	佐々木杏奈	第39回日本臨床栄養代謝学会, 神奈川, 2024. 2
口演	当院の摂食嚥下支援チームの立ち上げと今後の課題	伊藤さやか 今井正之 飯田智広 佐々木杏奈 井田知宏 石川有理 岡田克之	第39回日本臨床栄養代謝学会, 神奈川, 2024. 2

3 主な講演会・研修会

(1) 医薬品安全委員会

開催日	研修名	演題名	開催地	講師	参加人数
1月11日	医療品安全研修会 医療の質・安全を考えた 不眠症診療WEB セミナーin桐生	睡眠薬の使用状況と 転倒転落との関係について～当院の転倒・転落 データより～ 転倒転落リスクに配慮した倫理的睡眠マネジメント～良い睡眠でせん妄リスクを減らす～	講堂 および Web	薬剤部 大手直樹 名古屋第一病院 総合診療科 宮川慶 先生	74人

(2) 医療安全対策委員会

開催日	研修名	演題名	開催地	講師	参加人数
4月3日	新入職者研修	医療安全の基礎知識 患者認証の基本 薬剤について	講堂	高橋 紀子 橋本 綾子 森田由香利	20人
5月24日	新人研修	KYTについて	講堂	セーフティ委員 橋本 綾子	6
5月25日	パース大学 医療安全研修	病院の医療安全	放射線 技師室	高橋 紀子	4
6月13日	医療安全研修 レベルⅠ	事故分析の基礎知識 KYTについて	講堂	セーフティ委員 橋本 綾子	12
6月23日	新人研修	新人の起こしやすい事故	講堂	高橋 紀子	5
6月23日	医療安全研修 レベルⅢ	安全文化の醸成について 自部署の問題を解決するには	講堂	野村 美菜子	25
6月26日	医療安全研修 レベルⅡ	SBARとは 事例を使って報告する	講堂	高橋 紀子	29
7月6日	静脈注射院内認定 看護師育成	静脈注射に関する 安全管理について	3階第1 会議室	高橋 紀子	4
7月12日	研修医勉強会	医療安全管理	講堂	高橋 紀子	10
7/14～ 7/28	第1回医療安全研修	医療安全の基本を知る	e-ラーニ ング	長谷川剛先生	全職員
10月10日	桐生高等看護学校 統合実習	医療安全の基礎知識	講堂	高橋 紀子	16
11月8日	医療安全研修 レベルⅢ	安全文化の醸成 中間評価	講堂	高橋 紀子	24

11月11日	看護補助者として 就業するための基 礎研修	医療安全について	講堂	高橋 紀子	4
2月6日	医療安全研修 レベルⅢ	安全文化の醸成 最終評価	講堂	高橋 紀子	23
3月13日	委託業者向け研修	医療安全について	講堂	高橋 紀子	36
2/1～ 2/15	医療安全研修	医療事故調査制度	e-ラーニ ング	セーフティプ ラス	全職員

(3) 感染対策委員会

開催日	研修名	演題名	開催地	講師	参加 人数
4月3日	オリエンテーショ ン	感染対策の基礎知識	講堂	山田あゆり	5人
5月24日	看護部現任教育委 員会研修会	針刺し切創・皮膚粘膜汚 染	講堂	山田あゆり	3
5月24日	パース大学放射線 科講義	放射線科における感染管 理	放射線科 休憩室	山田あゆり	3
6月28日	静脈注射院内認定 看護師レベルⅡ研 修	点滴に関する感染管理留 置針の留置期間 静脈血液培養について	講堂	山田あゆり	3
6月26日 ～7月9日	第1回感染対策研修	感染対策の概論 標準予防策(1)	eラーニ ング	ICT・AST	593
		抗菌薬を大事に使おう！ AMRに立ち向かうために ③			538
8月3日	高校生セミナー	「感染対策について」 手洗いチェッカー手技	講堂	山田あゆり	5
8月21日	合同カンファレン ス	2022年度 薬剤部・検査部活動報告 感染対策実施状況 その他（外来感染対策向 上加算提出データ報告）	講堂 ZOOM	ICT・AST	66施設
8月30日	高崎健康福祉大学 看護実践開発セン ター 感染管理認定看護 師教育課程講義	領域別感染対策（手術 室） 手術部位感染対策 手術部位感染サーベイラ ンス	高崎健康 福祉大学	山田あゆり	30
10月11日	桐生高等看護学院 講義	感染管理の取り組み	桐生高等 看護学院	山田あゆり	30
11月1日 ～11月30 日	高崎健康福祉大学 看護実践開発セン ター 感染管理認定看護 師教育課程講義	実習受け入れ		山田あゆり	2

11月6日 ～11月13 日	桐生高等看護学院 講義	小児看護方法論	桐生高等 看護学院	山田あゆり	30
11月11日	看護補助者確保対 策研修	看護補助者における感染 防止講義・演習	講堂	山田あゆり	5
11月20日	合同訓練	桐生地域新興感染症発生 時対応訓練	講堂 ZOOM	ICT・AST	52施設
11月22日	専門コース研修	尿道留置カテーテルの取 り扱い	講堂	山田あゆり	20
2月14日 ～3月10 日	第2回感染対策研修	感染対策の概論 標準予防策(2)	eラーニ ング	ICT・AST	558
		抗菌薬の適正使用とは ～AMRに立ち向かうため に②～			550
3月28日	高校生セミナー	「感染対策について」 手洗いチェッカー手技	講堂	須永泰明	5

4 研修実績

(1) 院内学術集談会

	開催日	内 容
第 回 334	令和 5.6.27 (火)	1 母親の診断を契機に確定診断に至った 血管型Ehlers Danlos症候群の一例 小児科 吉田卓生 2 乾癬治療の今昔 ～進化する生物学的製剤で「さらに」どう変化したか～ 皮膚科 岡田克之
335	5.9.26 (火)	1 当科における虫垂炎に対する手術成績の検討 外科 鈴木一設 2 妊娠初期の腹腔内に大量の液体貯留を変した二例 産婦人科 矢崎淳
336	5.12.26 (火)	1 気管支熱形成術 (Bronchial Thermoplasty) 内科 小野昭浩 2 術後の輸血により重篤な急性呼吸困難を来した一例 麻酔科 猿渡広輝 塚越裕 高瀬友彰 入内島伸尚 佐藤淳
337	6.3.26 (火)	1 非定型大腿骨骨折の3例、 骨粗鬆症治療の最近の話題と当院での取り組み 整形外科 工藤千佳 2 当院歯科口腔外科における周術期口腔機能管理の現状 歯科・歯科口腔外科 今井正之 田中舞

(2) C. P. C (臨床病理検討会)

	開催日	内 容
第 回 179	令和 5. 10. 24 (火)	《主病変》 1 腹部大動脈瘤・右腸骨動脈瘤破裂による後腹膜出血 腹部嚢状大動脈瘤、左右腸骨動脈瘤、右総腸骨動脈ステント(+) 動脈粥状硬化(高度) 後腹膜出血 右腎臓周囲、上行結腸周囲、腰椎～仙骨部後腹膜、子宮膀胱直腸周囲 腹水(100ml, 血性) 2 胸部大動脈瘤(大動脈弓部) 3 心臓 陣旧性心筋梗塞 線維化(側壁) (260g) 冠状動脈瘤化 左冠状動脈ステント(+) 心のう液(30ml, 血性) 4 大腸癌手術後 再発なし 穿孔なし 《副病変》 1 肺うっ血、気腫性変化、気管支拡張症、古い肺炎、線維化 胸水(左右, 100ml, 血性)(左150g, 右240g) 2 胃の食道裂孔ヘルニア 3 大腸憩室症 4 肝うっ血 のう胞 (700g) 5 腎うっ血 動脈硬化性萎縮腎(左70g, 右80g) 6 脾うっ血(80g) 7 膵の脂肪化 8 胆石症 9 甲状腺 adenomatous goiter 10 副腎萎縮 《死因》 腹部大動脈瘤・右腸骨動脈瘤破裂による後腹膜出血による 出血性ショック

(3) 剖検状況

剖検No. 月日	年齢	性別	科名	臨床診断	病理解剖学的診断
1033 4月9日	74才	M	内科	下部胆管癌 術後再発	下部胆管癌（中～低分化腺癌） 肺移転 1. 肺気腫 2. 心褐色萎縮 3. 動脈硬化性腎症 4. 脾梗塞 5. 胸水 6. 腹水
1034 5月19日	66才	M	内科	肝腫瘍	肝腫瘍 1. 腹膜炎 2. 腹水 3. 左肺腫瘍 4. 肺出血 5. 胸水 6. 脾腫 7. 右腎細胞癌
1035 6月7日	81才	M	内科	間脈体循環シャント症術後	間脈体循環シャント症術後 1. 動脈硬化性腎症 2. 肝うっ血 3. 肺うっ血 4. 胸水 5. 心左室肥大
1036 12月4日	71才	M	内科	家族性地中海熱	家族性地中海熱治療後 1. 心左室肥大 2. 肺うっ血水腫 3. 気管支肺炎 4. 腎のう胞 5. 右腎腫瘍 6. 肝うっ血 7. 脾うっ血

(4) 院内勉強会・研修会

① 医療技術部 院内勉強会

開催月	名称	担当者	参加人数
8月	中央検査科の紹介	中検査科	44人
9月	放射線技術科の紹介	放射線技術科	23人
10月	リハビリテーション技術科の紹介	リハビリテーション技術科	42人
11月	臨床工学科の紹介	臨床工学科	31人
12月	栄養管理科の紹介	栄養管理科	40人
1月	視能訓練室の紹介	視能訓練室	32人
2月	歯科衛生室の紹介	歯科衛生室	33人
3月	中央検査科細菌検査業務について	中央検査科	27人

② 薬剤部 院内勉強会

開催月	名称	担当者	参加人数
6月	イジユド点滴静注について	外部講師	18人
6月	ジーラスタ皮下注3.6mgが「ディポット」について	外部講師	17人
7月	バイオシミラーについて	外部講師	16人
7月	マンジャロ皮下注について	外部講師	17人
8月	ラジカット内用懸濁液2.1%について	外部講師	16人
9月	ケレンディア錠について	外部講師	16人
10月	グーフィス錠5mg	外部講師	17人
10月	パキロビッドパック300・600	外部講師	17人
11月	オスタバロ皮下注カートリッジ1.5mg	外部講師	17人
1月	レケンビ点滴静注200mg・500mg	外部講師	14人
3月	オラビ錠口腔用50mg	外部講師	16人

③ リハビリテーション技術科 院内勉強会

開催月	名称	担当者	参加人数
6月	症例検討「デスカンファ」	小林	9人
6月	文献抄読「肩関節」	黒澤	5人
6月	呼吸器疾患の患者様の統計について	橋場	3人
7月	全体構造法について	荒牧	15人
7月	文献抄読「肩関節」	橋場	5人
7月	パーキンソン病について	佐藤	5人
7月	深部静脈血栓症について	星野	9人
7月	人工呼吸器患者へのRSTの役割について	広木	3人
8月	症例検討「小児」	新井・登坂	6人

開催 月	名称	担当者	参加 人数
月			人
8	オピオイドについて	吉田	8
8	高次脳機能障害	小池	10
8	尿の色と考えられる疾患	丹羽	5
9	症例検討「小児」	新井	6
9	急性期と回復期での取り組み	田端	11
9	不眠と薬剤	勝山	5
9	症例検討「脳転移」	村岡	8
9	息切れと呼吸困難	木村	3
10	脳卒中急性期における離床の診方	村岡	10
10	腎リハの概論について	臼田	5
10	がんのリスク管理	土澤	8
10	呼吸指導のパンフレット紹介～呼吸の自主トレ、セルフケア～	橋場	3
11	カニューレについて	鈴木	10
12	乳癌の化学療法・治療について	土澤	8
12	人工呼吸について～基本的な用語、設定について～	広木	3
12	ペアトレについて	新井	6
12	外来呼吸リハの取り組みについて	橋場	3
1	中咽頭癌について	井田	9
2	がんと栄養	石川	8
3	肩関節について	黒澤	8
3	介護保険について	瀬谷	10

④ 放射線技術科 院内勉強会

開催 月	名称	担当者	参加 人数
月			人
4	糖尿病について	藤生	18
5	血管外漏出に関して	外部講師	11
5	新しいマーキングペンにおける皮膚の副反応	高林	13
5	放射線業務従事者教育訓練	放射線安全委員会	8
5	VINCENT更新における変更点について	外部講師	7
5	シーメンス 治療（商品説明）	外部講師	6
6	診療放射線技師における静脈確保を早期に実現した戦略	磯	19
7	シーメンス CT最新技術について	外部講師	6
7	FLS委員会について	林	17
8	下肢動脈CTAにおいてサブトラクションが不良であった一例	小林	18
9	VINCENT更新説明	外部講師	6
9	コーチングプロジェクト第一回参加してきました！	見留	17
10	群馬県放射線技師会の活動紹介	須永	12

開催月	名称	担当者	参加人数
月			人
11	接遇 第一印象の先 コミュニケーション 聞く力	中村	12
12	easy Z-score Imaging Systemの紹介	外部講師	10
1	リスク分析 ～AAPMTG-100を参考に～	小野	12
1	看護師による静脈注射の実施（レベルRI）	中島	13

⑤ 中央検査科 院内勉強会

開催月	名称	担当者	参加人数
月			人
4	赤十字血液センターと当院の非溶血性輸血副作用について	田村	19
5	トランス脂肪酸とは？危険な油	永井	22
7	臨地実習報告会	臨地実習生 4名（群馬 パース大 学）小野・ 高橋・前 原・村竹	19
7	BCP関連アンケート調査の集計結果報告（令和5年度）	高田	12
8	クロスミキシングテストについて	今泉	14
10	尿沈渣成分4例について	茅野	13
11	低体温症について	繁田	14
12	総胆管結石について	青木	15
1	呼気中NO濃度測定検査	今泉	14
2	もっと知りたい診療報酬の世界（Web視聴）	宮城県臨床 検査技師会	4
2	術中迅速診断	中島	15
3	介護保険制度について	落合	11

⑥ 臨床工学科 院内勉強会

開催月	名称	担当者	参加人数
月			人
4	エビタシリーズ始業点検	木村	8
5	アコマ麻酔システムAnespirator A65 取り扱い説明	院外講師	6
5	Sentec経皮血中ガス分析装置	院外講師	6
5	補助循環装置実地研修	三木・加藤	3
6	医療機関において安心・安全に電波を利用するための説明会	院外講師	7
7	Drager 換気モードの基礎	院外講師	1
7	3Mベアーハガー深部温モニタリングシステム 説明会	院外講師	15
8	フクダ電子 セントラル Dynabase II 説明会	院外講師	7
8	プレジジョンフロー使用説明会	院外講師	7

開催 月	名称	担当者	参加 人数
月			人
11	SERVOAir 始業点検説明会	大島	2
3	酸素療法について	院外講師	210

⑦ 事務部 院内勉強会

開催 月	名称	担当課	参加 人数
月			人
4	宿日直時の時間外手当について	総務課	40
5	災害拠点病院の指定要件の一部改正と医療機関の水害対応の実例について	契約管財課	46
6	インボイス制度について	経営政策課	35
7	がん相談支援センターの役割	地域医療連携室	36
8	疾病統計と退院時サマリーの受取・作成率について	医事課	41
9	令和5年度院内災害訓練実施について	総務課	40
10	契約の基礎	契約管財課	42
11	令和4年度決算について	経営政策課	38
12	がん相談支援センターについて	地域医療連携室	37
1	クリニカルパスについて	医事課	44
2	地方公務員の60歳以降の働き方について	総務課	42
3	消火器について	契約管財課	41

⑧ 医療技術部・事務部合同 院内勉強会

開催 月	名称	担当課	参加 人数
月			人
6	第1回ダイアログ・カフェ（テーマ：職域を超えてお互いを知ろう！）	医療技術部・事務部 管理職	26

⑦看護部

・看護研究発表会

演題名	担当部署	発表者・共同研究者
褥瘡におけるポジショニングの理解と実践～知識の導入による実践の変化を知る～	7階東病棟	井上智子 青山美佐子 萩原真里 遠江花恵 伊藤知恵美
A病院B病棟における摂食機能療法介入マニュアル導入による効果の検証	7階西病棟	伊藤さやか 中輝代 青木友香 和田順子
「働きやすさ尺度」を用いたA病院常勤看護師の働きやすさについての現状調査	6階東病棟	赤石優子 宮下朋美 根岸香穂里 中澤幸奈
回復期リハビリテーション病棟からの退院に向けて家族が必要とする情報～退院後のインタビュー調査を通して～	6階西病棟	大美賀理恵 大貫由紀子 富宮美和 前原麻衣子 渡邊裕介
B病棟の在宅療養支援の現状と課題ー地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟の評価を元に見出すー	5階西病棟	田中里奈 高德千絵美 荒木和典 多田智哉 海老野友里奈
地域包括ケア病棟の看護師の看取りに対する感情～施設基準の変化との関連性を考察する～	4階東病棟	森田香菜 押田由美子 遠坂ちあき 清水玲子
A病院産科混合病棟に勤務する助産師の認識と協働への課題	4階西病棟	佐藤祐美子 星野陽子 小堀由命 高山明美 船戸由香
「母乳育児を支えるための、NICU看護師の支援の在り方」～ドナーミルクを利用した母親へのインタビュー調査の分析～	NICU	坂本めぐみ 山木加代 大澤准子
NICU/GCU看護師の外国人両親に対する異文化理解-育児指導の現状に対するインタビューを通して-	GCU	末次由貴子 小林千恵 佐久間華穂
救命救急後に医療的ケアが必要となった児を持つ母親の心境の変化～受傷から自宅退院レスパイト利用までに焦点をあてて～	3階病棟	大塚幸子 臼井かおり 平林仁美 星野あゆみ
ICU・CCUに勤務する看護師の心理的安全性に対するとらえ方の実態調査	ICU	下田明美 石川典子 岡田理絵子 戸室枝里子
滅菌不良発生時を想定した手術室リーダー看護師の対応	手術室	星野和隆 廣瀬栄一 竹澤教人 藤田祥平
A病院におけるインシデント・アクシデント患者影響レベル0に対する認識の差について	救急外来	青木奈央 小野里貴子 朽津麻美

抗がん剤治療で頭皮冷却装置を用いることを選択した乳がん患者の導入から完遂までの体験	外来	萩原亜矢子 西場里香	太田小百合 多田利恵
終末期がん患者の家族支援～アギュラとメズィックの危機と問題解決モデルを用いての考察～	連携室	高橋三美 岡田牧子	荒川浩
青年期で全盲となった1型糖尿病患者における透析導入時期の体験と意思を知る	腎センター	須永直子 高柳直美 山之内麻恵	井野文 今泉晃子 山崎朱美

・教育研修

(ア) 現任教育委員会

研修名	対象者	目 的	内 容	実 施 日	
新人研修	卒後1年目 看護師	職業人としての自覚を養うと共に、患者への安全・安楽な看護実践ができる	接遇、組織の一員としての役割、看護実践、感染、医療安全、記録、倫理、スキンケア、多重課題等。	4月 3、4、5 5月 24 6月 23 10月 25 11月 29 2月 21	
看護論	レベルⅡを目指す 看護師	理論的知識と臨床経験を患者家族のケアの場面で統合できる	看護論について。看護論を用いての課題事例討議。	6月 7 7月 5 10月 4 1月 17	
メンバーシップ	レベルⅡを目指す 看護師	自分の持てる力を十分発揮しながらチームの一員として行動できる	メンバーシップの役割を理解する。コミュニケーションスキルを磨く。チームメンバーとしての行動を振り返り役割を考える。	5月 18 6月 22 9月 28 2月 15	
プリセプター	所属でプリセプター予定している 看護師及びレベルⅠ認定者	プリセプターシップを発揮して現場で活かせる	プリセプターとしての役割。自己のプリセプターを振り返る。プリセプターの悩み等。事例検討	4月 26 5月 25 8月 8 10月 25 2月 19	
リーダー	レベルⅢを目指す 看護師	日替わりリーダーとしての役割を理解し、リーダーシップを発揮できる	リーダーの役割を学ぶ。自己の行動パターンを分析し弱点を知る。ケアの受け手のニーズにこたえる。PDCAサイクルをまわす。	5月 8 6月 5 10月 6 2月 2	
チームリーダー	レベルⅢを取得し、レベルⅣを目指す 看護師	社会情勢と病院経営を理解し、病院組織の一員としてリーダーシップを発揮できる	病院経営の視点で問題を明確化し具体化していく。職場で抱える問題の解決に向けた目標発、意見交換。	5月 15 6月 16 7月 10 10月 10 2月 7	

ラダーレベルⅤ	レベルⅣを取得し、レベルⅤを目指す看護師	ラダーレベルⅤ取得看護師として役割モデルとなる	4つの力（ニーズをとらえる力、ケアする力、協働する力、意思決定を支える力）について考え、それを踏まえて行った看護について症例発表。	6月 12 7月 27 9月 11 11月 13 1月 25
看護助手	看護助手	看護助手としての必要な知識・技術を習得し業務を円滑に行なうことが出来る	医療倫理・個人情報保護とは。組織の一員としての看護補助業務の理解。安全な食事介助のポイント。安全な移乗、介助時のポイント感染から患者と自分を守るポイント。	4月 5 5月 10 6月 7 7月 5 8月 2 9月 6 10月 4
フィジカルアセスメントⅠ	レベルⅡを目指す看護師	フィジカルアセスメントの基礎、フィジカルイグザミネーションによる情報収集の方法を学び、看護のアセスメントに活かす	フィジカルアセスメントの基本的事項を学ぶ	7月 11
フィジカルアセスメントⅡ	レベルⅢを目指す看護師	フィジカルアセスメントの基礎、フィジカルイグザミネーションによる情報収集の方法を学び、看護のアセスメントに活かす	各器官系のフィジカルイグザミネーションの方法を学ぶ	8月 5、25
フィジカルアセスメントⅢ	レベルⅣを目指す看護師	フィジカルアセスメントの基礎、フィジカルイグザミネーションによる情報収集の方法を学び、看護のアセスメントに活かす	各症例を、フィジカルアセスメントを用いて検討し、関連づけることができる	9月 1

（イ）在宅療養支援委員会

研修名	対象者	目 的	内 容	実 施 日
在宅療養支援研修レベルⅠ	レベルⅡ以上を目指す人	在宅療養に関する知識を習得し、指導を受けながら退院支援を実践することができる	退院支援概論 病床の分類と入院の流れ。退院調整が求められる背景。退院支援マニュアル。 事例検討	9月 28
在宅療養支援研修レベルⅡ	レベルⅢ以上を目指す人	自ら患者・家族の問題を捉えた在宅療養支援ができ、退院支援における指導的役割を果たすことができる	医療社会福祉制度 退院に関わる診療報酬体系 訪問看護の実際 事例検討	10月 16

在宅療養支援研修レベルⅢ	レベルⅣ以上を目指す人	当該部署の中心的役割として地域と連携した在宅療養支援が実践できる	地域包括ケアシステムの実際ケアマネジャーの役割 地域包括支援センターの役割 合同事例検討会	1月 29
--------------	-------------	----------------------------------	---	-------

(ウ) 倫理委員会

研修名	対象者	目 的	内 容	実 施 日
倫理Ⅰ	ラダーⅡを目指す看護師	倫理的な検討方法が理解できる	問題の情報整理 倫理的な検討 倫理原則 インフォームド・コンセントと意思決定支援 アドバンス・ケアプランニング	6月 6
倫理Ⅱ	ラダーⅢを目指す看護師	看護場面における倫理問題に気付く、倫理対応ができる	倫理問題を分析し解決するための看護実践や行動について	7月 11
倫理Ⅱ	ラダーⅣを目指す看護師	倫理問題解決までのプロセスを理解し、部署内の役割モデルとなれる	倫理問題を分析し解決するための看護実践や行動について 倫理カンファレンスについて、ファシリテーターの役割	7月 19

(エ) 記録委員会

研修名	対象者	目 的	内 容	実 施 日
看護記録Ⅰ	レベルⅠ以上	看護診断への理解を深め、看護実践に活用できる	看護診断について 看護診断（事例検討）	6月 12、19
看護記録Ⅱ	レベルⅡ以上	看護記録について理解を深め、看護実践に活用できる	質的監査、面接監査について 看護記録（事例検討）	8月 2、29
看護記録Ⅲ	レベルⅡ以上	患者急変時の記録の書き方が理解できる	事例を通して急変時の記録を学ぶ	12月 6

(オ) 看護研究委員会

研修名	対象者	目 的	内 容	実 施 日
看護研究	卒後３年目 (必須) 及びラダー レベルⅡ～ Ⅳの希望者	看護研究の基本的 な知識を学び研究 的な視点で看護を 見直すことができ る	研究計画書について 文献について 統計について 論文とは プレゼンテーションとは 看護研究発表会	4月 24
				5月 22
				6月 26
				7月 24
				11月 27
				3月 4

(カ) セーフティマネジメント委員会

研修名	対象者	目 的	内 容	実 施 日
医療安全Ⅰ	ラダーⅡを 目指す看護 師	看護師個々のリス ク感性を高める ヒューマンエラー 発生のメカニズム を知り、日常的に 事故防止に努めた 行動がとれる	ヒューマンエラーとは エラー防止を図るには 事例分析	6月 13
医療安全Ⅱ	ラダーⅡを 取得し、レ ベルⅢを目 指す看護師	患者急変及び事故 発生時の報告がで き、その後の対応 がとれる	SBARとは 事例を使って、報告する 事故後の観察・記録の書き方	6月 26
医療安全Ⅲ	ラダーⅢを 取得し、レ ベルⅣを目 指す看護師	「医療安全文化の 醸成を図るとは」 を理解することが できる	安全文化の醸成を図るという ことは、どのようなことか 自部署の問題を解決するには	6月 23 11月 8 2月 6

(キ) 認定看護師委員会

研修名	対象者	目 的	内 容	実 施 日
認定看護師 専門	レベルⅡ以 上の全看護 師	各分野における専 門的知識・技術を 習得し、看護の質 の向上が図れる	認知症看護	10/19、11/2
			救急看護・集中ケア	12/7、26
			皮膚・排泄ケア	5/10、5/24、6/28、10/27
			脳卒中リハビリテーション看護	6/16、9/15
			感染看護	11/22
			乳がん看護	5/1、15、6/7、21
			がん化学療法	11/13、16
			緩和ケア	11/7、29
			摂食嚥下	11/17
			がん看護	11/14、12/5
			手術看護	11/17

(ク) トピックス研修

研修名	対象者	目 的	内 容	実 施 日
糖尿病看護	全看護師	専門的知識・技術を習得し、看護の質の向上が図れる	糖尿病の基礎	6月 14
新生児集中ケア	全看護師	専門的知識・技術を習得し、看護の質の向上が図れる	タッチケア	12月 15

(ケ) BLS部会

研修名	対象者	目 的	内 容	実 施 日
BLS研修	全看護師	心肺蘇生とAEDを使用する早期除細動が法的及び技術的に可能となる	BLS（一時救命措置）について 質の高い胸骨圧迫法 安全なAEDの方法・手法 成人に対するBLSの手技（1人法から2人法）	5月 29 9月 27 12月 11

(コ) 静脈注射院内認定看護師養成研修

研修名	対象者	内 容	実 施 日
レベルⅡ①	全職員	薬剤の知識 安全管理 感染管理	6月 28
レベルⅡ②		CVポートおよび化学療法固定法	7月 6
レベルⅡ③		造影剤について	8月 4
レベルⅡ④ (Ⅲ)		血液製剤について	8月 30
レベルⅡ実技		血管確保技術の評価	9月 26
レベルC		CVポートおよび化学療法 急変時の対応	12月 21

XⅢ 災害拠点病院

1 指定要件

災害拠点病院とは、災害が発生し、通常の医療体制では適切な医療の提供が困難な場合に各都道府県知事の要請に対して傷病者の受入れや医療救護班の派遣等を行う病院であり、当院は、平成9年3月27日に災害拠点病院の指定を受け、令和4年3月末現在では、群馬県内に1つの基幹災害拠点病院と16の災害拠点病院があります。

平成7年1月の阪神・淡路大震災を契機として、災害拠点病院の整備、広域災害・救急医療情報システム（EMIS）の整備、災害派遣医療チーム（DMAT）の養成等が行われ、平成23年3月の東日本大震災後においては、災害指定病院の指定要件が見直しされ、災害時における一層の医療体制の充実が図られています。

2 群馬県の災害拠点病院

基幹災害拠点病院	前橋赤十字病院
災害拠点病院	群馬大学医学部附属病院、群馬県済生会前橋病院、群馬中央病院 高崎総合医療センター、日高病院、桐生厚生総合病院、太田記念病院、 公立館林厚生病院、伊勢崎市民病院、伊勢崎佐波医師会病院、 沼田病院、利根中央病院、渋川医療センター、公立藤岡総合病院、 公立富岡総合病院、原町赤十字病院

3 DMAT

（1）設置目的

DMAT（Disaster Medical Assistance Team）とは、災害の超急性期（概ね48時間以内）に活動できる機動性を持った専門的な研修・訓練を受けた災害派遣医療チームであり、災害拠点病院には設置が義務付けられていて、医師、看護師、業務調整員（医師、看護師以外の医療職及び事務職員）で構成されています。

当院は、医師1名、看護師7名、業務調整員4名が隊員として活動しています。

（2）活動の概要

① 活動実績

年 月 日	活 動 名 称	場 所
令和6年1月4日 ～1月7日	令和6年石川県能登半島地震	公立能登総合病院

XIV 各部署の紹介

1 内科

(1) スタッフ

令和5年度は呼吸器内科と糖尿病内科に1名ずつ増員があり、常勤医13名で診療にあたりました。

専門分野別では、呼吸器4名（小野、大澤、原、澤田）、消化器5名（飯田、野中、菅間、相川、根岸）、肝臓2名（福地、清水）、糖尿病・内分泌2名（加嶋、山口）です。

今年度も群馬大学医学部附属病院から非常勤医師を派遣いただき、外来診療・検査・治療・当直業務を担当して頂きました。

(2) 年度報告

各専門分野の疾患はもちろん、肺炎や尿路感染症、脱水症といった Common disease から脳梗塞、症候性てんかん、めまい症といった疾患まで幅広く診療しました。入院が必要な新型コロナウイルス感染症患者の診療も年間を通して行いました。

消化器分野では、2015年より開始した消化管早期悪性腫瘍に対するESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）が通算200例に到達しました。

(3) 今後の目標

数年ぶりの常勤医増員となりました。現在、医療圏内の高齢化は更に進み、「どこまで治療するのか」「いつまで治療するのか」という問いから避けることが出来なくなっています。患者本人や患者家族の価値観を尊重しながら診療を行っていきたいと考えています。そのためにも、近隣の医療機関や群馬大学医学部附属病院との連携を図ってまいります。

診療部長 菅間 一乃

2 神経内科

(1) スタッフ

令和5年度常勤医師は1名（高田）です。

非常勤医師3名（伊勢崎福島病院 近藤進先生 群馬大学医学部附属病院 牧岡幸樹先生岩崎理先生）と診療にあたりました。

(2) 年度報告

外来診療が主軸で変性疾患、筋疾患、末梢神経障害、頭痛、認知症の診断加療と脳血管障害の治療相談を行いました。

入院は少数ではありましたが脳炎・髄膜炎などの感染性疾患やてんかん、脱髄疾患、神経筋接合部疾患の診断治療や難病患者さんのレスパイトを行いました。

(3) 今後の目標

東毛地域の患者さんが在宅を中心に安心して療養できるよう、連携を大切にしながら、専門知識を持って診療を努めたいと思います。引き続き常勤医師増員を大学病院へ依頼していきます。

診療部長 高田 しのぶ

3 循環器科

(1) スタッフ

常勤医師 桑原 渉 (1名)
非常勤医師 2名

(2) 年次報告

令和5年度主な診療実績

心臓カテーテル検査	53件	経皮的冠動脈形成術	20件
ペースメーカー植え込み術	12件	一時ペーシング	8件
ペースメーカー電池交換術	4件		

(3) 総括

他科・他院・地域開業医の先生方と連携をはかり、マンパワーが不足しておりますが可能な範囲で地域医療に貢献できるよう努力してまいります。

診療部長 桑原 渉

4 小児科

(1) スタッフ (8名)

大木康史、袖野玲子、浦野博央、齊藤亜希子 (時短勤務)、関根和彦、*山口将邦、*吉田卓正、*吉川晟羽 (*: 新任)

(2) 年度報告

- ① 新生児未熟児センター：総入院数 133名。超低出生体重児 5名、極低出生体重児 7名、NCPAPを含む呼吸管理数 39でした。
- ② 一般病棟：総入院数 385名とCOVID-19流行前の令和元年と同程度に回復しました。主な内訳は、呼吸器疾患 165、消化器感染症 20、感染症以外の消化器疾患 16、川崎病 12、神経 56、腎尿路 12、アレルギー 36、内分泌・代謝 22、循環器 1、小児精神 6、平均在院日数は7.0日でした。
- ③ 小児神経医 (本島総合病院、両毛整肢療護園) との神経検討会 (2か月に1回)、新生児蘇生法講習会 (県主催1回、院内3回の計4回) を継続しました。
- ④ 地域貢献として、桐生市乳幼児健診、桐生市特別支援教育委員会、桐生・みどり市の要保護児童対策協議会等に協力しました。

(3) 今後の目標

少子化の傾向は続くが、東毛地域の小児科、周産期医療における中核施設として必要な機能や地域との連携は可能な範囲で維持したい。

診療部長 大木 康史

5 外科

(1) スタッフ

常勤医 一般外科 6 名（加藤広行、森永暢浩、和田 渉、緒方杏一、木村明春、鈴木一設）

非常勤医

心臓血管外来 阿部知伸教授：第 2、4 水曜日

呼吸器外科外来 河谷奈津子先生：毎週木曜日

群馬大学総合外科後期研修医：火曜日（当直）

令和 5 年度は、奥山隆之が群馬大学病院へ異動となり、後期研修医の鈴木一設が赴任されました。医師全員が消化器・一般外科を担当いたしますが、専門分野として加藤：食道、森永：大腸、和田：肝胆膵、緒方：胃、食道、木村：胃、ヘルニアの診療、手術を得意としております。後期研修医は、乳腺手術にも参加して、術者も経験しています。呼吸器外科常勤医は不在ですので、外科で呼吸器外科領域の入院患者を担当していますが、呼吸器外科手術が必要な症例は群馬大学病院にお願いすることが多くなっています。

毎週木曜日に外科、内科、放射線科合同でカンサーボードを開催し、症例の提示、検討を行っています。また、毎週木曜日に外科術前カンファレンスを行い、次週の手術症例全例を詳細に検討し術式の最終決定や問題点、注意点などを全員で共有しています。

(2) 年度報告

令和 5 年度の手術件数は 484 症例で、鏡視下手術が 234 件でした。胃癌手術は減少しましたが、結腸癌手術、直腸癌手術がやや増加しました。令和 5 年 6 月よりヘルニアセンターを立ち上げ、成人の腹部ヘルニア（臍径ヘルニア、大腿ヘルニア、閉鎖孔ヘルニア、腹壁瘢痕ヘルニアなど）の診療を専門に行っています。毎週月曜日午後、火曜日午後にヘルニア外来を開設しております。それに伴い臍径ヘルニア手術は 112 件と増加しました。特に腹腔鏡下ヘルニア修復術の件数が増加しております。また、院内に手術支援ロボット導入部会を立ち上げ、導入に向けた活動を行い、準備を進めております。

(3) 今後の目標

一般外科常勤医 6 名で引き続き診療を行います。令和 5 年にヘルニアセンターを開設し、臍径部ヘルニアの件数は増加してきましたので、外来受診から入院・手術、術後までのさらなる診療の充実を図ります。また、北関東で初となる手術支援ロボット Hugo RAS システムが令和 6 年 4 月に導入されました。各種トレーニングやシミュレーション、症例見学、倫理手続き、医療安全面の整備など、初症例への準備を進めています。外科では直腸手術からロボット支援下手術を開始していく予定です。ロボット支援下手術を含め、積極的に鏡視下手術を取り入れ、多職種との連携を深めて、安全で合併症のない丁寧な診療を行い、各々の患者さんに最善の治療を提供してまいります。

診療部長 緒方 杏一

6 整形外科

(1) スタッフ

常勤医 5 名 : 斯波俊祐、下山大輔、角田陽平、上野哲、工藤千佳

非常勤医 2 名 : 片山雅義 (木曜日隔週)、神山真考 (火曜日隔週)

(2) 年度報告

常勤 5 人と火曜日、木曜日の非常勤で令和 4 年度とほぼ同じ体制で診療を行いました。一般外傷を中心に、脊椎外科、膝関節外科、手の外科などの専門分野の診療を行っています。非常勤は 2 人で膝関節と肩関節の専門外来を行いました。

令和 5 年度の手術件数は 402 件 (398 例) でした。一般外傷や変形疾患など多岐にわたり、最も多いのが例年同様高齢者に多い大腿骨近位の骨折で約 80 件でした。令和 4 年 4 月から、二次骨折予防継続管理料が算定できるようになりましたので、令和 5 年 4 月に骨折リエゾンサービスチームを立ち上げ、多職種連携により骨粗鬆症の治療を体系的に継続して二次骨折の予防に努めています。

令和 3 年度まで脊椎脊髄外科指導医が 1 人でしたが、令和 4 年度から 2 人体制となり、脊椎手術は約 160 件で例年よりかなり増加しています。脊椎内視鏡下手術や経皮的椎体形成術などの低侵襲手術が中心ですが、除圧術で対処できない症例は、後方固定術に加え腰椎側方椎体間固定術、腰椎後方椎体間固定術や骨盤までの広範な後方固定術を要する症例もありました。

人工膝関節置換術は 8 件でした。

(3) 今後の目標

上肢、下肢の専門医により外傷を中心とした整形外科全般の診療を充実させるとともに、脊椎センターを立ち上げ、O-アーム、ナビゲーションシステムや術中神経モニタリングシステムを駆使して脊椎の専門的治療をより充実させていきたいと思っています。

また、臨床研修医や群大の学生さんへの指導も、地域医療に興味を持ってもらえるよう引き続き行っていきたいと思っています。

診療部長 斯波 俊祐

7 脳神経外科

(1) スタッフ

令和5年度は常勤脳神経外科医師3名（曲澤 聡、橋場康弘、石井希和）で診療にあたりました。また、火曜日と金曜日の午後に群馬大学から非常勤医師4名（養田淳貴、茂木萌仁、後藤優太、登坂美里）に手術の手伝いに来ていただきました。

(2) 年度報告

外来患者数は5829人、入院患者は脳血管障害225人（くも膜下出血16人、脳出血81人、脳梗塞102人、その他26人）、脳腫瘍26人、頭部外傷97人、その他20人の計368人でした。

手術件数は113件で、主要な手術件数は下記の如くでした。

脳動脈瘤クリッピング術	8件	脳腫瘍摘出術	5件
血管内手術	39件		

(3) 今後の目標

令和5年度は新型コロナウイルス感染症による病棟閉鎖が何回かありましたが、大きな滞りなく診療を継続することができました。

令和6年7月には石井希和先生が日本脳神経血管内治療学会専門医に合格しました。これにより、当院の血管内治療学会専門医は2名となり、機械的血栓回収術等の緊急血管内治療も、今まで以上にスムーズに行うことが可能となりました。

引き続き病診、病病連携をしっかりと行い、桐生、みどり地域の脳神経系患者の診療を行ってまいりたいと思います。

診療部長 曲澤 聡

8 乳腺外科

(1) スタッフ

常勤医 森下亜希子

(2) 年度報告

外来患者数3,195人、入院患者数943人、手術件数75件、うち乳癌手術71件でした。入院患者数と手術件数は令和4年度より増加傾向です。

(3) 今後の目標

乳がんの患者数は年々増加していますが、一方、乳腺手術を行える近隣の施設は、医師不足などが原因で減少傾向となっています。また、桐生市周辺地域の高齢化も進み、他の施設よりも年齢や合併症を持った患者へ個々の対応が必要となってきましたが、地域の皆様に十分な最良の医療が提供できるように努力してまいります。乳腺外科としては一人体制が続きますが、外科や他科の医師、多職種のスタッフの協力のもと診療を行っております。また、他院・地域の先生方と連携をお願いし、診療を安定的に行っていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

診療部長 森下 亜希子

9 皮膚科

(1) スタッフ

常勤医 2 名（岡田克之、狩野龍之介）

非常勤医 2 名（中島理子、木村成徳）

(2) 年度報告

- ① 外来 患者数 10,325 人（うち新患 777 人）、一日平均 42.5 人。
稼働している医療機器：紫外線照射装置（UVA/B、エキシマライト）、炭酸ガスレーザー装置
- ② 入院 6 階東病棟 6 床。新規入院 41 人、一日平均 2.7 人、平均在院日数 24.4 日
- ③ 手術 中央手術室で 66 例（良性腫瘍 46 例、表皮内癌 5 例、悪性腫瘍 14 例、皮膚生検 1 例）
外来にて皮膚生検、腫瘍切除、皮膚切開術、陥入爪手術などを実施
- ④ 地域連携 他院からの診療情報提供書 542 通
- ⑤ 研修 日本皮膚科学会認定「専門医」研修指定病院

(3) 今後の目標

- ① 専門性 地域の皮膚科診療の中核として、診療所や病院、老人介護施設などと有機的な連携を図り、皮膚科の専門性を発揮する。
- ② 医療機器 ターゲット型紫外線照射装置（エキシマライト）を、各種の皮膚疾患に導入していく。
- ③ 生物学的製剤 乾癬に対する生物学的製剤の投与症例数は、県内で群馬大学皮膚科に次ぐ。臨床的、学術的に乾癬治療をリードしたい。
また、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹に対する新規製剤も導入しており、皮膚科の地域連携で症例を重ねたい。
- ④ 患者サービス 紹介患者の診療体制を充実させ、患者さんの声を聞き、地域のニーズに応える医療を実践する。
- ⑥ 褥瘡対策 皮膚科専門医として褥瘡の予防と治療をリードし、皮膚排泄ケア認定看護師（WOCN）と協働して全職員の啓発を図る。
さらに近隣の訪問看護師やケアマネージャーと協働して褥瘡の充実を進め、地域の褥瘡対策のレベルアップを図る。
- ⑦ フットケア 「足外来」を通じて、糖尿病患者や透析患者の足病変に関わる。多科・多職種との連携したフットケアチームを構築する。
- ⑧ チーム医療 褥瘡対策、栄養サポート、フットケア、感染制御、医療安全などに皮膚科の専門性を生かし、積極的に協力していく。

診療部長 岡田 克之

10 泌尿器科

(1) スタッフ

常勤医 4 名（上井 崇智、岡本 亘平、林 拓磨、橋本 飛鳥）

非常勤医 2 名（清水 孝倫、小南 次郎）

(2) 年度報告、今後の目標

① 泌尿器科部門

癌治療（手術、化学療法、緩和）、排尿障害治療、急性尿路感染治療を中心に治療を施行しました。手術件数は 383 例でした。癌手術治療においては腹腔鏡手術治療が中心になり、腎臓癌、腎盂尿管癌、前立腺癌、膀胱癌などに対し計 49 例の腹腔鏡手術を施行しました。前立腺肥大に対しての低侵襲治療として WAVE（経尿道的水蒸気治療）を導入、3 例に施工したほか、経尿道的膀胱腫瘍切除術 58 例、経尿道的前立腺切除術 38 例、前立腺生検 171 例を施行しました。最近では腎癌に対しての薬物療法として分子標的薬治療、免疫チェックポイント阻害薬治療を行う症例も急激に増加しています。

桐生地区は高齢化が進んでおり、健康志向が高まった現在も進行癌が見つかる割合が多い上、複雑性尿路感染症が増加している印象があります。検診受診等の啓発、介護サービスの介入など活動が必要と思われます。

② 血液浄化部門

維持血液透析患者は 11 名で、月水金 2 クール、火木土 1 クールで施行しています。

急性期病院の特徴として臨時、急性血液浄化が多く、新規維持血液浄化導入は難しい状況が続いています。維持血液透析患者は多くはないが、他院維持血液透析患者の当院入院や、エンドトキシン血症、神経疾患などの臨時血液浄化は 49 名に施行しており、バリエーションに富んでいます。

診療部長 上井 崇智

11 産婦人科

(1) スタッフ

令和5年度産婦人科常勤医は前年から引き続いての矢崎淳先生と産婦人科選考医の塚越先生に加えて鏡の3名でした。令和6年度は、矢崎淳先生が周藤先生と交代、塚越先生が齋藤先生と交代され、刷新した雰囲気での診療がはじまりました。日常診療は周藤先生、齋藤先生のがんばりに加え、非常勤の先生方のご尽力ではじめて運営可能な状況です。群大病院より上原先生、三井田先生を派遣していただき宿直業務もお願いしております。日勤には、須藤先生、矢崎千春先生、たかのす診療所より内田先生に御協力を得ることで、円滑に診療できています。

(2) 診療実績

分娩件数は209件と、減少傾向が続いております。外国人の方の分娩件数がそのうち36件、約17%でした。当院を選んでいただいた方たちを大事に診療していきたいと思っております。婦人科手術件数はCOVID-19の影響を受けた令和4年度の125件から144件へと増加しました。

(3) 今後の目標

正常分娩件数の減少が全体に影響しておりますが、母体搬送受け入れ体制は小児科の先生方のおかげで十分機能しており、地域周産期母子医療センターとしての役割をはたしていきたいと思っております。

診療部長 鏡 一成

12 眼科

(1) スタッフ

常勤医 2 名 丸山泰弘、田村明洋

非常勤医（水曜日の外来と手術担当）1 名 視能訓練士 3 名

(2) 年度報告

外来患者数は、延 14,278 人（前年比+9.2%）でした。初診患者は 422 人（+3.7%）でした。

外来手術はレーザー網膜光凝固術（裂孔原性網膜裂孔、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症など）が 56 件、後発白内障手術（YAG レーザー）は 75 件でした。入院手術の詳細は、科別手術件数の項目を御参照ください。

糖尿病網膜症や加齢黄斑変性に対する抗 VEGF 抗体（ルセンティス®、アイリーア®など）の硝子体内注射は 291 件（+40%）でした。

当院は東毛地区の周産期医療の中核施設なので、未熟児網膜症の対応も行っています。重症網膜症に対するレーザー治療や抗 VEGF 抗体（ルセンティス®）の硝子体内注射（本年度は 2 件施行）も対応しています。

(3) 今後の目標

上記報告の通り、患者数や手術件数は年々増加しています。外来受診での待ち時間と手術待機期間が長くなりがちです。時間の制約がある中でも、質の高い眼科医療を提供できるよう努力いたします。

最近では、内科などの眼科以外の先生方から当科に直接患者を紹介していただくことが多くなっています。緑内障発作を発見していただいて早期治療ができた例などもあり、感謝いたしております。今後ともよろしく願いいたします。

診療部長 丸山 泰弘

13 耳鼻いんこう科

(1) スタッフ

令和 5 年度の耳鼻いんこう科常勤医師は 2 名です。（梅村 崇、山田 由貴）

非常勤医師 2 名（月曜日：常見先生（獨協医科大学病院）、木曜日：萩原先生（群馬大学医学部附属病院））と診察にあたりました。

(2) 年度報告

主に外来診療を行い、耳鼻いんこう科全般的疾患を診療しています。突発性難聴は麻酔科と連携し、高気圧酸素治療、星状神経節ブロックも通院治療を行っています。急性炎症、めまい急性期は、病状により入院点滴治療も行っています。

(3) 今後の目標

総合病院の特性を活かし、地域医療機関、当院各科と連携し、群馬大学医学部附属病院、近隣病院とも連携を取りながら、地域医療に貢献できるように努力して参ります。

診療部長 梅村 崇

14 麻酔科

(1) スタッフ

手術室での業務は、佐藤淳、塚越裕、入内島伸尚、高瀬友彰の4名の常勤医師と5名の非常勤医師。そのうち麻酔標榜医は、常勤4名、非常勤5名。麻酔専門医は、常勤4名、非常勤5名。麻酔指導医は、常勤4名、非常勤4名。また、院内の研修医9名の麻酔研修を受け入れ、530件の麻酔の指導を行いました。ペインクリニックでは、4名の常勤医師が交替で診療を行っています。

(2) 年度報告

手術件数は、前年度より5.0%増加して2287件。そのうち麻酔科管理症例は1573件で、全身麻酔1022件、脊椎麻酔550件、硬膜外麻酔1件。患者全体の年齢構成を見ると、70歳以上の症例が1305名(57.1%)で半数以上、90歳以上の症例が72名(3.1%)であり、高齢者の割合が前年より増加しています。

ICU・CCU室は、麻酔科、外科、循環器科が分担して常時、専任の担当医師によりハイケアユニットとして運用しています。前年と同様に重症患者が多く入室しています。

ペインクリニックでは、突発性難聴、顔面神経麻痺に対して星状神経節ブロックを行っています。腰下肢痛、肩こり、頸部痛、三叉神経痛、帯状疱疹後神経痛、糖尿病性神経障害などに対して硬膜外ブロック、傍脊椎神経ブロック、トリガーポイント注射、筋膜リリースなど、多種の神経ブロック療法や近赤外線的光線治療、超短波の照射、薬物治療を行っています。また、ボツリヌス毒素注射では片側顔面痙攣、眼瞼痙攣、上肢痙攣、下肢痙攣の治療を行っています。

高気圧酸素治療は、突発性難聴、末梢循環障害、脳外科的疾患、四肢の難治性潰瘍、放射線照射後障害、腸閉塞、一酸化炭素中毒などを対象として治療を行っています。なるべく初診当日から治療を開始できるように、また、緊急時にも対応できるよう努力しています。

(3) 今後の目標

- ・より安全な麻酔を行うとともに、周術期管理チームを整備します。
- ・麻酔科関連分野である、ペインクリニックや集中治療を充実させます。
- ・医師臨床研修において呼吸・循環管理を習得させます。

診療部長 佐藤 淳

15 放射線科

(1) スタッフ

常勤医は1名（診断専門医）。放射線治療は非常勤医で対応しています。

診断業務では、群馬大学から週1日（月曜日）、月2回（土曜日 半日）の非常勤に加え、遠隔画像診断も利用し業務を行いました。

(2) 年度報告

令和5年度の診療業績については、別に掲載されている資料を御参照ください。

1. 5TMRI 装置が更新され、より一層の診断能工向上が期待されます。

(3) 今後の目標

適切な診断・治療が遅滞なく行えるよう中央部門としての機能を果たすとともに、病院内外の関係各所と密に協力しながら、日々の診療に当たって参ります。

診療部長 小林 茂

16 救急科

(1) スタッフ

令和5年度の救急科常勤医は1名（令和6年1月退職）

非常勤医として群馬大学救急医学 荒巻裕斗先生に毎週木曜日診療していただきました。

(2) 年度報告

令和5年度は救急外来および入院の診療を行いました。

(3) 今後の目標

救急科常勤医退職後も引き続き、病院全体で桐生医療圏の中核病院として、入院を必要とする緊急性の高い患者さんの受入れを積極的に行い、圏域内の救命搬送受入率の向上に向け、努力していきます。

救急センター

17 歯科・歯科口腔外科

(1) スタッフ

常勤歯科医師 2 名

(2) 年度報告

令和 5 年度の 1 日平均外来受診患者数は 45.5 人、年間外来新患者数は 2,370 人、再来受診患者数は延べ 8,689 人でした。年間の手術室使用件数は 128 件、年間入院患者数は延べ 615 人で、令和 2 年から 4 年までの新型コロナウイルス感染症拡大に伴う患者減少からの回復がみられました。

(3) 今後の目標

当科は医療局歯科・歯科口腔外科の診療方針、運営方針と異なる医療技術部歯科衛生士室との 1 科でありながら 2 元化された全国でも極めて珍しい科です。

総合病院における歯科・歯科口腔外科の役割は一般に、① 口腔外科医療 ② 有病者（障害者、要介護老人を含む）、入院患者に対する歯科医療 ③ 救急医療があげられます。

①に関しては、学会活動やセミナーへの参加、他院の手術見学・研修等を通じ、常に最新の医療知識、技術を取り入れ、患者への最新の口腔外科医療を提供しています。

②高齢者や全身疾患を有する患者の歯科治療（主に抜歯などの観血処置）の需要は他域の超高齢者の増加に伴いすべて対応しています。

平成 24 年より稼働した桐生市歯科医師会と共同で行われる三次障害者歯科治療は歯科医師会登録医とともに手術室を使用し、集約的な歯科治療を行っています。令和 5 年度の全身麻酔による障害者の歯科治療は 14 件でした。

周術期口腔機能管理については周術期の口腔ケアを要する患者の増加に対応し、かかりつけである一次医療機関と連携を図り、医療技術部歯科衛生士室のスタッフとともに誤嚥性肺炎等の周術期の合併症の予防、患者の QOL の向上に努めています。

院内のチーム医療としては、栄養サポートチーム（NST）、摂食・嚥下支援チーム（SST）の一員として参加しています。

③の救急医療は、当科ではオンコール態勢をとり、顎骨骨折などの外傷、抜歯後出血、急性歯性感染症など、一次医療機関や当直医の要請にはすべて対応しています。

今後も最良かつ安全な歯科医療を提供すべく病院の機能を生かし、他科との連携をスムーズに行い、総合的な歯科診療に取り組む所存です。

診療部長 今井 正之

18 薬剤部

(1) スタッフ

薬剤師 19 名、助手（会計年度任用職員・派遣職員） 計 3 名、SPD 1 名

(2) 年度報告

- ① 院外処方せん発行率は、96.1%で前年比+0.3%になりました。
- ② 薬剤管理指導件数は 11,173 件、退院指導件数 2,550 件となりました。
- ③ 患者さん向け情報誌「くすり箱」の発行
 - (ア) 第 68 号（令和 5 年 6 月発行） ◇お薬の管理方法について
 - (イ) 第 69 号（令和 5 年 9 月発行） ◇小児へのお薬の飲ませ方・使い方
 - (ウ) 第 70 号（令和 5 年 12 月発行） ◇大腸内視鏡検査前に用いるお薬
 - (エ) 第 71 号（令和 6 年 3 月発行） ◇災害時におけるお薬手帳の重要性

④ 薬・薬連携

桐生薬薬連携検討委員会に参画し、桐生薬剤師会、東邦病院、恵愛堂病院の薬剤師と月に 1 回の情報交換を続けております。ヒヤリハットなどの事例を共有して医療安全に努めております。3 月の開催で 206 回を数えています。

また、200 回開催を記念して、交流会を桐生薬剤師会と合同で開催し、合計 10 名が参加しました。

会議は、対面と Zoom のハイブリッド開催で行っています。引き続き、薬薬連携を深め、病院と薬局でシームレスに患者さんをフォローできる体制を作ること为目标に継続して情報共有していきます。

(3) 2024 年度の目標

1. 院内で行われる薬物療法に積極的に関わり、必要な人に必要な情報を提供します。
2. 適応のある疾患について、バイオシミラーの置換率 80%以上を目指します。
3. 地域の病院や薬局の薬剤師と連携を強め、必要な情報がいつでも共有できる環境を作ります。
4. 将来を見据え、これまで以上にいきいきと働くことができる職場環境を作ります。

部長 阿部 正樹

19 リハビリテーション技術科

(1) スタッフ

理学療法士 22 名、作業療法士 7 名、言語聴覚士 3 名、助手 2 名の合計 34 名。

(2) 年度報告

- ① 年間総単位数は 113, 703 単位-前年比 1.3%増 (理学 76, 663 作業 26, 250 言語 10, 790)
- ② 延べ患者件数は、外来 5, 916 件 (一日平均 24)、入院 60, 970 件 (一日平均 196.7)
- ③ 新患者数は 2, 261 人(外来 195 人、入院 2, 066 人)
- ④ 疾患別リハビリ割合は、脳血管リハ 43.8%、廃用症候群リハ 11.1%、運動器リハ 32.6%、呼吸器リハ 9.5%、がんリハ 3%。

(3) 今後の目標

「建設的に取り組む、患者ファースト、生産性向上」

1. 専門性を高め、臨床に活かす (教育、接遇、実績作り、啓発、リスク管理等)
2. 業務効率の向上 (弾力的 且つ 柔軟な対応)
3. 各自が意識して感染対策に取り込む (職員側・患者側の対応、環境面の対応等)
4. 科外 (院内外) と積極的に関わりを持つ (委員会、地域活動等)

科長 勝山 典年

20 放射線技術科

(1) スタッフ

診療放射線技師は 21 名、非常勤 1 名の体制です。看護師は CT 室、治療部各 1 名、透視造影等の検査は他部署より応援をいただいています。事務は診断、治療に各 1 名の体制です。

(2) 年度報告

令和 5 年度放射線部門の業績については、別に資料が掲載されていますのでご覧ください。

MRI 装置 1 台の更新を行い、AI 機能により画像の高画質化と検査時間の短縮が図れました。

県内でもいち早く実現した診療放射線技師による静脈確保は実施可能な技師も増加し、タスク・シフト/シェアに貢献しています。

(3) 今後の目標

『技術の研鑽と被ばく線量の低減』を理念として

1. 画質を担保して医療被ばく低減
2. チーム医療への貢献とタスクシフト・シェアの推進
3. 接遇強化
4. 地域診療拠点病院にふさわしい放射線機器の整備

科長 磯 昌宏

21 中央検査科

(1) スタッフ

臨床検査技師 28 名、非常勤臨床検査技師 4 名、非常勤事務職員 1 名

(2) 年度報告

- ① 一般社団法人日本臨床衛生検査技師会の品質保証施設認証を取得
認定期間：令和 5 年 6 月 1 日～令和 7 年 5 月 31 日（2 年間）
- ② 一般社団法人日本輸血・細胞治療学会の輸血機能評価認定制度（I&A 制度）を受審
- ③ 外部団体による臨床検査精度管理調査（日本医師会、日本臨床衛生検査技師会、群馬県精度管理調査協議会）へ参加
- ④ 群馬県令和 5 年度保健事業等功労者知事表彰「結核・感染症予防」を所属技師が受賞
- ⑤ 群馬県臨床検査技師会の群臨技会長賞を所属技師が受賞
- ⑥ 群馬県臨床検査技師会の群臨技感謝状（団体賞）を受賞
- ⑦ 認定病理検査技師（日本臨床衛生検査技師会）認定試験に所属技師 1 名が合格
- ⑧ 認定心電検査技師（日本臨床衛生検査技師会）認定試験に所属技師 2 名が合格
- ⑨ JHRS 認定心電図専門士（日本不整脈心電学会）認定試験に所属技師 1 名が合格
- ⑩ 認定 POC コーディネーター（日本医療検査科学会）認定試験に所属技師 1 名が合格
- ⑪ 「呼気一酸化窒素（呼気 NO）濃度検査」の実施を内科外来より中央検査科へ移行
- ⑫ 更新した主な臨床検査機器
「大型滑走式マイクローム：大和光機工業 リトラトーム REM-710」
- ⑬ 臨地実習生の受入れ
群馬パース大学保健科学部検査技術学科 4 年 4 名
実習期間：令和 5 年 5 月 15 日～7 月 7 日（8 週間）
- ⑭ 認定輸血検査技師制度研修生の受入れ
深谷赤十字病院臨床検査技師 1 名
研修期間：令和 5 年 5 月 30 日～5 月 31 日（2 日間）
- ⑮ 臨床検査情報誌「四つ葉のクローバー」を 3 号発行
5 月発行 第 61 号「超音波骨密度検査」について
9 月発行 第 62 号「血圧脈波検査」について
1 月発行 第 63 号「呼気一酸化窒素（呼気 NO）検査」について

(3) 理念・目標

- ① 理念 「臨床検査の質的向上と信頼性の確保」
- ② 目標
(ア) スキルアップを目指し患者サービスとチーム医療に貢献する
(イ) 業務の改善意識を高め効率化・省力化を推進する
(ウ) 地域住民の健康管理に貢献する
- ③ 年度目標 「確認不足によるミスをなくす」

科長 梶田 幸夫

22 栄養管理科

(1) スタッフ

令和5年4月～：管理栄養士6名、臨時管理栄養士1名、調理師6名、調理員1名 合計14名

令和5年5月：管理栄養士1名が普通退職

令和5年7月：管理栄養士1名を採用

令和5年10月：管理栄養士1名が出産および育児のため休暇取得

(2) 年度報告

① 栄養食事指導

- ・入院栄養食事指導 446 件、外来栄養食事指導 469 件、合計 915 件、対前年度比 85.3%
- ・管理栄養士 6 名が担当し 1 枠 1 時間、午前 3 枠・午後 4 枠、各枠 1 件。当日予約、当日臨時枠も対応。

② 給食管理業務

- ・令和3年8月1日より富士産業株式会社に労務委託
労務委託における業務区分
病院側 …献立作成、食材の発注及び検収、食事後の下膳、食器の洗浄消毒
受託側 …食材管理、下処理、仕込み、食数管理、調理、配膳（病棟配送まで）
- ・常食系喫食者を対象に食事アンケート調査を実施（夏献立、冬献立）
調査結果「病院食の満足度…5（良い）～1（悪い）とした5段階評価」
7・8月実施 5点 38.0% 4点 28.2% 3点 28.2% 2点 5.6% 1点 0.0%
1・2月実施 5点 28.2% 4点 26.5% 3点 41.0% 2点 4.3% 1点 0.0%
- ・令和2年4月より提供している嚥下調整食を、日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 嚥下調整食分類 2021 により合わせるため献立の見直しを実施。

(3) 今後の目標

- ① 衛生的で安心・安全な、患者さんによるこんでもらえる食事の提供
 - ・患者さんの側に立って委託業者との間の橋渡しをしていく
 - ・季節が感じられる食材、地元で生産される食材等を積極的に取り入れる
 - ・絶対に食中毒を発生させない、徹底した衛生管理
- ② 患者さん個々の病態や生活に合わせた栄養食事指導、栄養相談の実施
 - ・多様化する食生活に合わせた、具体的で継続しやすい内容の指導を心掛ける
 - ・症例検討会等を実施し栄養食事指導における技術の向上を図る
- ③ 入院患者さんの栄養管理における質と技術の向上
 - ・患者さんの声を傾聴し、他職種との連携を図る
 - ・院内院外の勉強会に積極的に参加し知識を広げる

科長 小林 誠

23 臨床工学科

(1) スタッフ

常勤臨床工学技士7名（うち1名育休）

(2) 年度報告

基本理念：「最新の知識と技術の習得に励み、安全で信頼性の高い医療技術を提供する」

部門目標：「1. 機器管理部門として医療機器の効率的運用と一元管理を推進する」「2. 業務の情報共有強化を行う」を基に下記の業務にあたっています。

業務件数については業務概要の項を参照ください。

① 呼吸療法業務

人工呼吸器の操作・保守および管理する業務。多職種で連携し、治療の質向上に努めています。また呼吸器サポートチーム（RST）の一員として事故防止対策、職員教育、RST 回診に参加しています。

② 心臓カテーテル業務

検査・治療中のバイタルモニタリング、血行動態検査、血管内超音波検査、補助循環装置等を操作・保守管理をしています。

③ ペースメーカー関連業務

体内式ペースメーカーデバイス管理と外来業務。植え込み患者の手術立ち会い、外来でのフォローアップ、MRI 撮影や手術前後の立ち会いをしています。

④ 血液浄化業務

一般透析は腎センターへ技術提供を行っています。重症透析については ICU や病棟での出張透析を実施。その他、持続的腎代替療法、血液・血漿吸着療法、腹水濾過濃縮再静注療法など特殊血液浄化療法を担っています。

⑤ 高気圧酸素業務

麻酔科に配置されている一人用治療装置（第一種高気圧酸素治療装置）1 台を運用。一酸化炭素中毒・腸閉塞・突発性難聴・網膜動脈分岐閉塞症などの治療をしています。

⑥ 手術室業務

手術用ナビゲーションシステム、自己血回収返血装置、内視鏡システム業務、術中神経モニタリングシステム、麻酔器やフットポンプの管理のほか、手術にまつわる機器のトラブル対応を行っています。

⑦ 医療機器管理業務

人工呼吸器、補助循環装置、血液浄化装置などの生命維持管理装置や、血液ガス分析装置、セントラルモニターなどの高度医療機器の保守管理を行っています。

また、輸液ポンプ、シリンジポンプ、超音波ネフライザ、低圧持続吸引器等、使用箇所が多岐に渡る ME 機器の中央管理を行う事により、院内医療機器の効率的かつ安全な運用を図っています。

⑧ 教育業務

ME 機器使用者への安全情報発信、研修を行うことにより ME 機器に対する関心と知識と技術の向上を図っています。特に、新機種導入時には研修会を開催。診療部・看護部を始め、医療機器に関する研修会の講師派遣を行っています。

(3) 今後の目標

地域中核総合病院の臨床工学技士として呼吸・循環・代謝といった生命を代行する装置を手広く扱っています。必要な時に必要な知識・技術・機器を提供できるよう、臨床工学科基本理念の基、ゼネラルに活躍できる臨床工学技士を目指しています。

係長 三木 康正

22 看護部

(1) 看護部の配置状況

令和6年3月31日現在 看護要員 386人

	助産師	看護師	准看護師	看護助手	合計
	人	人	人	人	人
正職員	22	311	4	0	337
非常勤	0	43	2	4	49
合計	22	354	6	4	386

(2) 年度報告

【令和5年度 看護部目標】

- ① 各部署の専門性を発揮し、安全で良質な看護を提供する
- ② 高い倫理観を持ち、患者さんの尊厳を守る温かい看護を提供する
- ③ 患者さんが安心して入院、退院、在宅療養を継続できるよう、地域とつながる看護を提供する
- ④ 心理的安全性の高い職場をつくり、就業継続できる環境を整える

目標①については、自部署の専門性を高めるための研修や研究に勤しむとともに、職員1人ひとりが継続学習し看護の質向上に努めました。目標②については、相手を慮る心を大切にしたい対応を心掛け、看護を語る会でその思いを共有しました。目標③については、地域医療連携室が要となり多職種による在宅療養支援を強化することで、地域とつながる看護を提供することができました。結果、入退院支援加算は前年度比倍増となりました。目標④について、看護部ハラスメント対策部会を病院ハラスメント対策委員会に拡大し、委員も全職種で構成し取り組みました。課題は残りますが、今後も継続して活動してまいります。

【令和5年度 看護部重点取り組み事項】

- ① 急性期～在宅療養支援まで地域とつながる看護を提供
- ② 効果的なベッドコントロールの実践
- ③ 心理的安全性の高い職場づくり

看護師長会を中心に上記3点に取り組みました。①、②については経営的視点をもって、急性期病床を確保するとともに重症度、医療・看護必要度を維持するための退院支援、地域包括ケア病棟や回復期リハビリ病棟への院内転棟に尽力しました。③については、新入職者の離職もあり、残された課題も多いため引き続き取り組んでいく所存です。

(3) 今後の目標

今後も地域住民のニーズに応えられるよう、優しさと思いやりのある接遇を心掛け、対象が安心して療養環境の提供に努めてまいります。

部長 粕川 由貴子

24-1 外来

(1) スタッフ

常勤看護師 14 名、再任用看護師 5 名、非常勤看護師 25 名 計 44 名

(2) 年度報告

令和 5 年度の部署目標として、

- ① 患者の思いに寄り添った温かい看護を提供する
 - ② 地域でその人らしく暮らすことを支える質の高い看護を提供する
 - ③ 安心安全な環境を整え誰もが思いやりの持てる職場環境を築く
- を掲げ、3 チームに分かれて活動しました。

接遇面では、ロールプレイの実施や、接遇に関する標語をスタッフから募集し意識づけを行いました。記録面では、タイムアウトに関する記録の記載方法について勉強会の開催や外来用適時調査チェックリストを作成するなど、会計年度任用職員も含めた看護記録の質向上に努めました。そして、働きやすい職場を目指し、忙しさに柔軟に対応する応援体制について QC 技法を用いて要因解析と対策の検討をおこない、各診療科の動きが分かるような支援表を作成することが出来ました。

(3) 今後の目標

今後も、患者に寄り添い、地域に根差した在宅療養支援の強化、繋ぐ外来看護記録の充実、スムーズな応援体制の実現に向け取り組んでいきます。

師長 西場 里香

24-2 救急外来

(1) スタッフ

看護師 19 名 准看護師 2 名 非常勤事務 1 名 計 22 名

(2) 年度報告

令和 5 年度救急外来は、救急治療室と内視鏡室の運営管理を行いました。

目標を、

- ① 業務改善の推進
- ② 安全文化の醸成
- ③ 教育体制の構築
- ④ 心理的安全性の推進

を掲げ、活動しました。救急治療室、内視鏡室の環境整備や円滑な治療のための物品整理、感染対策等について改善が図れました。また、煩雑な中でも安全な看護を展開するためにカンファレンスを充実し、対応可能な接遇能力の向上に取り組みました。

(3) 今後の目標

新しい救急体制や安全な内視鏡治療への体制を更新し、地域のみなさまに安心してお過ごしいただけるよう活動します。また、職員が長く働き続けられる心理的安全性が保たれた職場環境の構築を目指します。

師長 武田 智子

24-3 手術室

(1) スタッフ

看護師 18 名 計 18 名

(2) 年度報告

令和 5 年度は、「患者・家族の尊厳を守り、専門性を発揮した周術期看護を提供する」を目標に、

- ① 個別性のある倫理カンファレンスの充実を図る
- ② 心理的安全性の高い職場環境を作る
- ③ 情報を共有し、看護記録の質を高める
- ④ パスを作成することにより、看護ケアの時間・質を確保する
- ⑤ 安全文化の醸成強化する
- ⑥ 滅菌器材の整理整頓を行い働きやすい環境を作る
- ⑦ 適切なコロナ対応が出来、手術の受け入れができる
- ⑧ 災害知識の定着を図り、災害時マニュアルに沿った行動がとれる

を掲げ、活動しました。

心理的安全性の高い職場環境になるよう勉強会を行い、意識改革を図りました。パスの作成により、看護ケアの時間・質を確保することが出来ました。滅菌器材の整理整頓を行うことで、働きやすい環境を作ることが実現できました。

専門的知識と技術の向上に向け、特定認定看護師（手術看護）1 名、手術看護実践指導看護師 3 名、周術期管理チーム看護師 6 名が在籍しています。術前外来を通して術後回復機能促進に向けた関わりを行い活躍の場を広げています。

(3) 今後の目標

今後も、職場環境を整え、高い倫理観のもと地域貢献できるようにスタッフ一丸となり、質の高い周術期看護の提供を目指していきます。

師長 佐藤 祥代

24-4 ICU・CCU

(1) スタッフ

看護師 22 名 （集中治療認定、特定行為取得看護師 1 名を含む）

(2) 年度報告

令和 5 年度病棟目標として、

- ① 安全、安心なクリティカルケアの質の維持、向上
 - ② 顧客満足（内部・外部）につながる環境を整える
- を目標としました。

患者層の高齢化も考慮し、入院時より在宅療養につながる効果的な急性期看護の提供に向け、せん妄、鎮静、鎮痛アセスメント、ケアの強化、早期リハビリへの取り組みを行いました。また、倫理的視点強化、学習プログラムの構築、効果的な勉強会の開催、事故防止、安全、感染対策強化、多職種連携、カンファレンスの強化等を実施しました。さらに、スタッ

フの働きやすい環境を整えるよう心理的安全性のある環境づくり、業務改善などにも取り組みました。

(3) 今後の目標

地域の急性期医療を担うため、専門性を強化しながら、患者、家族に寄り添う暖かい看護の提供を目指し、質の高いクリティカルケアの提供をスタッフ全員で取り組みたいと思います。

師長 小澤 裕美

24-5 腎センター

(1) スタッフ

看護師 8 名 臨床工学技士（交替で勤務）

(2) 年度報告

令和 5 年度は、外来患者透析 1,766 回、入院患者透析 634 回実施しました。緊急透析患者数は 49 名でした。目標に安全で良質な透析看護の提供を掲げ活動しました。安全面では、KYT カンファレンスの充実を図り内容や対策を周知徹底しました。感染面では、スタッフ全員が手洗いマスターとなり感染に対する意識を高めました。また、アドバイザーを交えた倫理カンファレンスができ、患者さんの思いに寄り添った対応が出来ました。また、各部署の透析確認事項パンフレットの差し替えを行い、退院連携がスムーズになり、病棟との連携強化が出来ました。そして、昨年改訂した災害対策マニュアルを用いて、災害に備えた患者さん参加の防災訓練を行い、緊急時対応を安全に統一した看護を行うことができました。

(3) 今後の目標

今後も安全・感染管理の強化とともに、安全で良質な透析看護の影響と、患者さんの思いに寄り添った看護の提供に努めていきます。

師長 関 靖枝

24-6 NICU

(1) スタッフ

看護師 16 名（新生児集中ケア認定看護師 1 名含む） 臨床心理士 1 名（非常勤）

(2) 年度報告

令和 5 年度は、

① 児と家族に安全・安心な看護を提供する

マニュアルを活用し、職員の安全が保持できる

② 周産期の連携を図り、継続した看護援助が提供できる

③ 急性期から地域につながる看護の充実

倫理を考慮した記録を行い、スタッフ間で共有することができる

④ 心理的安全性を確保し、円滑なコミュニケーションが図れる職場環境の構築ができる
の 4 つの目標を挙げ活動いたしました。

安全については、ヒヤリハットメモから 0 レベルを 2 件/月以上提出でき、アクシデント件

数は全レベル 1 で昨年より 3 件減少することが出来ました。感染対策では、5 類移行後の COVID-19 NICU 対応マニュアルの改訂を実施しました。周産期連携では、母乳ケアの情報提供、病棟内に助産師外来の案内掲示、さらに、ご家族が入院中の赤ちゃんの成長過程をイメージできるよう、すくすくマップを作成し掲示しました。また、ナーシングスキルを活用し、家族看護、倫理に関する研修をスタッフ全員で受講、さらに、テンプレートの記録例をファイルに追加し、記録の質向上に努めました。働きやすい職場環境では、職場満足向上の為、N/G スタッフへアンケートを実施・共有したことで、声掛けが定着してきています。また、スタッフ全員が病床稼働率の意識付けができるよう毎朝稼働率の読み上げを行い、ベッドコントロールを可視化しました。平均目標稼働率は前年度より上昇し、91%達成となりました。

(3) 今後の目標

今後も地域周産期母子医療センターとして、急性期から在宅を見据えた専門性の高い看護を提供することを目指し、児と家族の育ちを支援できるよう、知識・技術の向上に努めていきます。

師長 阿左美 まゆ美

24-7 G C U

(1) スタッフ

看護師 15 名 助産師 1 名 臨床心理士 1 名 (非常勤)

(2) 年度報告

令和 5 年度は、

- ① 継続看護の充実を図る (継続看護カンファレンス・在宅療養支援カンファレンスの件数を増やす)
- ② さらに退院支援の充実を図る
- ③ 倫理カンファレンスの充実を図り、感性を高める
- ④ 働きやすい職場づくり、パワハラのない職場づくりを目指す
- ⑤ 看護の質の向上を図る為、勉強会を定期的で開催し、知識・技術の向上を図るの 5 つをあげ活動しました。

継続看護を充実させるため、積極的に外来看護師と連絡を取り、カンファレンスを実施するようにしてきました。目標も外来での目標となるように検討することが出来るようになってきました。倫理事例も 15 例検討することが出来、令和 4 年度を上回る検討ができました。

スタッフの入れ替えが多かったため、看護の質を落とさないよう移動してきたスタッフの教育に体制を検討しながら実施しました。0 レベルや 1 レベルのレポートの分析を行い、大きな事故につながらないように、対策の周知を図りました。

(3) 今後の目標

今後もスタッフと協同し働きやすい職場づくりを目指すと共に、患者にとって充実した退院支援が受けられるよう取り組んでいきたいと思ひます。

師長 小林 葉子

24-8 3階病棟

(1) スタッフ

看護師 19 名 准看護師 1 名 看護助手 3 名 保育士 1 名

(2) 年度報告

令和 5 年度の目標は、

- ① ケアの充実を図り心のこもった看護を提供する
 - ② 安心・安全な看護の提供を行う
 - ③ 退院を見据えたカンファレンスを実施し在宅療養支援・継続管理の充実を図る
 - ④ 心理的安全性の高い職場をつくりスタッフ全員が働きやすい環境を整える
- とし、各チームで活動をしてきました。

ケアの充実を図るため、終末期の看護について勉強会やカンファレンスを行い、スタッフ全員で緩和ケアについて考える機会を設けました。また、レスパイト入院の受け入れも定期的に行っています。安全な看護が提供できるよう、環境整備の徹底や看護助手へのタスクシェア等行い、転倒事故の減少に努めました。退院支援では、地域連携パスの活用やカンファレンスの充実を図りました。

小児科では、季節の飾り物やクリスマス会などの行事を行い、入院中の患児にも楽しんでもらいました。

(3) 今後の目標

感染予防の徹底と患者・家族の視点に立った温かい看護を提供できるように取り組んでいきます。

師長 鈴木 ひろ美

24-9 4階東病棟

(1) スタッフ

看護師 21 名 看護助手 3 名

(2) 年報報告

令和 5 年度病棟目標は、

- ① 自分の役割、責任を自覚し患者さんに安全な看護を提供する
 - ② 患者さん、ご家族の思いを尊重し、寄り添う看護を提供する
 - ③ 多職種と連携を図り、安心して退院できる看護を提供する
 - ④ 心理的安全性の理解を深め、心理的安全性の高い職場をつくる
- と掲げ、1 年間活動しました。

レスパイト入院のマニュアルを作成し、勉強会を開催しました。運用も開始し、レスパイト入院を受け入れることができています。認知症認定看護師が参加したカンファレンスの開催や勉強会を行い、個別性を重視した看護の提供に努めました。また、診療科に捉われない入院・転入の受け入れを行い、病床稼働率の上昇を図ることができました。

(3) 今後の目標

専門性・独自性を発揮し、安全・安心な質の高い看護の提供ができるように努めていきます。

師長 山口 景子

24-10 4階西病棟

(1) スタッフ

助産師 15 名 看護師 10 名（乳がん看護認定看護師 1 名含む）非常勤看護師 1 名
日勤看護助手 2 名 夜勤看護助手 2 名

(2) 年度報告

令和 5 年度の病棟目標は、

- ① 専門性を発揮し、安全で良質な看護を提供する
 - ② 倫理的視点を持ち、患者さんにあった看護が提供できる
 - ③ 患者さんが安心して入院、退院、在宅療養が継続できるよう、切れ目のない看護を提供する
 - ④ 心理的安全性の高い職場をつくり、働きやすい環境を整える
- を掲げ 1 年間活動してきました。

今年度は、産後ケアマニュアルの改訂を行い、広報活動としてリーフレットを作成しました。実施はできませんでしたが、受け入れ可能な体制の構築を行いました。また、心理的安全性の高い職場を目指し、読み合わせや掲示することで意識づけを行いました。さらに、勉強会や 0 レベル報告がしやすい環境を整え、安全で良質な看護の提供に努めました。

(3) 今後の目標

今後も地域の保健師や他部門と連携を図り、妊娠中から退院後まで継続した看護が提供できるように取り組んでいきます。産後ケアに力を入れていきます。

師長 野村 美菜子

24-11 5階西病棟

(1) スタッフ

看護師 25 名 日勤看護助手 4 名 夜勤看護助手 3 名

(2) 年度報告

令和 5 年度は、

- ① 看護・家族の意向を尊重した看護を提供する
- ② 専門職として自立し安全・安心な質の高い看護を提供する
- ③ 働きやすい職場環境を整える

の 3 つの目標を掲げ、1 年間取り組みました。

心理的安全性のある職場を目指し、スタッフの意見を取り入れながら業務改善に取り組み時間外削減となりました。また、環境ラウンドを行い安全な療養環境の整備や手指衛生への意識の強化を図りました。そして患者さん・ご家族の意向を尊重したうえで退院支援を行うよう多職種と連携しカンファレンスの充実に努めました。

(3) 今後の目標

今後も専門的知識・技術を習得し、安全で優しい看護が提供できるように努めていきます。

師長 石関 しのぶ

24-12 6 階東病棟

(1) スタッフ

看護師 24 名 非常勤看護助手 4 名

(2) 年度報告

令和 5 年度は、

- ① 専門性を活かした安全で良質な看護を提供する
- ② 倫理観を高接遇向上に努め丁寧な看護の提供をする
- ③ 心理的安全性の高い働きやすい環境を作る

の 3 つの目標を掲げ活動してきました。

患者さん、家族の意向を踏まえた看護の提供・退院支援に取り組みました。多職種でのリハビリカンファレンスを行い退院に向けての支援を行いました。また、インシデント・アクシデントの中から誤薬について取り組み、対策を徹底し減少に繋げることが出来ました。

(3) 今後の目標

倫理観を高め、患者さん家族に寄り添える思いやりの看護を提供していきます。

師長 深井 昌美

24-13 6 階西病棟

(1) スタッフ

看護師 17 名 看護助手 4 名

(2) 年度報告

令和 5 年度の病棟目標は、

- ① リハビリ看護を実践し、安全で質の高い看護を提供する
- ② 倫理観を持ち、患者さんの尊厳を守り温かい看護を提供する
- ③ 患者さんの退院後の生活を見据えて退院支援を実践する
- ④ 健全で安全な職場で継続して働けるよう職場環境を整える

の 4 つの目標を掲げ全員で取り組みました。

当病棟は回復期リハビリテーション病棟であり、急性期の治療が終了し、在宅・社会復帰を視野に入れて、医師、理学療法士の多職種と連携を図り、集中的にリハビリテーションを行い、日常生活動作能力の向上に繋がるように看護援助を行っております。退院後は問題なく生活が送れているのかを外来看護師と連携を図り、受診時に確認することが出来ました。

(3) 今後の目標

早期から日常生活動作獲得へ向けて、多職種と連携し情報共有を図り、質の高いリハビリテーション、看護援助を行っていきます。

師長 秋間 由博

24-14 7階東病棟

(1) スタッフ

看護師 25 名 日勤看護助手 2 名 夜勤看護助手 2 名

(2) 年度報告

令和 5 年度は、

- ① 専門性の高い看護を提供する
- ② 充実したケアプロセスを構築する
- ③ 地域とつながる看護を提供する
- ④ 心理的安全性が高い職場づくりをする
- ⑤ 安全な文化を醸成する

の 5 つを目標に掲げ活動しました。

呼吸器疾患、消化器疾患をはじめ内科全般にわたる医学的知識の更新や、入院する患者さんや家族の気持ちについて深く考える機会を持ち、看護を展開する事が出来ました。また、医療チームとしてのコミュニケーションを充実させ職場環境を整えたことで、患者さんへの思いやりや安全配慮が生み出せるようになりました。

(3) 今後の目標

常に新しい知識や技術を持ち、活き活きと看護が提供できる部署を維持します。

師長 武田 智子

24-15 7階西病棟

(1) スタッフ

看護師 25 名 日勤看護助手 2 名 夜勤看護助手 3 名

(2) 年度報告

令和 5 年度病棟目標は、

- ① 専門性を活かした質の高い看護を提供する
- ② 倫理観と思いやりを持った看護の提供と働きやすい職場環境を整える
- ③ 安心安全な看護を提供する
- ④ 退院支援・継続看護を強化し、患者が安心して退院できるよう支援する
- ⑤ 記録の充実を図り、スタッフ間での情報共有ができる

の 5 つを目標に掲げ、活動しました。

特に専門性の高い看護の提供を目指し、循環器疾患について改めて学習し知識を深めました。また、糖尿病パンフレットの見直しや摂食嚥下支援介入方法について理解したことで、病棟全体で統一した指導や援助が出来るようになりました。

(3) 今後の目標

引き続き、専門的知識・技術の向上に努め、患者さん、ご家族に寄り添う、温かい看護を提供できるように努めていきます。

師長 小倉 直子

24-16 訪問看護室

(1) スタッフ

看護師 3 名

(2) 年度報告

令和 5 年 4 月 1 日に訪問看護室が設置となり、医療保険対象者への訪問看護を開始しました。

令和 5 年度は、

① 患者に喜ばれる質の高い訪問看護を実施する

② スタッフが安心して働ける、やりがいのある職場づくりをする

を目標に掲げ 1 年間取り組みました。

新設部門であり、マニュアル作りから始め、スタッフ 3 名で情報を共有し、カンファレンスや勉強会を実施しました。また、院内外の多職種の方々と連携し、協力を得ながら訪問看護の実践を行いました。

(3) 今後の目標

医療保険の利用者さんだけでなく、介護保険対象の利用者さんにも対応するために、訪問看護ステーション開設を目指していきます。また、利用者さんの尊厳を守る、質の高い訪問看護が実践できるよう努力していきます。

師長 村田 絹代

24-17 感染症病床

(1) 病床の現況

平成 11 年 4 月 1 日から感染症及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 38 条第 2 項の規定に基づき群馬県知事から第二種感染症指定医療機関として 4 病床指定され、二次医療圏の中核病院として感染症患者の受入を行っています。

平成 14 年 12 月から翌年 2 月まで、群馬県の補助を受け感染症病棟の改修工事を着工し、平成 15 年 2 月 3 日から新病床の使用許可を受けました。

平成 15 年 12 月 20 日に桐生保健福祉事務所と合同による県内初の S A R S 対策シミュレーションを感染症病床にて試行いたしました。

平成 27 年 6 月 29 日及び 7 月 2 日に中東呼吸器症候群 (M E R S) 患者及び疑似症例来院時対応シミュレーションを同じく試行いたしました。

令和元年 9 月 19 日に桐生保健福祉事務所と合同で、新型インフルエンザ等医療提供訓練を実施し、患者受入れ時のシミュレーションを実施いたしました。

(2) 過去の受入状況

平成 12 年 9 月 21 日～平成 12 年 9 月 23 日 (腸チフス疑似)

平成 13 年 4 月 22 日～平成 13 年 5 月 8 日 (腸チフス)

平成 16 年 12 月 6 日～平成 16 年 12 月 8 日 (細菌性赤痢)

令和 2 年 2 月 11 日～令和 5 年 5 月 8 日 (新型コロナウイルス感染症)

25 事務部

25-1 総務課

(1) スタッフ

総務課長以下庶務係4名、人事係5名、臨時職員2名（一般事務1名、医局助手1名）の計12名です。

(2) 年度報告

令和6年4月から医師の働き方改革が全面施行されることに伴い、「医療従事者等負担軽減委員会」及び「医師の働き方改革検討部会」において協議を重ね、施行に向けた準備を行いました。併せて医師及び看護職員の負担を軽減するために、業務のタスクシフト・シェアの見直しを行い、負担軽減計画の更新を行いました。

企業団議会の開催については、令和5年7月28日に健診室の移転により病床数の変更に伴う設置条例改正を中心とした臨時会を開催し、併せて企業団議会議員の改選が行われました。

10月20日に令和4年度病院事業会計決算を中心とした審議を行い、令和6年2月22日には、令和6年度病院事業会計予算を中心とした審議を行いました。

また、昨年度まで「桐生地域医療組合 管理者・副管理者会議」として、院長、管理者（桐生市長）、副管理者（みどり市長）との直接意見交換を行っていましたが、企業団への移行に伴い「桐生地域医療企業団開設者協議会」と名称を変え、企業長及び構成市長（桐生市長・みどり市長）の立場で意見交換等を行う場として、第1回を令和5年10月5日に、第2回を令和6年2月7日に開催いたしました。主な内容は、その後に開催されます企業団議会に上程する議案及び令和5年度に行った主要事業並びに令和6年度に予定する新規事業・主要事業についての報告などを行いました。

課長補佐 石井 理彦

25-2 経営政策課

(1) スタッフ

主幹2名（病院政策担当1名、経営政策担当1名）、経営推進係3名、会計年度任用職員1名が配置。

(2) 年度報告

病院政策係では、当院は群馬大学医学部附属病院・公立館林厚生病院の協力病院となっているため、群馬大学医学部附属病院から1名、公立館林厚生病院から産婦人科研修に1名を受入れました。当院研修医と併せて15名の臨床研修医が当院で研修を行い、様々な支援や調整を行いました。その他臨床研修に関する医学生対象のガイダンスや様々な情報提供をオンラインで行うなど、初期研修医確保に努めています。

また、病院見学・実習では、随時医学生の受入を行っています。

このほか、「院内広報」を毎月、「院外広報（ほほえみ）」を年4回発行するほか、医療と健康に関する市民向け情報紙への原稿提供なども行っています。

経営推進係では、出納管理に加え、企業債の申請、議会の議決対象である決算、予算の調整、構成団体からの繰出金の請求、会計監査等を行いました。会計監査は年3回実施し、監査委員の了承を得ました。

(3) 今後の目標

オンラインPR動画の作成や、オンラインガイダンスなどに積極的に参加するほか、情報発信に努め、構成団体の医師確保事業を活用し、初期研修医の一層の確保を支援します。

健全な病院運営のため院内全体での取組みに積極的にに関わり、今後とも構成団体との連携を強化しながら、経営の安定・効率化をすすめていきます。

課長補佐 高草木 有里子

25-3 契約管財課

(1) スタッフ

令和5年度のスタッフは、課長、契約管財係2名、施設係3名、会計年度任用職員等2名の計8名で、物品管理、施設設備管理、清掃、洗濯、滅菌業務等で多くの委託職員を抱えています。

(2) 年度報告

医療機器整備委員会で購入の承認を得て予算措置された磁気共鳴診断用装置（MRI）及び無影灯2種2台、そのほか修理不能や診断上必要な機器などで上部消化管汎用スコープや角膜内皮細胞撮影装置等をを始めとした臨時的購入3種3台、計5種5台の医療機器を購入しました。さらに、医療用備品についても、シリンジポンプ、輸液ポンプ、黄疸計などを始めとした27種58台を購入しました。

購入整備のほかにも、既存機器や備品類の点検や修繕手配、加えて薬品、診療材料、給食材料、印刷物、消耗品などの調達管理を行い、価格交渉などについての対応も行いました。

さらに、大規模な改良工事として、外来棟1階外待合室、総合カウンター周辺等の天吊りファンコイル更新工事や人工空気製造装置オーバーホールを行いました。

このほかにも、消防設備、医療ガス設備、電気設備等の点検や修繕、火災や地震、洪水時における避難訓練の計画、実施。本年度は、検診室の外来等2階から病棟8階への移転に伴う施設整備等、医療機器や施設設備だけでなく幅広い範囲で病院運営に貢献しました。

また、令和5年度もウクライナでの戦争と円安により、エネルギー費の高騰を懸念しましたが、当課が主体となって省エネに取り組み、エネルギーの使用量は令和4年度との比較で、ガス使用量で3.2%、電気使用量で2.6%削減いたしました。今後も、導入機器の選定や、空調の運用方法の見直しなどを継続的に行い、省エネに取り組んでまいります。

(3) 今後の目標

今後も病院維持のための建設改良工事計画、必要となる医療機器等購入計画など、継続となる事業や物品購入の調査・調整等、限られた予算をどう生かしていくか、状況の変化を察知し「最小の経費で最大の効果」を念頭に、患者さんには「安心、安全で最良の療養環境の提供」を、また、職員には「より働きやすく効率的な職場環境づくり」を考え、取り組んでまいります。

課長補佐 藺田 達也

25-4 医事課

(1) スタッフ

令和5年度の医事課スタッフは、課長、医事係9名（臨時事務6名含む）、診療情報管理係12名（臨時職員2名含む）、情報システム推進係2名、合計24名となりました。

また、総合受付、各科受付、外来算定、入院業務、電算オペレーター業務は業務委託、医師事務作業補助は一部派遣業務で運営しております。

(2) 年度報告

令和5年4月より内科外来において新患外来完全予約制を導入し、外来待ち時間の短縮及びより専門性の高い医療の提供に注力しました。

また、施設基準の届出を行うことで、DPC係数が向上しました。

(3) 今後の目標

- ① 施設基準取得のための運用及び環境整備
- ② DPCの調整係数改定の研究
- ③ 増収への取り組みとさらなる費用削減の取り組み
- ④ 医師の負担軽減対策として医師事務作業補助者の増員および業務内容の充実
- ⑤ 未収金の発生防止と回収強化

課長補佐 本田 英之

25-5 健診室

(1) スタッフ

室長（参与兼放射線科医長）、部長、看護師、主幹、係長、主査、健診係7名（うち臨時看護師2名、会任事務1名、派遣事務4名）で業務を行っています。

(2) 年度報告

一日（日帰り）ドック、健康診断等（企業健診、脳ドック、肺ドック等）多岐にわたる健診業務を行っています。各検査項目は専門の医師が判定を担当し、異常が認められた場合は、かかりつけ医もしくは当院で精密検査や治療を受けることができるよう運用しています。

ただし、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、一泊二日ドックは健診業務を休止し、肺機能検査も年度内中止となっています。

令和5年度の件数は、一日（日帰り）ドック3,001件、健康診断等4,340件で、前年度件数と比較して、健康診断等の件数は増加しています。令和2年度から経鼻内視鏡検査を実施しており、件数は702件で、前年度と比較すると増加しています。新規項目のアミノインデックスは27件、ロックインデックスは20件です。なお、平成22年度より乳がん啓発活動「ジャパン・マンモグラフィ・サンデー」事業に参加しており、今年度は14名が受検しています。

(3) 今後の目標

今後も、検査項目等につきましても様々なご意見を取り入れ、受検をしやすいように、多くの方にご利用していただけるよう取り組んでいきたいと思っております。

室長補佐 中嶋 亨

25-6 地域医療連携室

(1) スタッフ

室長（兼副院長兼脳神経外科部長）、主幹（兼副看護部長）、地域医療担当看護師 8 名（うち患者支援窓口担当 2 名）、地域連携係 6 名（うち臨床心理士 1 名、臨時職員 1 名）、医療相談係 3 名（うち社会福祉士 3 名）で業務を行っています。

(2) 年度報告

「地域医療支援病院」として、紹介率 65%及び逆紹介率 45%以上の維持確保と地域の医療機関との連携強化を図っています。また、オンライン検査予約システム「桐生おりひめネット」も活用され、院外からの共同利用による放射線検査は、令和 5 年度 計 834 件（CT 366 件、MRI 433 件、RI 34 件、骨塩定量 1 件）と多くの地域の諸先生方にご利用いただいています。地域医療連携室だより『きずな』は、診療の特集を始め各部門のエキスパートを紹介するなど病院内の情報を掲載、定期刊行に加えトピックス臨時号も刊行し、地域の医療機関に配付しています。また、地域の医療従事者向けの研修は新型コロナ感染症が 5 類へ移行したため、感染対策を徹底しながら、集合研修での開催を再開しました。地域医療勉強会も対面形式で 4 回開催し、好評をいただきました。

「地域がん診療連携拠点病院」としては、緩和ケア認定看護師と公認心理士を専従配置し、内容によってはがん専門看護師にも協力していただき、相談機能の強化を図りました。また、感染対策に配慮しながら緩和ケア研修会を開催し、院内外から 15 名の医師・看護師に参加していただきました。

入退院支援においては、予定・緊急入院患者さんの入院支援および病棟担当者への情報提供、早期から介入可能な退院支援体制を整えています。桐生市医師会と共同で作成した「桐生地域退院調整ルール」に則り、地域との連携のもと在宅療養支援につないでいます。

さらに、桐生市・みどり市の要保護児童対策協議会には、オブザーバーとして小児科医師とともに MSW が毎月参加しています。また、ハイリスク妊婦へ積極的に介入し、児童相談所や自治体保健師との連携をより強固なものとして、継続して地域の児童虐待対策に取り組んでいます。

令和 5 年度は学校におけるがん教育の外部講師の依頼を受け、緩和ケア委員会委員長の森下乳腺外科部長と緩和ケア認定看護師の五十嵐看護師が黒保根学園で講演してきました。

また、がん地域連携パスについては、胃がん 2 例、大腸がん 4 例、乳がん 12 例、前立腺がん 2 例を運用し、順調に件数を増やしています。

(3) 今後の目標

- ① 地域医療支援病院指定要件の維持
- ② 地域がん診療連携拠点病院指定要件の維持
- ③ 紹介元への速やかなご報告およびお返事の徹底
- ④ 集患へ向けての地域との連携と広報活動
- ⑤ 地域包括ケアシステムの推進における病病・病診・看看連携の強化
- ⑥ 専門知識（看護師、MSW 等）を有する職員の育成

主幹 上原 美奈子

25-7 医師確保対策推進担当

(1) スタッフ

2名

(2) 年度報告

医師の確保に向けた取り組みとして、新型コロナウイルス感染症の5類以降に伴い、院長、事務長、総務課長を中心として群馬大学教授への訪問活動を本格的に再開しました。各科の教授と直接面談を行い、特に重点目標となる診療科には複数回の訪問を行うなどして、医師確保に向けて積極的に働きかけを行いました。教授訪問後に各診療科部長と院長面談を実施し、情報共有を図りました。

また、定年退職を迎えた医師に対して勤務延長の働きかけを行い、2名の医師から勤務延長の承諾を得たことにより、令和4年度よりも常勤医師1名の増員に至りました。

(3) 今後の目標

医師確保については引き続き病院の最優先事項と捉え、構成市とも連携して関係大学等に対する要望活動を継続して行います。また、定年年齢に達した医師に対する勤務延長の働きかけや、民間医局を利用可能な診療科に対する紹介会社の利用等の医師確保を推進するとともに、医師の働き方改革に則り医師の勤務環境を改善や、各種手当の整備を行う等して、職場の魅力を高めていきたいと考えています。

医師確保対策推進担当（副） 剣物 裕司

XV 病院施設及び医療機器

1 建設改良工事等

(1) 外来棟 1 階天吊りファンコイル更新工事

外来棟 1 階外待合室、総合カウンター周辺、薬剤部、医事課設置の老朽化した天吊りファンコイル及びドレン管更新工事を行いました。（更新機器は省エネ仕様を選定）

(2) 人工空気製造装置オーバーホール

不純物のない清浄度の高いきれいな空気を製造・供給する装置で耐用年数は 20 年となります。今後も医療用として継続的に使用するため、設置から 20 年経過したことにより大規模なオーバーホールを行いました。

(3) 病棟地下 1 階ランドリー室業務用洗濯機更新工事（2 台）

病棟地下 1 階ランドリー室の業務用洗濯機が老朽化により性能低下となり、頻繁に故障が発生していました。衛生環境を維持するために更新工事を行いました。

2 病院施設設備の概要

設備名	設置機械	数量	規格及び内容
空調設備	ボイラー	4	ガス貫流式ボイラー 三浦工業(株) SQ-2000AS 定格出力 2,000kg/H、最高使用圧力0.98Mpa ガス消費量 113.4m ³ N/H
		1	ガス貫流式ボイラー 三浦工業(株) SQ-1200ZS 定格出力 1,200kg/H、最高使用圧力0.98Mpa ガス消費量 69.4m ³ N/H
	冷凍機	1	蒸気吸収式冷凍機 QAW-HS100FS 蒸気圧0.78Mpa、冷凍能力 100Rt
		2	蒸気吸収式冷凍機 TSA-DW-HS400FS 蒸気圧0.78Mpa、冷凍能力 400Rt
		1	ターボ冷凍機 三菱重工(株) ETI-20 冷凍能力 703.3kW / 200USRT 冷水流量 120.7m ³ /h 冷却水流量 141.9m ³ /h 電源 3相 400V 50Hz 電源容量 117kW
	冷水一次ポンプ	4	片吸込渦巻型 80×65φ×1,010ℓ/min×14mAq 1台 150×150φ×4,040ℓ/min×14mAq 2台 150×100φ×2,012ℓ/min×14mAq 1台
	冷却塔	4	超低騒音型 角型 冷却能力 200Rt (SDC-U200ASSD) 1台 400Rt (SDW-U405ASSD) 2台 100Rt (SDW-U100ASSD) 1台
	冷却水ポンプ	6	片吸込渦巻型 冷却水ポンプ 100×80φ×1,670ℓ/min×12mAq 1台 125×100φ×1,300ℓ/min×45mAq 2台 200×150φ×6,670ℓ/min×24mAq 2台 150×100φ×2,358ℓ/min×20mAq 1台
	冷水二次ポンプ	2	片吸込渦巻型 150×150φ×2,000ℓ/min×30mAq 1台 " (INV) 150×100φ×2,000ℓ/min×31mAq 1台
	熱交換器	3	蒸気温水交換熱量 1,320,000kcal/H シェルアンドチューブ式
	温水一次ポンプ	3	片吸込渦巻型 200×200φ×4,450ℓ/min×10mAq 3台
	温水二次ポンプ	2	片吸込渦巻型 150×100φ×1,500ℓ/min×30mAq 1台 " (INV) 150×100φ×1,500ℓ/min×32mAq 1台
	冷温水ポンプ	3	片吸込渦巻型 150×100φ×3,200ℓ/min×30mAq 2台 " (INV) 150×100φ×3,200ℓ/min×32mAq 1台

設備名	設 置 機 械	数量	規 格 及 び 内 容
空調設備	真空給水ポンプ	2	複式型、相当放熱面積500cm ²
	薬注装置	13	清缶剤用6台、脱酸剤用3台、防錆剤用4台
	空調機	70	冷水コイル、温水コイル、冷温水コイル、加湿器組込 39台、パッケージ型空調機 31台
	フィルタユニット	5	RI密閉型サイトアクセスユニット他
	全熱交換器	12	380A 2台、150A 1台、100A 6台、65A 2台、30A 1台
	ファンコイルユニット	750	冷温水コイル、個別制御方式
	クリーンフローユニット	69	天井カセットコイル組込型 HEPAフィルター使用 冷暖房能力、風量調節スイッチ
	ターミナルコイル	18	ダクト型冷温水コイル 3台、温水コイル 15台
	定風量装置	22	電気式 給気 11台、排気 11台
	給気、排気ファン	179	シロッコファン 他 給気ファン 35台、排気ファン 139台 (ブースターファン 2台) 排煙ファン (片吸込リミットロータファン型) 5台
電気設備	電力引込設備	2	本線 (清瀬線)、予備線 (三原線) 2回線受電 6.6kV 引込開閉器盤 (2面)
	受変電設備	1	主変電室、第二変電室、X線変電室、外来変電室 主遮断機 2-PC方式 受変電設備容量 6,000kVA、契約電力 1,360kW
	非常用 自家発電設備	1	ディーゼル16気筒、1,500rpm、 6.6kV50Hz、3φ3W、1,500kVA (1,200kW) 自動起動確立 40秒
	無停電電源装置	1	CVCF装置 150kVA、100V、対処時間5分 蓄電池 MSE-800、UP400-12R
	電話配管設備	1	端子盤 (MDF含) 46面、回線口 478口
	院内PHS設備	1	PHS 319台
	放送設備	3	一般及び非常用放送アンテナ 1,200W 各所ローカルアンテナ装置、非常時25回線一斉
	ナースコール設備	1	ナースコール制御機10台、ナースコールホート型親機Z型60局5台、 80局5台、ナースコール子機535台、メディカルアンテナ 55台
衛生設備	給水設備	10	上水受水槽 180m ³ 1基
			中間水槽 (除鉄除マンガン処理後) 21m ³ 1基
			処理水槽 (井水処理装置設備) 2m ³ 1基
			MF膜ろ過装置 (井水処理装置設備) 1基
			雑用水槽及び消防用水槽 370m ³ 1基
			上水高架水槽 36m ³ 1基
			雑用水高架水槽 27m ³ 1基
			感染症系統上水高架水槽 1.1m ³ 1基
			感染症系統雑用水高架水槽 0.65m ³ 1基
			消防用補給高架水槽 0.5m ³ 1基
	給湯設備	3	ストレージタンク (鋼板製内面プレート) 5,000ℓ 3基

設備名	設 置 機 械	数量	規 格 及 び 内 容
衛生設備	排水設備	1	(屋内)汚水雑排水分流式 (屋外)汚水雑排水雨水一管式 汚水集中ポンプ 10台、湧水ポンプ 12台、 雑排水ポンプ 20台、雨水ポンプ 4台 ※(排水処理施設)接触酸化方式 RI排水処理施設24.6m ³ /d 処理水量 厨房、化学排水処理施設56m ³ /d 処理水量 感染排水処理施設30m ³ /d 処理水量(散水3方式)
	都市ガス	1	中圧ガス 100φ(ボイラー用) 低圧ガス 100φ(厨房、検査用)
	中央集じん設備	1	乾式濾布方式集じん機、吸引弁 288個
	医療ガス設備	1	液体酸素タンク 1,690m ³ 1基、警報機 14基、 シャットオフバルブ 43個、アウトレット(ヘットユニット含む) (壁付、天吊、リール式、シーリングモジュール) 1,204個
	人工空気	1	人工空気タンク 4m ³ 1基
	吸引機	3	吸引装置 2台、歯科用吸引装置 1台
消防用設備	自動火災 報知設備	1	R型受信機(R-24C)予備電源内蔵 550回線、表示機30回線13台、発信機P型一級 熱感知器、差動式 273個、定温式 267個 煙感知器、光電式 928個
	院内非常電話設備	1	電話機 59台(地下火災通報装置防災センター直通)
	屋内、屋外 消火栓設備	1	屋内消火栓 43台、屋外消火栓 5台 900ℓ/min×78m×18.5kW(屋内ポンプ 1台) 750ℓ/min×53m× 11kW(屋外ポンプ 1台)
	スプリンクラー設備	1	ヘッド数 3,265個、流水作動弁 12個、ポンプ 1台 900ℓ/min×99m×30kW、ヘッド溶解72°
	ハロゲン化物消火 設備	1	ハロゲンガス 1301 容器 19本、FK-5-1-12 容器 1本、 噴射ヘッド数 18個、スプレーカー 12個
	防火、防排煙 設備	1	連動制御器 1台 自動開閉装置 245個(ダンパー、排煙口含む) 自動起動装置 119個(煙感知器、熱感知器) 音響装置(電子ブザー) 23個
	簡易粉末消火設備	1	厨房ダクト外消火用 簡易自動消火装置 12台

設備名	設置機械	数量	規格及び内容
昇降機設備	エレベーター	8	乗用 750kg 11名 90m/min 9stop 1台 450kg 6名 60m/min 9stop 1台 寝台用 1,000kg 15名 60m/min 9stop 2台 1,000kg 15名 45m/min 4stop 1台 荷物用 1,000kg 60m/min 9stop 1台 非常用 1,150kg 17名 90m/min 10stop 1台 " 2,000kg 30名 90m/min 10stop 1台 自家発電連動、火災地震停電時自動着床、 遠隔監視(東京)
	タムエーター	3	30kg 30m/min 2stop 2台、7stop 1台
中央監視 設備	中央監視装置	1	Savic-net FX 監視用PC、23.8インチディスプレイ、カラーレーザープリンター、 グラフィックパネル、システム制御盤

3 主な医療機器購入一覧

申請部署	設置場所	医療機器名（規格）	製造会社名等	数量
外科	内視鏡室	上部消化管汎用スコープ	オリンパス	1
眼科	外来	角膜内皮細胞撮影装置	コーナンメ ディカル	1
放射線科	MRI室2	磁気共鳴診断用装置	シーメンスヘル スケア	1
臨床検査科	病理検査室	大型滑走式マイクロトーム	大和光機工業	1
手術室	手術室	LED手術照明灯	山田医療照明	1

XVI 図書

1 受入図書

(1) 図書

	図 書 名
1	標準薬理学 第8版 【Standard textbook】 /医学書院
2	標準精神医学 第8版 【Standard textbook】 /医学書院
3	標準泌尿器科学 第10版 【Standard textbook】 /医学書院
4	標準産婦人科学 第5版 【Standard textbook】 /医学書院
5	標準微生物学 第14版 【Standard textbook】 /医学書院
6	がん薬物療法に伴う血管外漏出に関する合同ガイドライン 2023年版 /金原出版
7	注射薬調剤監査マニュアル 2023 /エルゼビア・ジャパン
8	前眼部アトラス 【眼疾患アトラスシリーズ】 /総合医学社
9	眼と全身病アトラス 【眼疾患アトラスシリーズ】 /総合医学社
10	ダヴィンチ導入 完全マニュアル /メジカルビュー社
11	Rad Fan 2023年5月号 (vol. 21 No. 5) /メディカルアイ
12	感染症プラチナマニュアル Ver. 8 2023-2024 Grande /メディカルサイエンスインターナショナル
13	歯科における薬の使い方 2023-2024 /デンタルダイヤモンド社
14	良性発作性頭位めまい症(BPPV)診療ガイドライン 2023年版 /金原出版
15	顔面神経麻痺診療ガイドライン 医師版 2022年版 /金原出版
16	大腸癌治療ガイドライン 2023年版 /金原出版
17	患者・市民のための膀胱がん診療ガイド 2023年版 /金原出版
18	がん薬物療法のレジメン56+経口抗がん薬14 /メディカ出版
19	がん薬物療法に伴う末梢神経障害診療ガイドライン 2023年版 /金原出版
20	患者さんのためのがんのリハビリテーション診療Q&A /金原出版
21	輸血・移植検査技術教本 第2版 【JAMT技術教本シリーズ】 /丸善出版
22	循環機能検査技術教本 【JAMT技術教本シリーズ】 /丸善出版
23	「型」が身につく蛋白尿・血尿の診かた・考え方【電子版付】 /日本医事新報社
24	癌取り扱い規約：抜粋 消化器癌・乳癌 14版 /金原出版
25	子宮体がん治療ガイドライン 2023年版 /金原出版
26	悪性軟部腫瘍取り扱い規約 第4版 /金原出版
27	造血器腫瘍診療ガイドライン 2023年版 /金原出版
28	がん患者の治療抵抗性の苦痛と鎮静に関する基本的な考え方の手引き 2023年版 /金原出版
29	進行性疾患患者の呼吸困難の緩和に関する診療ガイドライン 2023年版 /金原出版
30	患者さんのご家族のための子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん治療ガイドライン 第3版 /金原出版
31	膀胱癌取り扱い規約 第8版 /金原出版
32	訪問看護業務の手引 令和4年4月版 /社会保険研究所
33	外来で始める在宅療養支援 /日本看護協会出版会
34	NEW実践!看護診断を導く情報収集・アセスメント 第7版 /学研メディカル秀潤社
35	スタンダード検査血液学 第4版 /医歯薬出版

	図 書 名
36	臨床脳波検査スキルアップ 第2版 /金原出版
37	超音波・細胞・組織からみた甲状腺疾患診断アトラス /医学書院
38	細胞診鑑別アトラス /医歯薬出版
39	今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針 第4版 /医学書院
40	神経病理インデックス 第2版 /医学書院
41	がん免疫療法ガイドライン 第3版 /金原出版
42	薬疹情報 第20版 1980-2022 /医療法人FDC
43	新PCI・カテーテル室のピンチからの脱出法 /南江堂
44	POPAI直伝!FFR使いこなしハンドブック /南江堂
45	3DワイヤリングPCI /南江堂
46	小児IgA血管炎診療ガイドライン 2023 /診断と治療社
47	小児急性脳症診療ガイドライン 2023 /診断と治療社
48	小児てんかん重積状態・けいれん重責状態治療ガイドライン 2023 /診断と治療社
49	小児内分泌学 改訂第3版 /診断と治療社
50	小児呼吸器感染症診療ガイドライン 2022 /協和企画
51	レジデントのための小児感染症診療マニュアル /医学書院
52	安心・安全な子どもの鎮静・鎮痛 /中外医学社
53	新分類・新薬でわかる小児けいれん・てんかん診療 /中山書店
54	国民衛生の動向 2023/2024 【厚生 の 指 針 増 刊】 /厚生労働統計協会
55	筋萎縮性側索硬化症(ALS)診療ガイドライン 2023 /南江堂
56	Annual Review神経 2023 /中外医学社
57	BRAIN and NERVE 2023年5月増大号 (Vol. 75 No. 5) /医学書院
58	よくわかる脳MRI 改訂第4版 【Key bookシリーズ】 /学研メディカル秀潤社
59	脊椎固定術の基本手技 【新 OS NEXUSシリーズ】 /メジカルビュー社
60	骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015年版 /ライフサイエンス出版
61	血液透析トラブルシューティングA to Z /文光堂
62	臨床検査データブック : コンパクト版 第11版 /医学書院
63	現場ですぐ引ける医学・看護略語辞典 【ナースのミカタ!シリーズ】 /ナツメ社
64	産婦人科診療ガイドライン 産科編 2023 /日本産婦人科学会事務局
65	産婦人科診療ガイドライン 婦人科外来編 2023 /日本産婦人科学会事務局
66	伊勢崎・桐生・みどりの昭和 【写真アルバムシリーズ】 /いき出版
67	治せる?治せない?摂食嚥下障害への視点と対応 /医歯薬出版
68	関節可動域 /運動と医学の出版社
69	足部・足関節 【理学療法マネジメントシリーズ】 /メジカルビュー社
70	竜馬先生の血液ガス白熱講義150分 /中外医学社
71	薬局ですぐに役立つ薬の比較と使い分け100 /羊土社
72	極論で語る循環器内科 第3版 /丸善出版
73	検査値を読むトレーニング /医学書院
74	帰ってきた竜馬先生の血液ガス白熱講義22問 /中外医学社
75	帰してはいけない外来患者 第2版 /医学書院
76	市中感染症診療の考え方と進め方 第2版 /医学書院
77	外傷初期診療ガイドライン 改訂第6版 /へるす出版

	図 書 名
78	骨転移診療ガイドライン 改訂第2版 /南江堂
79	一時的創外固定マニュアル /メジカルビュー社
80	白熱講義 骨折合併症 /メジカルビュー社
81	新・胃X線撮影法ガイドライン 改訂版（2011年） /医学書院
82	はじめて学ぶ歯科衛生士のための咽頭喀痰吸引「マニュアル」 /医歯薬出版
83	歯科衛生士のための看護学大意 第4版 /医歯薬出版
84	有病者歯科学 第2版 /医歯薬出版
85	神戸市立医療センター中央市民病院新型コロナウイルス感染症対策マニュアル /メディカ出版
86	薬の使い分けがわかる！ ナースのメモ帳 /メディカ出版
87	イラストで学ぶ新生児の生理と代表的疾患 改訂2版 /メディカ出版
88	看護師・臨床工学技士のための透析シャントエコー入門 /メディカ出版
89	小児在宅人工呼吸療法マニュアル 第2版 /メディカ出版
90	床ずれ予防プログラム /春恒社
91	周術期の薬学管理 改訂2版 /南山堂
92	月刊薬事 2021年2月臨時増刊号(Vol. 63 No. 3) /じほう
93	シンプルでわかりやすい薬歴・指導記録の書き方 改訂2版 /南山堂
94	フリー統計ソフトEZ(R)(Eazy R)でカンタン統計解析 /オーム社
95	運動器・整形外科 vol.11 第1版 【病気がみえるシリーズ】 /Medic Media
96	皮膚科 vol.14 第1版 【病気がみえるシリーズ】 /Medic Media
97	小児科 vol.15 第1版 【病気がみえるシリーズ】 /Medic Media
98	向精神薬と妊娠・授乳 改訂3版 /南山堂
99	非がん患者の緩和ケア 第2版 /じほう
100	麻薬・向精神薬・覚醒剤管理ハンドブック 第11版 /じほう
101	腎盂・尿管癌診療ガイドライン 2023年版 /医学図書出版
102	がん専門・認定薬剤師のためのがん必須ポイント 第5版 /じほう
103	日本病理剖検輯報 第64輯 /日本病理学会
104	がん・放射線療法 改訂第8版 /Gakken
105	膀胱癌診療ガイドライン 2019年版増補版 /医学図書出版
106	卵巣腫瘍・卵管癌・腹膜癌取扱い規約 臨床編 第1版補訂版 /金原出版
107	脳卒中治療ガイドライン 2021 改訂2023 /協和企画
108	新吐薬適正使用ガイドライン 第3版 /金原出版
109	甲状腺癌取扱い規約 第9版 /金原出版
110	臨床・病理脳腫瘍取扱い規約 第5版 /金原出版
111	超絶!むくみ診療 /克誠堂出版
112	病気がみえる vol.5 血液 第3版 /メディックメディア
113	よくわかるがん免疫療法ガイドブック：患者さんとご家族のために 第2版 /金原出版
114	患者さんと家族のための肺がんガイドブック：悪性胸膜中皮腫・胸腺腫瘍含む 2023年版 /金原出版
115	前立腺癌診療ガイドライン 2023年版 /メディカルレビュー社
116	口腔癌診療ガイドライン 2023年版 /金原出版
117	がん患者の妊孕性温存のための診療マニュアル：生殖医療スタッフ必須！ /金原出版

	図 書 名
118	小児，思春期・若年がん患者の妊孕性温存に関する診療ガイドライン 2017年版 /金原出版
119	外傷初期看護ガイドライン：JNTEC 第4版 /へるす出版
120	外傷初期看護ガイドライン：JNTEC 改訂第6版 /へるす出版
121	救急蘇生法の指針：医療従事者用 改訂6版 2020 /へるす出版
122	臨床中毒学 第2版 /医学書院
123	病院機能評価機構種別版評価項目解説集：一般病院2 /日本医療機能評価機構
124	今日の治療薬：解説と便覧 2024 /南江堂
125	静がんメソッド 肺癌編 第3版 /日本医事新報社
126	看護に活かす 基準・指針・ガイドライン集 2023 /日本看護協会出版社
127	症例から考える代表的な8疾病 解答・解説付 2024-2025 /じほう
128	薬学生のための病院・薬局実務実習テキスト 2024年版 /じほう
129	小児チック症診療ガイドライン 2023 /ライフサイエンス出版
130	小児痙縮・ジストニア診療ガイドライン 2023 /診療と治療社
131	小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2023 /協和企画
132	脳神経内科疾患の嚥下障害・栄養ケアハンドブック /医歯薬出版
133	血尿診断ガイドライン 2023 /ライフサイエンス出版
134	尿路結石症診療ガイドライン 2023年版 /医学図書出版
135	エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン 2023 /東京医学社
136	医療被ばく低減への取り組み /医療科学社
137	X線CT撮像ガイドライン 改訂3版 /オーム社
138	外傷専門診療ガイドラインJETEC 改訂第3版 /へるす出版
139	わかりやすい医中誌Web検索ガイド 第2版 /日本医学図書館協会
140	図解PubMedの使い方 第8版 /日本医学図書館協会
141	当直医マニュアル 2024 第27版 /医歯薬出版
142	精巣癌診療ガイドライン 2024年版 /金原出版
143	変形性膝関節症診療ガイドライン 2023 /南江堂
144	グルココルチコイド誘発性骨粗鬆症の管理と治療のガイドライン 2023 /南山堂
145	臨床麻酔科学書 /中山書店
146	臨床麻酔管理学書 /中山書店
147	神経内科疾患の画像診断 第2版 /学研メディカル秀潤社
148	脳神経画像解剖ナビゲーション /Gakken
149	泌尿器科領域における周術期感染予防ガイドライン 2023 /医学図書出版
150	前庭リハビリテーションガイドライン 2024年版 /金原出版
151	放射線安全管理の実際 5版 /丸善出版
152	内視鏡診断のプロセスと疾患別内視鏡像 上部消化管 改訂第4版 /日本メディカルセンター
153	内視鏡診断のプロセスと疾患別内視鏡像 下部消化管 改訂第4版 /日本メディカルセンター
154	JAID/JSC感染症治療ガイド 2023 /日本感染症学会

2 受入雑誌

(1) 和雑誌

	科	タイトル	配架
1	内科	臨床雑誌 内科	図書室
2		胃と腸	
3		胆と膵	
4	精神科	臨床心理学	図書室
5		こころの科学	
6	神経内科	脳神経内科	図書室
7	循環器内科	Heart View	図書室
8	小児科	小児科	図書室
9		小児内科	
10		小児科診療	
11	外科	臨床雑誌 外科	図書室
12		臨床外科	
13		手術	
14		消化器外科	
15	整形外科	臨床雑誌 整形外科	図書室
16		臨床整形外科	
17		整形・災害外科	
18		日本整形外科学会誌	
19	脳神経外科	Neurological Surgery 脳神経外科	脳神経外科
20		脳神経外科速報	
21	皮膚科	臨床皮膚科	皮膚科
22		皮膚科の臨床	
23		皮膚病診療	
24	泌尿器科	臨床泌尿器科	図書室
25		泌尿器外科	
26		腎と透析	
27	産婦人科	産婦人科の実際	産婦人科
28		周産期医学	
29		産科と婦人科	
30	眼科	臨床眼科	図書室
31		眼科ケア	
32		あたらしい眼科	
33		眼科手術	眼科
34	耳鼻いんこう科	JOHNS	耳鼻いんこう科
35	麻酔科	臨床麻酔	麻酔科
36		ペインクリニック	
37		LISA	
38		INTENSIVIST	
39		救急・集中治療	

	科	タイトル	配架
40	放射線科	臨床放射線	放射線科
41		画像診断	
42	病理診断科	病理と臨床	病理診断科
43	歯科・歯科 口腔外科	歯界展望	図書室
44		デンタルハイジーン	
45	臨床研修医	レジデントノート	研修医室
46	薬剤部	月刊薬事	薬剤部
47		調剤と情報	
48		薬局	
49		レシピプラス	
50	リハビリ テーション技術科	総合リハビリテーション	リハビリ テーション技術科
51		理学療法ジャーナル	
52		理学療法	
53		作業療法ジャーナル	
54		Clinical Rehabilitation	
55	放射線技術科	INNERVISION	放射線技術科
56	中央 検査科	臨床検査	中央 検査科
57		検査と技術	
58		Medical Technology	
59		日本臨床検査医学会誌	
60		臨床と微生物	
61	栄養管理科	臨床栄養	栄養管理科
62		Nutrition Care	
63	臨床工学科	Clinical Engineering	臨床工学科
64		みんなの呼吸器Respica	
65		ハートナーシング	
66	看護部	看護	図書室
67		看護展望	
68		看護管理	
69		看護部長通信	看護部長室
70		月刊ナースマネジャー	
71		看護人材育成	
72		継続看護を担う外来看護	外来
73		エキスパートナース	救急外来
74		オペナーシング	手術室
75		透析ケア	腎センター
76		重症集中ケア	I C U
77		赤ちゃんを守る医療者の専門誌 with NEO	N I C U
78		小児看護	G C U
79		ナーシング	3F
80		地域連携 入退院と在宅支援	4 東
81		助産雑誌	4 西

	科	タイトル	配架
82	看護部	消化器ナーシング	5 西
83		ブレインナーシング	6 東
84		リハビリナース	6 西
85		みんなの呼吸器Respica	7 東
86		ハートナーシング	7 西
87	医療安全対策室	病院安全教育	医療安全対策室
88	感染対策室	INFECTION CONTROL	図書室
89		感染対策ICTジャーナル	
90	図書室	病院	
91		医学のあゆみ	
92		日本医事新報	
93		癌と化学療法	
94		全国自治体病院協議会雑誌	
95		日本病院会雑誌	
96		臨床リウマチ	

(2) タブロイド誌

	科	タイトル	配架先
1	中央検査科	MTJ (メディカルテストジャーナル)	中央検査科

(3) 洋雑誌

	科	タイトル	購買形態
1	内科	Hepatology	0J
2		Liver Transplantation	0J
3		Gastroenterology	冊子
4		GIE (Gastrointestinal Endoscopy)	冊子
5	脳神経内科	Annals of NEUROLOGY	冊子・0J
6	小児科	The Journal of Pediatrics	冊子
7		Pediatrics	0J
8	整形外科	Bone & Joint Journal	冊子
9		JBJS (The Journal of Bone and Joint Surgery. American Vol.)	冊子
10		The Journal of Orthopaedic Science	冊子
11	脳神経外科	Journal of Neurosurgery/J. Neurosurgery:Spine	冊子
12		Neurosurgery	0J
13	産婦人科	Obstetrics and Gynecology	冊子
14	図書室	JAMA (The Journal of the American Medical Association)	冊子
15		New England Journal of Medicine	冊子
16		The Lancet	冊子

XVII 病 院 行 事

1 主な行事

実施年月日	行 事 名
R5 4. 3	新規採用職員辞令交付・昇格辞令等交付
7. 22	第27回市民公開講演「婦人科がんー予防から診療の現状ー」
26	献血
28	第 192 回桐生地域医療企業団議会（臨時会）
8. 3	令和5年度病院事業 第4四半期及び決算監査
9. 8	防災避難訓練及び防火訓練
8	地域医療体験セミナー
10. 20	第 193 回桐生地域医療企業団議会（定例会）
11. 10	登録医大会
16	令和5年度病院事業上半期（第1、第2四半期会計監査）
12. 2	災害訓練
R6 2. 5	洪水時等の避難訓練
2. 9	永年勤続職員表彰式
9	開院記念祝賀会
22	第 194 回桐生地域医療企業団議会（定例会）
3. 9	第28回市民公開講演「がん治療の最前線」
15	防火訓練（夜間想定避難訓練）
25	献血
26	令和5年度病院事業 第3四半期会計監査
28	医学部医学科をめざす高校生の職場体験セミナー
29	定年退職者感謝状贈呈式・定年退職者辞令交付
毎月1回（月末）	院内報告会

2 職員健康管理

実施年月日	行 事 名
R5 6. 9～15	職員定期健康診断（胸部X線撮影、血液・尿検査等）
8. 24～28	HBワクチン接種（第1回）
9. 21～25	HBワクチン接種（第2回）
9. 21～27	HBワクチン接種者抗体検査（1回接種者）
10. 23～27	インフルエンザ予防接種
11. 20	歯周病疾患検診
12. 1～7	職員定期健康診断（深夜業務従事者、放射線業務従事者）
19	がん予防検診（胃がん・大腸がん）
R6 1. 29	がん予防検診（乳がん・子宮がん）
2. 13～15	HBワクチン接種（第3回）
3. 12～18	HBワクチン接種者抗体検査（3回接種者）
毎月1回	栄養管理科職員検便

3 職員共済会

(1) 目 的

地方公務員の規定に基づき、職員の福利厚生制度の適切な運営を図り、能率増進に資することを目的とします。

(2) 事 業

1. 共済給付事業

- (1) 傷病見舞金 (2) 死亡弔慰金 (3) 出産見舞金 (4) 災害見舞金
(5) 結婚祝金 (6) 退会給付金 (7) 勤続祝金 (8) 成人祝金

2. 福利厚生事業

- (1) 福利厚生事業

(3) 専門部

1. 総務部
2. 厚生部
3. 体育部
4. 文化部

(4) 実施行事

専門部名	行事名	実施日
総務部	○開院記念祝賀会	R6. 2. 9
厚生部	○職員旅行（日帰り）	中止
体育部	○ソフトバレーボール大会	中止
	○ボウリング大会	中止
文化部	○クリスマスリース作成	中止
	○日帰り旅行	中止

XVIII 付 属 施 設 等

1 群馬県立赤城特別支援学校桐生厚生総合病院内教室

(1) 概要

当院の桐生厚生総合病院内教室は、群馬県立赤城特別支援学校の院内教室で、入院治療を要する児童生徒のために、継続して教育が受けられることを目的として設置されました。

設置に至る経緯は、昭和 48 年に入院治療中の一教師の献身さと、小児患者の保護者の熱意と病院の理解と協力により、開設されました。

(2) 沿革

昭和 49 年	3 月	桐生厚生総合病院敷地内の旧看護婦宿舍西側 1 階の 7 部屋及び洗面所等(延面積 175.5 m ²)を病弱学級として改装し提供
昭和 49 年	4 月 9 日	桐生市立昭和小学校病弱学級を開級(許可学級 1、教諭 2)
昭和 50 年	4 月 1 日	桐生市立昭和小学校(病弱学級)となる。(許可学級 2)
昭和 52 年	7 月 9 日	分校の後援会「みずはなびの会」が発足
昭和 53 年	3 月 27 日	分校初の卒業式(2 名)
昭和 54 年	3 月 3 日	中学部設置準備のため小学部の 2 階 7 部屋等(延面積 175.5 m ²)を改装し提供
昭和 54 年	3 月 31 日	昭和小学校分校が県移管のため廃校
昭和 54 年	4 月 1 日	群馬県立東毛養護学校桐生厚生総合病院分教室小・中学校設置(延面積 351 m ² 、認可学級 4、教諭 4)
昭和 55 年	4 月 1 日	群馬県立東毛養護学校桐生分校に昇格(認可学級 5、教頭・教諭 5)
昭和 55 年	7 月 18 日	音楽室の使用(1 階 1 部屋延面積 17.6 m ²)を開始する。
昭和 61 年	4 月 8 日	入学式・始業式(認可学級 6、教頭・教諭 8)
昭和 61 年	8 月 28 日	桐生厚生総合病院増改築工事に伴う新校舎竣工(平屋 1 棟面積 582.71 m ²)
昭和 61 年	9 月 1 日	第 2 学期から新校舎で授業(使用)開始
平成 元年	4 月 1 日	認可学級 6(小学部 3、中学部 3)教頭・教諭 9 人となる。
平成 9 年	4 月 1 日	東毛養護学校及び西毛養護学校の統合により群馬県立赤城養護学校に校名変更となる。
平成 17 年	4 月 1 日	認可学級 5(小学部 3、中学部 2)教頭・教諭 8 人となる。
平成 21 年	4 月 1 日	認可学級 5(小学部 3、中学部 2)教頭・教諭 7 人となる。
平成 27 年	4 月 1 日	群馬県立学校設置条例改正により、群馬県立赤城特別支援学校に校名変更し許可学級 5(小学部 3、中学部 2)教諭 5 人となる。

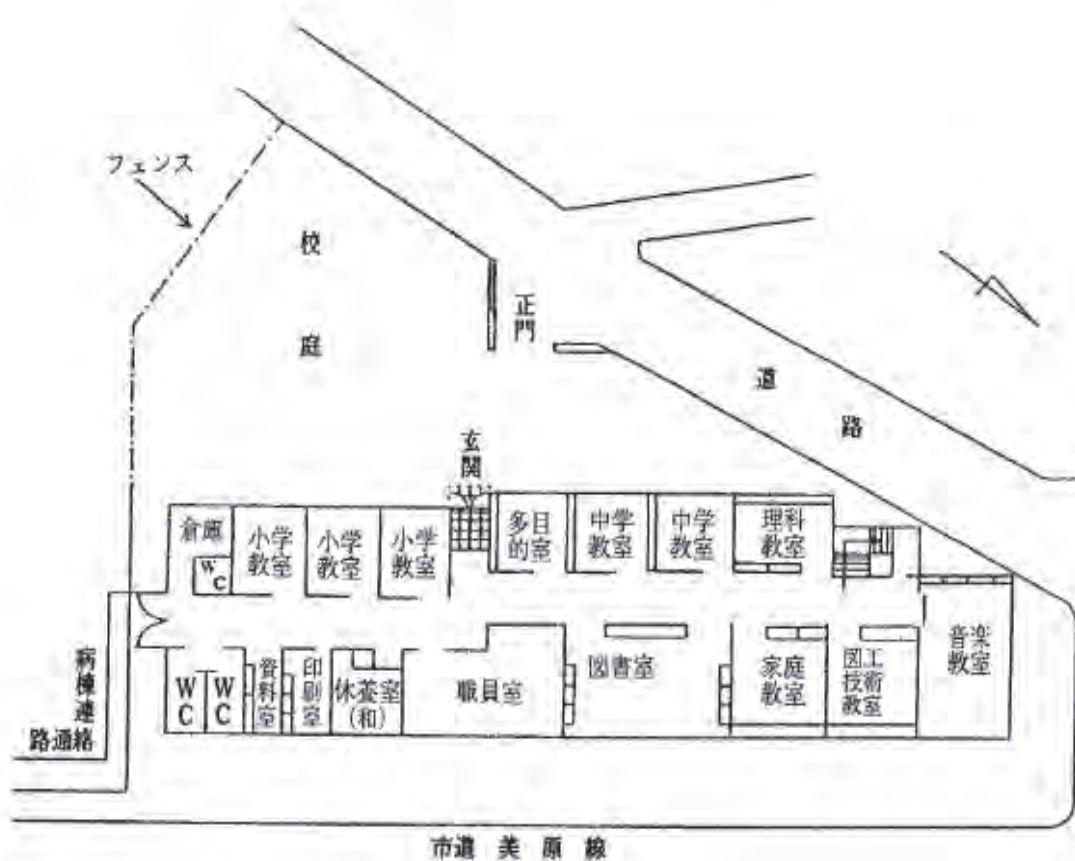
(3) 児童生徒数

年度 内訳	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小学部	4 人	0 人	3 人	4 人	3 人
中学部	1 人	3 人	7 人	1 人	1 人
児童生徒数	5 人	3 人	10 人	5 人	4 人
延在学者数	5 人	3 人	11 人	5 人	4 人

(4) 連絡会議

桐生厚生総合病院内教室の円滑的運営に資するため、学校病院連絡会議を毎月(年 11 回)開催して相互理解を深め、児童・生徒の学校及び病院での生活、病状などの諸事項にわたり連携して指導、育成につとめています。

群馬県立赤城特別支援学校 桐生厚生総合病院内教室



XIX 編集委員・部員名簿

【編集委員】

役 職 名	職 名	氏 名
委 員 長	院 長	加 藤 広 行
委 員	副 院 長	曲 澤 聡
〃	内 科 部 長	菅 間 一 乃
〃	整 形 外 科 部 長	斯 波 俊 祐
〃	リハビレリテーション技術科 長	勝 山 典 年
〃	放 射 線 技 術 科 長	見 留 豊 久
〃	中 央 検 査 科 長	梶 田 幸 夫
〃	栄 養 管 理 科 長	小 林 誠
〃	臨 床 工 学 科 係 長	三 木 康 正
〃	薬 剤 部 長	阿 部 正 樹
〃	看 護 部 長	粕 川 由貴子
〃	医 療 安 全 管 理 者	高 橋 紀 子
〃	感 染 対 策 室 看 護 師	山 田 あゆり
〃	総 務 課 長	宮 田 晋 一
〃	契 約 管 財 課 長	宇津野 貴
〃	医 事 課 長	新 井 教 弘
〃	地 域 医 療 連 携 室 主 幹	上 原 美奈子
〃	総 務 課 課 長 補 佐	石 井 理 彦

【編集部員】

役 職 名	所 属	職 名	氏 名
部 会 長	脳 神 経 外 科	副 院 長	曲 澤 聡
部 会 員	整 形 外 科	診療部長	斯 波 俊 祐
〃	リハビレリテーション技術科	主 査	小 池 彩 香
〃	放 射 線 技 術 科	科長補佐	小 林 誠
〃	中 央 検 査 科	主 任	大 川 恭 平
〃	栄 養 管 理 科	管理栄養士	辻 こころ
〃	臨 床 工 学 科	主 査	加 藤 優 典
〃	薬 剤 部	科長補佐	根 岸 由 美
〃	看 護 部	副看護部長	鈴 木 由美子
〃	看 護 部	看護師長	深 井 昌 美
〃	総 務 課	課長補佐	石 井 理 彦
〃	総 務 課	課長補佐	剣 物 裕 司
〃	経 営 政 策 課	課長補佐	高草木 有里子
〃	契 約 管 財 課	課長補佐	石 原 孝 泰
〃	契 約 管 財 課	課長補佐	藺 田 達 也
〃	医 事 課	課長補佐	本 田 英 之
〃	医 事 課	主 査	古 舘 千 秋
〃	医 事 課	室長補佐	中 嶋 亨
〃	地 域 医 療 連 携 室	室長補佐	金 子 孝 進

【事務局】

総務課庶務係主事	大 津 恵
----------	-------